岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第221集

西田東遺跡発掘調査報告書

滝名川河川改修関連遺跡発掘調査

㈶岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

西田東遺跡発掘調査報告書

滝名川河川改修関連遺跡発掘調査

序

岩手県には旧石器時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地が各地にあり、平成５年度の岩手県教育委員会のまとめでは8,700箇所を超えております。先人の残したこれらの埋蔵文化財を保護し、保存していくことは私たち県民に課せられた重大な責務であります。

一方、本調査の原因となりました河川改修事業を例にあげるまでもなく、現代社会を豊かにし、快適な生活をおくるための地域開発もまた県民の切実な願いであります。埋蔵文化財の保護・保存という相容れない要素をもつ事業の調和のとれた施策が今日的課題となっております。

財団法人岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創設以来、埋蔵文化財保護の立場にたって、県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡について発掘調査を行い、その記録を残す措置をとってまいりました。

本書は、滝名川河川改修に関連して、平成４年度から平成５年度まで２カ年にわたる発掘調査を実施した紫波町西田東遺跡の調査結果をまとめたものであります。遺跡は滝名川右岸の自然堤防上に立地し、これまでの１遺跡からのものとしては県内最多187基の縄文時代のものとみられる陥し穴状遺構と平安時代の住居跡等の遺構及び遺物が発見されるなど貴重な資料を提供することができました。本書が広く活用され、考古学の研究に寄与するとともに埋蔵文化財に対する関心と理解をいっそう深めることに役立つことを切に希望します。

最後になりましたが、発掘調査および報告書作成にご協力とご援助を賜りました岩手県土木部盛岡土木事務所や紫波町教育委員会をはじめとする多くの関係諸機関・関係各位に深く感謝申し上げます。

平成７年３月

財団法人岩手県文化振興事業団

理事長　高　橋　令　則

例　言

1．本報告書は、岩手県紫波郡紫波町犬淵字下越田125—1ほかに所在する西田東遺跡の調査結果を収録したものである。

2．本遺跡の発掘調査は、滝名川河川改修に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会事務局文化課と岩手県土木部盛岡土木事務所の協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。

3．遺跡の岩手県遺跡登録台帳番号と調査時の遺跡略号は以下のとおりである。

遺跡番号……LE 87-0126

遺跡略号……NDH-92・93

4．調査期間・調査面積・調査担当者は、以下のとおりである。

平成4年8月7日～12月17日、7,034m²、花坂政博・酒井宗孝

平成5年8月2日～10月27日、5,018m²、花坂政博・菊池強一

5．室内整理期間と整理担当者は以下のとおりである。

平成4年10月28日～平成5年3月31日、花坂政博

平成5年11月1日～平成6年3月31日、花坂政博

6．本報告書の執筆分担は以下のとおりである。

Ⅰ　調査に至る経過　　高橋與右衛門

Ⅱ　遺跡の立地と環境のうち2～4は菊池強一

その他は花坂政博

7．下記の分析鑑定は、次の方々に依頼した。（敬称略）

(1)　火山灰分析・粘土と須恵器の胎土分析　　三辻利一（奈良教育大学）

(2)　石質鑑定　　佐藤二郎（長内水源工業）

(3)　炭化材樹種同定　　早坂松次郎（社団法人岩手県木炭協会）

8．本報告書の作成にあたり、次の方々から御教示・御協力をいただいた。（敬称略）

桜井芳彦（紫波町教育委員会）　村田晃一（宮城県教育庁文化財保護課）

9．野外調査では、滝浦正蔵氏をはじめとする紫波町、石鳥谷町、矢巾町、花巻市、盛岡市の方々に御協力をいただいた。

10．本遺跡から出土した遺物及び調査に関わる資料は、岩手県立埋蔵文化財センターに保管している。

本 文 目 次

序
例言
I　調査に至る経過……3
II　遺跡の立地と環境……4
1　遺跡の位置……4
2　周辺地形・地質の概要……4
3　遺跡の立地環境……4
4　遺跡の層序……6
5　周辺の遺跡……7
III　調査と整理の方法
1　野外調査……14
2　室内整理……14
IV　検出された遺構・遺物
1　縄文時代……21
陥し穴状遺構……21
2　平安時代……101
〈1〉土坑……101
〈2〉竪穴住居跡……108
〈3〉鍛冶炉跡……151
〈4〉掘立柱建物跡……151
〈5〉焼土遺構……153
〈6〉溝跡……153
〈7〉柱穴状土坑群……153
V　遺構外出土遺物……160
VI　まとめ
1　陥し穴状遺構……194
2　竪穴住居跡……197
3　掘立柱建物跡……198
4　その他の遺構……199
5　出土遺物……199

6　遺跡の性格とまとめ ……202
付編１　西田東遺跡出土火山灰の蛍光Ｘ線分析 ……204
２　西田東遺跡出土粘土・須恵器の蛍光Ｘ線分析 ……207

図版目次

第１図　岩手県全図における遺跡の位置…… 1
第２図　遺跡位置図…… 2
第３図　地形分類図…… 5
第４図　完新世段丘面に残る旧河床の変遷と
主な遺跡との位置相関図…… 8
第５図　基本土層断面図（高位面） …… 9
第６図　基本土層断面図（低位面） …… 9
第７図　周辺の遺跡位置図……12
第８図　地形図……15
第９図　遺構配置図……17
第10図　実測図凡例……20
第11図　陥し穴状遺構(１)……54
第12図　陥し穴状遺構(２)……55
第13図　陥し穴状遺構(３)……56
第14図　陥し穴状遺構(４)……57
第15図　陥し穴状遺構(５)……58
第16図　陥し穴状遺構(６)……59
第17図　陥し穴状遺構(７)……60
第18図　陥し穴状遺構(８)……61
第19図　陥し穴状遺構(９)……62
第20図　陥し穴状遺構(10)……63
第21図　陥し穴状遺構(11)……64
第22図　陥し穴状遺構(12)……65
第23図　陥し穴状遺構(13)……66
第24図　陥し穴状遺構(14)……67
第25図　陥し穴状遺構(15)……68
第26図　陥し穴状遺構(16)……69
第27図　陥し穴状遺構(17)……70
第28図　陥し穴状遺構(18)……71
第29図　陥し穴状遺構(19)……72
第30図　陥し穴状遺構(20)……73
第31図　陥し穴状遺構(21)……74
第32図　陥し穴状遺構(22)……75
第33図　陥し穴状遺構(23)……76
第34図　陥し穴状遺構(24)……77
第35図　陥し穴状遺構(25)……78
第36図　陥し穴状遺構(26)……79
第37図　陥し穴状遺構(27)……80
第38図　陥し穴状遺構(28)……81
第39図　陥し穴状遺構(29)……82
第40図　陥し穴状遺構(30)……83
第41図　陥し穴状遺構(31)……84
第42図　陥し穴状遺構(32)……85
第43図　陥し穴状遺構(33)……86
第44図　陥し穴状遺構(34)……87
第45図　陥し穴状遺構(35)……88
第46図　陥し穴状遺構(36)……89
第47図　陥し穴状遺構(37)……90
第48図　陥し穴状遺構(38)……91
第49図　陥し穴状遺構(39)……92
第50図　陥し穴状遺構(40)……93
第51図　陥し穴状遺構(41)……94

第52図　陥し穴状遺構(42)……95
第53図　陥し穴状遺構(43)……96
第54図　陥し穴状遺構(44)……97
第55図　陥し穴状遺構(45)……98
第56図　陥し穴状遺構(46)……99
第57図　陥し穴状遺構(47)……100
第58図　土坑(1)……104
第59図　土坑(2)……105
第60図　土坑(3)……106
第61図　土坑(4)……107
第62図　IIB－1住居跡……109
第63図　IIC－1住居跡(1)……111
第64図　IIC－1住居跡(2)……112
第65図　IID－1住居跡……115
第66図　IIE－1住居跡……118
第67図　IIE－2住居跡……121
第68図　IIF－1住居跡……122
第69図　IIF－2住居跡……124
第70図　IIF－3住居跡……126
第71図　IIF－4住居跡……127
第72図　IIG－1住居跡……129
第73図　IIG－2住居跡……132
第74図　IIG－3住居跡……134
第75図　IIG－4住居跡……136
第76図　IIG－5住居跡……138
第77図　IIH－1住居跡……140
第78図　IIH－2住居跡……142
第79図　IIH－3住居跡……143
第80図　IIIH－1住居跡(1)……145
第81図　IIIH－1住居跡(2)……146
第82図　IIIH－2住居跡……148
第83図　IIII－1住居跡……150
第84図　鍛冶炉跡……151
第85図　掘立柱建物跡……152
第86図　焼土遺構……152
第87図　溝跡……153・154
第88図　IIB1区・IIII区柱穴状土坑群……156
第89図　IIB2区～IIC区柱穴状土坑群……157
第90図　IIB－1・IIC－1
住居跡出土遺物……161
第91図　IIC－1住居跡出土遺物……162
第92図　IIC－1住居跡出土遺物……163
第93図　IIC－1住居跡出土遺物……164
第94図　IID－1住居跡出土遺物……165
第95図　IID－1住居跡出土遺物……166
第96図　IID－1住居跡出土遺物……167
第97図　IID－1住居跡出土遺物……168
第98図　IID－1・IIE－1住居跡
出土遺物……169
第99図　IIE－1住居跡出土遺物……170
第100図　IIE－1住居跡出土遺物……171
第101図　IIE－2・IIF－1・IIF－2
住居跡出土遺物……172
第102図　IIF－3・IIF－4・IIG－1
住居跡出土遺物……173
第103図　IIG－1住居跡出土遺物……174
第104図　IIG－1・IIG－2
住居跡出土遺物……175
第105図　IIG－3・IIG－4
住居跡出土遺物……176
第106図　IIG－4・IIH－1
住居跡出土遺物……177
第107図　IIH－1・IIH－2
住居跡出土遺物……178

第108図　ⅡＨ－２・ⅡＨ－３
住居跡出土遺物……179
第109図　ⅡＨ－３住居跡出土遺物……180
第110図　ⅢＨ－１住居跡出土遺物……181
第111図　ⅢＨ－１・ⅢＨ－２
住居跡出土遺物……182
第112図　ⅢＩ－１住居跡・ⅡＦ－１土坑
・ⅡＦ－２土坑・ⅡＦ－５土坑
・ⅢＦ－１土坑・ⅢＨ－３土坑
・ⅡＦ－１焼土・ⅡＥ
－32陥し穴出土遺物……183
第113図　遺構外出土遺物……184
第114図　遺構外出土遺物……185
第115図　陥し穴状遺構分類図……194

写真図版

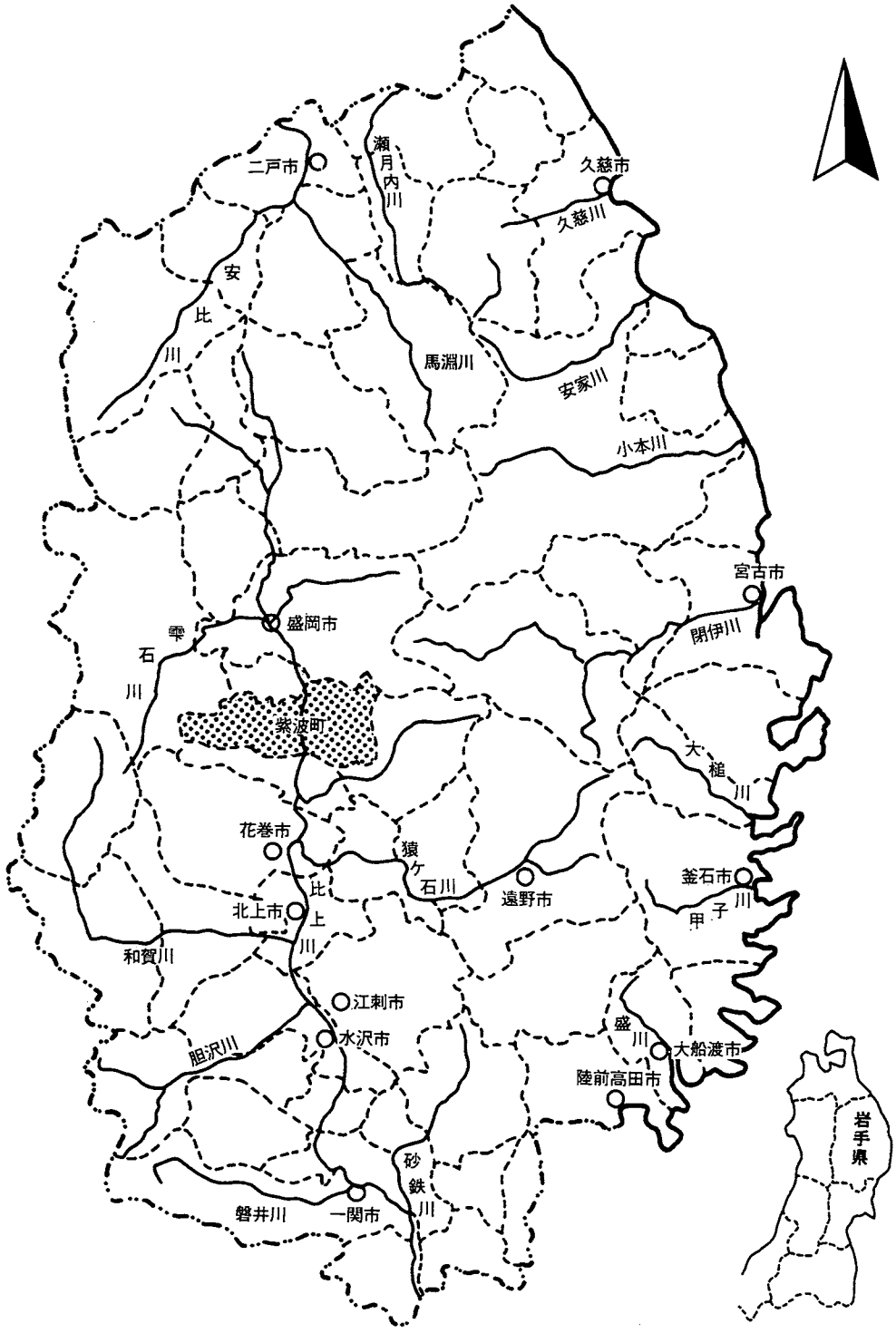
写真図版１　空中写真・立地状況 ……210
写真図版２　基本土層断面 ……211
写真図版３　陥し穴状遺構（１）……212
写真図版４　陥し穴状遺構（２）……213
写真図版５　陥し穴状遺構（３）……214
写真図版６　陥し穴状遺構（４）……215
写真図版７　陥し穴状遺構（５）……216
写真図版８　陥し穴状遺構（６）……217
写真図版９　陥し穴状遺構（７）……218
写真図版10　陥し穴状遺構（８）……219
写真図版11　陥し穴状遺構（９）……220
写真図版12　陥し穴状遺構(10) ……221
写真図版13　陥し穴状遺構(11) ……222
写真図版14　陥し穴状遺構(12) ……223
写真図版15　陥し穴状遺構(13) ……224
写真図版16　陥し穴状遺構(14) ……225
写真図版17　陥し穴状遺構(15) ……226
写真図版18　陥し穴状遺構(16) ……227
写真図版19　陥し穴状遺構(17) ……228
写真図版20　陥し穴状遺構(18) ……229
写真図版21　陥し穴状遺構(19) ……230
写真図版22　陥し穴状遺構(20) ……231
写真図版23　陥し穴状遺構(21) ……232
写真図版24　陥し穴状遺構(22) ……233
写真図版25　陥し穴状遺構(23) ……234
写真図版26　陥し穴状遺構(24) ……235
写真図版27　陥し穴状遺構(25) ……236
写真図版28　陥し穴状遺構(26) ……237
写真図版29　陥し穴状遺構(27) ……238
写真図版30　陥し穴状遺構(28) ……239
写真図版31　陥し穴状遺構(29) ……240
写真図版32　陥し穴状遺構(30) ……241
写真図版33　陥し穴状遺構(31) ……242
写真図版34　陥し穴状遺構(32) ……243
写真図版35　陥し穴状遺構(33) ……244
写真図版36　陥し穴状遺構(34) ……245
写真図版37　陥し穴状遺構(35) ……246
写真図版38　陥し穴状遺構(36) ……247
写真図版39　陥し穴状遺構(37) ……248
写真図版40　陥し穴状遺構(38)・ⅡＨ
－１、２溝跡 ……249
写真図版41　ⅢＩ溝跡・鍛冶炉跡
……250
写真図版42　土坑(1)……251

写真図版43　土坑(2)……252
写真図版44　土坑(3)……253
写真図版45　土坑(4)・焼土遺構……254
写真図版46　掘立柱建物跡(1)……255
写真図版47　掘立柱建物跡(2)……256
写真図版48　ⅡＢ－１住居跡 ……257
写真図版49　ⅡＣ－１住居跡 ……258
写真図版50　ⅡＤ－１住居跡 ……259
写真図版51　ⅡＥ－１住居跡 ……260
写真図版52　ⅡＥ－２住居跡 ……261
写真図版53　ⅡＦ－１住居跡 ……262
写真図版54　ⅡＦ－２住居跡 ……263
写真図版55　ⅡＦ－３住居跡 ……264
写真図版56　ⅡＦ－４住居跡 ……265
写真図版57　ⅡＧ－１住居跡 ……266
写真図版58　ⅡＧ－２住居跡 ……267
写真図版59　ⅡＧ－３住居跡 ……268
写真図版60　ⅡＧ－４住居跡 ……269
写真図版61　ⅡＧ－５住居跡 ……270
写真図版62　ⅡＨ－１住居跡 ……271
写真図版63　ⅡＨ－２住居跡 ……272
写真図版64　ⅡＨ－３住居跡 ……273
写真図版65　ⅢＨ－１住居跡(1)……274
写真図版66　ⅢＨ－１住居跡(2)……275
写真図版67　ⅢＨ－２住居跡 ……276
写真図版68　ⅢＩ－１住居跡 ……277
写真図版69　ⅡＢ－１・ⅡＣ－１(1)
住居跡出土遺物 ……278
写真図版70　ⅡＣ－１住居跡出土遺物(2)……279
写真図版71　ⅡＣ－１住居跡出土遺物(3)……280
写真図版72　ⅡＣ－１(4)・ⅡＤ－１(1)
住居跡出土遺物 ……281
写真図版73　ⅡＤ－１住居跡出土遺物(2)
……282
写真図版74　ⅡＤ－１住居跡出土遺物(3)
……283
写真図版75　ⅡＤ－１(4)・ⅡＥ－１(1)
住居跡出土遺物 ……284
写真図版76　ⅡＥ－１住居跡出土遺物(2)
……285
写真図版77　ⅡＥ－１(3)・ⅡＥ－２(1)
住居跡出土遺物 ……286
写真図版78　ⅡＥ－２(2)・ⅡＦ－１・
ⅡＦ－２住居跡出土遺物 ……287
写真図版79　ⅡＦ－３・ⅡＧ－１(1)
住居跡出土遺物 ……288
写真図版80　ⅡＧ－１住居跡出土遺物(2)
……289
写真図版81　ⅡＧ－１(3)・ⅡＧ－２・
ⅡＧ－３住居跡出土遺物 ……290
写真図版82　ⅡＧ－４住居跡出土遺物 ……291
写真図版83　ⅡＨ－１住居跡出土遺物(1)
……292
写真図版84　ⅡＨ－１(2)・ⅡＨ－２
住居跡出土遺物 ……293
写真図版85　ⅡＨ－３住居跡出土遺物(1)
……294
写真図版86　ⅡＨ－３(2)・ⅢＨ－１(1)
住居跡出土遺物 ……295
写真図版87　ⅢＨ－１住居跡出土遺物(2)
……296
写真図版88　ⅢＨ－２・ⅢＩ－１住居
跡・ⅡＦ－１・ⅡＦ－２
・ⅡＦ－５・ⅢＨ－３

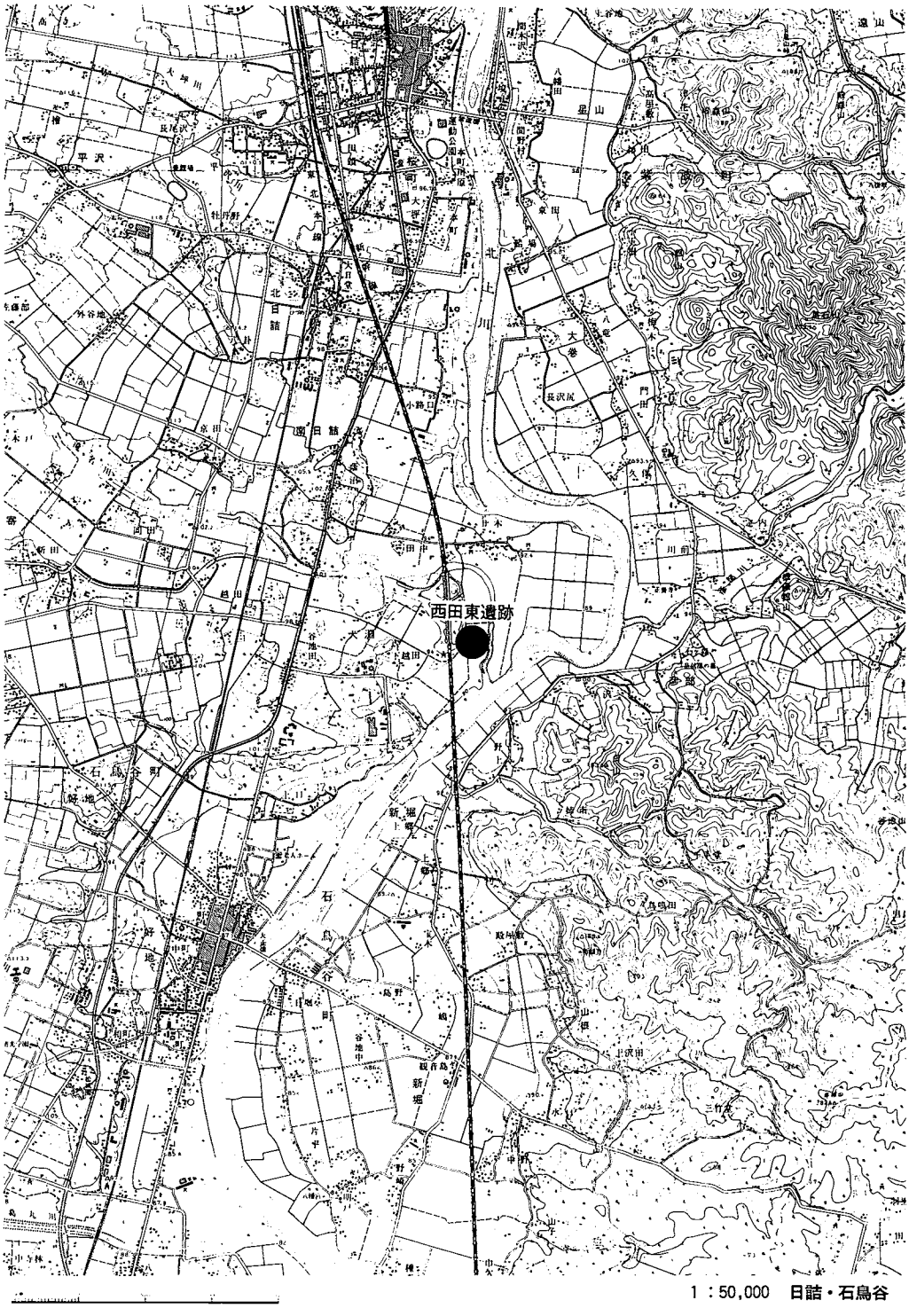
土坑出土遺物 ……297
写真図版89 ⅢＨ－３土坑・ⅡＦ－１
焼土・ⅡＥ－32陥し穴・
遺構外(1)出土遺物……298
写真図版90 遺構外出土遺物(2)……299
写真図版91 遺構外出土遺物(3)……300

表目次

表１ 周辺の遺跡一覧表……13
表２ 陥し穴状遺構一覧表……22
表３ 土坑一覧表 ……101
表４ ⅡＢ１区柱穴状土坑計測表 ……158
表５ ⅡⅠ区柱穴状土坑計測表 ……158
表６ ⅡＢ２区～ⅡＣ区柱穴状土坑計測表 ……159
表７ 掲載遺物一覧表〈1〉土器(1) ……186
表８ 掲載遺物一覧表〈2〉土器(2) ……187
表９ 掲載遺物一覧表〈3〉土器(3) ……188
表10 掲載遺物一覧表〈4〉土器(4) ……189
表11 掲載遺物一覧表〈5〉土器(5) ……190
表12 掲載遺物一覧表〈6〉土器(6) ……191
表13 掲載遺物一覧表〈7〉土器(7)・石器、石製品 ……192
表14 掲載遺物一覧表〈8〉土製品・鉄器……193



第１図　岩手県全図における遺跡の位置



第２図　遺跡位置図

Ⅰ　調査に至る経過

滝名川は、紫波町と雫石町との境界をなす鍵掛峠の東方を水源とし、稲荷坂の峡谷を流下し、平坦地に入って穀倉地帯を潤し、下越田で北上川と合流する。紫波郡内で最長であり、昭和4年に北上川合流部を起点として区間延長18,925mの間が一級河川としての指定を受け、岩手県が管理している。

滝名川は、自然状態での放置により、流路の曲折や河積も狭く、中程度の降雨でも氾濫と崩壊を繰り返している。そのため、昭和44年から河積拡大と流路整正および河床の安定化を計るための河川改修事業が、北上川合流部を起点として実施され、現在に至っている。

当事業に関わる埋蔵文化財の取扱については、岩手県教育委員会と岩手県土木部盛岡土木事務所との間で協議がもたれ、平成2年度に当遺跡の対岸に所在する下河原II遺跡の試掘調査が実施され、翌平成3年度に本調査されたが、当遺跡の調査は2遺跡目となる。

当遺跡の取扱については、岩手県教育委員会に対し盛岡土木事務所から「盛土279号」によって「一級河川滝名川筋中小河川改修事業に伴う埋蔵文化財包蔵地の調査について」で調査の依頼をした。それを受けた岩手県教育委員会は、平成3年11月21日に試掘調査を実施し、試掘結果は岩手県教育委員会から盛岡土木事務所に対し「教文734号」によって「一級河川滝名川筋中小河川改修事業に伴う埋蔵文化財包蔵地の調査について」で回答したが、そのなかで事業実施に当たっては発掘調査が必要であるので、事前に岩手県教育委員会と取扱について協議してほしい旨、付記された。

回答を受けた盛岡土木事務所は、事業実施に先立って岩手県教育委員会と発掘調査の協議をし、実際の発掘調査は財団法人岩手県文化振興事業団の受託事業として実施することとした。

実際の発掘調査は平成4年8月1日付で契約を締結して開始したが、遺構が予想以上に発見されたことにより、同年12月17日まで期間を延長して調査を続行したものの終了出来ずに、次年度改めて調査期間を設定することとした。現地を撤収後は、平成5年3月31日まで報告書作成に係る関連資料の整理を行った。

平成5年度の発掘調査は、平成5年8月1日付で契約を締結して発掘調査を開始したが、同年10月27日に野外調査の一切を終了し、平成6年3月31日まで報告書作成に向けての室内整理を実施した。

II　遺跡の立地と環境

1　遺跡の位置

本遺跡のある紫波郡紫波町は岩手県のほぼ中央部にあり、東は大迫町、南は石鳥谷町、西は零石町、北は矢巾町、盛岡市に接する。本遺跡は石鳥谷町との境界に近い町の南部にあり、東日本旅客鉄道東北本線日詰駅の南南東約３kmに位置する。調査区の東隣には滝名川が南に流れ、調査区の南端から約100ｍ南東の地点で南西に流れる北上川と合流する。調査区はそこから北に約430ｍ、東西幅５～50ｍの範囲で延びている。

本遺跡は国土地理院発行の５万分の１地形図「日詰」(NJ-54-13-15)および２万５千分の１地形図「日詰」(NJ-54-13-15-2)の図幅に含まれ、北緯39度30分45秒、東経141度10分40秒付近に位置する。

2　周辺地形・地質の概要

本遺跡が立地する北上低地帯は東西幅約７～８kmの範囲で南北に延びて分布し、東側は北上山地古生層、西側は新生代第三系以降の奥羽脊梁山脈である。

地質構造上は、盛岡・白河構造線に近接し、やや東側にはずれて盛岡・気仙沼構造線が位置する。西側は奥羽脊梁山脈を含むいわゆるグリーンタフ地帯に相当し、第４紀更新世以降の南北性活断層によって境される。北上川以東の地質は、粘板岩、石灰岩、輝緑凝灰岩、チャート、硬砂岩、礫岩を中心に一部がホルンヘルス化した南部北上古生層の堆積岩類である。西側脊梁山脈地帯は第三紀中新世の貫入岩類とグリーンタフ等堆積岩類である。

3　遺跡の立地環境

遺跡は滝名川と北上川の合流点に近接し、完新世において２段に段化した自然堤防上に立地する。北上川中流域の地形面区分（中川ほか、1963）に従えば河岸低地に相当し、松本（1988）は、自然堤防、後背湿地を含む沖積低地と区分している。２面の段丘面は滝名川の現河床面からの比高が３ｍ（下位面）～９ｍ（上位面）、標高は84ｍ（下位面）～92ｍ（上位面）である。上位面は北上川の蛇行域に発達した滑走斜面段丘をなし、段丘面上には14期に細分される旧河道が残る（第４図）。これら14期の旧河道は、三期（Ⅰ期 No.1～No.4、Ⅱ期 No.5～No.10、

第３図　地形分類図

III期 No.11～No.14）に大別され、Ⅰ期からIII期に進むほど現在の北上川に収斂する。なお、旧河道帯と遺跡立地の関係は、旧河道Ⅰ期地形面上には、縄文時代中期以降、同II期地形面上には縄文時代後期以降の遺跡が確認されている（第4図）。

4　遺跡の層序

遺跡の表層における地質層序は模式柱状図および層序断面図に図示したが、上位面と下位面ではやや層序、層相を異にする（第5図）。以下には両面の層序と文化層の層準について記載する。

(1)　上位面

上位面は本遺跡の主要遺物包含地の80%以上を占め、大半は自然堤防上に分布する。北上川の両岸に広く分布し、段丘の構造は砂礫侵食段丘である。

遺跡の層序は基盤岩（南部北上古生層）を含めて、上位より3層（第Ⅰ～第III層）に大別され第Ⅰ層はａ～ｅ、第II層はａ～ｋの各層に細分される。細分各層の層序関係はいずれも軽微な不整合である。

第Ⅰ層　黒褐色～黒色腐植土層。層厚100～105cm。本遺跡の主要遺物包含層で、1c層以上には土師器、陶器を包含する。平安時代の竪穴住居跡は1c層最下部に、186基の陥し穴状遺構群は1e層下部に生活面がある。なお、ｂ層はTo-a（大池ほか：1962）に対比される（第5図）。

1a層　黒褐色の腐植土層。層厚16cm±。大部分は現世の耕作土層と攪乱する。木根密集帯が地表直下10cmまで発達する。

1b層　黒褐色～暗褐色土の腐植によって汚染されたシルト質の火山灰層。層厚14cm。微細な火山ガラスを多量に含む。

1c層　黒褐色腐植土層。層厚12cm。小豆粒大のチャート、流紋岩、砂質泥岩の円礫を3～5%±含み、層理面に平行なラミナが発達する。本層中位には9世紀末～10世紀相当の土師器片を包含する。

1d層　黒褐色腐植土層。層厚17cm。細砂層で構成され、木炭片（5㎜×3㎜×2.5㎜）を3～5%含む。

1e層　黒色～黒褐色の腐植土層。層厚40～45cm。上下2つに区分されるが、境界は不明瞭であった。上部は腐植質に富み、下部はシルト～細砂層を主体とする。

第II層　淡黄色～黄橙色の砂礫層。層厚3.2～3.5ｍ。14層（ａ～ｋ）に細分され、各層は最上層（ａ）、上層（ｂ～ｄ）、中層（ｅ～ｇ）、下層（ｎ～ｋ）の4層にまとめられ、各層は

軽微な不整合の関係にある。上位面の段丘構成層で各層の最下部には泥炭質粘土～泥炭層が発達する。

第III層　基盤岩。南部北上山地古生代の石炭紀から二畳紀に堆積した堆積岩類を構成する硬砂岩、粘板岩類。全体的に弱い変成作用を受けている。

(2)　下位面

下位面は北上川の河岸に近接して分布する。滝名川では明瞭に上位面を下刻して形成された侵食段丘である。基盤岩を含み、上位より３層（第Ｉ～第II層）に区分され、第Ｉ層はａ～ｊの10層に細分され、各層の層序関係は軽微な不整合である。層相はいずれも泥質細砂層で小規模な自然堤防を構成する（第５図）。

第Ｉ層　暗褐色～黒褐色腐植土層。層厚220～224cm。

1a層　褐色～暗褐色土層。層厚60cm。細砂層。

1b層　暗褐色土層。層厚28cm。シルト質砂層。

1c層　黒褐色腐植土層。層厚16cm。細砂～シルト質砂層

1d層　暗褐色～黒褐色土層。層厚36cm。下部に腐植の集積が進んだシルト層。

1e層　褐色～暗褐色土層。層厚14cm。木炭片（５㎜×3.5㎜×２㎜）を５％±含む。シルト質砂層で、部分的にTo-aの二次堆積層を伴う。

1f層　褐色土層。層厚28cm。上下２層に細分されるが、境界は不明瞭で連続しない。やや泥質の細砂層。

1g層　暗褐色～褐色土層。層厚16cm。20％±の木炭片（3.5㎜×３㎜×３㎜）を含むシルト質砂層。

1h・1i層　暗褐色～褐色土層。層厚26cm。To-aの二次堆積層で、部分的にクロスラミナが発達する。木炭片、土師器片を含む細砂層。本層中下部にIIＢ－１住居等の生活面がある。

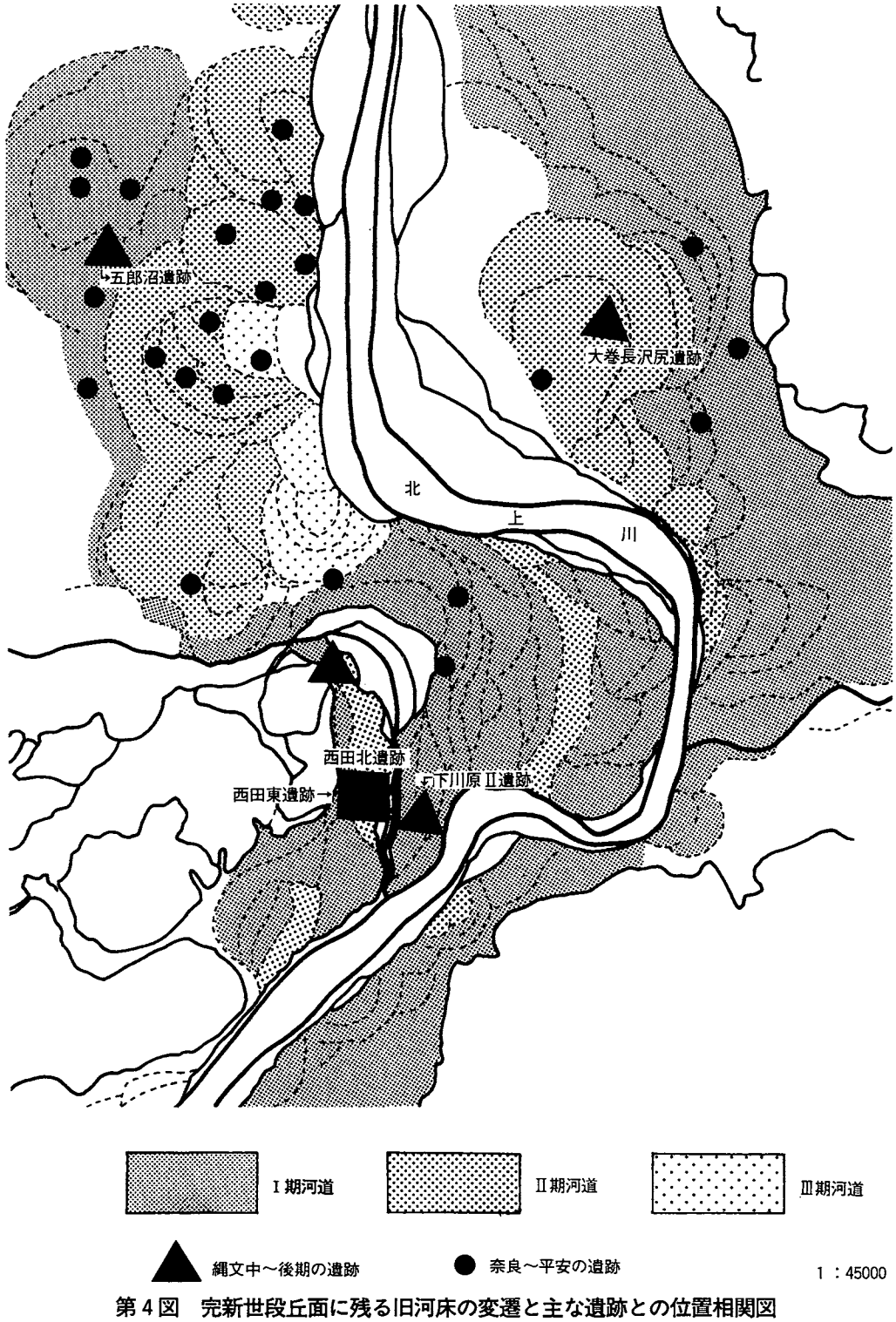
1j層　褐～黄褐色土層　砂層で段丘構成層である。

第II層　浅黄色砂層。層厚55～70cm。下位面の段丘構成層で最下部には暗紫灰色の泥炭層がレンズ状に発達する。

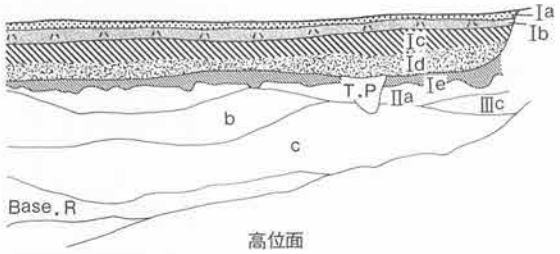
第III層　基盤岩。南部北上山地古生代の石炭紀～二畳紀に堆積した堆積岩類。

5　周辺の遺跡

本遺跡は石鳥谷町との境界に近い紫波町の南部に所在することから、ここでは紫波町南部の遺跡を中心に石鳥谷町北部の遺跡を一部含みながら周辺の遺跡を概観することにする。なお、

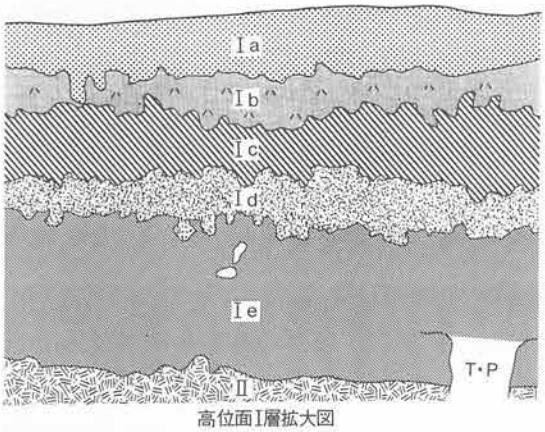


第4図　完新世段丘面に残る旧河床の変遷と主な遺跡との位置相関図



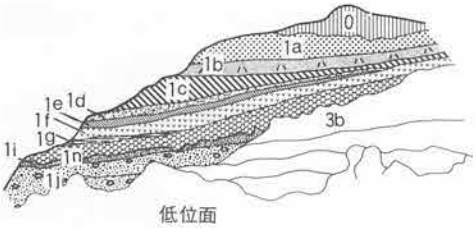
高位面

高位面　Ⅰ層a～e
Ⅱ層a～n
Ⅲ層Base.R

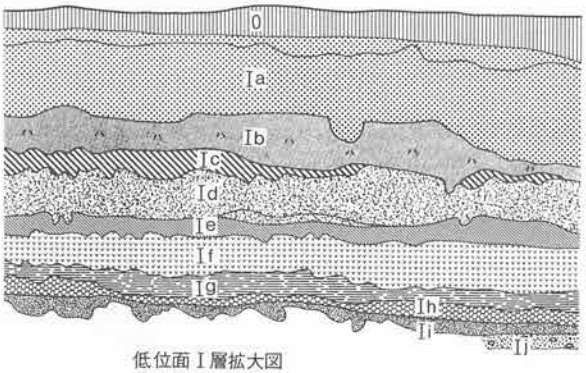


高位面Ⅰ層拡大図

第５図　基本土層断面図（高位面）



低位面



低位面Ⅰ層拡大図

第６図　基本土層断面図（低位面）

資料は主に『下川原II遺跡報告書』（佐々木、1993）から抜粋し、一部加筆したものである。

本遺跡の周辺を概観すると、北上川を挟んで西岸の河岸低地から中位段丘面に縄文時代中期から平安時代にかけての遺跡が、そして東岸の山地に中世の城館跡が比較的多く分布するという特徴がみられる。

縄文時代の遺跡には本遺跡から約200ｍ西に西田遺跡がある。同遺跡は中期の集落遺跡として知られており、東北新幹線の建設に伴って昭和50年から52年にかけて３次にわたり30,000㎡が発掘調査されている。この調査では集落跡のほぼ中央を縦断し集落全体の半分以上が調査されたと考えられており、中期の集落の構造がほぼ明らかになっている。集落の中央には墓壙と考えられる舟底状の土壙群が環状に並び、その外側に竪穴住居跡が分布し、北側には竪穴住居跡とともに貯蔵穴状の土坑群が分布している。また本センターにおいて近年調査された遺跡としては南日詰遺跡がある。同遺跡からは縄文時代中期前葉（大木7b式）の集落とそれに伴う遺構、遺物が出土している。

奈良・平安時代と思われる遺跡は本遺跡周辺に多く分布している。野上遺跡では９世紀後半とされる竪穴住居跡が検出されている。町内彦部地区に所在する暮坪遺跡からは10世紀中～後半と想定される竪穴住居跡の他、溝、土壙群等も検出されている。伝善知鳥館は昭和38年に発掘調査が行われ、安倍氏ないし安倍氏に関連する居館的柵と推定されている。平成３年度に本遺跡と同じく滝名川河川改修に伴って発掘調査が実施された下川原II遺跡は本遺跡の対岸に所在するが、９世紀末～10世紀に属する竪穴住居跡21棟の他、陥し穴状遺構、土坑が検出されており、本遺跡と性格が非常に似通っている部分が多いとみられる。本遺跡の性格や、その関連を考えていく上で注目される遺跡である。

比爪館跡は本遺跡の北西にあり奥州藤原氏の一族比爪氏の居館跡とされている。現在は赤石小学校の敷地になっており、小学校の校舎の建設などに伴い何度も調査が行われている。その結果、12世紀代の遺構や遺物とともに、10世紀とされる竪穴住居跡を含む遺構や遺物も見つかっている。また大銀遺跡、北日詰東ノ坊III遺跡からもかわらけが出土し、比爪氏との関連が指摘されている。

中世の遺跡をみていくと、西田遺跡の所在する中位段丘が中世には城館として利用されていたことが調査の結果明らかになっている（西田館跡）。『岩手県城館跡分布調査報告書』（1986）によると郭、幅４ｍ、深さ1.3ｍの空堀、高さ1.3ｍの土塁が確認されているという。北上川東岸での代表的な城館跡としては河村氏の居館跡である大巻館跡が、また、石鳥谷町には新堀城跡がある。どちらも複数の郭と空堀、土塁を持ち、比較的残りはよい。北上川西岸の石鳥谷町内北部にも数カ所の館跡がみられるが、すでに消滅し現在では確認できないものもいくつかある。

《参考・引用文献》

岩手県教育委員会(1979)：『東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書III』岩手県文化財調査報告書35集

岩手県教育委員会(1986)：『岩手県城館跡分布調査報告書』

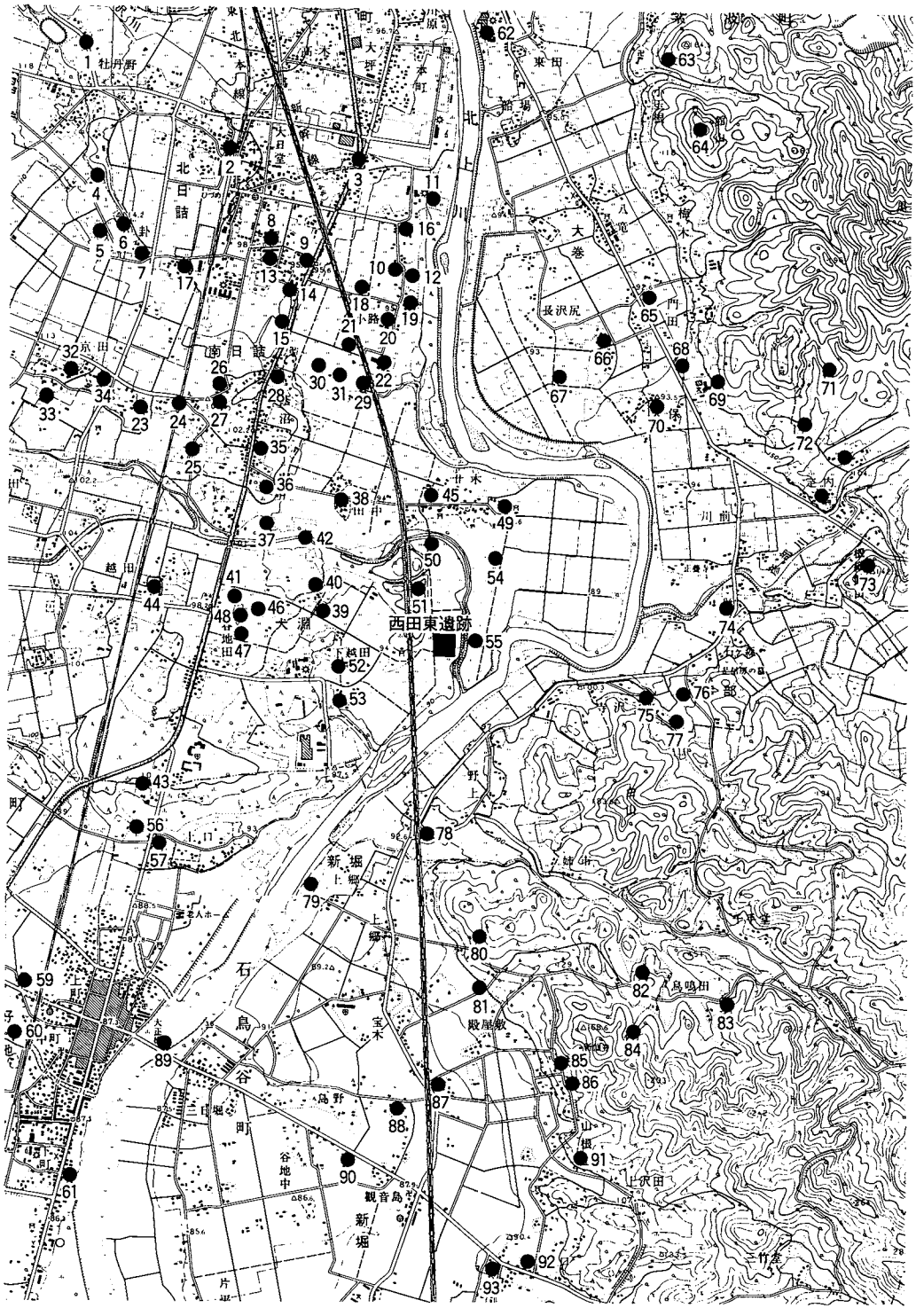
岩手県教育委員会(1986)：『岩手県埋蔵文化財包蔵地一覧』

紫波町教育委員会(1992)：『紫波町の遺跡』町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ　岩手県紫波町文化財調査報告書第28集

紫波町教育委員会(1993)：『紫波町の遺跡』町内遺跡発掘調査報告書　岩手県紫波町文化財調査報告書第29集

岩手県文化振興事業団(1993)：『下川原II遺跡発掘調査報告書』岩埋文報告書第139集

岩手県文化振興事業団(1989)：『南日詰遺跡発掘調査報告書』岩埋文報告書第136集



第７図　周辺の遺跡位置図

番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	番号	遺跡名	種別	遺構・遺物
1	北日詰牡丹野	散布地	土師器	32	南日詰長根Ⅲ	散布地	縄文土器、石器、土師器	63	花立	散布地	
2	北日詰下薮	散布地	土師器、須恵器	33	南日詰梅田	散布地	土師器	64	大巻館	館跡	郭、空堀、土塁、井戸
3	大日堂	散布地	縄文後期土器、土師・須恵器	34	南日詰川原	散布地	土師器	65	大巻間田	散布地	土師器
4	北日詰外谷地Ⅱ	散布地	縄文土器、石器、土師器	35	南日詰	集落跡	住居跡、縄文中期土器	66	大巻長沢尻	散布地	縄文後期土器、土師器
5	北日詰外谷地Ⅲ	散布地	石器	36	伝曽知鳥館	館跡	縄文土器、土師器	67	赤川館	館跡	(中・近世)
6	北日詰外谷地Ⅳ	散布地	石器	37	南日詰滝名川Ⅰ	散布地		68	暮坪	散布地	平安住居跡、土坑、溝
7	北日詰外谷地Ⅴ	散布地	土師器、陶器	38	南日詰滝名川Ⅴ	散布地	土師器	69	彦部小学校敷地	散布地	縄文後期土器、土師器
8	北日詰東ノ坊Ⅰ	散布地	土師器、須恵器	39	犬淵新田堰Ⅰ	散布地	土師器	70	彦部久保	散布地	土師器
9	北日詰東ノ坊Ⅲ	館関連	かわらけ	40	犬淵新田堰Ⅱ	散布地	縄文土器、土師器、須恵器	71	彦部赤坂古墳	古墳	
10	北日詰下東ノ坊	散布地	土師器、白磁	41	犬淵新田堰Ⅵ	散布地	土師器	72	彦部館	館跡	
11	北日詰城内	包含層		42	犬淵新田堰Ⅶ	散布地	土師器	73	機織館	館跡	
12	北日詰城内Ⅰ	散布地	土師器、須恵器	43	村境塚	牌示跡	(近世)	74	元町	散布地	須恵器
13	比爪館	館跡	土師器、かわらけ	44	片寄越田	散布地	縄文中・後期土器、土師器	75	寺沢Ⅰ	散布地	縄文土器、剝片
14	五郎沼	散布地	縄文中・後期土器、石器	45	南日詰八坂	散布地	須恵器	76	寺沢Ⅱ	散布地	古代(奈良?)、土師器
15	伝蛇塚	散布地		46	犬淵谷地田Ⅰ	散布地	土師器、須恵器	77	小深田	散布地	土師器
16	北条館	館跡	土師器	47	犬淵谷地田Ⅱ	散布地	須恵器	78	野上	散布地	縄文中期土器、平安竪穴住居
17	北日詰八掛	散布地	土師器、須恵器	48	犬淵谷地田Ⅲ		住居跡、土師器、須恵器	79	境船場	渡し場跡	(中・近世)
18	南日詰大銀Ⅰ	散布地	土師器	49	廿木下川原	散布地	土師器、須恵器	80	宝木Ⅰ	散布地	縄文土器
19	南日詰大銀Ⅱ	散布地	土師器、須恵器	50	西田北	散布地	縄文中期土器	81	宝木Ⅱ	散布地	土師器、須恵器
20	南日詰小路口Ⅰ	散布地	土師器、須恵器	51	西田	集落跡	縄文早・前・中期、平安、中世	82	鳥鳴田Ⅰ	散布地	縄文土器、石器
21	南日詰小路口Ⅱ	散布地	土師器	52	下越田Ⅰ	散布地		83	鳥鳴田Ⅱ	散布地	縄文土器、石器
22	南日詰小路口Ⅲ	散布地	土師器	53	下越田Ⅱ	散布地		84	新堀城跡	館跡	空堀、土塁、階段状の整地面
23	南日詰京田Ⅰ	散布地	縄文土器、土師器、須恵器	54	下川原Ⅰ	散布地	土師器	85	長善寺Ⅰ	散布地	土師器、須恵器
24	南日詰京田Ⅱ	散布地	土師器、須恵器	55	下川原Ⅱ	集落跡	平安住居跡、陥し穴、溝	86	長善寺Ⅱ	散布地	土師器、須恵器
25	南日詰京田Ⅲ	散布地	土師器	56	数馬屋敷	散布地	縄文土器、土師器、須恵器	87	殿屋敷	館跡	
26	南日詰薮沼Ⅰ	散布地	土師器	57	好地館	館跡		88	島	集落跡	集落跡?、土師器、須恵器
27	南日詰薮沼Ⅱ	散布地	土師器	58	堀子田	館跡		89	石鳥谷船場	渡し場跡	(中・近世)
28	南日詰田中Ⅰ	散布地	須恵器	59	熊野堂	散布地	縄文晩期土器、土師、須恵器	90	沼の欠	散布地	住居跡、土師器、須恵器
29	南日詰田中Ⅲ	散布地	土師器	60	馬頭	散布地	須恵器	91	上沢田Ⅰ	散布地	土師器、須恵器
30	南日詰宮崎Ⅰ	散布地	土師器	61	小館	館跡	堀	92	侍従館	館跡	郭、堀跡、須恵器
31	南日詰宮崎Ⅲ	散布地	土師器	62	星山館	館跡		93	保沢川	散布地	土師器、須恵器

表1　周辺の遺跡一覧表

III　調査と整理の方法

1　野外調査

(1)　調査区割りの決定

調査区はほぼ南北に延びており、グリッドの配置については調査区内に公共座標のX系に基づく南北方向の基準点2点を設け、それを基に区画している。2点の座標値は次の通りである。

基準点1（X＝－54,004.000 m　　Y＝29,760.000 m）　　H＝90.384 m）

基準点2（X＝－53,964.000 m　　Y＝29,760.000 m）　　H＝90.973 m）

この2点を基に1辺40 mのグリッドに区画している。グリッドは東西は西からⅠ～Ⅲ、南北が南からA～Jに等分している。グリッド名を示すときは東西方向から先に呼び、ⅠA－1陥し穴、ⅡE－2住居跡のように呼称した。また、グリッドの中でB、C区については便宜上「飛び地」と呼称した。

(2)　粗掘・精査

最初に調査区内の雑物を撤去したが、調査区内は雑草、柴などで覆われており、夏場の暑い中を全て人力によって行ったため、かなりの難渋をきたした。ほぼ1カ月をかけて雑物撤去を終了した後、人力とバックフォーでトレンチを東西に3～5 mの幅で設定し、遺構の確認につとめた。

遺構の精査は住居跡については4分法、その他の遺構については2分法を原則としたが、本遺跡の住居跡の半分以上は大きく攪乱や削平を受けており、2分法で処理したものも多い。遺物は遺構外から出土したものは大グリッド毎に取り上げている。遺構内のものも含めてできるだけ層位毎に遺物を取り上げるようにした。

(3)　実測・写真

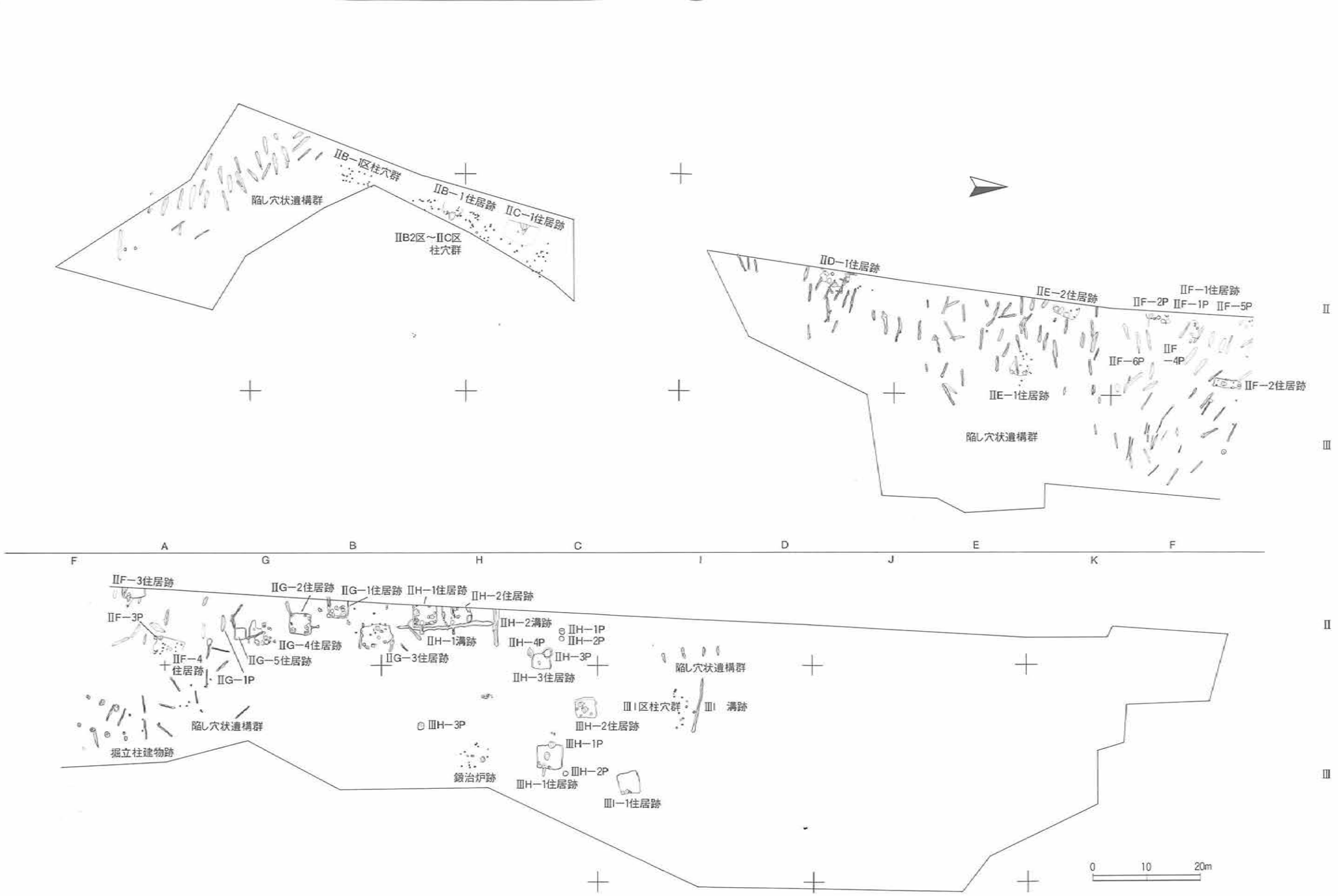
遺構の実測図作成に当たっては、グリッド軸に合わせて1 mメッシュを基本とする簡易遣り方測量を設定して行い、それぞれの遺構について平面図と断面図を作成した。縮尺は原則的に1/20であるが、細部の記録が必要なカマドの断面図等については1/10で作成している。

写真は35㎜判2台（モノクロ、カラー・リバーサル）と6×7㎝判1台（モノクロ）を使用して行い、遺構については埋土断面、平面、完掘それぞれの状況を撮影している。

2　室内整理

遺物の水洗は一部現場で行っている。室内では残った遺物の水洗作業をはじめ注記・接合・

第8図　地形図


A
B
C
D
E
F
ⅡB−1区柱穴群
陥し穴状遺構群
ⅡB−1住居跡
ⅡC−1住居跡
ⅡB2区〜ⅡC区
柱穴群
ⅡD−1住居跡
ⅡE−2住居跡
ⅡF−1住居跡
ⅡF−2P
ⅡF−1P
ⅡF−5P
ⅡF
−4P
ⅡF−6P
ⅡF−2住居跡
ⅡE−1住居跡
陥し穴状遺構群
Ⅱ
Ⅲ
F
G
H
I
J
K
ⅡF−3住居跡
ⅡG−2住居跡
ⅡG−1住居跡
ⅡH−1住居跡
ⅡH−2住居跡
ⅡF−3P
ⅡH−2溝跡
ⅡH−1P
ⅡH−2P
ⅡG−4住居跡
ⅡH−1溝跡
ⅡH−4P
ⅡH−3P
ⅡF−4
住居跡
ⅡG−5住居跡
ⅡG−3住居跡
ⅡH−3住居跡
ⅡG−1P
陥し穴状遺構群
ⅢI区柱穴群
ⅢI 溝跡
ⅢH−3P
ⅢH−2住居跡
ⅢH−1P
掘立柱建物跡
ⅢH−2P
鍛冶炉跡
ⅢH−1住居跡
ⅢI−1住居跡
0
10
20m

第9図　遺構配置図

復元・登録・計測・写真撮影・実測・トレース等を行い、図版を作成した。これらの作業と併行して鑑定依頼、原稿を作成し、報告書に掲載した。

遺物は磨耗の著しいもの、胴部破片で実測、復元等が困難なものを除いたものを原則として登録した。登録した遺物は観察表を作成し本報告書に掲載している。計測は土器については口径・器高・底径を、その他の遺物は原則として長さ、幅等を測定している。なお、計測値の（）は推定、残存の値である。

また遺構については（）内の数値は残存、または調査区内の部分のみの値を示している。遺構図面の縮尺は、住居跡、土坑・陥し穴状遺構・鍛冶炉跡・溝跡・焼土遺構が60分の１、掘立柱建物跡、柱穴群が120分の１、カマド断面は30分の１である。

遺物の実測図版の縮尺は、３分の１を原則としているが、大きさによって一部縮尺を変えてある。なお、写真図版の縮尺は不定である。

図版中のスクリントーンおよび遺物観察表の記号については凡例で説明している。また、土器はP、礫はS、柱穴はPP1、PP2……、土坑は住居内がP1、P2……、単独の遺構の場合1P、2Pのように表している。

陥し穴状遺構、土坑および遺物の表中で、黒褐、暗褐、褐、黒など色を表す言葉はスペースの都合上、後ろにつく「色土」という言葉を省略している。黒は黒色土、黒褐は黒褐色土、褐は褐色土……ということになる。また、同表の中で規模を表す単位は全てcmである。なお、陥し穴状遺構の形状の分類についてはVI　まとめに記載している。

凡　例

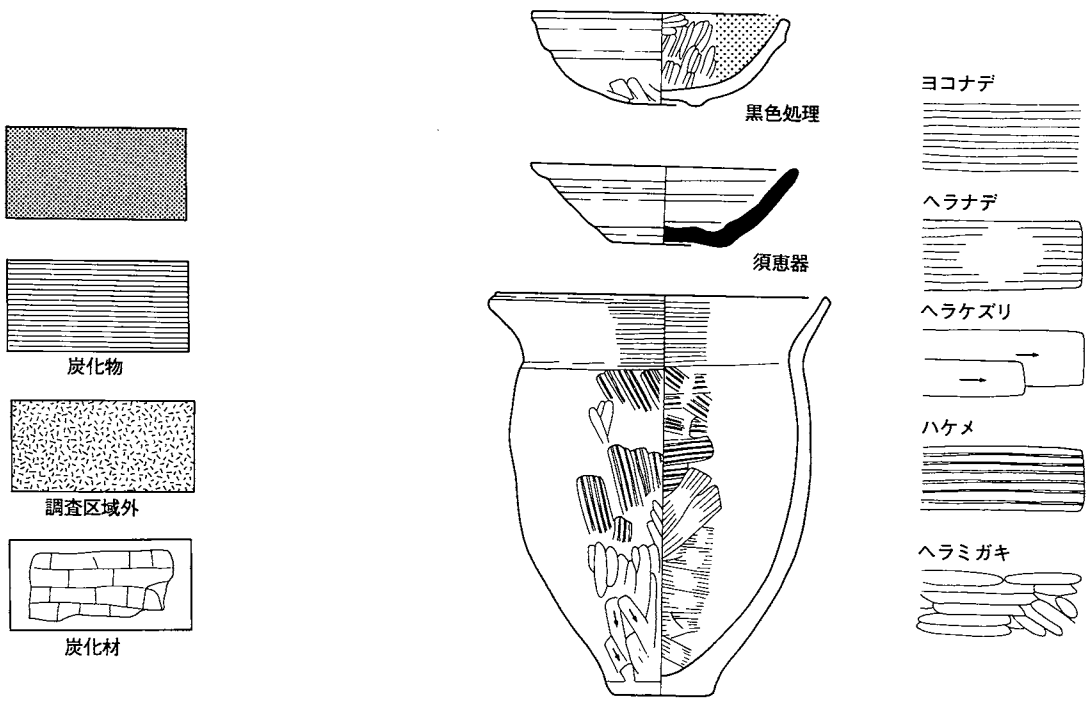
１．土器観察表で使用した略号は、以下のとおりとした。

・器種　　土：土師器
　　須：須恵器
　　台坏：高台付坏
　　坏台：高台
　　縄文：縄文土器
・遺構名　住：竪穴住居跡
・部分名称　縁：口縁部
　　胴：胴部
　　底：底部
　　外：外面
　　内：内面

調整　ヨ：ヨコナデ
　　ナ：ヘラナデ
　　ハ：ハケメ
　　ケ：ヘラケズリ
　　ミ：ヘラミガキ
　　叩：タタキメ
　　ロ：ロクロ使用
　　非：ロクロ不使用
　　回：回転糸切り痕
　　再：再調整
　　カ：カキメ

（注） 土器の調整でケミ、ナハ等と記してあるのは、ケズリの後ミガキ、ナデの後ハケメを施しているということを表している。

2．本報告書内で使用している主なスクリントーン、調整は以下の通りである。
（地形・地質の項については別途説明を付してある。）



第10図　実測図凡例

Ⅳ　検出された遺構・遺物

調査の結果、検出された遺構について記載するが、１．陥し穴状遺構と、２．土坑は結果を表２、表３にまとめて掲載している。その他の遺構については遺構毎に解説して掲載している。以下には表だけでは記載しきれない陥し穴状遺構について、また99ページでは土坑の概要について記載する。陥し穴状遺構は縄文時代、その他の遺構は平安時代のものである。

１　縄文時代

陥し穴状遺構

陥し穴状遺構は187基検出された。これらの属性については一括して表２にまとめて示した。いずれも溝状の形状を呈するものであるが、その開口部平面形、縦・横断面形を便宜的に区分し、それらの組み合わせで分類した。

本遺構はＢ、Ｃ、Ｊ、Ｋ区の低位面を除く調査区の全域に、ほとんどが東西方向、北西～南東方向に並んでいるが、希に南北に近い方向に延びているものもある。杭穴を持つものは少なく、長さは長いもので５ｍ前後、短いもので２ｍ前後であるが、削平されているもの、調査区外にかかっているものも多く、全体の規模を把握できないものも多かった。検出面からの深さは30cmから１ｍを越えるものと様々であるが、浅いものは上部がかなり削平されている。

表2　陥し穴状遺構一覧表

遺構名		(1) ⅠA-1陥し穴	(2) ⅠA-2陥し穴	(3) ⅡA-1陥し穴
図		11	11	11
写真図版		3	3	3
検出状況 重複関係				
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 Ⅱ　横 2	縦 Ⅰ・Ⅱ　横 3	縦 Ⅰ　横 3
規模	開口部径	334×46cm	311×32cm	(106×55)cm
	底部径	368×18cm	286×11cm	(106×16)cm
	深さ	99cm	95cm	85cm
長軸方向		N69°W	N71°E	N115°E
埋土		上部は黒、黒褐、褐がレンズ状に入る。下部は褐が主体となる。	大きくは黒褐、黒、暗褐が主体となる。中部には暗褐がブロック状に混入する。	上層から黒、褐、暗褐が順に堆積し、黒褐などがブロック状に入る。
底面		東側が大きく上がる。	西側が下がり気味。	ほぼ平坦。
備考				

遺構名		(4) ⅡA-2陥し穴	(5) ⅡA-3陥し穴	(6) ⅡA-4陥し穴
図		11	12	12
写真図版		3	3	4
検出状況 重複関係				
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 Ⅰ　横 3	縦 Ⅰ　横 2	縦 Ⅰ　横 3
規模	開口部径	298×24cm	443×70cm	292×40cm
	底部径	292× 6 cm	450×20cm	276× 8 cm
	深さ	51cm	86cm	91cm
長軸方向		N33°W	N87°W	N76°W
埋土		上部は褐、暗褐系、下部は黒褐、黒系の土が堆積。	上部は黒、黒褐、褐、暗褐がブロック状に入り下部は暗褐、混土がレンズ状に入る。	上部の黒が全体の半分を占める。下部は褐、暗褐、黒褐がほぼ等分に入る。
底面		北側がやや下がり、南側がやや上がる。	中央部から東側が若干下がる。	東側が若干上がる。
備考				

遺構名		(7) IIA-5陥し穴	(8) IIA-6陥し穴	(9) IIA-7陥し穴
図		12	12	13
写真図版		4	4	4
検出状況 重複関係				
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 I 横 2	縦 I 横 3	縦 I 横 3
規模	開口部径	321×50cm	312×21cm	382×33cm
	底部径	311×11cm	304×10cm	375×12cm
	深さ	88cm	22cm	49cm
長軸方向		N78°W	N34°W	N73°E
埋土		黒褐、黒やこれらの混土が細かくブロック状に入る。下部には暗褐が入る。	黒と黒褐の混土が半分以上を占め、黒と褐が下部に少量ずつ入る。	表土は混土、その下部に黒、混土等が入る。最下層は黒でその上部は褐。
底面		中央部が若干盛り上がる。	ほぼ平坦。	東側が若干下がり気味。
備考				

遺構名		(10) IIA-8陥し穴	(11) IIA-9陥し穴	(12) IIA-10陥し穴
図		13	13	13
写真図版		4	5	5
検出状況 重複関係				
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 II 横 2	縦 I・II 横 1	縦 I・II 横 2
規模	開口部径	320×38cm	338×69cm	331×74cm
	底部径	294×13cm	328×13cm	306×16cm
	深さ	84cm	97cm	94cm
長軸方向		N81°E	N88°W	N98°E
埋土		黒、暗褐、褐がレンズ状に入る。	黒、暗褐、褐が主体となるが、その間に混土が入る。	表土には褐が大きく入り、下部は黒、黒褐、暗褐、明褐が細かく混在する。
底面		東側に若干の起伏がある。	西側が若干下がり気味になる。	東側に若干起伏がある。
備考				

遺構名		(13) IIA-11陥し穴	(14) IIA-12陥し穴	(15) IIA-13陥し穴
図		14	14	14
写真図版		5	5	5
検出状況 重複関係			IIA-2陥し穴に切られる。	IIA-14陥し穴に切られる。
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 I・II　横 1	縦 I　横 3	縦 I　横 3
規模	開口部径	391×46cm	(192×34)cm	(302×35)cm
	底部径	392×20cm	(182×14)cm	(130×9)cm
	深さ	93cm	24cm	67cm
長軸方向		N76°W	N86°E	N127°W
埋土		黒褐、褐、暗褐が順序よく堆積し、混土が一部に入る。	暗褐のみの単層である。	主体になるのは褐であるが、混土も所々に堆積する。
底面		中央部がやや盛り上がる。	東側若干上がり気味でやや起伏がある。	切り合い部を除くとほぼ平坦。
備考				

遺構名		(16) IIA-14陥し穴	(17) IIA-15陥し穴	(18) IB-1陥し穴
図		14	15	15
写真図版		6	6	6
検出状況 重複関係				
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 I・II　横 2	縦 I　横 2	縦 I　横 2
規模	開口部径	436×75cm	576×53cm	346×46cm
	底部径	412×21cm	570×16cm	360×15cm
	深さ	91cm	81cm	72cm
長軸方向		N66°E	N87°W	N72°E
埋土		黒、暗褐、黒褐、褐がブロック状に堆積する。	上部4層を暗褐が占め、下部4層は褐系が強くなる。最下層は砂。	黒が主体、暗褐等の混土がレンズ状に入る。
底面		西側が若干下がり気味。	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。
備考				

遺構名		(19) ＩB-2陥し穴	(20) ＩB-3陥し穴	(21) ＩB-4陥し穴
図		15	15	16
写真図版		6	6	7
検出状況 重複関係				
形状	平面形	A	(A)	A
	断面形	縦 I　横 1	縦 I　横 1	縦 I　横 2
規模	開口部径	324×54cm	(103×50)cm	428×57cm
	底部径	287×20cm	(112×16)cm	418×17cm
	深さ	113cm	85cm	79cm
長軸方向		N78°E	N65°E	N80°E
埋土		上部は黒、黒褐系、一部に灰褐も混じる。下部は褐が主体。	黒、暗褐、褐、黒褐が比較的細かくブロック状に入る。	上部は黒、黒褐系の混土、下部は褐が主体となり、厚く堆積する。
底面		ほぼ平坦。	東側やや上がり気味。	西側がやや落ち込む。
備考				

遺構名		(22) ＩB-5陥し穴	(23) ＩB-6陥し穴	(24) ＩB-7陥し穴
図		16	16	16
写真図版		7	7	7
検出状況 重複関係		ＩB-8陥し穴を切る。		
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 I・II　横 1・2	縦 I　横 2	縦 II　横 1・2
規模	開口部径	308×70cm	(188×79)cm	430×59cm
	底部径	314×15cm	(173×18)cm	392×36cm
	深さ	114cm	118cm	90cm
長軸方向		N55°E	N144°E	N44°W
埋土		表土に人為的な褐が入り、その下は黒、暗褐系の混土で占められる。	上部は黒、黒褐系、下部は褐系に分けられるが一部上部に褐が入る。中部はぼそぼそした土。	上部の主体は黒、下部は暗褐、最下層には黒が入る。
底面		中央部が若干下がる。	北端がやや上がる。	北西端がやや下がる。
備考		埋土に関しては人為的なものであると考えられる。	北半分は調査区外。	

遺構名		(25) ＩB−8陥し穴	(26) ＩB−9陥し穴	(27) ＩB−10陥し穴
図		17	17	17
写真図版		7	8	8
検出状況 重複関係		ＩB−5陥し穴に切られる。		
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 (Ⅰ) 横 3	縦 ⅠとⅡの中間 横 3	縦 Ⅰ 横 3
規模	開口部径	(142×23)cm	319×34cm	170×27cm
	底部径	(136×16)cm	279×11cm	149×12cm
	深さ	61cm	86cm	65cm
長軸方向		N92°E	N45°W	N49°W
埋土		6層中上部5層が暗褐で、不整に堆積する。	黒褐を主体に黒、暗褐が細かく入る。	黒褐を主体に暗褐、褐が細かく入る。
底面		きられるところ以外はほぼ平坦に堆積する。	全般的に起伏は少ない。	北側が若干低い。
備考				

遺構名		(28) ⅡB−1陥し穴	(29) ⅡB−2陥し穴	(30) ⅡD−1陥し穴
図		17	18	18
写真図版		8	8	8
検出状況 重複関係				
形状	平面形	A	AとCの中間	A
	断面形	縦 Ⅰ 横 1	縦 Ⅰ 横 3	縦 Ⅰ 横 3
規模	開口部径	312×53cm	322×26cm	474×50cm
	底部径	274×14cm	318×11cm	454×31cm
	深さ	112cm	72cm	98cm
長軸方向		N52°E	N67°W	N67°E
埋土		黒が主体となる他は、黒、黒褐等の混土で占められる。	黒、暗褐が主となり、所々に混土が入る。	黒褐、黒、暗褐、黒と順序よく堆積している。
底面		西側が若干下がり気味。	西側が若干下がり気味。	東南がやや低く、中央〜西北は起伏が少ない。
備考				杭穴は目立つほど低くない。東側は削平のため低い。

遺構名		(31) IID-2陥し穴	(32) IID-3陥し穴	(33) IID-4陥し穴
図		18	18	19
写真図版		9	9	9
検出状況 重複関係				
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 I　横 3	縦 II　横 3	縦 I　横 3
規模	開口部径	310×20cm	244×26cm	341×31cm
	底部径	300×13cm	233×17cm	335×18cm
	深さ	74cm	74cm	58cm
長軸方向		N87°E	N78°E	N77°W
埋土		黒褐、暗褐を中心に細かく堆積している。	上部は黒褐の中に暗褐が微量に混じる。下部は暗褐。	黒色土の間に黒褐色土が入る。レンズ状に堆積する。最下層の黒色土が半分以上を占める。
底面		西側がやや低く中央～西より東側はほぼ水平。	全般的にほぼ水平。	西側が若干上がり気味。中央部は撹乱をうける
備考		東側は削平のため低い。	東側は削平のため低い。	底面中央部に杭穴。

遺構名		(34) IID-5陥し穴	(35) IID-6陥し穴	(36) IID-7陥し穴
図		19	19	19
写真図版		9	9	10
検出状況 重複関係				IID-8陥し穴に切られる。
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 I　横 3	縦 I　横 3	縦 ?　横 3
規模	開口部径	342×36cm	250×26cm	215×17cm
	底部径	335×18cm	239×9cm	210×12cm
	深さ	58cm	88cm	20cm
長軸方向		N87°W	N63°W	N65°W
埋土		黒褐の中に黒が少量混じる。	黒褐と暗褐の間に黒が挟まれる。	暗褐のみの、汚れたシルトの単層。
底面		東側に若干傾斜がある。	中央部がやや盛り上がる。	東側は削平され残りが悪い。中央～西若干傾斜
備考		東側が若干深く削平されている。	東側が若干深く削平されている。	

遺構名		(37) IID-8陥し穴	(38) IID-9陥し穴	(39) IID-10陥し穴
図		20	20	20
写真図版		10	10	10
検出状況 重複関係		IID-7陥し穴を切る。	IID-10陥し穴を切る。	IID-9陥し穴に切られる。
形状	平面形	A	C	A
	断面形	縦 IとIIの中間 横 2	縦 II 横 3	縦 I 横 3
規模	開口部径	142×34cm	155×28cm	250×26cm
	底部径	138×16cm	120×7cm	242×19cm
	深さ	50cm	70cm	48cm
長軸方向		N46°E	N72°E	N60°W
埋土		黒及び暗褐。	黒～黒褐に暗褐が混じる。	黒が上部の多くを覆い、下部に暗褐、黒褐が僅かに入る。
底面		北東側に向かって若干の傾斜。	東側がやや削平されるが、ほぼ平坦。	杭穴が2つある他はほぼ平坦。
備考		埋土3層については掘りすぎ。		杭穴は径9×9cm、深さ13cm。

遺構名		(40) IID-11陥し穴	(41) IID-12陥し穴	(42) IID-13陥し穴
図		20	21	21
写真図版		10	11	11
検出状況 重複関係		IID-12陥し穴を切る。	IID-11陥し穴に切られる。	
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 I 横 1	縦 I 横 3	縦 I 横 3
規模	開口部径	384×44cm	264×30cm	347×28cm
	底部径	379×19cm	257×24cm	336×14cm
	深さ	44cm	6cm	47cm
長軸方向		N85°E	N62°W	N70°W
埋土		黒～暗褐の汚れたシルトが水平気味に堆積している。	黒褐と暗褐が細かく堆積している。	黒褐～暗褐がブロック状に入る。
底面		西～東に向かって徐々に上がっている。	若干東南部へ下がる。	西側がやや落ち込み、中央部が若干盛り上がる
備考				

遺構名		(43) IID-14陥し穴	(44) IID-15陥し穴	(45) IID-16陥し穴
図		21	21	22
写真図版		11	11	11
検出状況重複関係				IID-17陥し穴を切る。
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 I　横 1と2の中間	縦 I　横 1	縦 IとIIの中間　横 2
規模	開口部径	505×35cm	196×47cm	371×53cm
	底部径	490×14cm	204×34cm	378×21cm
	深さ	49cm	90cm	90cm
長軸方向		N74°W	N83°E	N77°E
埋土		黒と暗褐が交互に挟まれる。	黒、黒褐、暗褐の順に堆積する。	黒を主体に暗褐が少量部分的に混じる。
底面		東側が高く、一段下がるとほぼ平坦。	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。
備考		底面の様子から東側に1基重複している可能性もあるが、平面では確認できなかった。		ごく浅い副穴が1基、径12×28cm、深さ5cm。

遺構名		(46) IID-17陥し穴	(47) IID-18陥し穴	(48) IID-19陥し穴
図		22	22	22
写真図版		11	12	12
検出状況重複関係		IID-16陥し穴に切られる。	IID-19陥し穴を切る。	IID-18陥し穴に切られる。
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 I　横 ?	縦 I　横 2と3の中間	縦 I　横 2と3の中間
規模	開口部径	362×26cm	300×56cm	374×38cm
	底部径	315×19cm	300×34cm	354×22cm
	深さ	50cm	77cm	86cm
長軸方向		N89°E	N88°E	N15°E
埋土		IID-16陥し穴と同じ。	上部は黒、黒褐、下部から暗褐が混じり、最下部が暗褐。	黒、黒褐が主体。最下層に暗褐。
底面		西～東にかけて傾斜する。	西～東にかけてかなり起伏がある。	南～中央にかけて起伏が激しい。
備考			底部の一番低い部分は数カ所に分かれる。副穴的なものが2カ所ある。	

遺構名		(49) IID-20陥し穴	(50) IID-21陥し穴	(51) IID-22陥し穴
図		22	23	23
写真図版		12	12	12
検出状況 重複関係		IID-10陥し穴と切り合う。	IID-1住居跡北西隅、掘り方面より検出。	東南隅に近い部分が一部IID-7陥し穴と切り合う。IID-1住居跡東端により一部削平。
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 III 横 3	縦 I 横 3	縦 ? 横 3
規模	開口部径	170×22cm	238×48cm	243×31cm
	底部径	154×8cm	219×19cm	235×2cm
	深さ	46cm	94cm	99cm
長軸方向		N73°W	N3°E	N61°W
埋土		IID-10陥し穴と同じ。	上部は竪穴住居跡により削平。4層より下部は自然堆積。	細いU字形の中に不整に堆積する。
底面		ほぼ平坦。	ほぼ平坦。	南東側が下がる。
備考				

遺構名		(52) IID-23陥し穴	(53) IID-24陥し穴	(54) IID-25陥し穴
図		23	23	24
写真図版		13	13	13
検出状況 重複関係		IID-1住の南東隅に隣接。東側の一部のみ検出(残りは調査区外)。	IID-10、同20陥し穴に切られ、これらとほぼ直交する形で検出。	
形状	平面形	(A?)	A(Cに近い)	A
	断面形	縦 ? 横 2	縦 II 横 3	縦 II 横 3
規模	開口部径	(30×34)cm	150×28cm	232×34cm
	底部径	(24×9)cm	130×20cm	216×14cm
	深さ	94cm	20cm	54cm
長軸方向		N52°W	N5°E	N65°W
埋土		4～5層中にかけては検出面の上部が削平、それより下部は自然堆積。	褐、暗褐がほぼ交互に堆積する。	褐主体の層である。
底面		東側が下がる。	切られる部分を除いてほぼ平坦。	ほぼ平坦。
備考				

遺構名		(55) IID-26陥し穴	(56) IID-27陥し穴	(57) IIE-1陥し穴
図		24	24	24
写真図版		13	13	14
検出状況 重複関係			ほぼ直交する。IID-9陥し穴に切られる。	
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 I　横 3	縦 I　横 3	縦 I　横 2と3の中間
規模	開口部径	284×42cm	206×33cm	357×44cm
	底部径	194×10cm	188×17cm	370×19cm
	深さ	82cm	35cm	48cm
長軸方向		N86°E	N15°E	N89°W
埋土		1、2層は自然堆積層。4、5層は一部掘りすぎ。	暗褐が主体。細かく黒褐を含む。	黒、黒褐主体に暗褐が混じる。
底面		東側が大きく傾斜する。	南側に杭穴と思われる穴が2個ある。	中央部から西部にかけて若干上がり気味。
備考				

遺構名		(58) IIE-2陥し穴	(59) IIE-3陥し穴	(60) IIE-4陥し穴
図		25	25	25
写真図版		14	14	14
検出状況 重複関係				
形状	平面形	C	A	A
	断面形	縦 IIとIIIの中間　横 3	縦 II　横 3	縦 IとIIの中間　横 3
規模	開口部径	144×21cm	297×45cm	429×38cm
	底部径	150×17cm	271×21cm	419×15cm
	深さ	68cm	81cm	65cm
長軸方向		NW	N68°W	N63°E
埋土		黒、黒褐主体で最下層に暗褐が入る。	ほとんど黒主体に暗褐が少量混入する。	黒、黒褐主体で最下層に暗褐が入る。
底面		西側がやや傾斜する。	西側が若干低い。	全般的に大きな起伏はない。
備考		底面西側は一部調査区外に入る。		

遺構名		(61) IIE-5陥し穴	(62) IIE-6陥し穴	(63) IIE-7陥し穴
図		25	26	26
写真図版		14	15	15
検出状況 重複関係				
形状	平面形	A	C	A
	断面形	縦 I 横 2	縦 I 横 3	縦 IとIIの中間 横 3
規模	開口部径	310×42cm	135×25cm	388×35cm
	底部径	305×13cm	130×18cm	364×19cm
	深さ	70cm	70cm	80cm
長軸方向		N89°E	N69°E	N86°W
埋土		黒が最上部と最下部に入り、その中間には黒褐暗褐が混在する。	黒が主体、最下層部に黒褐が少量混じる。	暗褐、黒褐が混じり、最下層に明赤褐が入る。
底面		ほぼ平坦。	西に傾斜。	中央部に僅かな起伏がある。
備考				

遺構名		(64) IIE-8陥し穴	(65) IIE-9陥し穴	(66) IIE-10陥し穴
図		26	26	27
写真図版		15	15	15
検出状況 重複関係				
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 I 横 3	縦 II 横 1	縦 IIとIIIの中間 横 1
規模	開口部径	291×43cm	210×53cm	281×29cm
	底部径	270×17cm	172×34cm	282×15cm
	深さ	80cm	62cm	85cm
長軸方向		N72°W	N50°W	N54°W
埋土		黒褐、暗褐が混在する。	最上部の黒褐の下から暗赤褐になり、最下層も暗褐が入る。	黒と黒の間に暗、黒褐が混在する。
底面		西側が若干上がるが、ほぼ平坦。	北西にやや窪みがある。	北西がやや上がり気味。
備考				

遺構名		(67) IIE-11陥し穴	(68) IIE-12陥し穴	(69) IIE-13陥し穴
図		27	27	27
写真図版		16	16	16
検出状況 重複関係				
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 III　横 3	縦 II　横 3	縦 IとIIの中間　横 1と2の中間
規模	開口部径	339×36cm	271×47cm	292×50cm
	底部径	336×26cm	258×10cm	285×18cm
	深さ	72cm	92cm	70cm
長軸方向		N11°W	N83°W	N61°W
埋土		黒褐の上部に黒が入る。下部はほとんど黒褐。	黒褐と暗褐の間に黒、暗褐が僅かに入る。	暗褐が主体でその中に黒、黒褐、褐、暗褐が細かく入る。
底面		北側が6～10cm低くなる。	ほぼ平坦。	東部が僅かに低いもののほぼ平坦。
備考				

遺構名		(70) IIE-14陥し穴	(71) IIE-15陥し穴	(72) IIE-16陥し穴
図		28	28	28
写真図版		16	16	17
検出状況 重複関係				IIE-17陥し穴を切る。
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 I　横 3	縦 II　横 1	縦 I　横 2
規模	開口部径	(202×23)cm	(214×68)cm	320×44cm
	底部径	(199×14)cm	(211×22)cm	335×19cm
	深さ	71cm	110cm	92cm
長軸方向		N95°E	N98°E	N75°W
埋土		黒と黒の間に暗褐が僅かに挟在する。	大きく黒、黒褐に分けられ、その間に僅かに暗褐が入る。	黒と黒の間に黒褐が挟在する。
底面		西側に若干の傾斜がある。	西側が若干上がり気味。	中央～西側がやや上がるがほぼ平坦。
備考		西側の一部は調査区外に入る。	IIE-14陥し穴と同じ。	

遺構名		(73) IIE-17陥し穴	(74) IIE-18陥し穴	(75) IIE-19陥し穴
図		28	29	29
写真図版		17	17	17
検出状況 重複関係		IIE-16陥し穴に切られる。		
形状	平面形	A	A	(A)
	断面形	縦 I 横 2	縦 I 横 2	縦 I 横 1
規模	開口部径	325×39cm	284×36cm	(164×52)cm
	底部径	326×13cm	272×20cm	(159×16)cm
	深さ	91cm	81cm	76cm
長軸方向		N49°W	N74°E	N134°E
埋土		IIE-16陥し穴と同じ。	黒、黒褐が主体で、その中に極暗褐が僅かにブロック状に入る。	厚い暗褐の上を黒が覆っている。
底面		南側がやや下がり気味。	東～中央にかけてやや起伏がある。	ほぼ平坦。
備考				西側の一部が調査区外に入っている。

遺構名		(76) IIE-20陥し穴	(77) IIE-21陥し穴	(78) IIE-22陥し穴
図		29	29	30
写真図版		17	18	18
検出状況 重複関係				
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 I 横 1と3の中間	縦 IIとIIIの中間 横 2	縦 IとIIの中間 横 1
規模	開口部径	324×66cm	331×60cm	297×47cm
	底部径	328×18cm	316×18cm	295×13cm
	深さ	77cm	104cm	73cm
長軸方向		N81°W	N74°W	N83°W
埋土		上部が黒、下部が黒褐に分けられるが、暗褐の中に一部黒がブロック状に入る。	IIE-20陥し穴と同じ。	黒と暗褐が交互に入る。
底面		西側が若干上がり気味。	ほぼ中央～西側が一段高くなる。	西～東にかけて僅かに起伏がある。
備考				

遺構名		(79) IIE-23陥し穴	(80) IIE-24陥し穴	(81) IIE-25陥し穴
図		30	30	30
写真図版		18	18	18
検出状況 重複関係		側面の一部と東側の先端部がIIE-24陥し穴を切る。	IIE-23陥し穴に切られる。	
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 I 横 2	縦 I 横 1と3の中間	縦 II 横 2
規模	開口部径	(332×39)cm	(342×54)cm	410×60cm
	底部径	(332×13)cm	(320×25)cm	352×20cm
	深さ	96cm	86cm	103cm
長軸方向		N96°W	N80°E	N88°W
埋土		黒、黒褐が主体の中に暗褐、極暗褐が細かく入る。	黒、黒褐の中に暗褐が一部ブロック状にはいる	黒褐で占められる。
底面		西側に行くに従って僅かに上がっていく。	中央部が若干低い。	西から東にかけて緩やかな傾斜がある。
備考				

遺構名		(82) IIE-26陥し穴	(83) IIE-27陥し穴	(84) IIE-28陥し穴
図		31	31	31
写真図版		19	19	19
検出状況 重複関係				
形状	平面形	A	C	A
	断面形	縦 I 横 3	縦 I 横 3	縦 II 横 2
規模	開口部径	330×48cm	205×23cm	393×77cm
	底部径	314×20cm	211×15cm	414×17cm
	深さ	84cm	88cm	87cm
長軸方向		N89°E	N89°W	N72°W
埋土		上部は黒、黒褐、下部は暗褐で占められる。	黒、黒褐、暗褐、極暗褐が交互にレンズ状に堆積する。	黒、暗褐が主体。
底面		東～西に緩やかな傾斜がある。	西側が一段低くなる。	東西両端が若干上がり気味になる。
備考				

遺構名		(85) IIE-29陥し穴	(86) IIE-30陥し穴	(87) IIE-31陥し穴
図		31	32	32
写真図版		19	19	20
検出状況 重複関係				
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 I　横 1と2の中間	縦 IとIIの中間　横 3	縦 (II)　横 2
規模	開口部径	298×50cm	246×32cm	176×42cm
	底部径	290×17cm	233×17cm	169×18cm
	深さ	68cm	83cm	71cm
長軸方向		N85°E	N69°W	N86°W
埋土		黒、暗褐、黒褐の中に極暗褐、細かい黒、黒褐が混入する。	黒褐、極暗褐、黒がほぼ均等に堆積する。	黒と褐で占められる。
底面		中央～西側が若干上がり気味。	東～中央にかけて上がる。	東端がせり上がる。
備考				東側が大部分削平されており低い。

遺構名		(88) IIE-32陥し穴	(89) IIE-33陥し穴	(90) IIE-34陥し穴
図		32	32	33
写真図版		20	20	20
検出状況		IIE-2住掘り方面より検出。西側部分は調査		
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 I　横 3	縦 III　横 1	縦 III　横 3
規模	開口部径	(109×31)cm	324×65cm	344×22cm
	底部径	(100×16)cm	348×20cm	352×14cm
	深さ	97cm	115cm	58cm
長軸方向		N88°E	N28°E	N74°E
埋土		上層は黒褐が9層、中に黄褐が1層入り、暗褐層が下層に多く堆積する。	上部は黒褐～暗褐、下部は暗褐～褐に分けられる。	暗褐の下部に黒褐が比較的厚く堆積する。
底面		東側が若干上がり気味もほぼ平坦。	ほぼ平坦。	東側が若干低い。
備考				遺物は315円盤状土製品(第112図、写真図版89)

遺構名		(91) IIE-35陥し穴	(92) IIE-36陥し穴	(93) IIE-37陥し穴
図		33	33	33
写真図版		20	21	21
検出状況 重複関係				
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 I 横 1	縦 II 横 3	縦 III 横 3
規模	開口部径	326×36cm	(253×45)cm	258×48cm
	底部径	316×12cm	(232×23)cm	282×13cm
	深さ	88cm	71cm	63cm
長軸方向		N11°W	N22°W	N8°W
埋土		上層1/3が黒褐、下層2/3が暗褐主体となる。	上下層の暗褐の中に黒褐が15～18cm堆積する。	上～下層まで褐を主体とした埋土。
底面		両端が少し下がる。	北側へ若干上がり気味。	南端が大きく上がる。
備考				

遺構名		(94) IIE-38陥し穴	(95) IIE-39陥し穴	(96) IIE-40陥し穴
図		34	34	34
写真図版		21	21	21
検出状況 重複関係			IIE-16、17陥し穴に切られる。	東側は削平。
形状	平面形	A	(A)	(A)
	断面形	縦 II 横 2と3の中間	縦 (I) 横 (2)	縦 III 横 3
規模	開口部径	260×49cm	(168×50)cm	(157×30)cm
	底部径	244×29cm	(165×11)cm	(162×13)cm
	深さ	79cm	73cm	47cm
長軸方向		N63°W	N74°E	N72°W
埋土		2、6層に褐土粒が混入し、暗褐が6層に分けられる。	暗褐がレンズ状に堆積する。	黒褐が主体となり、レンズ状に堆積する。
底面		西側が上がる。	削平された部分を除きほぼ平坦。	中央部が盛り上がる。
備考				

遺構名		(97) IIIE-1陥し穴	(98) IIIE-2陥し穴	(99) IIIE-3陥し穴
図		34	35	35
写真図版		22	22	22
検出状況 重複関係				
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 I　横 3	縦 I　横 3	縦 I　横 3
規模	開口部径	193×19cm	295×29cm	116×13cm
	底部径	178×5cm	278×10cm	121×8cm
	深さ	12cm	10cm	11cm
長軸方向		N83°E	N81°E	N86°E
埋土		最下部の黒褐、褐が残存するのみ。	IIE-1陥し穴と同じ。	最下層の黒が残存するのみ。
底面		両端が僅かに上がる。	全般的に起伏が少ない。	東側が若干下がり気味。
備考				

遺構名		(100) IIF-1陥し穴	(101) IIF-2陥し穴	(102) IIF-3陥し穴
図		35	35	36
写真図版		22	22	23
検出状況 重複関係				
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 II　横 2	縦 II　横 1と3の中間	縦 II　横 2と3の中間
規模	開口部径	298×75cm	404×61cm	392×43cm
	底部径	272×30cm	390×19cm	412×27cm
	深さ	86cm	87cm	82cm
長軸方向		N71°E	N82°E	N80°E
埋土		黒、暗褐、黒褐が上部から下部にかけて入る。その中に極暗褐がブロック状に入る。	黒、黒褐が主体、最下層の細くなる手前に褐が入る。	黒、黒褐が主体、最下層には暗褐と黒褐が等分に入る。
底面		ほぼ平坦。	中央部より東側に起伏がある。	西側がやや高い。
備考				

遺構名		(103) IIF-4陥し穴	(104) IIF-5陥し穴	(105) IIF-6陥し穴
図		36	36	36
写真図版		23	23	23
検出状況 重複関係		東側半分は削平。	IIF-6陥し穴に切られる。	IIF-5陥し穴を切る。
形状	平面形	(B)	A	A
	断面形	縦 I　横 1と3の中間	縦 II　横 2	縦 II　横 2
規模	開口部径	(152×73)cm	336×36cm	448×62cm
	底部径	(141×12)cm	314×9cm	428×16cm
	深さ	42cm	79cm	68cm
長軸方向		NW	N66°W	N40°W
埋土		ほとんど暗褐で占められるが、所々黒褐、黒がブロック状に入る。	黒褐の中に褐がブロック状に入る。	上部に白鷲、黒褐がレンズ状に入り、下部には黒褐、暗褐が入る。
底面		削平部分を除いてほぼ平坦。	削平部分を除いてほぼ平坦。	中央～やや南東よりが上がり気味。
備考				

遺構名		(106) IIF-7陥し穴	(107) IIF-8陥し穴	(108) IIF-9陥し穴
図		37	37	37
写真図版		23	24	24
検出状況 重複関係				西側半分は調査区域外。
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 IとIIの中間 横 2	縦 IとIIの中間 横 2	縦 I　横 3
規模	開口部径	306×72cm	300×53cm	240×25cm
	底部径	286×15cm	288×12cm	234×21cm
	深さ	74cm	72cm	40cm
長軸方向		N26°W	N82°W	N98°E
埋土		暗褐、黒褐が主体。黒が表土に一部入る。	上部は黒の中に暗褐、黒褐が、下部は暗褐の中に黒がそれぞれブロック状に入る。	暗褐色主体の層、最下部南側に一部黒が入る。
底面		全般的に大きな起伏はない。	東側若干上がり気味。	東側若干上がり気味。
備考				

遺構名		(109) II F-10陥し穴	(110) II F-11陥し穴	(111) II F-12陥し穴
図		37	38	38
写真図版		24	24	24
検出状況 重複関係				
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 I　横 2	縦 IとIIの中間　横 2	縦 IとIIの中間　横 2
規模	開口部径	346×51cm	382×85cm	368×66cm
	底部径	322×18cm	325×14cm	347×10cm
	深さ	95cm	95cm	81cm
長軸方向		N51°W	N33°E	N53°W
埋土		上部は黒褐中心、下部は暗褐が多く入るが、上下部の間に褐がブロック状に入る。	細かくブロック状に黒褐、黒、褐が入っているが、上部は黒、下部は暗褐に大別される。	上部の黒が下部の暗褐に入り込む形になる。黒の中に、黒と暗褐の混土が入る。
底面		東側がやや上がり気味。	北東側がやや上がり気味。	北西側がやや上がり気味。
備考				

遺構名		(112) II F-13陥し穴	(113) II F-14陥し穴	(114) II F-15陥し穴
図		38	38	39
写真図版		25	25	25
検出状況 重複関係				
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 I　横 2	縦 I　横 1と2の中間	縦 I　横 3
規模	開口部径	296×71cm	301×72cm	358×47cm
	底部径	274×12cm	290×12cm	346×16cm
	深さ	89cm	94cm	98cm
長軸方向		N69°W	N66°W	N73°W
埋土		大きく3層に分けられ、黒褐の間に暗褐をはさむ。	II F-13陥し穴と同じ。	全体に細かく堆積するが、上層は黒、中層は黒褐、下層は暗褐が中心になる。
底面		ほぼ平坦。	東側が若干上がり気味。	両端がやや上がり気味。
備考				

遺構名		(115) II F-16陥し穴	(116) II F-17陥し穴	(117) II F-18陥し穴
図		39	39	39
写真図版		25	25	26
検出状況 重複関係				
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 I　横 3	縦 I　横 3	縦 I　横 1
規模	開口部径	318×31cm	370×38cm	290×58cm
	底部径	294×12cm	388×15cm	298×23cm
	深さ	78cm	79cm	99cm
長軸方向		N34°W	N35°W	N68°W
埋土		上部に人為的な褐が入り、中部に黒褐、下部に暗褐が入る。	黒、暗褐、黒褐がレンズ状に堆積する。	上部が黒、中部が黒褐、下部が暗褐とそれぞれレンズ状に堆積する。
底面		やや南東よりに若干の起伏がある。	両端が若干下がり気味。	ほぼ平坦。
備考				

遺構名		(118) II F-19陥し穴	(119) II F-20陥し穴	(120) II F-21陥し穴
図		40	40	40
写真図版		26	26	26
検出状況 重複関係				
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 II　横 2	縦 II　横 3	縦 IとIIIの中間　横 1
規模	開口部径	292×42cm	280×73cm	256×46cm
	底部径	274×18cm	248×31cm	275×13cm
	深さ	100cm	97cm	102cm
長軸方向		N42°W	N66°W	N74°W
埋土		黒褐、暗褐の間に褐が5層にわかれて入る。	8層までは腐植を受けた黒が中心で、その下に褐が混じる粘質土が入る。	上～中を黒、黒褐が占め、最下層に粘質のある暗褐が入る。
底面		起伏が小さい。	西端がやや上がる。	西側がややせり上がる。
備考				

遺構名		(121) II F-22陥し穴	(122) II F-23陥し穴	(123) II F-24陥し穴
図		40	41	41
写真図版		26	27	27
検出状況 重複関係				西側半分は調査区域外。
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 I　横 1	縦 I　横 3	縦 I　横 3
規模	開口部径	358×55cm	299×59cm	151×52cm
	底部径	348×14cm	288×16cm	134×28cm
	深さ	82cm	81cm	115cm
長軸方向		N22°W	N59°W	N97°E
埋土		暗褐の上部に黒が入り込んでいる。	6層に分けられるが、主体となるのは黒褐、暗褐である。	1層に褐が入り、その下部は赤みがかった土を混入しつつ、黒褐が堆積する。
底面		北側が一部盛り上がる。	ほぼ平坦。	東側がやや上がり気味。
備考				

遺構名		(124) II F-25陥し穴	(125) II F-26陥し穴	(126) II F-27陥し穴
図		41	41	42
写真図版		27	27	27
検出状況 重複関係		II F-26陥し穴を切る。	II F-25陥し穴に切られる。	
形状	平面形	(A)	(A)	B
	断面形	縦 I　横 1	縦 I　横 2と3の中間	縦 I　横 2
規模	開口部径	(230×60)cm	(97×66)cm	331×89cm
	底部径	(222×18)cm	(96×19)cm	355×37cm
	深さ	101cm	87cm	103cm
長軸方向		N113°E	N120°E	N18°E
埋土		1～12層までレンズ状に堆積するが、8層の褐はブロック状に入る。	上部8層は暗褐中心でその下層は褐が入る。	上層からレンズ状に堆積するが、10層の褐によって下層が切られる。
底面		ほぼ平坦。	東端がやや上がり気味。	
備考				

遺構名		(127) IIF-28陥し穴	(128) IIF-29陥し穴	(129) IIF-30陥し穴
図		42	42	42
写真図版		28	28	28
検出状況 重複関係		西側半分が調査区域外に入る。		西側半分が調査区外。
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 I　横 2と3の中間	縦 I　横 3	縦 I　横 3
規模	開口部径	118×42cm	360×71cm	(144×40)cm
	底部径	124×18cm	331×33cm	(146×11)cm
	深さ	106cm	110cm	94cm
長軸方向		N106°E	N55°W	N104°E
埋土		上部5層までは暗褐、黒褐が交互に入り、下部はほとんど黒褐で占められる。	黒褐、暗褐系を中心に上層が構成され、5層中部～8層までは褐が中心になる。	上～中部10層までは黒褐主体にレンズ状に堆積し、下部は暗褐～褐が堆積する。
底面		ほぼ平坦。	東南側がやや下がる。	東部やや上がり気味。
備考				

遺構名		(130) IIF-31陥し穴	(131) IIIF-1陥し穴	(132) IIIF-2陥し穴
図		43	43	43
写真図版		28	28	29
検出状況 重複関係		南東側が削平される。		
形状	平面形	(A)	A	A
	断面形	縦 I　横 3	縦 IとIIの中間　横 3	縦 IとIIの中間　横 3
規模	開口部径	(114×38)cm	334×34cm	349×16cm
	底部径	(107×26)cm	312×11cm	330×11cm
	深さ	61cm	46cm	75cm
長軸方向		N52°W	N79°W	N81°W
埋土		褐が最上層に入る以外は、暗褐と黒褐が交互に堆積する。	暗褐と暗褐の間に比較的厚く褐層が入る。	上部3層に褐、黒が僅かに入って褐、暗褐を挟んで褐の順に堆積する。
底面		東側が若干下がる。	若干の起伏はあるがほぼ平坦。	ほぼ平坦。
備考				

遺構名		(133) IIIF-3陥し穴	(134) IIIF-4陥し穴	(135) IIIF-5陥し穴
図		43	44	44
写真図版		29	29	29
検出状況 重複関係				
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 I　横 3	縦 II　横 3	縦 II　横 3
規模	開口部径	228×13cm	296×24cm	164×21cm
	底部径	214×3cm	267×14cm	146×11cm
	深さ	11cm	73cm	26cm
長軸方向		N77°W	N67°E	N80°W
埋土		最下部の1層のみが残存する。	3層に褐がはいる他は暗褐を中心とした土が堆積する。	下層の褐、暗褐が混じった層が残存する。
底面		両端が上がり気味。	中～東側が若干上がる。	ほぼ平坦。
備考			2層黒褐中から縄文土器片が出土。	

遺構名		(136) IIIF-6陥し穴	(137) IIIF-7陥し穴	(138) IIIF-8陥し穴
図		44	44	45
写真図版		29	30	30
検出状況 重複関係				IIF-9陥し穴と西端部が切り合う。
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 IとIIの中間 横 3	縦 II　横 3	縦 I　横 3
規模	開口部径	288×11cm	307×26cm	265×14cm
	底部径	276×6cm	295×20cm	239×5cm
	深さ	47cm	38cm	10cm
長軸方向		N78°W	N65°W	N67°W
埋土		上部3層は極細かく堆積し、下部1/7程度を暗褐の4層が占める。	1層以外は褐が6層に分かれて堆積する。	最下部2層（黒、暗褐）のみが残存する。
底面		東側に向かって緩やかに傾斜する。	東側が若干下がる。	東西両端が若干下がる。
備考				

遺構名		(139) ⅢF−9陥し穴	(140) ⅢF−10陥し穴	(141) ⅢF−11陥し穴
図		45	45	45
写真図版		30	30	30
検出状況 重複関係		ⅡF−8陥し穴と東端部が切り合う。		
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 Ⅰ 横 3	縦 Ⅱ 横 3	縦 Ⅱ 横 3
規模	開口部径	388×19cm	216×10cm	144×17cm
	底部径	380×12cm	199×4cm	130×7cm
	深さ	19cm	10cm	23cm
長軸方向		N53°W	N57°W	N69°W
埋土		黒褐を中心に6層が細かくレンズ状に堆積する	最下層の黒褐、褐が残存するのみである。	褐2層が上部、残り5層を暗褐が占める。
底面		東西両端が若干下がる。	西側にやや起伏がある。	両端が若干上がり気味。
備考				

遺構名		(142) ⅢF−12陥し穴	(143) ⅢF−13陥し穴	(144) ⅢF−14陥し穴
図		46	46	46
写真図版		31	31	31
検出状況 重複関係		南東部の一部が調査区域外に入っている。		
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 Ⅰ 横 2	縦 Ⅰ 横 3	縦 Ⅰ 横 3
規模	開口部径	(390×51)cm	293×15cm	346×26cm
	底部径	(382×12)cm	305×9cm	340×13cm
	深さ	50cm	52cm	33cm
長軸方向		N48°W	N59°W	N52°W
埋土		上部には黒と暗褐が交互に入る。下部は黒褐、褐が入る。	表土に暗褐が入り、直下には黒褐が入る。	黒〜黒褐系が主体を占める。
底面		西側がやや窪み、東側に上がり気味。	東端がやや上がり気味。	中央がやや窪む。
備考				

遺構名		(145) III F-15陥し穴	(146) III F-16陥し穴	(147) III F-17陥し穴
図		46	47	47
写真図版		31	31	32
検出状況 重複関係				
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 III　横 3	縦 III　横 3	縦 III　横 3
規模	開口部径	(342×34)cm	372×31cm	158×29cm
	底部径	(341×14)cm	352×12cm	182×12cm
	深さ	100cm	37cm	48cm
長軸方向		N28°W	N67°W	N76°E
埋土		黒褐が主体、その中に暗褐が僅かに混じり、最下層には褐が入る。	暗褐が主体、その中に黒褐が僅かに含まれる。	上部は主体となる黒褐の中に黒がブロック状に入る。下部は黒で占められる。
底面		南西側が下がり気味。	南西側が下がり気味。	西側が若干上がり気味になる。
備考				

遺構名		(148) III F-18陥し穴	(149) III F-19陥し穴	(150) III F-20陥し穴
図		47	47	48
写真図版		32	32	32
検出状況 重複関係				
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 I　横 1と2の中間	縦 I　横 2	縦 I　横 3
規模	開口部径	333×53cm	336×46cm	344×14cm
	底部径	338×16cm	327×14cm	328×6cm
	深さ	72cm	35cm	29cm
長軸方向		N72°E	N65°W	N64°W
埋土		黒褐、暗褐、褐がほぼ等分に入る。	ほぼ黒で占められ、両側面にわずかに暗褐が入る。	黒褐が主体、下層には黒が入る。
底面		中央～東側にかけて一段下がる。	東西両端が若干下がり気味。	ほぼ平坦。東側が僅かに低い。
備考				

遺構名		(151) III F-21陥し穴	(152) III F-22陥し穴	(153) III F-23陥し穴
図		48	48	48
写真図版		32	33	33
検出状況 重複関係				
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 II　横 3	縦 I　横 3	縦 I　横 3
規模	開口部径	358×23cm	372×28cm	340×22cm
	底部径	338× 9 cm	360×5cm	329×11cm
	深さ	27cm	34cm	25cm
長軸方向		N85°E	N39°E	N87°E
埋土		黒褐で占められる。	暗褐～褐系が主体で、比較的明確に分けられる	上部は黒～黒褐系、下部は暗褐に分けられる。
底面		西端が上がり気味。	北東方向に上がり気味。	西端が上がり気味。
備考				

遺構名		(154) III F-24陥し穴	(155) III F-25陥し穴	(156) III F-26陥し穴
図		49	49	49
写真図版		33	33	33
検出状況 重複関係				
形状	平面形	A	C	A
	断面形	縦 IとIIの中間 横 3	縦 1　横 3	縦 ?　横 2
規模	開口部径	288×21cm	154×17cm	150×41cm
	底部径	274× 8 cm	145× 9 cm	155×18cm
	深さ	81cm	25cm	8 cm
長軸方向		N40°W	NW	N88°E
埋土		上部1～8層までは細かい堆積がみられ、下部は褐を中心とした堆積である。	全体的に細かく堆積している。	褐、暗褐、黒褐の土が細かく、かなり不整に堆積する。
底面		ほぼ平坦。	中央部と東部が若干上がる。	西端が細かく落ち込み、東側は上がり気味。
備考				撹乱をかなりひどく受けており、平面での形状がかろうじてわかる程度。

遺構名		(157) IIIF-27陥し穴	(158) IIIF-28陥し穴	(159) IIIF-29陥し穴
図		49	50	50
写真図版		34	34	34
検出状況 重複関係				
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 IとIIの中間 横 3	縦 II 横 3	縦 I 横 3
規模	開口部径	369×21cm	226×41cm	296×36cm
	底部径	354×19cm	191×13cm	284×13cm
	深さ	70cm	95cm	82cm
長軸方向		N58°W	N82°E	N45°W
埋土		上部10層までは細かく堆積し、下部は水つきの褐2層が堆積する。	1層おきに褐が堆積する。	削平が進んでいるが、下部は自然堆積である。
底面			東側でやや下がる部分がある。	南東部が若干上がる。
備考				

遺構名		(160) IIIF-30陥し穴	(161) IIG-1陥し穴	(162) IIG-2陥し穴
図		50	50	51
写真図版		34	34	35
検出状況 重複関係				西側の一部が調査区域外。
形状	平面形	A	A	A1
	断面形	縦 I 横 3	縦 II 横 1と2の中間	縦 II 横 2
規模	開口部径	374×18cm	290×66cm	186×55cm
	底部径	365×12cm	252×13cm	150×14cm
	深さ	15cm	94cm	126cm
長軸方向		N60°W	N84°W	N113°E
埋土		削平が進み、最下部の2層が残存するのみ。	上部が黒系、下部が褐系に2分される。	黒と黒褐が交互に堆積する形になる。
底面		北東部にやや起伏がある。	西端が上がり気味。	中央部が若干高くなるが、ほぼ平坦。
備考				

遺構名		(163) IIG−3陥し穴	(164) IIG−4陥し穴	(165) IIG−5陥し穴
図		51	51	51
写真図版		35	35	35
検出状況 重複関係		IIG−1土坑に切られる。東側が削平される。		
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 (II) 横 2	縦 IとIIの中間 横 3	縦 I 横 2
規模	開口部径	290×40cm	345×21cm	326×74cm
	底部径	272×14cm	322×9cm	304×17cm
	深さ	98cm	46cm	111
長軸方向		N78°W	N13°E	N86°E
埋土		暗褐中に黒が入っている。	暗褐、黒、黒褐の3種が暗褐の上に密に堆積する。	黒褐が土台となって、黒、暗褐がその上に堆積する。
底面		中央部がやや高くなる。	南部に杭穴？をもつ以外はほぼ平坦。	南側にやや窪みがあり、ほぼ平坦。
備考				

遺構名		(166) IIG−6陥し穴	(167) IIG−7陥し穴	(168) IIG−8陥し穴
図		52	52	52
写真図版		35	36	36
検出状況 重複関係		IIG−7陥し穴と切り合う。		
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 II 横 1	縦 II 横 1	縦 I 横 2と3の中間
規模	開口部径	314×41cm	382×29cm	349×38cm
	底部径	248×12cm	357×13cm	340×17cm
	深さ	94cm	56cm	76cm
長軸方向		N76°E	N65°W	N18°E
埋土		黒褐、黒が層の半分を占め、北側は黒褐、暗褐系が堆積する。	IIG−6陥し穴と同じ。	黒褐、暗褐、黒褐の順に堆積し、中部暗褐の中に褐がブロック状に入る。
底面		南側にやや窪むほかはほぼ平坦。	北・南西端が若干上がり気味。	
備考				

遺構名		(169) IIG-9陥し穴	(170) IIG-10陥し穴	(171) IIG-11陥し穴
図		52	53	53
写真図版		36	36	36
検出状況 重複関係				
形状	平面形	A	(A)	A
	断面形	縦 II　横 3	縦 I　横 2	縦 I　横 1
規模	開口部径	306×54cm	(204×60)cm	286×50cm
	底部径	273×20cm	(169×22)cm	288×12cm
	深さ	109cm	130cm	97cm
長軸方向		N70°E	N81°E	N89°W
埋土		黒褐が主体で、間に暗褐、黒がレンズ状或いはブロック状に混入する。	上部は黒褐、下部は褐に大きく分けられる。	黒褐、暗褐が交互にレンズ状に堆積する。
底面		西側がやや低い。		東側にやや窪みがある。
備考				

遺構名		(172) IIG-12陥し穴	(173) IIIG-1陥し穴	(174) IIIG-2陥し穴
図		53	53	54
写真図版		37	37	37
検出状況 重複関係		IIG-3住居跡に切られる。		
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 I　横 3	縦 IとIIの中間　横 3	縦 I　横 3
規模	開口部径	378×38cm	318×15cm	330×30cm
	底部径	330×9cm	309×8cm	320×14cm
	深さ	58cm	13cm	47cm
長軸方向		N86°W	N55°E	N15°E
埋土		黒、黒褐、暗褐の順に水平に堆積する。	全て黒褐、ほとんど削平されており埋土量は極めて少ない。	暗褐、黒、黒褐がレンズ状に堆積する。
底面		やや東上がりになる。	中央部がいくぶん高い。	中央部より北側に起伏がある。
備考		西側は盛り土である。		

遺構名		(175) IIIG−3陥し穴	(176) IIIG−4陥し穴	(177) IIIG−5陥し穴
図		54	54	54
写真図版		37	37	38
検出状況 重複関係				
形状	平面形	A	A	A
	断面形	縦 I　横 3	縦 I　横 3	縦 IとIIの中間　横 3
規模	開口部径	337×18cm	294×32cm	349×12cm
	底部径	329×6cm	273×17cm	336×6cm
	深さ	25cm	48cm	31cm
長軸方向		NE	N45°W	N45°W
埋土		暗褐が主体となる。	褐が主体となる。	最下層の2層が残存するのみ。
底面		東側が若干低い。	南東端が若干低くなる。	北西・南東両端が若干上がり気味。
備考				

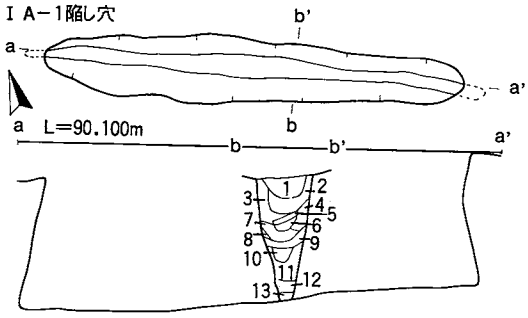
遺構名		(178) IIG−6陥し穴	(179) IIH−1陥し穴	(180) IIH−2陥し穴
図		55	55	55
写真図版		38	38	38
検出状況 重複関係				西側は調査区域外。
形状	平面形	A	A	(A)
	断面形	縦 I　横 3	縦 I　横 3	縦 II　横 2
規模	開口部径	246×18cm	325×52cm	(69×36)cm
	底部径	237×9cm	323×15cm	(50×12)cm
	深さ	12cm	98cm	84cm
長軸方向		N78°E	N44°E	N100°E
埋土		暗褐、褐の2層のみ残存。	黒、黒褐、暗褐が上中下部に分かれて堆積するが、その間に部分的に黒、黒褐系が挟在する。	上〜中部は黒褐、下部は褐系。
底面		西側が低い。	北東端が僅かに傾斜する。	東端が若干上がる。
備考				

遺構名		(181) IIH-3陥し穴	(182) IIH-4陥し穴	(183) IIH-5陥し穴
図		55	56	56
写真図版		38	39	39
検出状況 重複関係			西側は調査区域外。	
形状	平面形	A	(A)	A
	断面形	縦 (II) 横 2	縦 II 横 2	縦 IIとIIIの中間 横 3
規模	開口部径	218×65cm	188×50cm	176×22cm
	底部径	224×18cm	178×18cm	170×11cm
	深さ	50cm	94cm	78cm
長軸方向		NE	N67°E	N29°E
埋土		上部黒、その下に粘性のある黒褐が入る。	黒褐、暗褐がほぼ交互に堆積するが、上部II層には浅黄橙の火山灰が堆積する。	上部は黒～黒褐、中下部は黒褐～暗褐が堆積する。
底面		西に行くに従ってせり上がる。	ほぼ平坦。	東側に緩やかな傾斜を持つ。
備考		東部は削平され25°の傾斜を持つ。		西～東にかけて削平され、22°の傾斜を持つ。

遺構名		(184) III-1陥し穴	(185) III-2陥し穴	(186) III-3陥し穴
図		56	56	57
写真図版		39	39	39
検出状況 重複関係				
形状	平面形	C	C	C
	断面形	縦 I 横 3	縦 I 横 3	縦 I 横 1と3の中間
規模	開口部径	168×39cm	188×40cm	198×42cm
	底部径	154×30cm	178×32cm	178×15cm
	深さ	33cm	23cm	24cm
長軸方向		N79°E	N89°E	N53°E
埋土		上部は黒褐、中下部は暗褐の汚れたシルトが主体で、上部より下部がいくぶん締まる。	上部は黒褐、中部に褐系を挟み、下部は黒褐、上～中部はシルト、全体的に締まりはない。	暗褐のシルト。締まりはない。
底面		5個の杭穴を持つ。	東部よりに3つの杭穴をもつ。	中央部が盛り上がる。4個の杭穴をもつ。
備考		杭穴の最大径は10×8cm、最小径は8×3cm深さは最大が16cm、最小が6cm。	杭穴の最大径は15×8cm、最小径は6×8cm深さは最大が22cm、最小が10cm。	杭穴の最大径は4×8cm、最小径は5×5cm、深さは最大が14cm、最小が6cm。

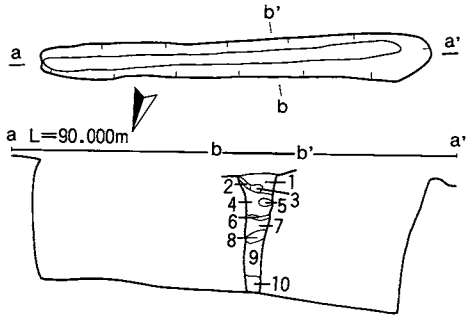
遺構名		(187) II I-4陥し穴		
図		57		
写真図版		40		
検出状況 重複関係				
形状	平面形	C		
	断面形	縦 I　　横 3		
規模	開口部径	190×46cm		
	底部径	174×30cm		
	深さ	31cm		
長軸方向		N80°E		
埋土		黒褐～暗褐の汚れたシルトが主体。あまり締まりがない。		
底面		5個の杭穴を持つ。		
備考		杭穴の最大径は10×9cm、最小径は9×7cm深さは最大が12cm、最小が10cm。		

ⅠA－1陥し穴



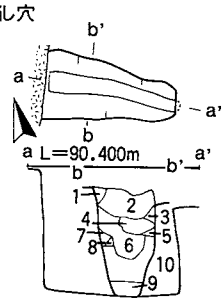
(1)ⅠA－1陥し穴
1. 7.5YR2/1黒色土
2. 7.5YR1.7/1黒色土～4/3褐色土
3. 7.5YR4/4褐色土～2/1黒色土
4. 7.5YR3/3暗褐色土～4/4褐色土
5. 7.5YR2/2黒褐色土
6. 7.5YR2/2黒褐色土～4/4暗褐色土
7. 7.5YR2/1黒色土～3/4暗褐色土
8. 7.5YR4/4褐色土
9. 7.5YR2/1黒色土
10. 7.5YR2/1黒色土～5/4にぶい褐色土
11. 7.5YR4/3褐色土
12. 7.5YR4/3褐色土
13. 7.5YR4/3褐色土～1.7/1黒色土

ⅠA －2陥し穴



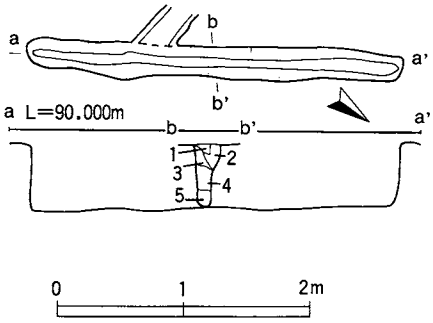
(2)ⅠA－2陥し穴
1. 7.5YR3/1黒褐色土
2. 7.5YR4/4褐色土
3. 7.5YR2/1黒色土～4/4褐色土
4. 7.5YR3/2黒褐色土
5. 7.5YR4/3褐色土
6. 7.5YR4/3褐色土
7. 7.5YR2/1黒色土
8. 7.5YR4/4褐色土
9. 7.5YR3/3暗褐色土
10. 7.5YR1.7/1黒色土

ⅡA－1陥し穴



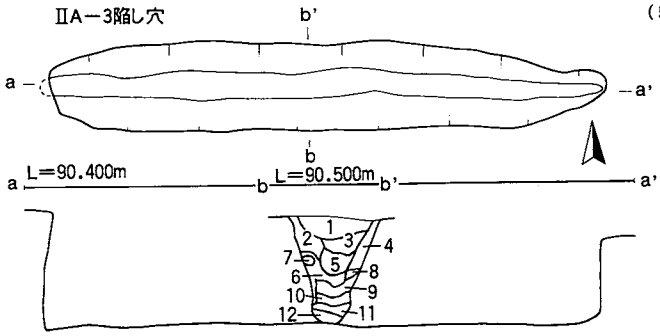
(3)ⅡA－1陥し穴
1. 10YR3/3暗褐色土
2. 10YR2/1黒色土
3. 10YR3/2黒褐色土
4. 10YR2/1黒色土
5. 7.5YR4/4褐色土
6. 7.5YR4/4褐色土～1.7/1黒色土
7. 10YR3/4暗褐色土
8. 7.5YR3/1黒褐色土
9. 10YR3/4暗褐色土
10. 10YR3/4暗褐色土～1.7/1黒色土

ⅡA－2陥し穴

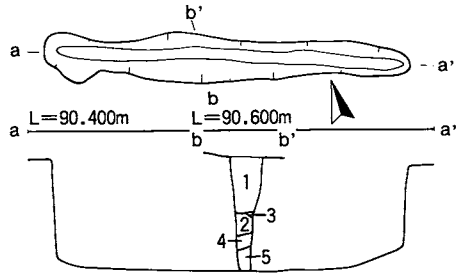


(4)ⅡA－2陥し穴
1. 10YR1.7/1黒色土～2/3黒褐色土
2. 7.5YR4/4褐色土
3. 10YR3/4暗褐色土
4. 10YR3/2黒褐色土
5. 10YR2/1黒色土

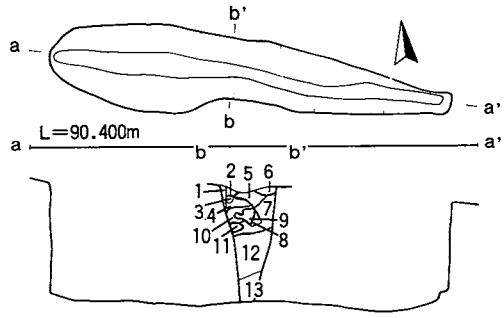
第11図　陥し穴状遺構（1）



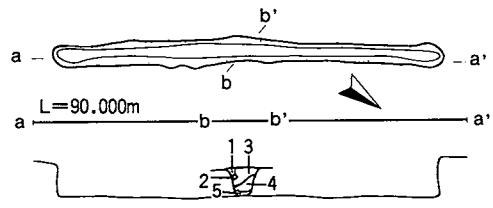
(5)ⅡA－3陥し穴
1. 7.5YR1.7/1黒色土
2. 7.5YR3/2黒褐色土
3. 7.5YR3/1黒褐色土
4. 7.5YR4/3褐色土
5. 7.5YR4/3褐色土～2/1黒色土
6. 7.5YR3/4暗褐色土
7. 7.5YR1.7/1黒色土
8. 7.5YR4/6褐色土
9. 7.5YR3/3暗褐色土
10. 7.5YR3/3暗褐色土～2/1黒色土
11. 7.5YR3/3暗褐色土、2/2黒色土、5/8明褐色土の混合土
12. 7.5YR2/1黒色土、2/2黒褐色土、3/3暗褐色土の混合土



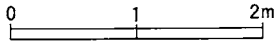
(6)ⅡA－4陥し穴
1. 7.5YR2/1黒色土
2. 7.5YR2/1黒色土～4/3褐色土
3. 7.5YR4/3褐色土
4. 7.5YR3/4暗褐色土
5. 7.5YR3/1黒褐色土



(7)ⅡA－5陥し穴
1. 7.5YR2/2黒褐色土
2. 7.5YR2/1黒色土
3. 7.5YR2/1黒色土～4/3褐色土
4. 7.5YR3/1黒褐色土
5. 7.5YR1.7/1黒色土
6. 7.5YR2/1黒色土～4/4褐色土
7. 7.5YR3/1黒褐色土
8. 7.5YR2/2黒褐色土
9. 7.5YR1.7/1黒色土
10. 7.5YR3/3暗褐色土
11. 7.5YR4/3暗褐色土
12. 7.5YR3/4暗褐色土
13. 7.5YR3/4暗褐色土

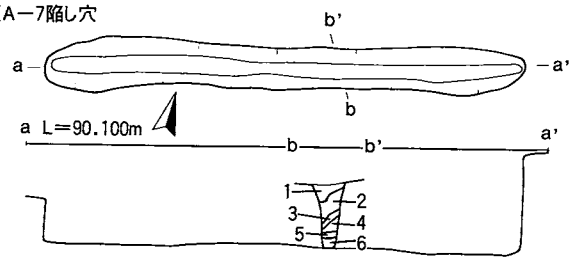


(8)ⅡA－6陥し穴
1. 7.5YR2/2黒褐色土
2. 7.5YR5/6明褐色土
3. 7.5YR3/4暗褐色土
4. 7.5YR3/4暗褐色土
5. 7.5YR2/1黒色土



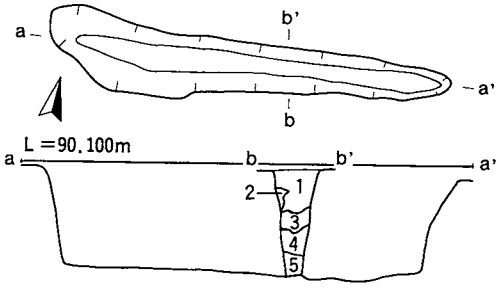
第12図　陥し穴状遺構（2）

ⅡA－7陥し穴



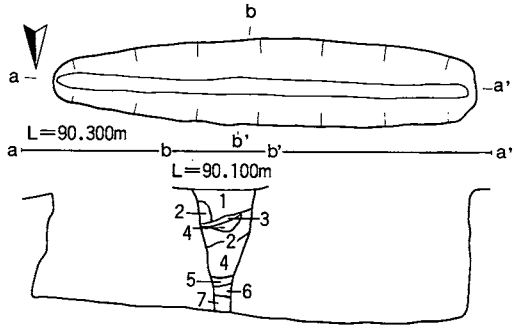
(9) ⅡA－7陥し穴
1．10YR1.7/1黒色土～3/3暗褐色土
2．10YR2/1黒色土
3．10YR3/4暗褐色土～1.7/1黒色土
4．10YR4/6褐色土～1.7/1黒色土
5．7.5YR4/3褐色土
6．7.5YR2/1黒色土

ⅡA－8陥し穴



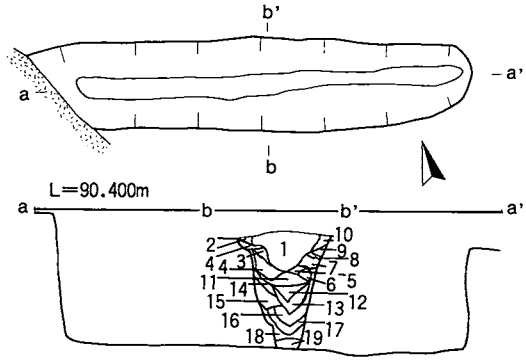
(10) ⅡA－8陥し穴
1．7.5YR2/1黒色土
2．7.5YR4/4褐色土
3．7.5YR3/4暗褐色土
4．7.5YR4/4褐色土
5．7.5YR1.7/1黒色土

ⅡA－9陥し穴

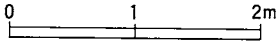


(11) ⅡA－9陥し穴
1．7.5YR1.7/1黒色土
2．7.5YR4/4褐色土～1.7/1黒色土
3．7.5YR4/4褐色土
4．10YR3/4暗褐色土
5．10YR3/3暗褐色土～1.7/1黒色土
6．10YR4/6褐色土
7．10YR1.7/1黒色土～3/4暗褐色土

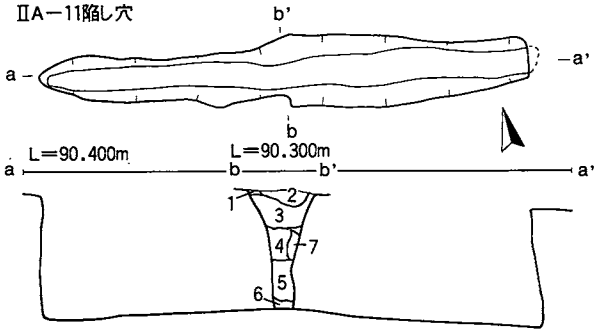
ⅡA－10陥し穴



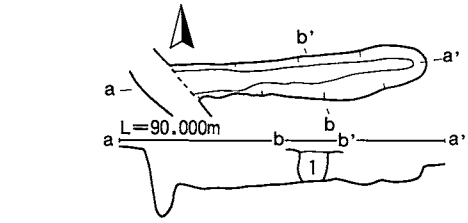
(12) ⅡA－10陥し穴
1．10YR4/6褐色土
2．10YR2/2黒褐色土
3．10YR1.7/1黒色土～4/4褐色土
4．10YR1.7/1黒色土
5．3と同じ
6．7.5YR4/4褐色土
7．7.5YR4/4褐色土、7.5YR1.7/1少量混入
8．10YR3/1黒褐色土
9．10YR3/2黒褐色土
10．10YR3/2黒色土～7.5YR5/6明褐色土
11．10YR2/1黒色土～4/4褐色土
12．7.5YR4/4褐色土
13．7.5YR4/4褐色土～1.7/1黒色土
14．7.5YR4/4褐色土
15．7.5YR4/4褐色土
16．7.5YR3/4暗褐色土
17．7.5YR3/4暗褐色土～1.7/1黒色土
18．7.5YR4/4褐色土
19．7.5YR1.7/1黒色土～4/4褐色土



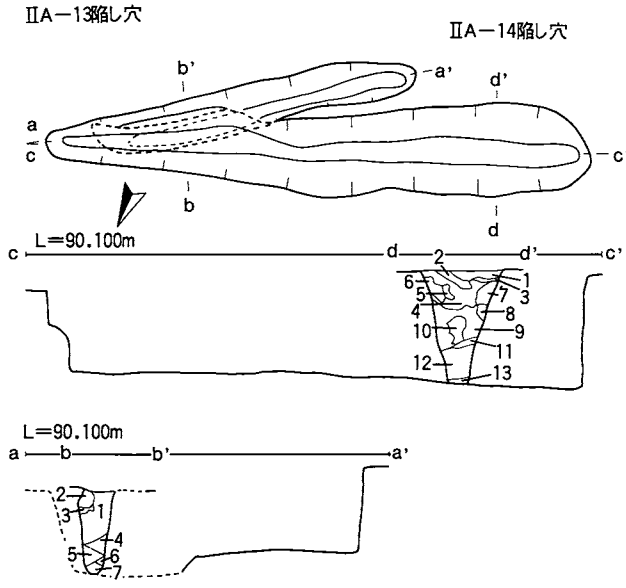
第13図　陥し穴状遺構（3）



(13) ⅡA—11陥し穴
1．10YR2/3黒褐色土
2．7.5YR4/4褐色土
3．7.5YR3/4暗褐色土
4．7.5YR3/4暗褐色土　1.7/1黒色土が少量混入
5．7.5YR3/4暗褐色土　1.7/1黒色土が少量混入
6．7.5YR4/4褐色土
7．7.5YR1.7/1黒色土～5/8明褐色土

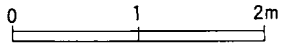


(14) ⅡA—12陥し穴
1．10YR3/4暗褐色土



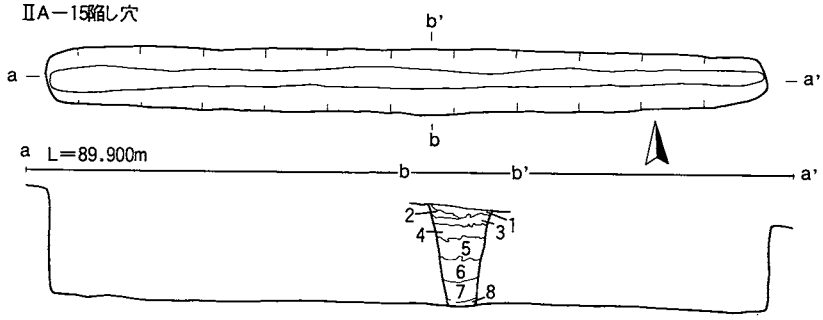
(15) ⅡA—14陥し穴
1．5YR2/1黒褐色土
2．7.5YR3/3暗褐色土～2/1黒色土
3．7.5YR4/3褐色土
4．7.5YR2/1黒色土
5．7.5YR3/3暗褐色土
6．7.5YR2/1黒色土～4/4褐色土
7．7.5YR3/1黒褐色土～5/6明褐色土
8．7.5YR3/2黒褐色土
9．10YR2/3黒褐色土
10．5YR1.7/1黒色土
11．10YR4/6褐色土
12．7.5YR4/4褐色土
13．7.5YR4/3褐色土　1.7/1黒色土が少量混入

(16) ⅡA—13陥し穴
1．7.5YR2/2黒褐色土
2．7.5YR4/6褐色土
3．7.5YR6/8橙色土
4．7.5YR4/3褐色土
5．7.5YR3/4暗褐色土
6．7.5YR4/3褐色土
7．7.5YR3/4暗褐色土



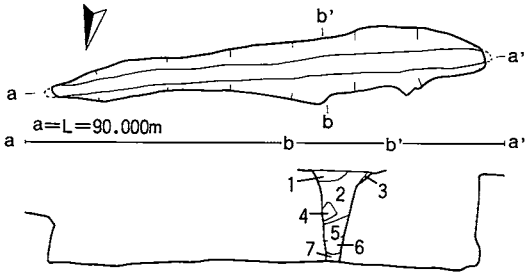
第14図　陥し穴状遺構（4）

IIA－15陥し穴



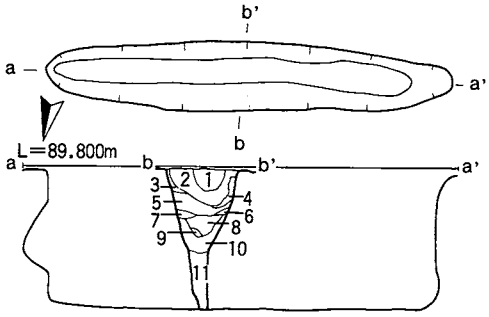
(17) IIA－15陥し穴
1. 10YR3/4暗褐色土
2. 10YR3/4暗褐色土
3. 10YR3/4暗褐色土～4/4褐色土
4. 10YR3/4暗褐色土
5. 10YR4/4褐色土
6. 10YR3/4暗褐色土
7. 10YR4/6褐色土～5/6黄褐色土
8. 10YR4/6褐色土細砂層

IB－1陥し穴



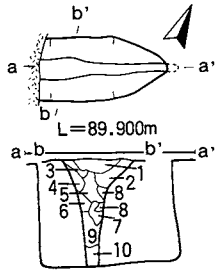
(18) IB－1陥し穴
1. 10YR1.7/1黒色土～4/6褐色土
2. 7.5YR1.7/1黒色土
3. 10YR3/3暗褐色土
4. 10YR1.7/1黒色土～3/2黒褐色土
5. 7.5YR4/4褐色土～10YR2/3黒褐色土
6. 10YR1.7/1黒色土～3/4暗褐色土
7. 10YR1.7/1黒色土～2/3黒褐色土

IB－2陥し穴

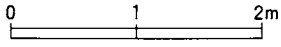


(19) IB－2陥し穴
1. 7.5YR2/2暗褐色土
2. 7.5YR2/1黒色土
3. 7.5YR3/3暗褐色土
4. 7.5YR4/2灰褐色土
5. 7.5YR1.7/1黒色土
6. 7.5YR3/2黒褐色土
7. 7.5YR4/3褐色土
8. 7.5YR1.7/1黒色土～4/4褐色土
9. 7.5YR3/1黒褐色土
10. 7.5YR4/4褐色土
11. 7.5YR4/3褐色土

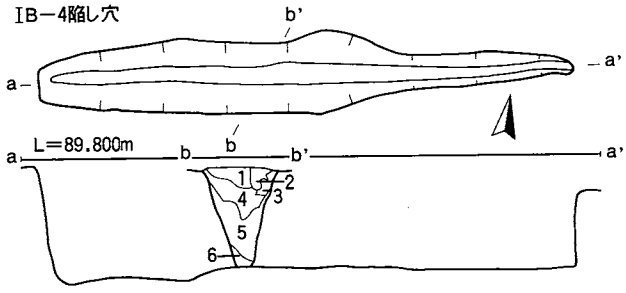
IB－3陥し穴



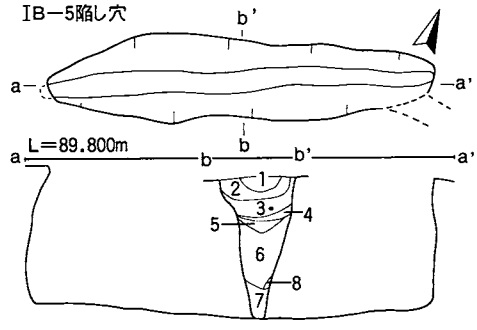
(20) IB－3陥し穴
1. 7.5YR2/1黒色土
2. 7.5YR2/1黒色土～4/4褐色土
3. 7.5YR3/3暗褐色土
4. 7.5YR4/3褐色土
5. 7.5YR2/1～1.7/1黒色土
6. 7.5YR3/4暗褐色土
7. 7.5YR2/1黒色土
8. 7.5YR4/4褐色土
9. 7.5YR4/3褐色土
10. 7.5YR3/1黒褐色土



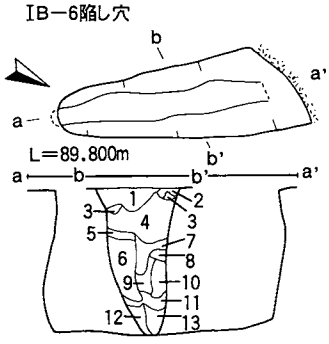
第15図　陥し穴状遺構（5）



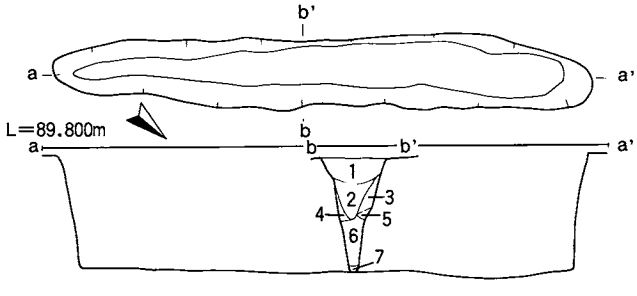
(21) I B−4 陥し穴
1. 7.5YR2/1黒色土
2. 10YR1.7/1黒色土
3. 10YR2/3黒褐色土
4. 7.5YR2/1黒色土
5. 10YR4/4褐色土
6. 10YR2/1黒色土〜3/4暗褐色土



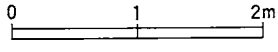
(22) I B−5 陥し穴
1. 7.5YR4/4褐色土
2. 10YR1.7/1黒色土
3. 10YR1.7/1黒色土〜3/4暗褐色土
4. 10YR1.7/1黒色土〜3/4暗褐色土
5. 10YR4/4褐色土〜2/1黒色土
6. 10YR3/3暗褐色土
7. 10YR4/4褐色土〜2/1黒色土
8. 10YR4/6褐色土〜5/8黄褐色土



(23) I B−6 陥し穴
1. 7.5YR4/4褐色土〜2/1黒色土
2. 7.5YR3/1黒褐色土
3. 7.5YR4/3褐色土
4. 7.5YR2/1黒色土
5. 7.5YR3/3暗褐色土
6. 7.5YR3/4暗褐色土
7. 7.5YR3/1黒色土
8. 10YR3/2黒褐色土
9. 7.5YR4/4褐色土
10. 7.5YR3/3暗褐色土
11. 7.5YR4/6褐色土
12. 7.5YR5/6明褐色土
13. 7.5YR4/3褐色土

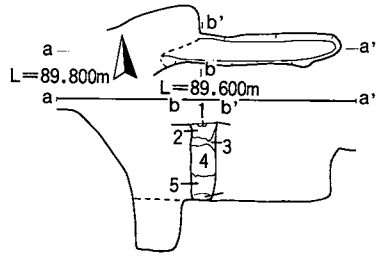


(24) I B−7 陥し穴
1. 10YR1.7/1黒色土
2. 10YR2/1黒色土
3. 10YR2/3暗褐色土
4. 10YR3/2黒褐色土
5. 10YR4/6褐色土
6. 10YR3/4暗褐色土
7. 7.5YR2/1黒色土



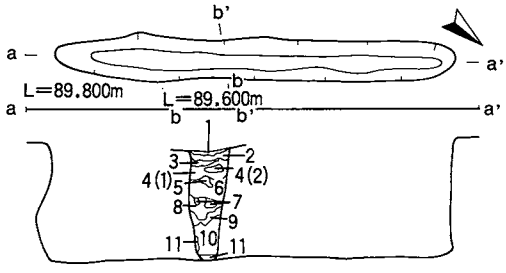
第16図　陥し穴状遺構（6）

IB−8陥し穴



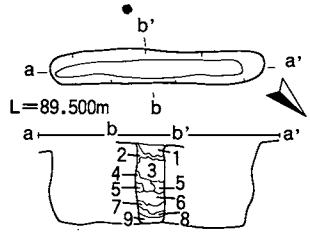
(25) ＩＢ−８陥し穴
1．10YR3/4暗褐色土
2．10YR2/3暗褐色土
3．10YR3/3暗褐色土
4．10YR3/3暗褐色土
5．10YR3/4暗褐色土
6．10YR4/6褐色土

IB−9陥し穴



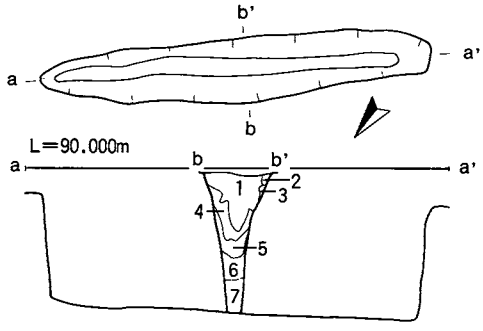
(26) ＩＢ−９陥し穴
1．10YR2/1黒色土〜2/2黒褐色土
2．10YR2/2〜2/3黒褐色土
3．10YR2/2黒褐色土
4(1)10YR3/3暗褐色土
(2)10YR2/1黒色土
5．10YR2/1黒色土
6．10YR3/2黒褐色土
7．10YR2/1黒色土
8．10YR2/2黒褐色土
9．10YR3/2黒褐色土
10．10YR2/3黒褐色土
11．10YR2/3黒褐色土

IB−10陥し穴

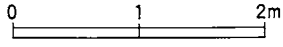


(27) ＩＢ−10陥し穴
1．10YR2/2黒褐色土
2．10YR2/3黒褐色土
3．10YR2/3黒褐色土
4．10YR3/4暗褐色土
5．10YR4/4褐色土〜2/2黒褐色土
6．10YR3/2黒褐色土
7．10YR3/2〜2/3黒褐色土
8．10YR3/4暗褐色土
9．10YR3/4暗褐色土

IIB−1陥し穴

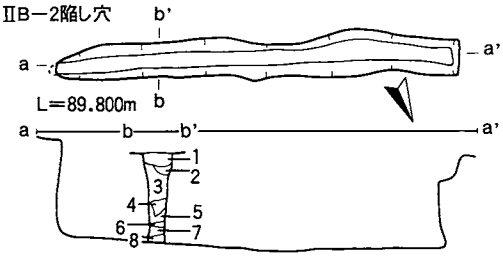


(28) ＩＩＢ−１陥し穴
1．7.5YR2/1黒色土
2．7.5YR1.7/1黒色土〜3/4暗褐色土
3．7.5YR2/3黒褐色土
4．10YR3/4暗褐色土
5．7.5YR4/4褐色土
6．7.5YR2/1黒色土
7．7.5YR2/1〜1.7/1黒色土



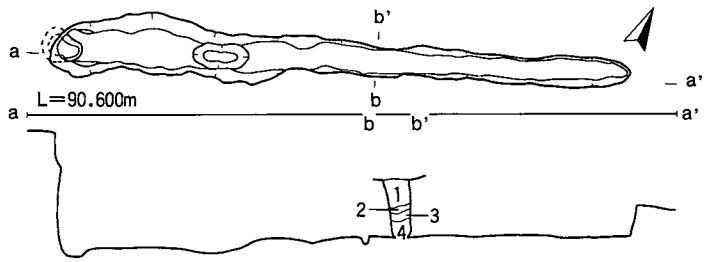
第17図　陥し穴状遺構（７）

IIB−2陥し穴



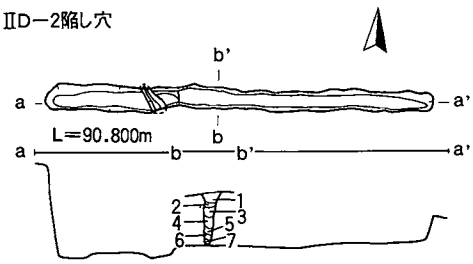
(29) IIB−2陥し穴
1. 7.5YR1.7/1黒色土
2. 7.5YR3/3暗褐色土
3. 7.5YR3/4暗褐色土〜4/4褐色土
4. 7.5YR1.7/1黒色土
5. 10YR3/3暗褐色土
6. 10YR1.7/1黒色土〜3/3暗褐色土
7. 10YR3/4暗褐色土
8. 7.5YR2/1黒色土

IID−1陥し穴



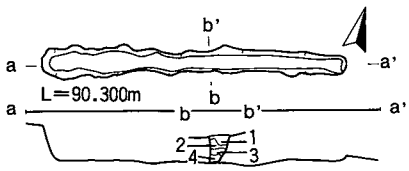
(30) IID−1陥し穴
1. 10YR2/3黒褐色土
2. 10YR2/1黒色土
3. 7.5YR3/4暗褐色土
4. 10YR2/1黒色土

IID−2陥し穴

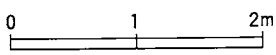


(31) IID−2陥し穴
1. 10YR2/3黒色土
2. 10YR2/1黒色土　2/3黒褐色土が少量混入
3. 10YR2/3黒褐色土　2/1黒色土が少量混入
4. 7.5YR3/4暗褐色土
5. 10YR2/1黒色土
6. 10YR2/1黒色土　7.5YR暗褐色土が少量混入
7. 7.5YR3/4暗褐色土

IID−3陥し穴

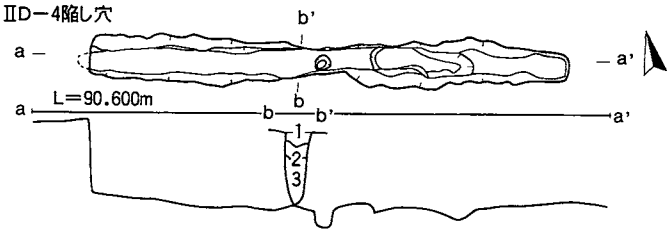


(32) IID−3陥し穴
1. 10YR2/3黒褐色土　7.5YR3/4暗褐色土少量混入
2. 10YR2/3黒褐色土　7.5YR3/4暗褐色土微量混入
3. 10YR2/3黒褐色土
4. 7.5YR3/4暗褐色土



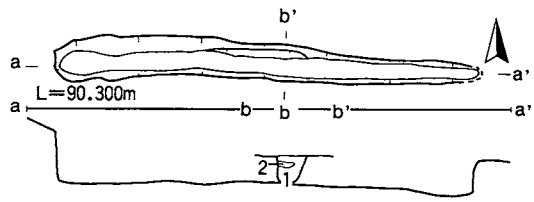
第18図　陥し穴状遺構（8）

IID−4陥し穴



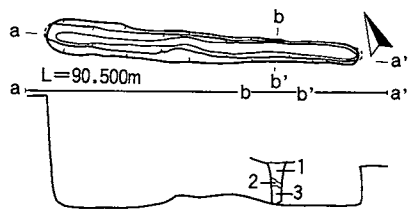
(33) IID−4陥し穴
1．10YR2/1黒色土
2．10YR2/3黒褐色土
3．10YR2/1黒色土

IID−5陥し穴



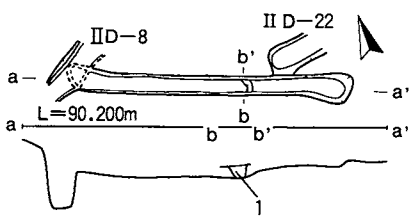
(34) IID−5陥し穴
1．10YR2/3黒褐色土
2．10YR2/3黒褐色土　10YR2/1黒色土少量混入

IID−6陥し穴

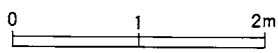


(35) IID−6陥し穴
1．10YR2/3黒褐色土
2．10YR2/1黒色土
3．7.5YR2/3暗褐色土

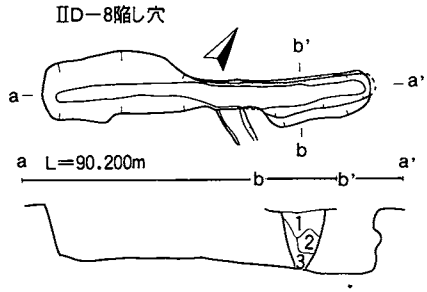
IID−7陥し穴



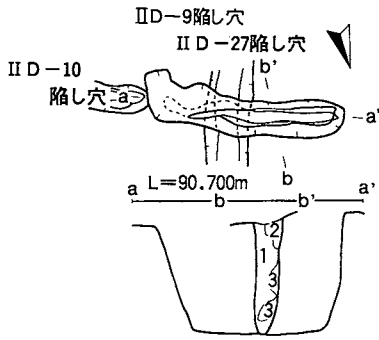
(36) IID−7陥し穴
1．7.5YR2/3暗褐色土



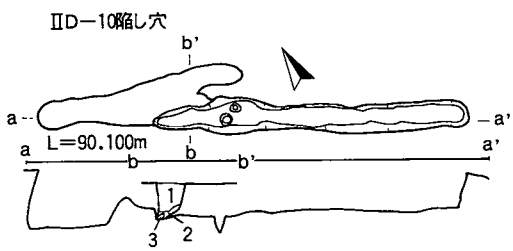
第19図　陥し穴状遺構（9）



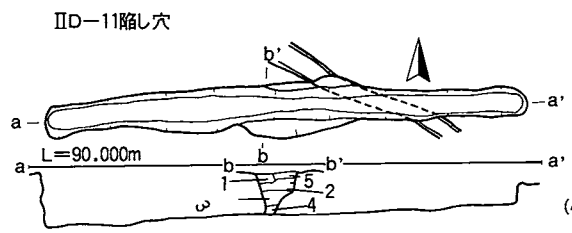
(37) IID−8陥し穴
1. 10YR2/1黒色土
2. 7.5YR3/4暗褐色土　10YR2/1黒色土少量混入
3. 7.5YR3/4暗褐色土（掘りすぎ）



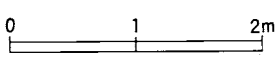
(38) IID−9陥し穴
1. 10YR2/1黒色土
2. 7.5YR3/2黒褐色土
3. 7.5YR3/4暗褐色土〜3/2黒褐色土



(39) IID−10陥し穴
1. 10YR2/1黒色土
2. 7.5YR3/4暗褐色土
3. 10YR2/3黒褐色土

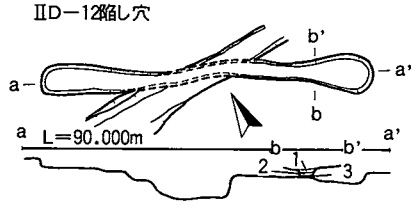


(40) IID−11陥し穴
1. 10YR2/1黒色土
2. 10YR2/3黒褐色土
3. 7.5YR3/4暗褐色土
4. 10YR2/3黒褐色土
5. 10YR1.7/1黒色土



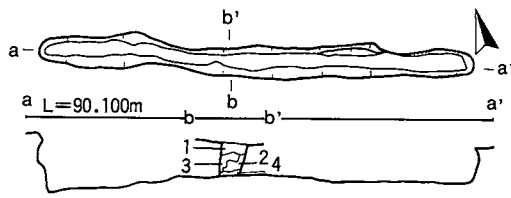
第20図　陥し穴状遺構（10）

IID−12陥し穴



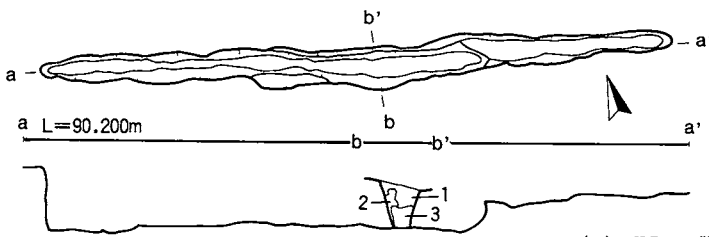
(41) IID—12陥し穴
1．10YR2/3黒褐色土
2．10YR2/3黒褐色土～7.5YR3/4暗褐色土
3．7.5YR3/4暗褐色土

IID−13陥し穴



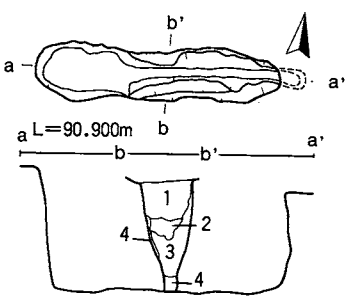
(42) IID—TP13
1．10YR3/2黒褐色土　10YR2/1黒色土少量混入
2．7.5YR3/4暗褐色土
3．10YR3/2黒褐色土
4．10YR2/1黒色土

IID−14陥し穴

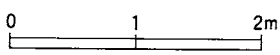


(43) IID—14陥し穴
1．10YR2/1黒色土
2．7.5YR3/4暗褐色土
3．10YR2/1黒色土　7.5YR3/4暗褐色土少量混入

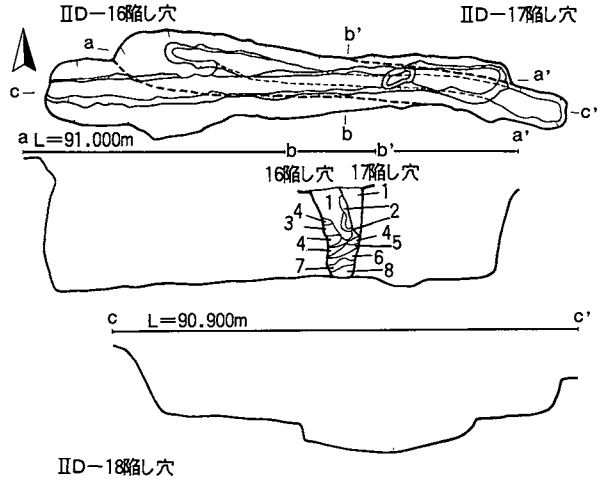
IID−15陥し穴



(44) IID—15陥し穴
1．10YR2/1黒色土
2．10YR2/3黒褐色土
3．10YR3/4暗褐色土　10YR2/3黒褐色土少量混入
4．7.5YR3/4暗褐色土

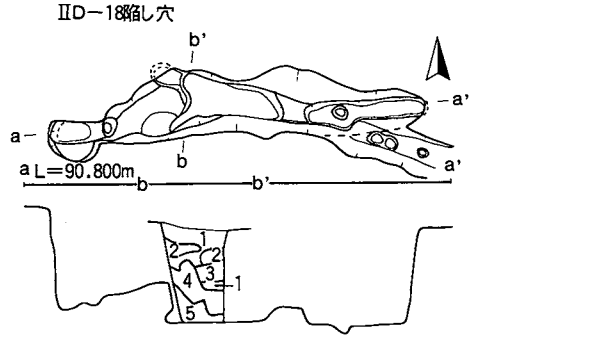


第21図　陥し穴状遺構（11）

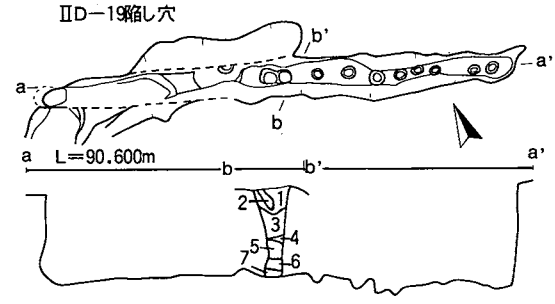


(45) ⅡD−16陥し穴
1．10YR2/1黒色土
2．10YR2/1黒色土 7.5YR3/4暗褐色土少量混入
3．10YR2/1黒色土 7.5YR3/4暗褐色土微量混入
4．7.5YR3/4暗褐色土
5．10YR2/1黒色土
6．7.5YR3/4暗褐色土 10YR2/1黒色土少量混入
7．10YR2/1黒色土 7.5YR3/4暗褐色土少量混入
8．10YR2/1黒色土

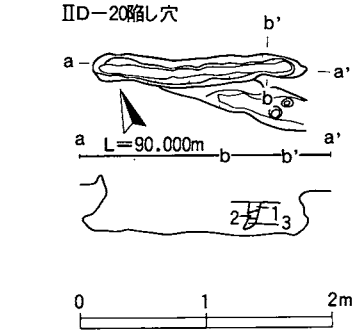
(46) ⅡD−17陥し穴
1．7.5YR3/4暗褐色土



(47) ⅡD−18陥し穴
1．10YR2/1黒色土
2．10YR2/3黒褐色土
3．10YR2/3黒褐色土 10YR2/1黒色土少量
4．10YR2/3黒褐色土〜7.5YR3/4暗褐色土
5．7.5YR3/4暗褐色土

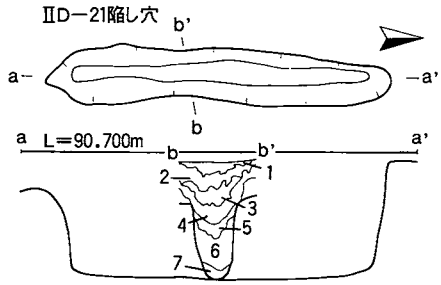


(48) ⅡD−19陥し穴
1．10YR2/1黒色土
2．10YR2/3黒褐色土
3．10YR2/3黒褐色土
4．10YR2/1黒色土
5．10YR3/2黒褐色土
6．10YR2/1黒色土
7．7.5YR3/4暗褐色土

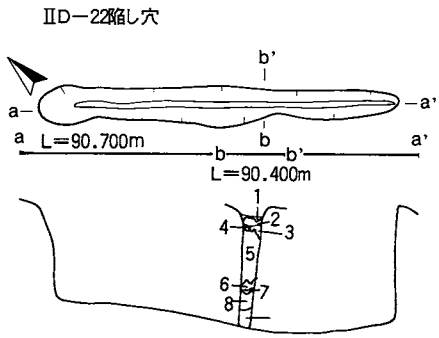


(49) ⅡD−20陥し穴
1．10YR2/1黒色土 7.5YR暗褐色土少量混入
2．7.5YR3/4暗褐色土
3．10YR2/1黒色土

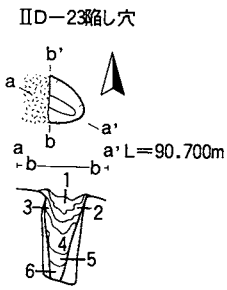
第22図 陥し穴状遺構 (12)



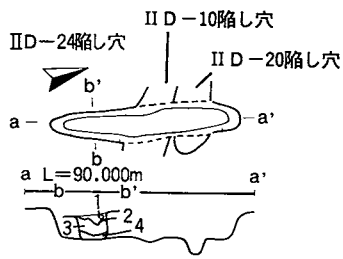
(50) IID−21陥し穴
1. 10YR2/1黒色土
2. 10YR2/2黒褐色土
3. 10YR2/3黒褐色土
4. 10YR2/3黒褐色土〜3/2黒褐色土
5. 10YR2/3黒褐色土
6. 7.5YR3/3〜3/4暗褐色土
7. 7.5YR4/3褐色土



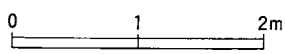
(51) IID−22陥し穴
1. 10YR3/4暗褐色土
2. 10YR3/2黒褐色土〜3/3暗褐色土
3. 10YR2/3黒褐色土
4. 10YR3/3〜3/4暗褐色土
5. 10YR3/4暗褐色土
6. 10YR4/6褐色土
7. 10YR2/2黒褐色土
8. 10YR4/6褐色土
9. 10YR4/4褐色土



(52) IID−23陥し穴
1. 10YR2/1黒色土
2. 10YR2/3黒褐色土
3. 10YR2/1黒色土
4. 10YR2/3黒褐色土
5. 10YR2/1黒色土
6. 10YR2/2黒褐色土

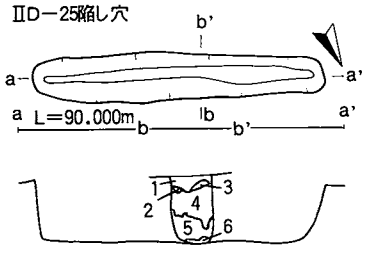


(53) IID−24陥し穴
1. 7.5YR4/4褐色土
2. 7.5YR3/4暗褐色土〜4/4褐色土
3. 7.5YR4/3〜4/4褐色土
4. 7.5YR3/3暗褐色土〜4/4褐色土



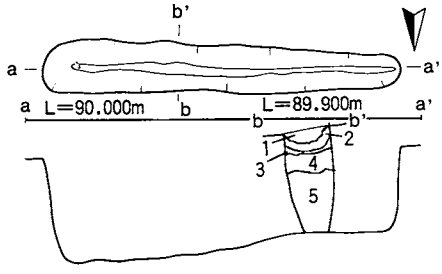
第23図　陥し穴状遺構 (13)

IID−25陥し穴



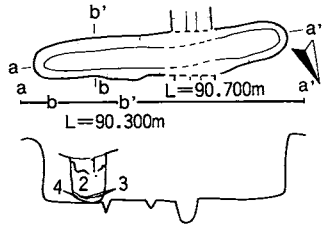
(54) IID−25陥し穴
1．7.5YR4/4褐色土
2．7.5YR4/4〜4/6褐色土少々粘性あり
3．7.5YR3/3暗褐色土〜4/3褐色土鉄錆、腐植土混入
4．7.5YR4/4褐色土粘性あり
5．10YR4/4褐色土〜5/6黄褐色土粘性あり
6．10YR4/6褐色土粘性あり

IID−26陥し穴



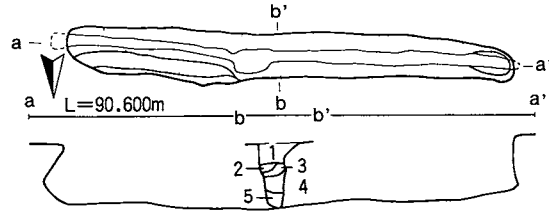
(55) IID−26陥し穴
1．10YR3/4暗褐色土
2．10YR3/3〜3/4暗褐色土
3．10YR3/3暗褐色土
4．10YR3/4暗褐色土
5．10YR3/4暗褐色土〜4/4褐色土

IID−27陥し穴

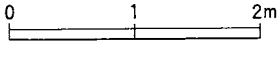


(56) IID−27陥し穴
1．10YR3/4暗褐色土
2．10YR3/4暗褐色土
3．10YR3/2〜2/3黒褐色土
4．10YR3/4暗褐色土

IIE−1陥し穴

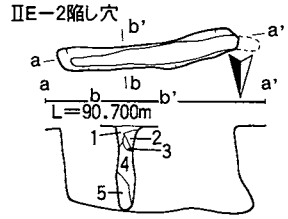


(57) IIE−1陥し穴
1．10YR2/3黒褐色土　7.5YR3/4暗褐色土少量混入
2．10YR2/1黒色土



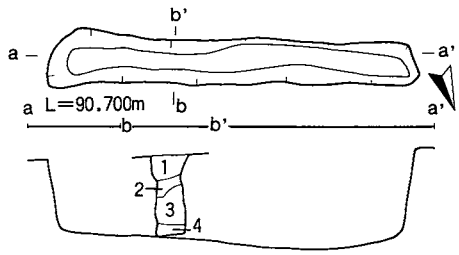
第24図　陥し穴状遺構（14）

IIE−2陥し穴



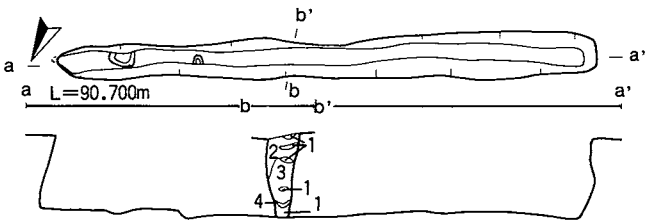
(58) IIE−2陥し穴
1．10YR2/1黒色土
2．10YR2/3黒褐色土
3．10YR2/2黒褐色土
4．10YR3/2黒褐色土
5．7.5YR4/3暗褐色土

IIE−3陥し穴



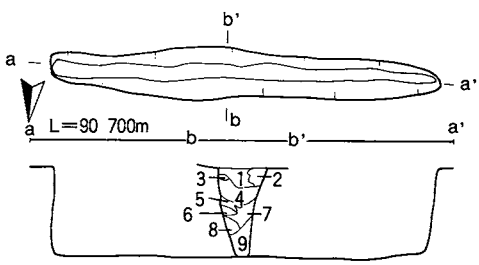
(59) IIE−3陥し穴
1．10YR2/1黒色土　7.5YR3/4暗褐色土少量混入
2．10YR2/1黒色土～7.5YR3/4暗褐色土
3．10YR2/1黒色土　7.5YR3/4暗褐色土少量混入
4．10YR2/1黒色土

IIE−4陥し穴

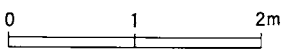


(60) IIE−4陥し穴
1．10YR2/1黒色土
2．10YR2/3黒褐色土
3．10YR2/1黒色土
4．7.5YR3/4暗褐色土

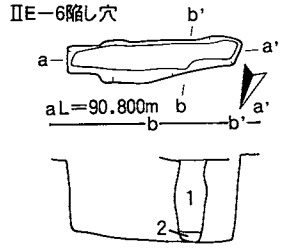
IIE−5陥し穴



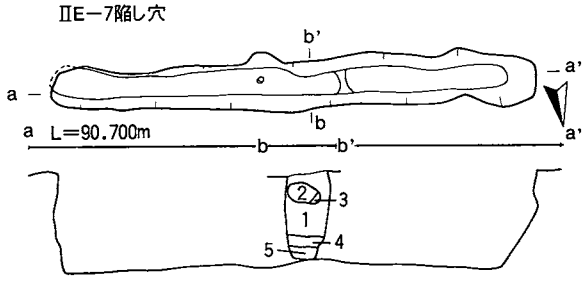
(61) IIE−5陥し穴
1．10YR2/1黒色土
2．10YR2/3黒褐色土
3．7.5YR3/4暗褐色土
4．10YR2/3黒褐色土10YR2/1黒色土混入
5．10YR2/1黒色土～7.5YR3/4暗褐色土
6．7.5YR3/4暗褐色土
7．10YR2/1黒色土
8．7.5YR3/4暗褐色土
9．10YR2/1黒色土



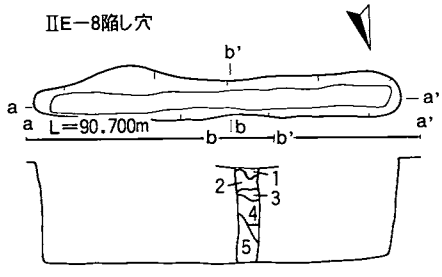
第25図　陥し穴状遺構（15）



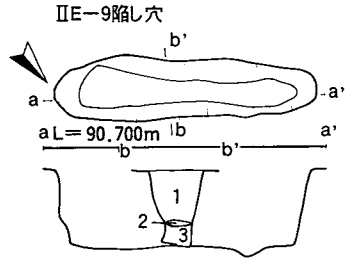
(62) IIE−6陥し穴
1．10YR2/1黒色土
2．10YR2/1黒色土　10YR3/2黒褐色土少量混入



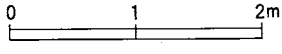
(63) IIE−7陥し穴
1．7.5YR3/3暗褐色土
2．7.5YR2/1黒色土
3．7.5YR3/4暗褐色土
4．7.5YR2/2黒褐色土
5．10YR3/1黒褐色土〜5/6明赤褐色土



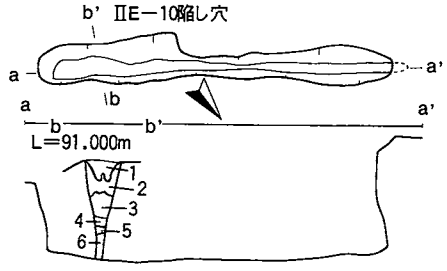
(64) IIE−8陥し穴
1．7.5YR3/1黒褐色土
2．7.5YR3/3暗褐色土
3．7.5YR3/1黒褐色土
4．10YR3/2黒褐色土
5．7.5YR4/4褐色土



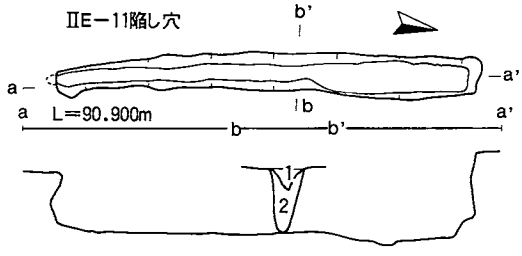
(65) IIE−9陥し穴
1．7.5YR3/2黒褐色土
2．7.5YR3/1黒褐色土〜5YR4/8赤褐色土
3．7.5YR3/4暗褐色土



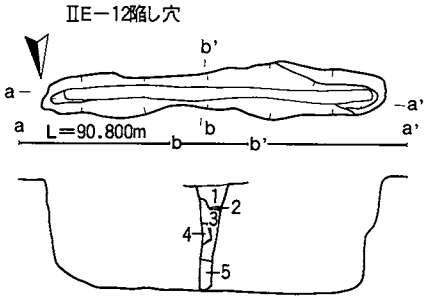
第26図　陥し穴状遺構（16）



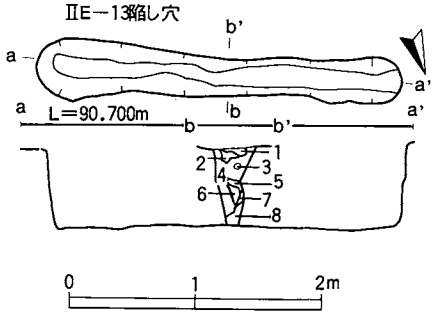
(66) IIE−10陥し穴
1. 7.5YR2/1黒色土
2. 7.5YR3/4暗褐色土
3. 7.5YR3/2黒褐色土
4. 7.5YR1.7/1黒色土
5. 7.5YR3/3暗褐色土
6. 7.5YR1.7/1黒色土



(67) IIE−11陥し穴
1. 7.5YR2/1黒色土
2. 7.5YR3/2黒褐色土

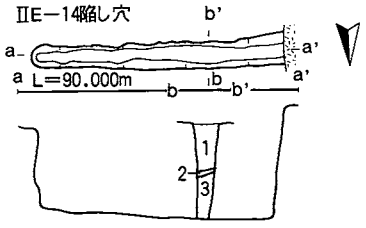


(68) IIE−12陥し穴
1. 7.5YR3/1黒褐色土
2. 7.5YR2/1黒色土
3. 7.5YR3/3暗褐色土
4. 7.5YR4/3褐色土
5. 7.5YR2/2黒褐色土

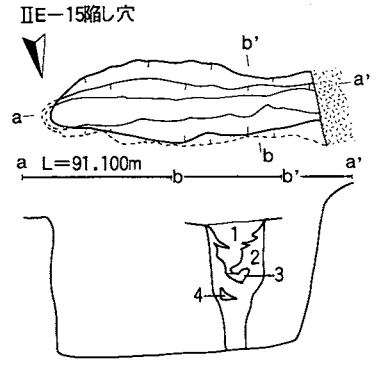


(69) IIE−13陥し穴
1. 7.5YR2/1黒色土
2. 7.5YR3/2黒褐色土
3. 7.5YR3/2黒褐色土
4. 7.5YR3/4暗褐色土
5. 7.5YR2/1黒褐色土
6. 7.5YR3/3暗褐色土
7. 7.5YR4/4褐色土
8. 7.5YR3/3暗褐色土

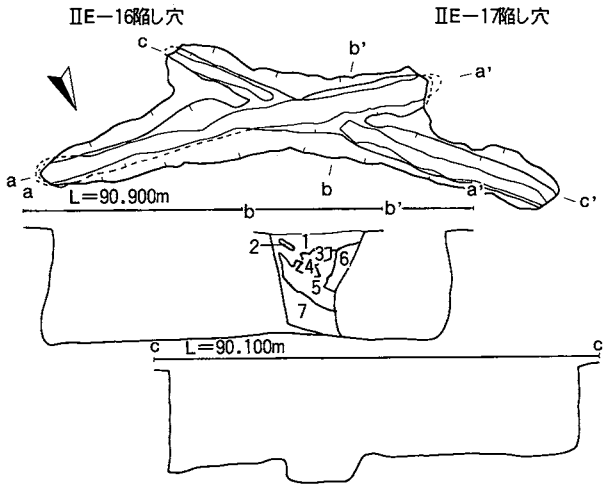
第27図　陥し穴状遺構（17）



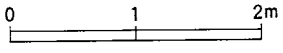
(70) IIE−14陥し穴
1．7.5YR2/1黒色土
2．7.5YR3/3暗褐色土
3．7.5YR2/1黒色土



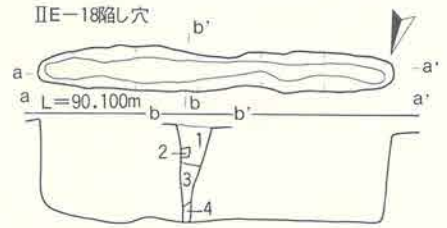
(71) IIE−15陥し穴
1．7.5YR2/1黒色土
2．7.5YR2/2黒褐色土
3．7.5YR3/3暗褐色土
4．7.5YR3/2黒褐色土



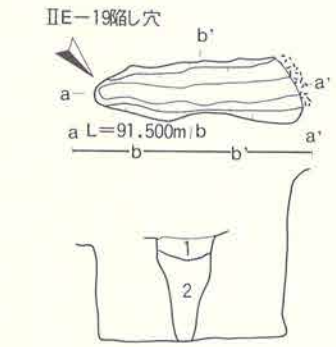
(72) IIE−16、17陥し穴
1．7.5YR2/1黒色土
2．7.5YR4/6褐色土
3．7.5YR4/6褐色土
4．7.5YR2/3極暗褐色土
5．7.5YR2/1黒色土〜5YR4/8赤褐色土
6．7.5YR3/4暗褐色土
7．7.5YR3/2黒褐色土



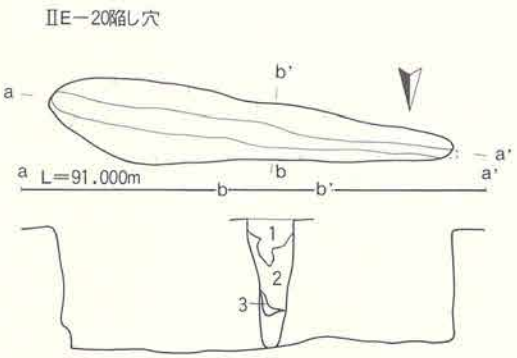
第28図　陥し穴状遺構（18）



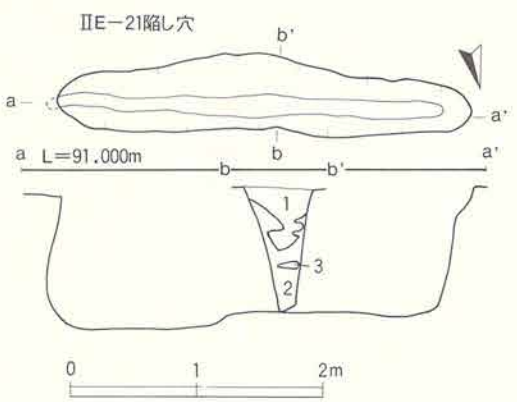
(74) ⅡE—18陥し穴
1．7.5YR2/1黒色土
2．7.5YR2/3極暗褐色土
3．7.5YR3/2黒褐色土
4．7.5YR1.7/1黒色土



(75) ⅡE—19陥し穴
1．7.5YR1.7/1黒色土
2．7.5YR3/3暗褐色土

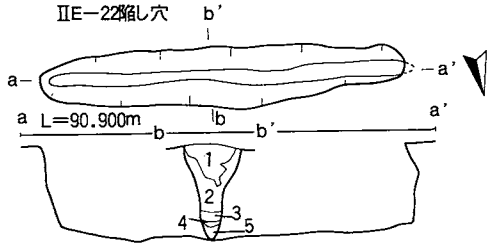


(76) ⅡE—20陥し穴
1．7.5YR2/1黒色土
2．7.5YR2/2黒褐色土
3．7.5YR1.7/1黒色土

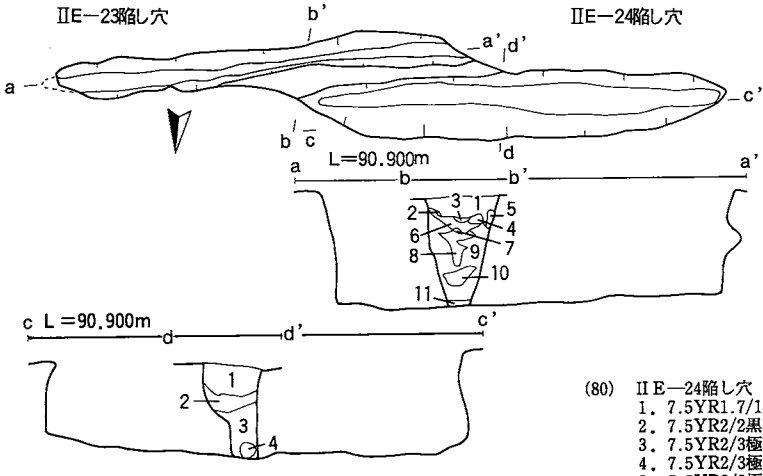


(77) ⅡE—21陥し穴
1．7.5YR1.7/1黒色土
2．7.5YR3/2黒褐色土
3．7.5YR2/1黒色土

第29図　陥し穴状遺構（19）

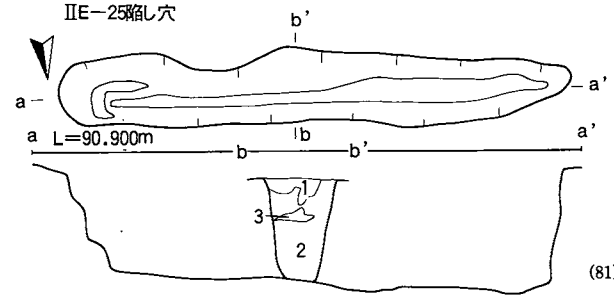


(78) IIE—22陥し穴
1. 7.5YR1.7/1黒色土
2. 7.5YR3/3暗褐色土
3. 7.5YR2/1黒色土
4. 7.5YR3/4暗褐色土
5. 7.5YR2/1黒色土～3/3暗褐色土

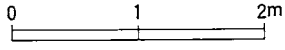


(79) IIE—23陥し穴
1. 7.5YR2/1黒色土
2. 7.5YR3/2黒褐色土
3. 7.5YR1.7/1黒色土
4. 7.5YR3/3暗褐色土

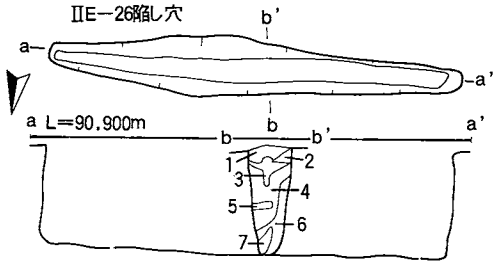
(80) IIE—24陥し穴
1. 7.5YR1.7/1黒色土
2. 7.5YR2/2黒褐色土
3. 7.5YR2/3極暗褐色土
4. 7.5YR2/3極暗褐色土　1.7/1黒色土微量混入
5. 7.5YR2/3極暗褐色土　1.7/1黒色土微量混入
6. 7.5YR2/1黒色土
7. 7.5YR3/3暗褐色土
8. 7.5YR2/2黒褐色土
9. 7.5YR2/2黒褐色土
10. 7.5YR2/1黒色土
11. 7.5YR3/1黒褐色土



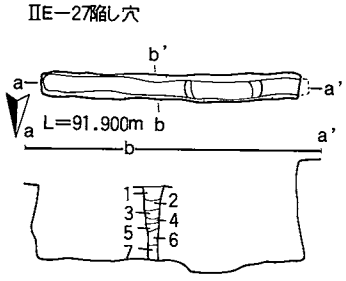
(81) IIE—25陥し穴
1. 7.5YR2/2黒褐色土　黒色土混入
2. 7.5YR3/2黒褐色土
3. 7.5YR2/2黒褐色土



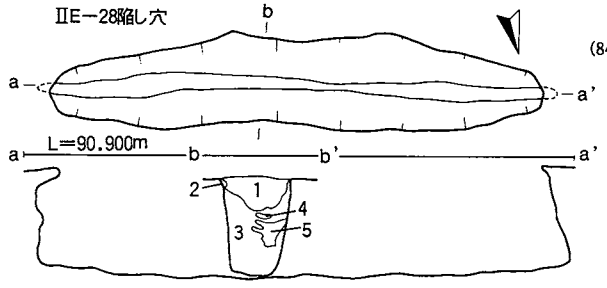
第30図　陥し穴状遺構 (20)



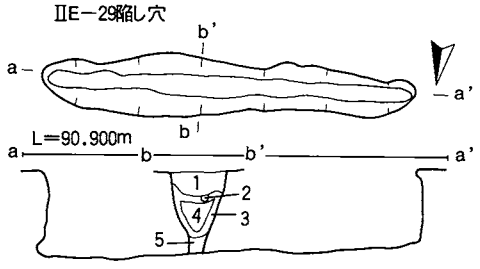
(82) IIE—26陥し穴
1. 7.5YR2/1黒色土
2. 7.5YR3/2黒褐色土
3. 7.5YR1.7/1黒色土
4. 7.5YR3/3暗褐色土
5. 7.5YR2/1黒色土
6. 7.5YR3/4暗褐色土
7. 7.5YR3/3暗褐色土



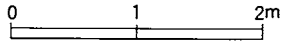
(83) IIE—27陥し穴
1. 7.5YR1.7/1黒色土
2. 7.5YR2/3極暗褐色土
3. 7.5YR2/1黒色土
4. 7.5YR2/3極暗褐色土
5. 7.5YR2/2黒褐色土
6. 7.5YR3/3暗褐色土
7. 7.5YR2/2黒褐色土



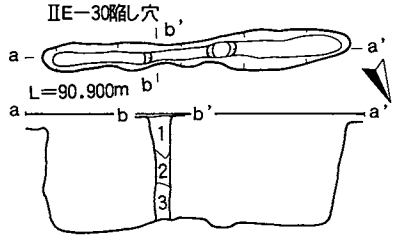
(84) IIE—28陥し穴
1. 7.5YR1.7/1黒色土
2. 7.5YR2/2黒褐色土
3. 7.5YR3/3暗褐色土
4. 7.5YR2/1黒色土
5. 7.5YR3/2暗褐色土　黒色土20%混入



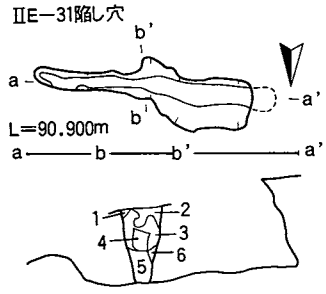
(85) IIE—29陥し穴
1. 7.5YR2/1黒色土
2. 7.5YR2/3極暗褐色土
3. 7.5YR3/3暗褐色土
4. 7.5YR2/2黒褐色土　黒色土20%混入
5. 7.5YR3/1黒褐色土



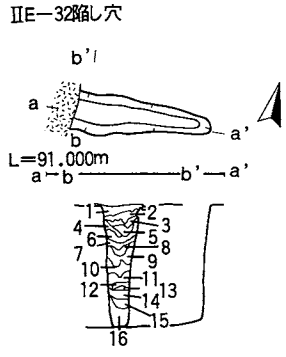
第31図　陥し穴状遺構（21）



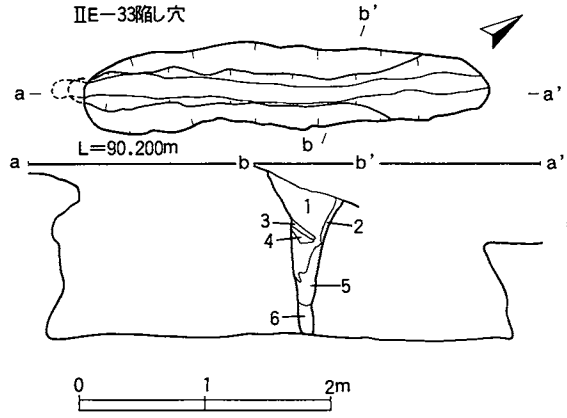
(86) II E—30陥し穴
1. 7.5YR3/1黒褐色土
2. 7.5YR2/3極暗褐色土
3. 7.5YR2/1黒色土



(87) II E—31陥し穴
1. 7.5YR3/2黒褐色土
2. 10YR2/2黒褐色土
3. 7.5YR4/3褐色土
4. 10YR2/3黒褐色土
5. 10YR2/2黒褐色土
6. 7.5YR4/6褐色土

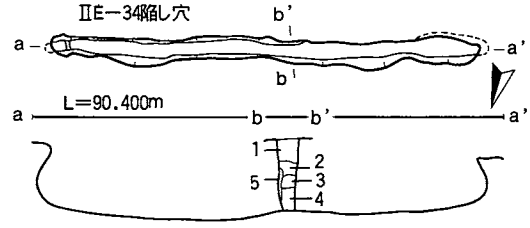


(88) II E—32陥し穴
1. 10YR2/2～2/3黒褐色　土現代の撹乱
2. 10YR3/1黒褐色土
3. 10YR2/2～2/3黒褐色土
4. 7.5YR3/1～3/2黒褐色土
5. 7.5YR3/1黒褐色土
6. 10YR2/3～3/2黒褐色土
7. 10YR2/2～2/3黒褐色土
8. 10YR2/2～3/2黒褐色土
9. 10YR4/3にぶい黄褐色土～4/4褐色土
10. 10YR3/2黒褐色土～3/3暗褐色土
11. 7.5YR3/3～3/4暗褐色土
12. 10YR3/3～3/4暗褐色土
13. 10YR2/2～2/3暗褐色土
14. 10YR3/3～3/4暗褐色土
15. 10YR2/2～2/3黒褐色土
16. 10YR4/3にぶい黄褐色土～4/4褐色土

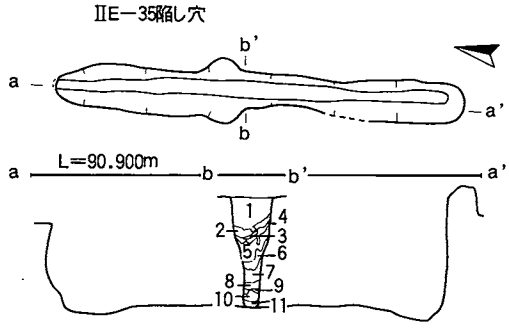


(89) II E—33陥し穴
1. 10YR2/2黒褐色土
2. 10YR2/3黒褐色土
3. 7.5YR3/4暗褐色土
4. 7.5YR2/2黒褐色土
5. 7.5YR4/4褐色土
6. 7.5YR3/4暗褐色土

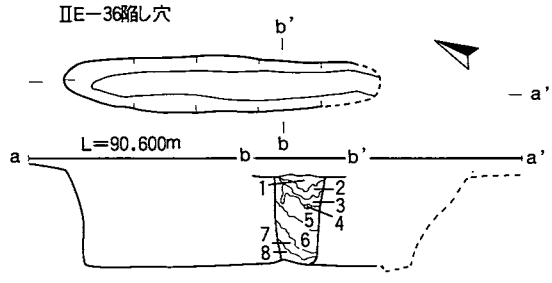
第32図　陥し穴状遺構 (22)



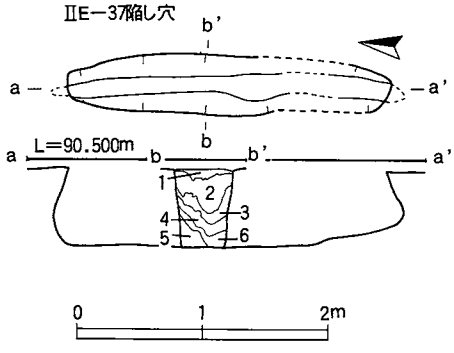
(90) IIE—34陥し穴
1. 10YR3/3暗褐色土
2. 10YR2/3黒褐色土
3. 10YR3/2黒褐色土
4. 10YR2/2黒褐色土
5. 10YR3/4暗褐色土



(91) IIE—35陥し穴
1. 10YR2/3黒褐色土
2. 10YR3/2黒褐色土
3. 10YR2/2黒褐色土
4. 10YR3/3暗褐色土
5. 10YR3/4暗褐色土
6. 10YR3/3暗褐色土
7. 10YR3/3暗褐色土
8. 10YR3/3暗褐色土
9. 10YR2/1黒色土
10. 10YR3/4暗褐色土
11. 10YR3/4暗褐色土

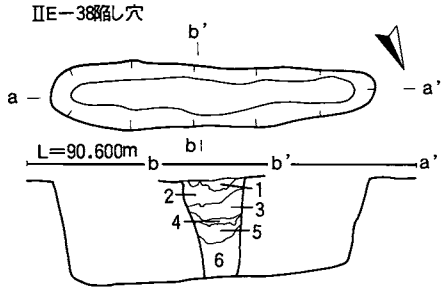


(92) IIE—36陥し穴
1. 7.5YR3/3暗褐色土
2. 10YR3/3暗褐色土～3/4暗褐色土
3. 10YR2/3黒褐色土
4. 10YR2/2黒褐色土
5. 10YR3/2黒褐色土～3/3暗褐色土
6. 10YR3/4暗褐色土
7. 10YR3/3暗褐色土～3/4暗褐色土
8. 10YR3/4暗褐色土

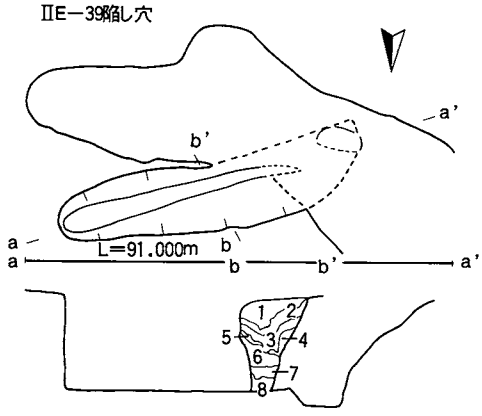


(93) IIE—37陥し穴
1. 7.5YR4/3～4/4褐色土
2. 7.5YR4/4褐色土～5/4にぶい褐色土粘性あり
3. 7.5YR4/4～4/6褐色土粘性あり
4. 7.5YR4/4褐色土～にぶい褐色土粘性あり
5. 7.5YR3/4暗褐色土～4/4褐色土粘性あり
6. 7.5YR4/4褐色土～にぶい褐色土粘性あり

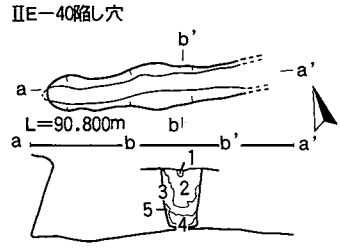
第33図　陥し穴状遺構 (23)



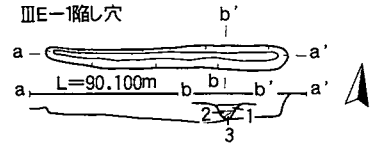
(94) ⅡE−38陥し穴
1. 10YR3/4暗褐色土
2. 10YR3/4暗褐色土　橙色土粒少量混入
3. 10YR3/3暗褐色土
4. 10YR3/4暗褐色土
5. 10YR3/4暗褐色土
6. 10YR3/4明赤褐色土粒少量混入



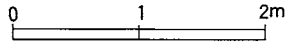
(95) ⅡE−39陥し穴
1. 7.5YR3/3暗褐色土～2/3極暗褐色土
2. 7.5YR3/4暗褐色土
3. 10YR3/4暗褐色土
4. 10YR3/4暗褐色土～4/4褐色土
5. 10YR3/4暗褐色土　褐色土小土粒混入
6. 10YR3/3暗褐色土
7. 10YR3/2黒褐色土～3/3暗褐色土
8. 10YR3/4暗褐色土



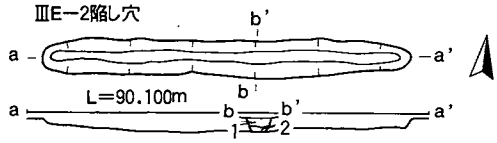
(96) ⅡE−40陥し穴
1. 10YR2/3黒褐色土
2. 10YR3/2黒褐色土
3. 10YR3/4黒褐色土
4. 10YR2/3暗褐色土
5. 10YR4/4褐色土



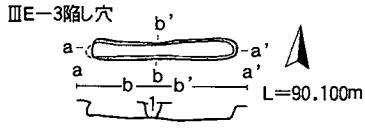
(97) ⅢE−1陥し穴
1. 7.5YR3/2黒褐色土
2. 7.5YR4/3褐色土
3. 7.5YR4/4褐色土



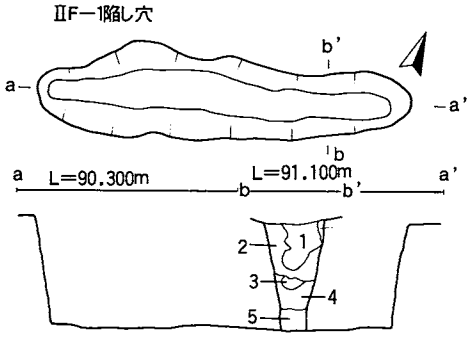
第34図　陥し穴状遺構 (24)



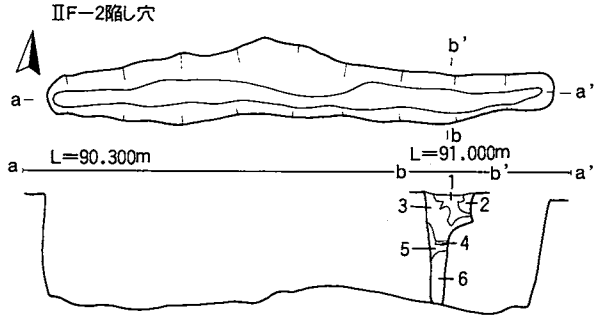
(98) ⅢE−2陥し穴
1．7.5YR3/2黒褐色土
2．7.5YR4/3褐色土



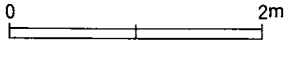
(99) ⅢE−3陥し穴
1．7.5YR3/2黒褐色土



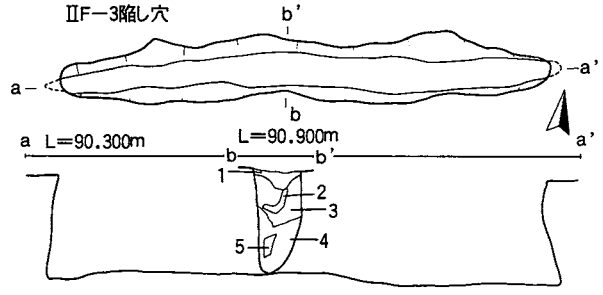
(100) ⅡF−1陥し穴
1．10YR1.7/1黒色土
2．10YR2/2黒褐色土
3．10YR1.7/1黒色土
4．10YR2/3黒色土
5．10YR3/3暗褐色土



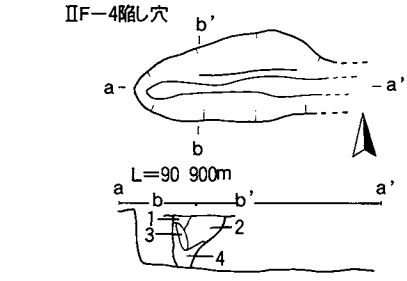
(101) ⅡF−2陥し穴
1．10YR1.7/1黒色土
2．10YR2/3黒褐色土
3．7.5YR3/2黒褐色土
4．10YR1.7/1黒色土
5．10YR4/3褐色土
6．7.5YR3/2黒褐色土



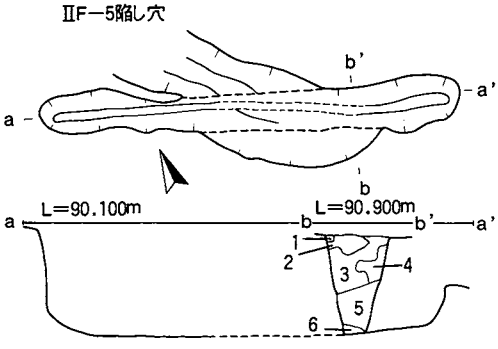
第35図　陥し穴状遺構 (25)



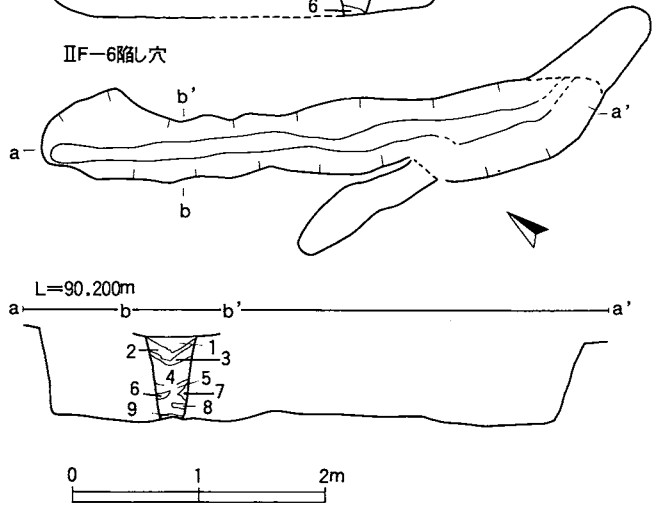
(102) II F−3 陥し穴
1. 10YR2/1黒色土
2. 10YR3/4暗褐色土
3. 10YR2/3黒褐色土
4. 10YR4/4褐色土
5. 10YR2/1黒色土



(103) II F−4 陥し穴
1. 7.5YR3/2黒褐色土
2. 7.5YR3/4暗褐色土
3. 7.5YR4/6褐色土
4. 7.5YR3/3暗褐色土

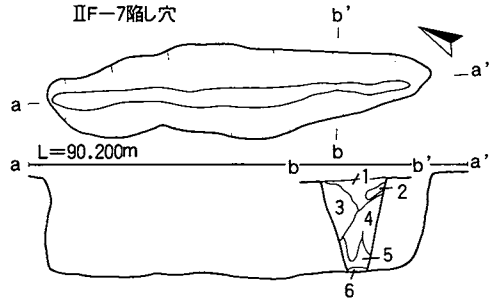


(104) II F−5 陥し穴
1. 10YR1.7/1黒色土
2. 7.5YR4/4褐色土
3. 7.5YR3/2黒褐色土
4. 7.5YR4/3褐色土
5. 7.5YR3/2黒褐色土
6. 7.5YR4/4褐色土

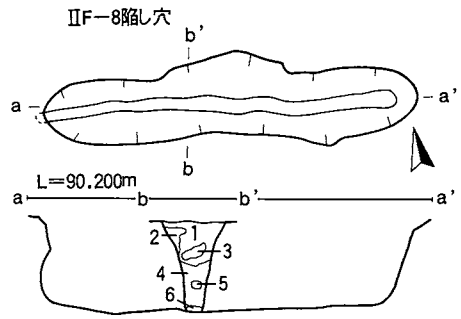


(105) II F−6 陥し穴
1. 7.5YR1.7/1黒色土
2. 7.5YR4/6褐色土
3. 7.5YR2/1黒色土
4. 7.5YR3/4暗褐色土
5. 7.5YR1.7/1黒色土〜4/6褐色土
6. 7.5YR4/6褐色土
7. 7.5YR4/3褐色土
8. 7.5YR3/4暗褐色土
9. 7.5YR1.7/1黒色土

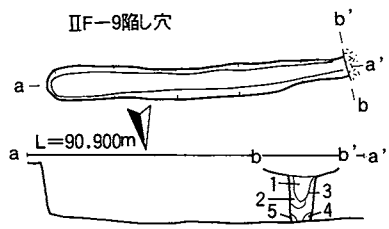
第36図　陥し穴状遺構（26）



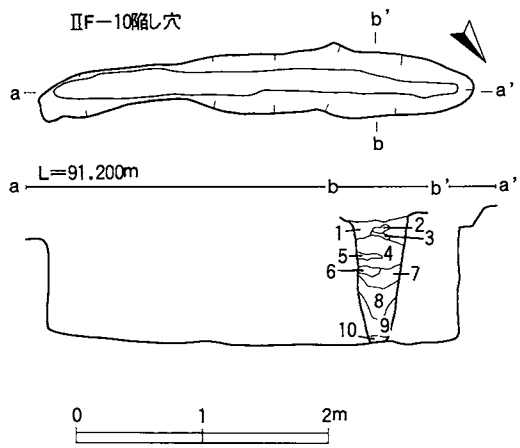
(106) II F—7 陥し穴
1．7.5YR3/2黒褐色土
2．7.5YR/3褐色土
3．7.5YR3/4暗褐色土
4．7.5YR4/3褐色土
5．7.5YR4/6褐色土
6．7.5YR1.7/1黒色土



(107) II F—8 陥し穴
1．7.5YR3/4暗褐色土
2．7.5YR3/4暗褐色土～4/3褐色土
3．7.5YR4/6褐色土
4．7.5YR3/4暗褐色土
5．7.5YR1.7/1黒色土
6．7.5YR3/4暗褐色土

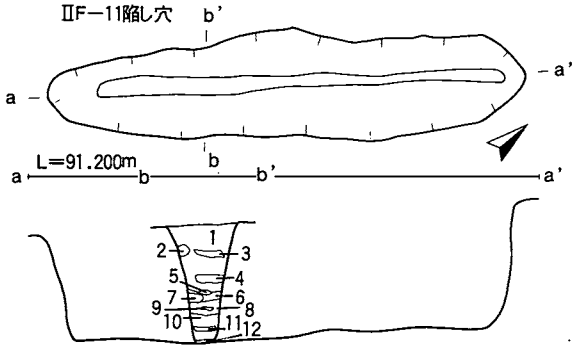


(108) II F—9 陥し穴
1．7.5YR3/4暗褐色土
2．7.5YR3/3暗褐色土
3．7.5YR3/4暗褐色土
4．7.5YR2/1黒色土

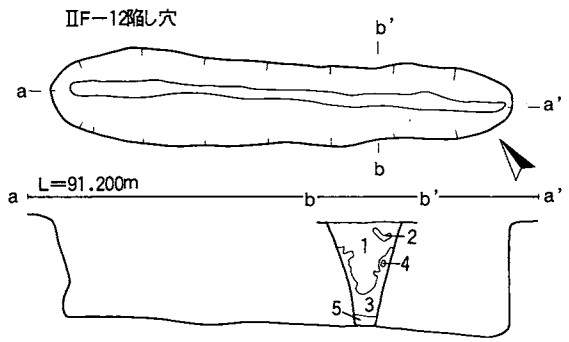


(109) II F—10陥し穴
1．10YR2/2黒褐色土
2．10YR3/4暗褐色土
3．10YR3/4暗褐色土
4．10YR2/3黒褐色土
5．10YR3/4暗褐色土
6．10YR4/4褐色土
7．10YR3/3暗褐色土
8．10YR3/4暗褐色土
9．10YR3/4暗褐色土
10．10YR2/2黒褐色土

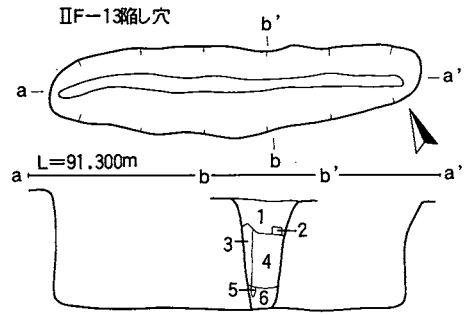
第37図　陥し穴状遺構 (27)



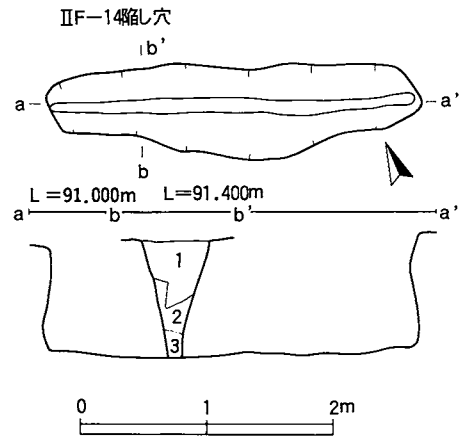
(110) II F−11陥し穴
1．10YR2/2黒褐色土
2．10YR3/3暗褐色土
3．10YR4/6褐色土
4．10YR3/3暗褐色土
5．10YR4/4褐色土
6．10YR3/2黒褐色土
7．10YR3/2黒褐色土
8．10YR2/2黒褐色土〜4/4褐色土
9．10YR3/1黒褐色土
10．10YR3/4暗褐色土
11．10YR2/1黒色土
12．10YR2/3暗褐色土



(111) II F−12陥し穴
1．7.5YR12/2黒褐色土〜4/4褐色土
2．7.5YR4/4褐色土
3．7.5YR3/3暗褐色土
4．7.5YR4/4褐色土
5．7.5YR3/1黒褐色土

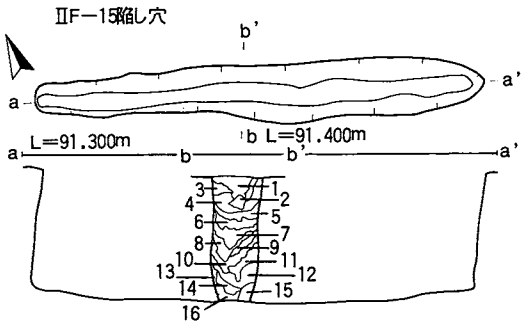


(112) II F−13陥し穴
1．7.5YR3/1黒褐色土
2．7.5YR3/4暗褐色土
3．7.5YR4/6褐色土
4．7.5YR3/3暗褐色土
5．7.5YR4/6褐色土
6．7.5YR2/2黒褐色土

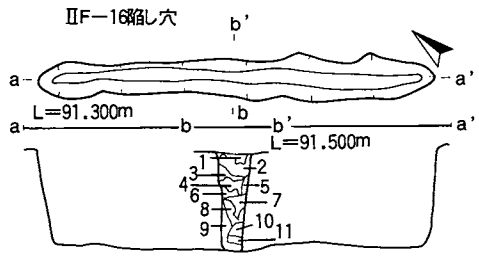


(113) II F−14陥し穴
1．7.5YR2/1黒色土
2．10YR3/3暗褐色土
3．10YR2/3黒褐色土

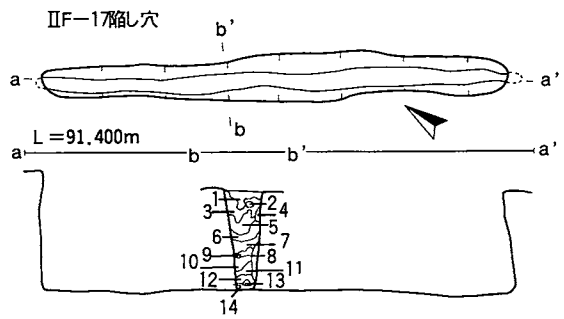
第38図　陥し穴状遺構（28）



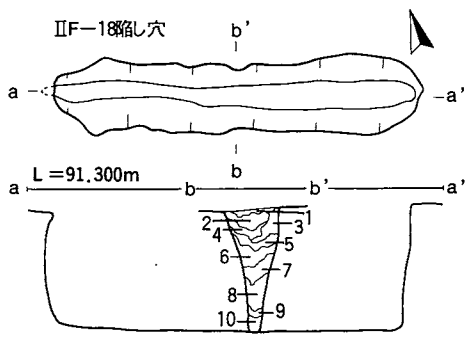
(114) II F—15陥し穴
1. 7.5YR2/1黒色土　シルト
2. 7.5YR2/1黒色土　シルト
3. 7.5YR2/1黒色土　シルト
4. 7.5YR2/2黒色土　シルト
5. 7.5YR3/1黒褐色土　シルト
6. 7.5YR1.7/1黒色土　シルト
7. 7.5YR3/2黒褐色土　シルト
8. 7.5YR3/3暗褐色土　シルト
9. 7.5YR3/2黒褐色土　シルト
10. 7.5YR3/4暗褐色土　シルト
11. 7.5YR3/3暗褐色土　シルト
12. 7.5YR3/3暗褐色土　シルト
13. 7.5YR3/4暗褐色土　シルト
14. 7.5YR3/3暗褐色土　シルト
15. 7.5YR3/4暗褐色土　シルト
16. 7.5YR4/4褐色土　シルト



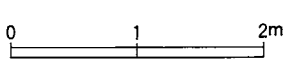
(115) II F—TP16
1. 7.5YR2/1黒色土
2. 7.5YR4/3〜4/4褐色土
2/1黒色土〜2/2黒褐色土
3. 5YR2/1〜2/2黒褐色土
4. 7.5YR3/1〜3/2黒褐色土
5. 7.5YR3/2黒褐色土
6. 7.5YR3/2黒褐色土
7. 7.5YR3/3暗褐色土
8. 7.5YR3/4暗褐色土
9. 7.5YR3/4暗褐色土
10. 7.5YR3/3暗褐色土
11. 7.5YR2/2黒褐色土



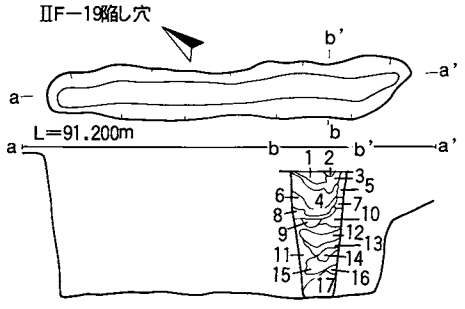
(116) II F—17陥し穴
1. 7.5YR1.7/1黒色土　シルト
2. 7.5YR2/1黒色土　シルト
3. 7.5YR2/1黒色土　シルト
4. 7.5YR3/3暗褐色土　シルト
5. 7.5YR2/2黒褐色土　シルト
6. 7.5YR2/2黒褐色土　シルト
7. 7.5YR1.7/1黒色土　シルト
8. 7.5YR4/4褐色土　シルト
9. 7.5YR3/4暗褐色土　シルト
10. 7.5YR3/3暗褐色土　シルト
11. 7.5YR2/2黒褐色土　シルト
12. 7.5YR2/1黒色土　シルト
13. 7.5YR2/2黒褐色土　シルト
14. 7.5YR4/4褐色土粘土



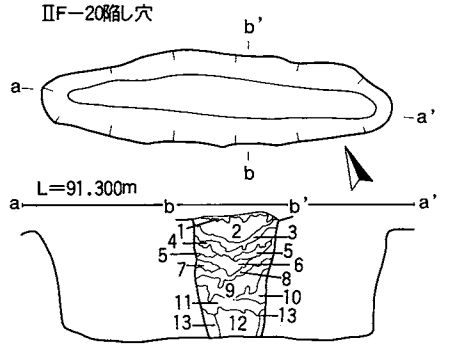
(117) II F—18陥し穴
1. 7.5YR2/1黒色土　シルト
2. 7.5YR2/1黒色土　シルト
3. 7.5YR黒褐色土　シルト
4. 7.5YR3/2黒褐色土　シルト
5. 7.5YR3/2黒褐色土　シルト
6. 7.5YR3/2黒褐色土　シルト
7. 7.5YR3/3暗褐色土　シルト
8. 7.5YR3/3暗褐色土　シルト
9. 7.5YR3/4暗褐色土　シルト
10. 7.5YR4/4褐色土　粘性のあるシルト



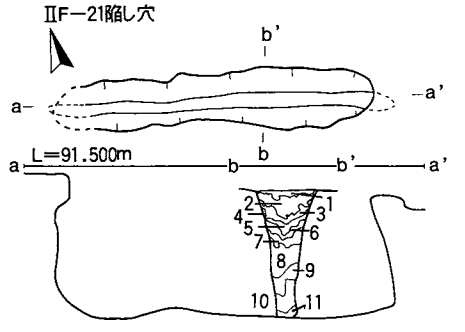
第39図　陥し穴状遺構 (29)



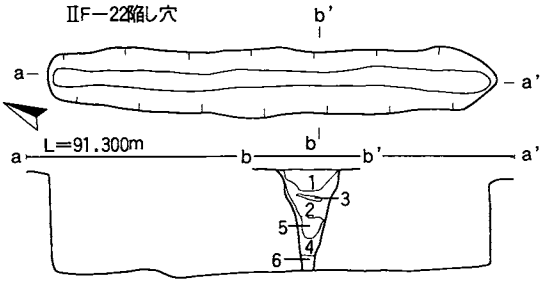
(118) II F−19陥し穴
1. 10YR3/3暗褐色土
2. 10YR2/3黒褐色土　一部乾燥している
3. 10YR3/3暗褐色土
4. 10YR4/4褐色土
5. 10YR4/6褐色土
6. 10YR3/3暗褐色土
7. 10YR4/6褐色土
8. 10YR3/4暗褐色土
9. 10YR2/3黒褐色土
10. 10YR4/6褐色土
11. 10YR3/3暗褐色土
12. 10YR4/6褐色土
13. 10YR2/3黒褐色土
14. 10YR3/3暗褐色土
15. 10YR3/3暗褐色土　2/1黒色土５％混入
16. 10YR4/4褐色土
17. 10YR4/4褐色土



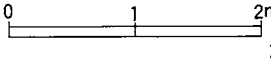
(119) II F−20陥し穴
1. 7.5YR3/1〜3/2黒褐色土　腐植質、小粘土ブロックが１％混入。
2. 7.5YR3/1黒褐色土　腐植質
3. 7.5YR2/1黒色土　腐植質
4. 7.5YR2/1黒色土〜2/2黒褐色土　腐植質
5. 7.5YR3/2黒褐色土　腐植質
6. 7.5YR2/1黒色土〜2/2黒褐色土　腐植質
7. 7.5YR3/2暗褐色土〜3/3黒褐色土　腐植質
8. 7.5YR2/2黒褐色土〜極暗褐色土　粘土質
9. 7.5YR3/2黒褐色土〜3/3暗褐色土　粘土質
10. 7.5YR3/4暗褐色土　粘土質
11. 7.5YR3/3暗褐色土　粘土質
12. 7.5YR3/3〜3/4暗褐色土　粘土質
13. 7.5YR4/3褐色土　粘土質



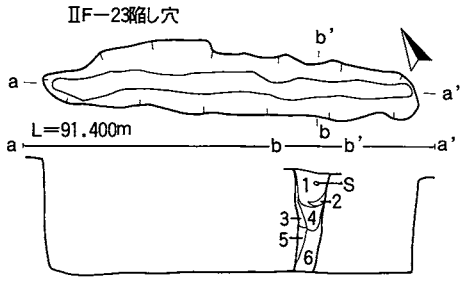
(120) II F−21陥し穴
1. 7.5YR1.7/1黒色土　シルト
2. 7.5YR1.7/1黒色土　シルト
3. 7.5YR2/1黒色土　シルト
4. 7.5YR2/2黒褐色土　シルト
5. 7.5YR2/1黒色土　シルト
6. 7.5YR2/1黒色土　シルト
7. 7.5YR3/1黒褐色土　シルト
8. 7.5YR3/1黒褐色土　シルト、雲母混入
9. 7.5YR2/2黒褐色土　シルト
10. 7.5YR3/3暗褐色土　シルト、粘性あり
11. 7.5YR3/4暗褐色土　シルト、粘性あり



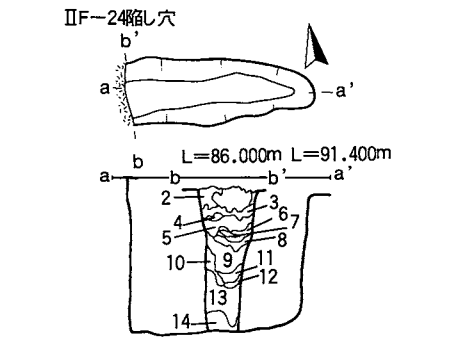
(121) II F−22陥し穴
1. 7.5YR3/2黒褐色土
2. 7.5YR3/4暗褐色土
3. 7.5YR3/2黒褐色土
4. 7.5YR3/3暗褐色土
5. 7.5YR3/4暗褐色土
6. 7.5YR3/2黒褐色土



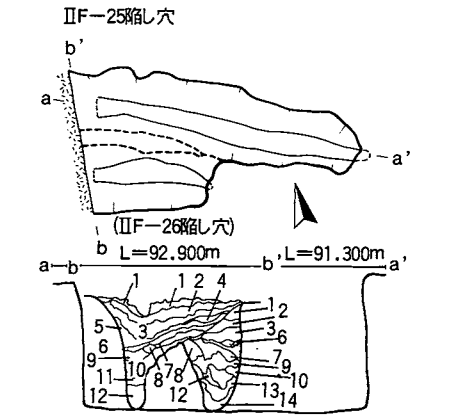
第40図　陥し穴状遺構（30）



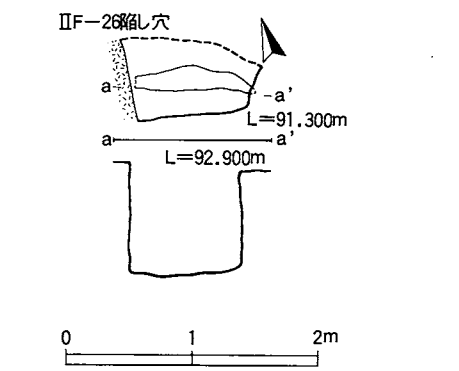
(122) II F—23陥し穴
1. 7.5YR2/2黒褐色土
2. 7.5YR4/6褐色土
3. 7.5YR5/4にぶい褐色土
4. 7.5YR3/3暗褐色土
5. 7.5YR2/2黒褐色土
6. 7.5YR3/4暗褐色土



(123) II F—24陥し穴
1. 7.5YR4/6褐色土〜5/6明褐色土　粘性のあるシルト
2. 5YR2/2黒褐色土　粘性のあるシルト
3. 5YR3/3〜3/2暗赤褐色土　粘性のあるシルト
4. 7.5YR3/3暗褐色土〜4/3褐色土　粘性のあるシルト
5. 7.5YR2/2〜3/2黒褐色土　粘性のあるシルト
6. 7.5YR3/1〜3/2黒褐色土　粘性のあるシルト
7. 5YR3/2暗赤褐色土　シルト
8. 5YR2/3極暗赤褐色土　粘性のあるシルト
9. 7.5YR3/4暗褐色土〜4/4褐色土　粘性のあるシルト
10. 7.5YR4/4褐色土〜5/4にぶい褐色土　粘性のあるシルト
11. 7.5YR2/2〜3/2黒褐色土　粘性のあるシルト
12. 7.5YR4/4〜3/4褐色土　粘性のあるシルト
13. 7.5YR4/6褐色土〜5/6明褐色土　粘性のあるシルト
14. 7.5YR4/4褐色土〜5/4にぶい褐色土　粘性のあるシルト

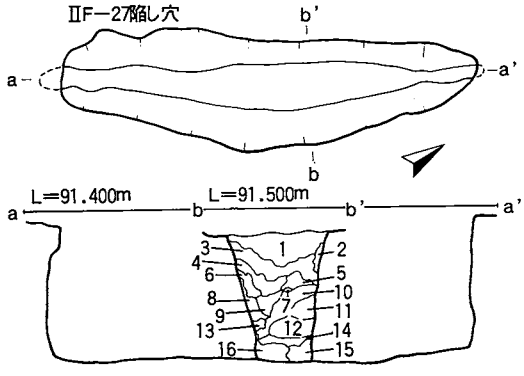


(124) II F—25陥し穴
1. 7.5YR2/3極暗褐色土
2. 7.5YR2/2黒褐色土
3. 7.5YR2/2〜3/2黒褐色土
4. 7.5YR3/1〜2/2黒褐色土
5. 7.5YR2/1〜3/1黒褐色土
6. 7.5YR3/3暗褐色土
7. 7.5YR2/2〜3/2黒褐色土
8. 7.5YR4/3褐色土
9. 7.5YR2/2〜3/2黒褐色土
10. 7.5YR2/2〜3/2黒褐色土
11. 7.5YR2/2黒褐色土
12. 7.5YR3/4暗褐色土

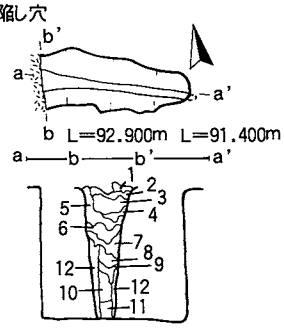


(125) II F—26陥し穴
1. 7.5YR3/3暗褐色土
2. 7.5YR3/3暗褐色土
3. 7.5YR3/3暗褐色土〜3/2黒褐色土
4. 7.5YR3/3暗褐色土
5. 7.5YR3/2黒褐色土
6. 7.5YR3/3暗褐色土
7. 7.5YR3/4暗褐色土
8. 7.5YR3/3暗褐色土
9. 7.5YR4/3褐色土
10. 7.5YR4/3褐色土
11. 7.5YR4/6褐色土
12. 7.5YR4/4褐色土
13. 7.5YR4/3褐色土
14. 7.5YR4/4褐色土

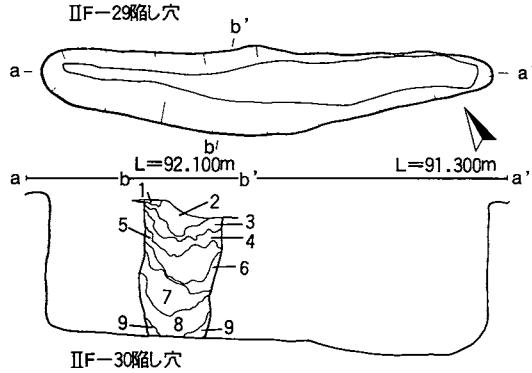
第41図　陥し穴状遺構 (31)



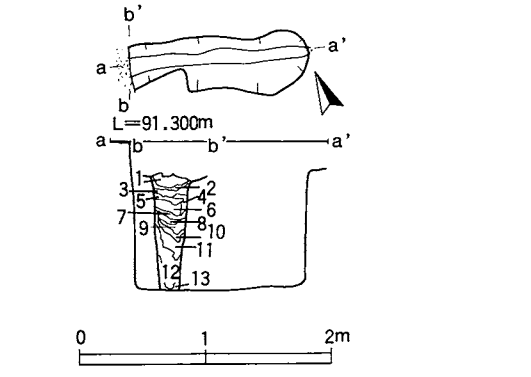
(126) II F−27陥し穴
1. 7.5YR2/1黒色土　シルト
2. 7.5YR2/2〜3/2黒褐色土〜3/3暗褐色土　シルト
3. 7.5YR2/2黒褐色土〜2/3暗褐色土(左)、2/2黒色土〜2/2黒褐色土(中央)、3/1〜3/2黒褐色土(右)　シルト
4. 7.5YR2/1黒色土〜2/2黒褐色土　シルト
5. 7.5YR3/2黒色土〜3/3暗褐色土　シルト
6. 7.5YR4/4〜4/6褐色土　シルト
7. 7.5YR3/1〜3/2黒褐色土　シルト
8. 7.5YR4/4〜4/6褐色土　シルト
9. 10YR3/3〜3/4暗褐色土　シルト
10. 7.5YR4/4〜4/6褐色土　シルト
11. 7.5YR3/2黒褐色土〜3/3暗褐色土　シルト
12. 7.5YR3/2黒褐色土〜3/3暗褐色土　シルト
13. 7.5YR3/2黒褐色土〜3/3暗褐色土　シルト
14. 7.5YR2/2黒褐色土〜2/3極暗褐色土　シルト
15. 7.5YR4/4〜4/6褐色土　シルト
16. 7.5YR4/3〜4/4褐色土　シルト



(127) II F−28陥し穴
1. 7.5YR2/3極暗褐色土
2. 7.5YR3/2黒褐色土
3. 7.5YR2/2黒褐色土
4. 7.5YR3/3暗褐色土
5. 7.5YR2/2黒褐色土
6. 7.5YR3/2黒褐色土
7. 7.5YR2/2黒褐色土
8. 7.5YR3/2暗褐色土
9. 7.5YR3/3暗褐色土
10. 7.5YR3/2黒褐色土
11. 7.5YR2/2黒褐色土
12. 7.5YR3/4暗褐色土

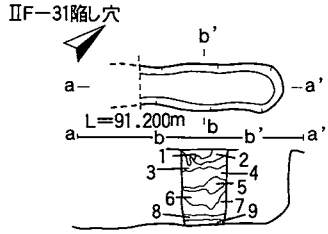


(128) II F−29陥し穴
1. 10YR5/2灰黄褐色土
2. 7.5YR2/2〜3/2黒褐色土腐植土、シルト
3. 7.5YR3/2〜3/3暗褐色土　シルト
4. 7.5YR3/2〜3/4暗褐色土　シルト
5. 7.5YR3/3暗褐色土〜4/3褐色土　シルト
6. 7.5YR4/4〜4/6褐色土　シルト
7. 7.5YR4/4褐色土　シルト
8. 7.5YR4/4褐色土　シルト
9. 7.5YR2/3黒褐色土〜3/3暗褐色土腐植土、シルト

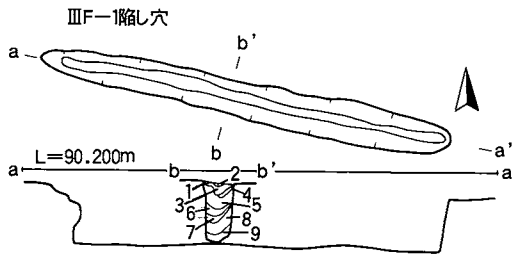


(129) II F−30陥し穴
1. 10YR3/2〜2/3黒褐色土粘土状の固まり含む
2. 7.5YR2/1黒色土
3. 10YR3/4暗褐色土
4. 7.5YR2/2黒褐色土〜2/3極暗褐色土
5. 10YR3/2黒褐色土〜3/3暗褐色土
6. 10YR2/2黒色土
7. 10YR2/1黒色土
8. 10YR2/1黒色土
9. 10YR3/2黒色土〜3/3暗褐色土
10. 10YR3/2黒褐色土〜3/3暗褐色土
11. 10YR3/4暗褐色土
12. 10YR3/4暗褐色土
13. 10YR4/4褐色土〜3/4暗褐色土

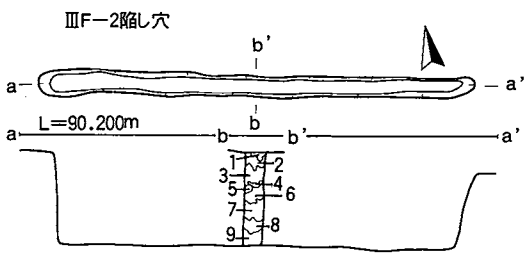
第42図　陥し穴状遺構 (32)



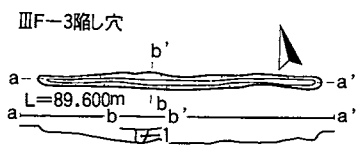
(130) ⅡF−31陥し穴
1. 10YR4/6褐色土
2. 10YR2/3黒褐色土
3. 10YR3/4暗褐色土
4. 10YR2/2黒褐色土
5. 10YR3/4暗褐色土
6. 10YR3/2黒褐色土
7. 10YR3/4暗褐色土
8. 10YR2/3黒褐色土
9. 10YR3/4暗褐色土



(131) ⅢF−1陥し穴
1. 7.5YR3/3暗褐色土　シルト
2. 7.5YR3/4暗褐色土　シルト、3/1黒褐色土10%混入
3. 7.5YR3/3暗褐色土　シルト
4. 7.5YR4/4褐色土　シルト
5. 7.5YR4/4褐色土　シルト
6. 7.5YR3/4暗褐色土　シルト、粘性あり
7. 7.5YR3/1黒褐色土　シルト、粘性あり、2/1黒色土1%混入
8. 7.5YR4/3褐色土　シルト、水分を多く含む、粘性あり
9. 7.5YR4/3褐色土、粘性あり

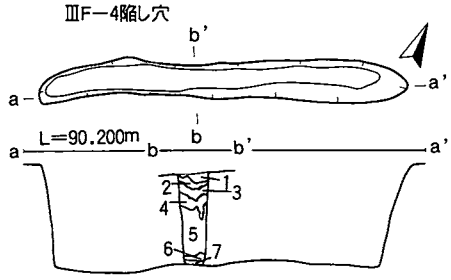


(132) ⅢF−2陥し穴
1. 7.5YR4/3褐色土
2. 7.5YR4/4褐色土　粘性あるシルト
3. 7.5YR4/3褐色土　粘性あるシルト
4. 7.5YR2/1黒色土　水分を多く含むシルト
5. 10YR4/3にぶい黄褐色土　水酸化鉄が若干含まれる
6. 7.5YR4/4褐色土　シルト
7. 7.5YR4/4褐色土　シルト
8. 10YR3/4暗褐色土
9. 7.5YR4/4褐色土

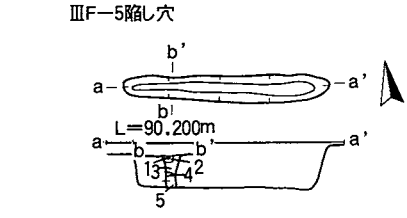


(133) ⅢF−3陥し穴
1. 7.5YR2/1黒色土〜3/3暗褐色土　シルト

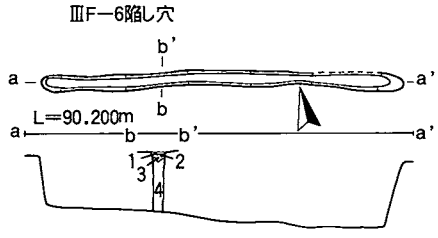
第43図　陥し穴状遺構 (33)



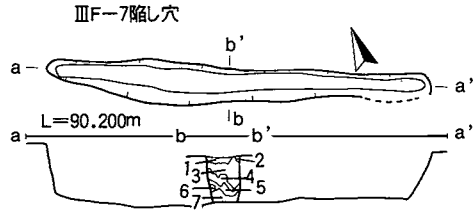
(134) ⅢF−4陥し穴
1. 7.5YR3/3暗褐色土　シルト
2. 10YR2/3黒褐色土　シルト
3. 7.5YR4/4褐色土　シルト
4. 10YR3/4暗褐色土　シルト
5. 10YR4/4暗褐色土　シルト
6. 10YR4/6褐色土　シルト
7. 10YR4/3褐色土　シルト



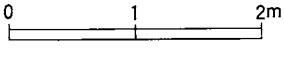
(135) ⅢF−5陥し穴
1. 7.5YR4/4褐色土　シルト
2. 7.5YR3/4暗褐色土　シルト
3. 7.5YR3/3暗褐色土　シルト、4/4褐色土を一部ブロック状に含む
4. 7.5YR3/3暗褐色土　シルト
5. 7.5YR4/3褐色土



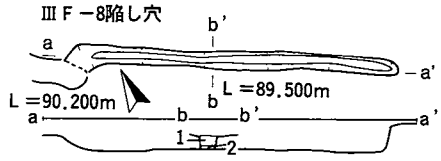
(136) ⅢF−6陥し穴
1. 7.5YR3/2黒褐色土　4/6褐色土を粉状に若干含む
2. 10YR3/3暗褐色土
3. 10YR4/4褐色土
4. 10YR4/4暗褐色土



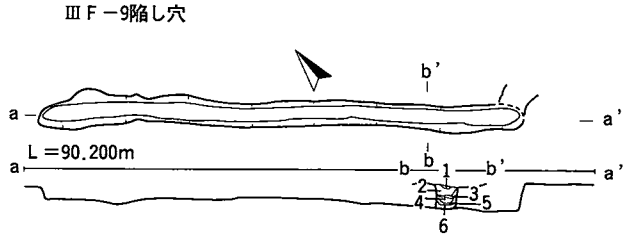
(137) ⅢF−7陥し穴
1. 7.5YR3/4暗褐色土　シルト
2. 7.5YR4/4褐色土　シルト
2. 7.5YR4/4褐色土　シルト
3. 7.5YR4/3褐色土　シルト
4. 7.5YR4/3褐色土　シルト
5. 7.5YR4/4褐色土　シルト
6. 7.5YR3/4褐色土　シルト
7. 7.5YR4/4褐色土　シルト



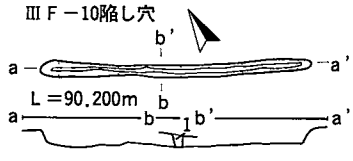
第44図　陥し穴状遺構（34）



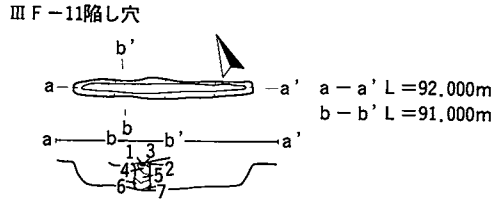
(138) ⅢF—8陥し穴
1．7.5YR2/1黒色土　シルト
2．7.5YR3/4暗褐色土　シルト



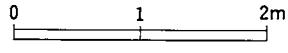
(139) ⅢF—9陥し穴
1．10YR2/3黒褐色土　シルト
2．7.5YR2/1黒色土　シルト
3．5YR3/1黒褐色土　シルト
4．5YR3/1黒褐色土　シルト
5．10YR3/2黒褐色土　シルト
6．7.5YR3/1黒褐色土　シルト



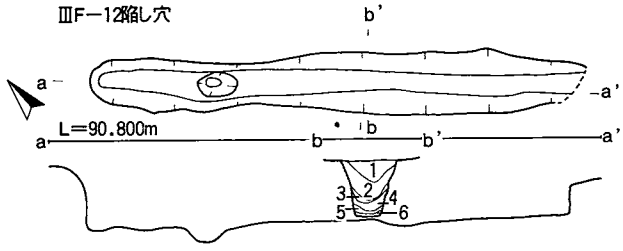
(140) ⅢF—10陥し穴
1．7.5YR2/2黒褐色土～4/3褐色土　シルト



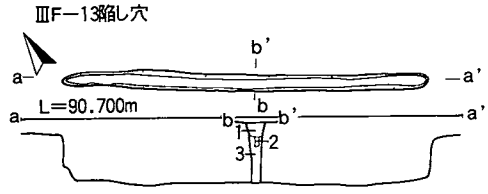
(141) ⅢF—11陥し穴
1．7.5YR4/4褐色土　シルト
2．7.5YR4/6褐色土　シルト
3．10YR3/4暗褐色土　シルト
4．10YR3/4暗褐色土　シルト
5．10YR3/4暗褐色土　シルト
6．10YR3/4暗褐色土　シルト
7．10YR3/4暗褐色土　シルト



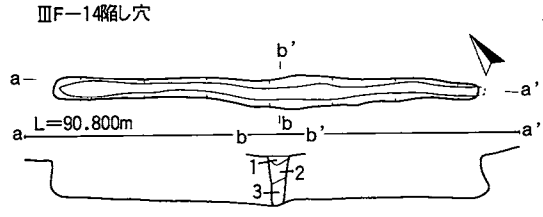
第45図　陥し穴状遺構（35）



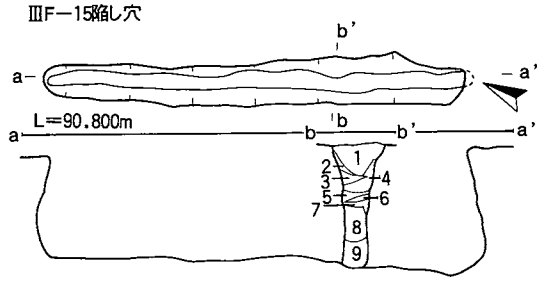
(142) ⅢF−12陥し穴
1．7.5YR2/1黒色土
2．10YR3/3黒褐色土
3．10YR2/1黒色土
4．10YR3/4暗褐色土
5．10YR3/2黒色土
6．10YR4/6褐色土



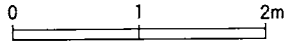
(143) ⅢF−13陥し穴
1．10YR3/4暗褐色土
2．10YR2/2黒褐色土
3．10YR3/2黒褐色土



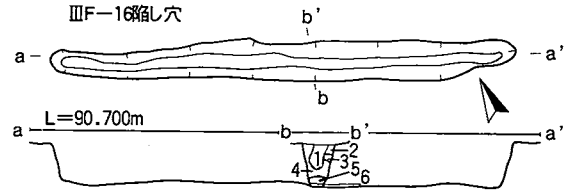
(144) ⅢF−14陥し穴
1．7.5YR1.7/1黒色土
2．10YR3/2黒褐色土
3．10YR2/1黒色土



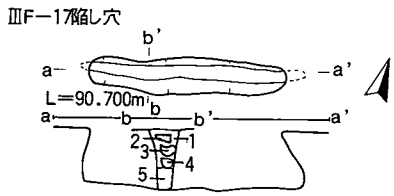
(145) ⅢF−15陥し穴
1．10YR1.7/1黒色土
2．10YR2/3黒褐色土
3．10YR2/2黒褐色土
4．10YR3/2黒褐色土
5．10YR1.7/1黒褐色土～3/4暗褐色土
6．10YR3/2暗褐色土
7．10YR1.7/1黒色土～3/2暗褐色土
8．10YR3/2黒褐色土
9．10YR4/4褐色土



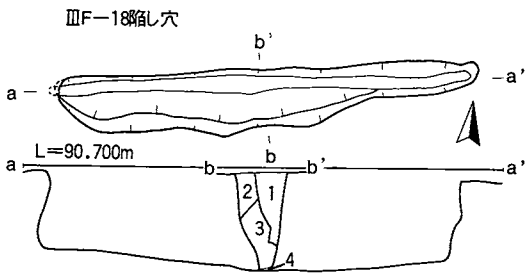
第46図　陥し穴状遺構（36）



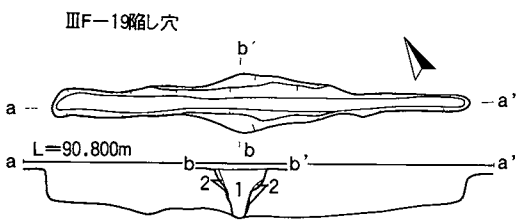
(146) ⅢF—16陥し穴
1．10YR1.7/1～2/1黒色土
2．10YR2/3黒褐色土
3．10YR3/4暗褐色土
4．7.5YR3/4暗褐色土
5．10YR1.7/1黒色土～3/3暗褐色土
6．10YR3/4暗褐色土



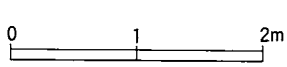
(147) ⅢF—17陥し穴
1．10YR2/2黒褐色土
2．10YR1.7/1黒色土
3．10YR1.7/1黒色土
4．10YR1.7/1黒色土
5．10YR2/1黒色土



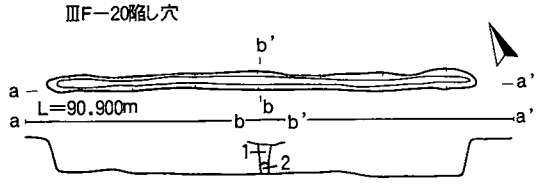
(148) ⅢF—18陥し穴
1．10YR2/3黒褐色土
2．7.5YR3/3暗褐色土
3．7.5YR4/4褐色土
4．7.5YR2/1黒色土



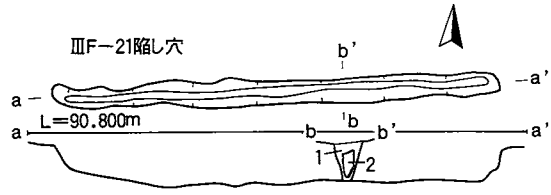
(149) ⅢF—19陥し穴
1．10YR2/1黒色土
2．10YR3/4暗褐色土



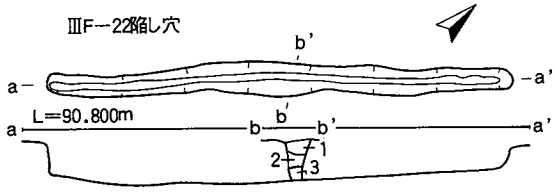
第47図　陥し穴状遺構（37）



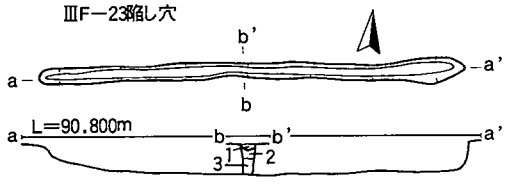
(150) ⅢF－20陥し穴
1．10YR2/3黒褐色土
2．10YR2/1黒色土



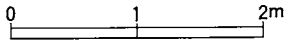
(151) ⅢF－21陥し穴
1．10YR2/3黒褐色土
2．10YR1.7/1黒色土



(152) ⅢF－22陥し穴
1．7.5YR4/4褐色土
2．7.5YR3/4暗褐色土
3．10YR1.7/1黒色土～3/3暗褐色土

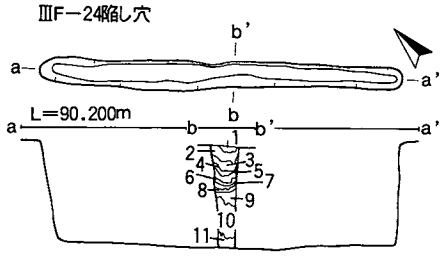


(153) ⅢF－23陥し穴
1．7.5YR4/4褐色土
2．7.5YR3/4暗褐色土
3．7.5YR3/3暗褐色土



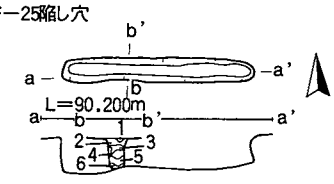
第48図　陥し穴状遺構（38）

ⅢF－24陥し穴



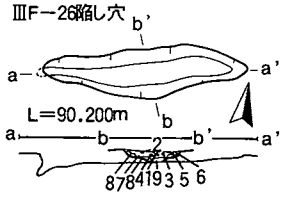
(154) ⅢF—24陥し穴
1. 7.5YR3/3暗褐色土　シルト
2. 7.5YR3/2黒褐色土　粘性のあるシルト
3. 7.5YR4/4暗褐色土　粘性のあるシルト
4. 7.5YR3/4暗褐色土　粘性のあるシルト
5. 7.5YR3/3暗褐色土　粘性のあるシルト
6. 5YR3/2暗赤褐色土　粘性のあるシルト
7. 7.5YR2/2黒褐色土　粘性のあるシルト
8. 7.5YR4/4褐色土　粘性のあるシルト、雲母片含む
9. 10YR4/6褐色土　粘性のあるシルト
10. 10YR4/6褐色土　粘性のあるシルト
11. 10YR4/6褐色土　水酸化鉄を若干含む

ⅢF－25陥し穴



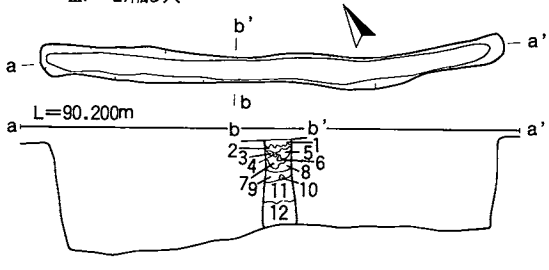
(155) ⅢF—25陥し穴
1. 7.5YR3/2黒褐色土　シルト
2. 7.5YR4/3褐色土　シルト
3. 7.5YR4/4褐色土　シルト
4. 7.5YR3/3暗褐色土　粘性のあるシルト
5. 7.5YR3/3暗褐色土　シルト
6. 10YR3/4暗褐色土　シルト

ⅢF－26陥し穴

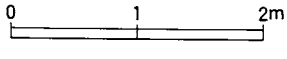


(156) ⅢF—26陥し穴
1. 7.5YR4/4褐色土
2. 7.5YR3/4暗褐色土
3. 10YR3/4暗褐色土
4. 10YR3/4暗褐色土
5. 10YR3/2黒褐色土
6. 10YR3/4暗褐色土
7. 10YR2/3黒褐色土
8. 10YR3/4暗褐色土
9. 10YR4/6褐色土

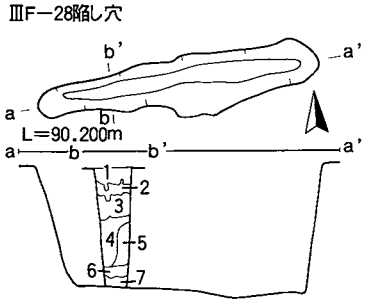
ⅢF－27陥し穴



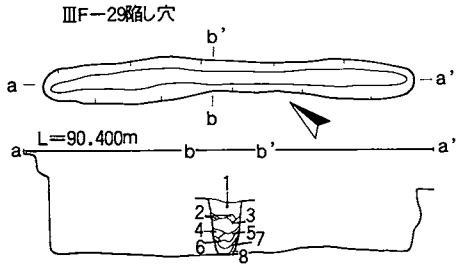
(157) ⅢF—27陥し穴
1. 10YR4/6褐色土　シルト
2. 7.5YR4/6褐色土　シルト
3. 7.5YR4/6褐色土　シルト
4. 10YR3/4暗褐色土　シルト
5. 7.5YR4/6褐色土　シルト
6. 7.5YR4/6褐色土　シルト
7. 10YR3/4暗褐色土　シルト、水酸化鉄２％混入
8. 7.5YR4/6褐色土　シルト
9. 10YR4/6褐色土　シルト
10. 7.5YR3/3暗褐色土　シルト
11. 10YR4/6褐色土　シルト
12. 7.5YR4/3褐色土　シルト、水酸化鉄10％混入



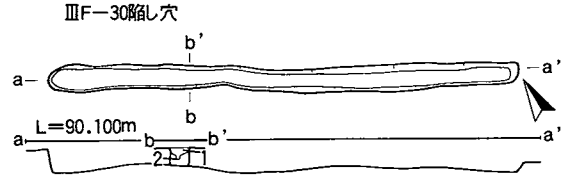
第49図　陥し穴状遺構 (39)



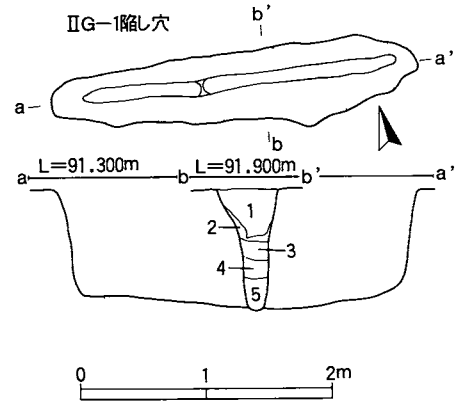
(158) ⅢF—28陥し穴
1．10YR4/6褐色土
2．10YR3/4暗褐色土
3．10YR4/6褐色土
4．10YR3/4暗褐色土
5．10YR4/4褐色土
6．10YR3/3暗褐色土
7．10YR3/3暗褐色土



(159) ⅢF—29陥し穴
1．7.5YR3/4暗褐色土　シルト、粘性に富む
2．7.5YR4/6褐色土　シルト、粘性に富む
3．7.5YR4/4褐色土　シルト、粘性に富む、木炭片若干混入
4．7.5YR4/6褐色土～5/8明褐色土　シルト
5．7.5YR3/4暗褐色土　シルト、粘性に富む
6．7.5YR3/4暗褐色土　シルト、粘性に富む、木炭片若干混入
7．7.5YR3/2黒褐色土～3/3暗褐色土　シルト、粘性に富む
8．7.5YR4/6褐色土　細砂層、風化した木炭片若干混入

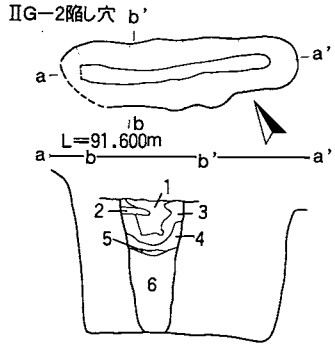


(160) ⅢF—30陥し穴
1．10YR2/1黒色土　シルト
2．10YR3/4暗褐色土　シルト

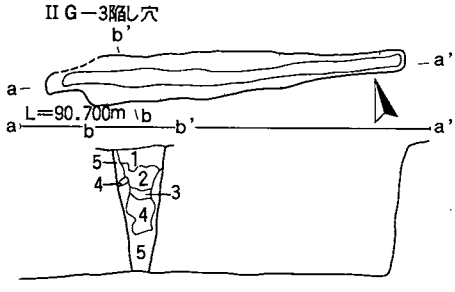


(161) ⅡG—1陥し穴
1．7.5YR2/1黒色土
2．10YR3/2黒褐色土
3．7.5YR2/2黒褐色土
4．10YR3/4暗褐色土
5．10YR4/4褐色土

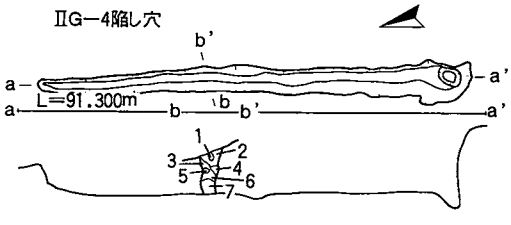
第50図　陥し穴状遺構（40）



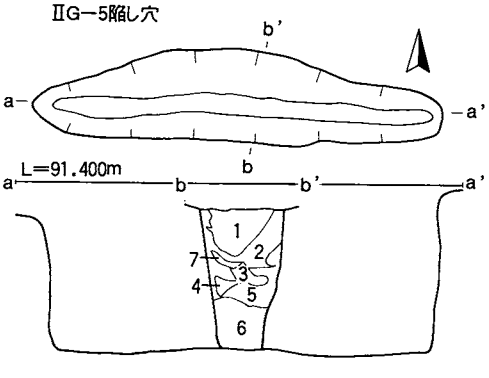
(162) IIG−2陥し穴
1．7.5YR1.7/1黒色土
2．10YR3/2黒褐色土
3．7.5YR2/1黒色土
4．10YR2/3黒褐色土
5．10YR1.7/1黒色土
6．10YR2/3黒褐色土



(163) IIG−3陥し穴
1．7.5YR1.7/1黒色土
2．10YR2/3黒褐色土
3．10YR1.7/1黒色土
4．10YR2/1黒色土
5．10YR3/4暗褐色土

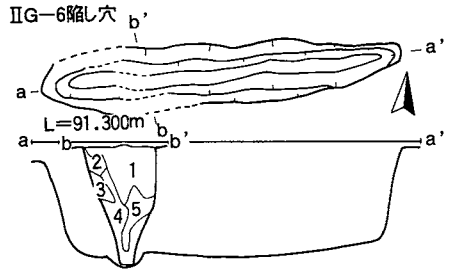


(164) IIG−4陥し穴
1．10YR3/4暗褐色土
2．7.5YR2/1黒色土
3．10YR3/3暗褐色土
4．10YR2/2黒褐色土
5．7.5YR2/2黒褐色土
6．10YR2/3黒褐色土
7．10YR3/4暗褐色土

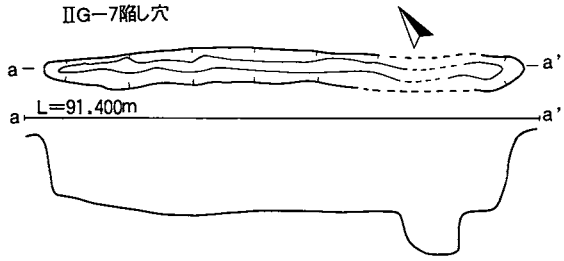


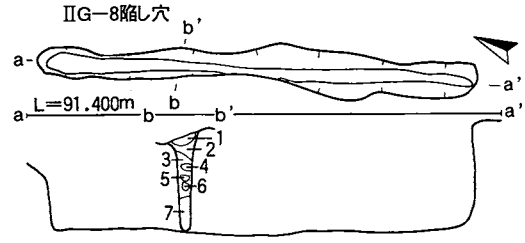
(165) IIG−5陥し穴
1．7.5YR1.7/1黒色土
2．7.5YR2/1黒色土
3．10YR2/3黒褐色土
4．7.5YR1.7/1黒色土
5．7.5YR3/3暗褐色土
6．7.5YR3/2黒褐色土
7．7.5YR3/3暗褐色土

第51図　陥し穴状遺構（41）

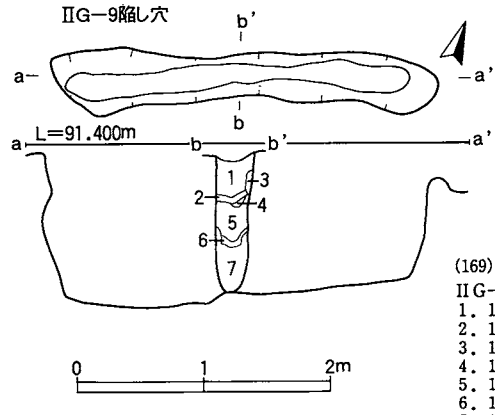


(166) IIG−6、7陥し穴
1．10YR2/3黒褐色土
2．10YR2/3黒褐色土
3．10YR2/2黒褐色土
4．10YR3/4暗褐色土
5．7.5YR4/4褐色土
6．7.5YR4/6褐色土
7．10YR2/2黒褐色土



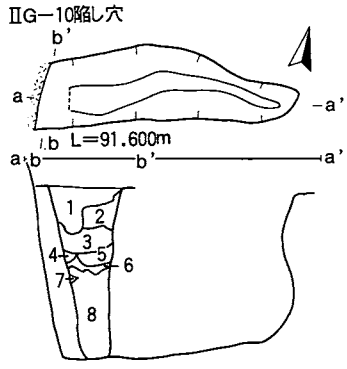


(168) IIG−8陥し穴
1．7.5YR4/4黒褐色土
2．7.5YR2/1黒色土
3．7.5YR3/4暗褐色土
4．7.5YR4/3褐色土
5．7.5YR1.7/1黒色土

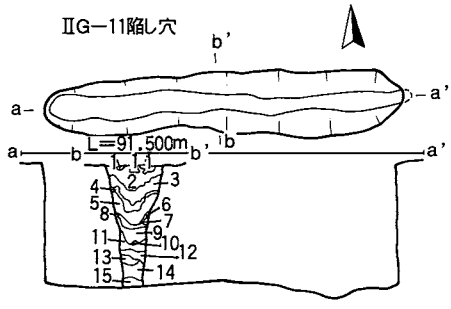


(169)
IIG−9陥し穴
1．10YR2/2黒褐色土　粘土質シルト、よく締まる、暗褐色ブロック混入
2．10YR2/2黒褐色土　粘土質シルト
3．10YR3/4暗褐色土　粘土質シルト、よく締まる
4．10YR2/1黒色土　粘土質シルト
5．10YR2/3黒褐色土　粘土質シルト
6．10YR3/3暗褐色土
7．10YR4/3にぶい黄褐色土　粘土質、よく締まる

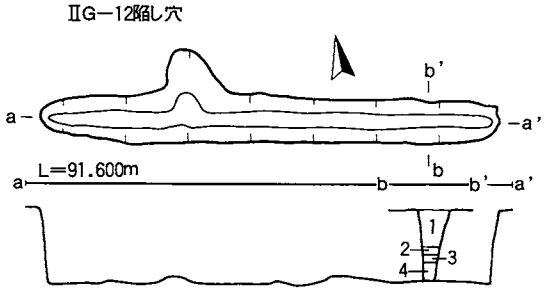
第52図　陥し穴状遺構(42)



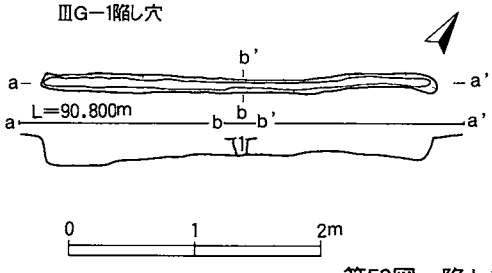
(170) IIG−10陥し穴
1. 10YR1/2黒色土
2. 10YR2/2黒褐色土
3. 10YR2/3黒褐色土
4. 10YR3/3暗褐色土
5. 10YR3/3暗褐色土
6. 10YR2/3黒褐色土
7. 10YR2/4黒褐色土
8. 10YR4/6褐色土



(171) IIG−11陥し穴
1. 7.5YR3/2黒褐色土〜3/3暗褐色土　シルト
2. 7.5YR2/1黒色土〜2/2黒褐色土　シルト
3. 7.5YR3/2黒褐色土〜3/3暗褐色土　シルト
4. 7.5YR3/3〜3/4暗褐色土　シルト
5. 7.5YR3/2黒褐色土〜3/3暗褐色土　シルト
6. 7.5YR3/3〜3/4暗褐色土　シルト
7. 7.5YR3/4暗褐色土　シルト
8. 7.5YR3/2〜2/2黒褐色土　シルト
9. 7.5YR2/1黒色土〜3/1黒褐色土　シルト
10. 7.5YR3/4暗褐色土〜4/4褐色土　シルト
11. 7.5YR3/4暗褐色土〜4/4褐色土　シルト
12. 7.5YR3/3暗褐色土〜2/3極暗褐色土　シルト
13. 7.5YR4/4〜4/6褐色土　シルト
14. 7.5YR2/1黒色土〜3/1〜2/2黒褐色土　シルト
15. 7.5YR1.7/1〜2/1黒色土〜2/2黒褐色土　シルト

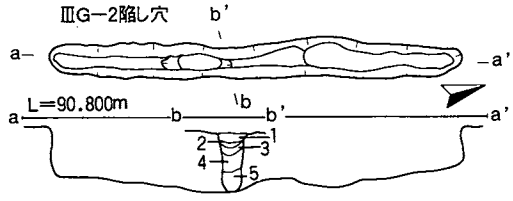


(172) IIG−12陥し穴
1. 10YR2/1黒色土
2. 10YR2/2黒褐色土
3. 10YR3/3暗褐色土
4. 10YR3/4暗褐色土

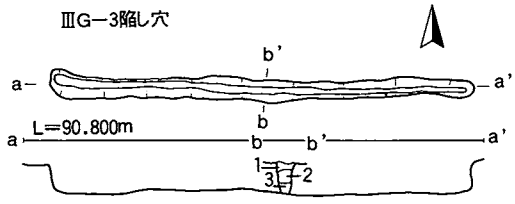


(173) IIIG−1陥し穴
1. 10YR2/2黒褐色土

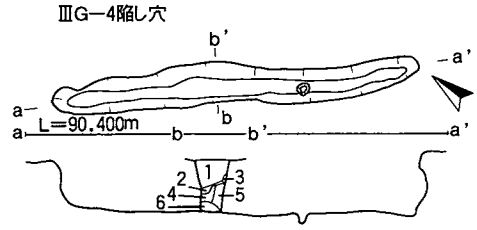
第53図　陥し穴状遺構 (43)



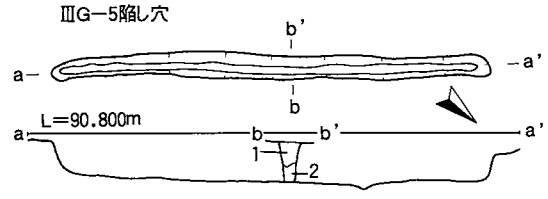
(174) ⅢG−2陥し穴
1．10YR3/3暗褐色土
2．7.5YR2/1黒色土
3．10YR3/2黒褐色土
4．7.5YR2/1黒色土
5．10YR3/2黒褐色土



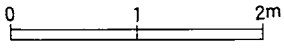
(175) ⅢG−3陥し穴
1．10YR3/3暗褐色土
2．10YR1.7/1黒色土～3/3暗褐色土
3．7.5YR3/2黒褐色土～4/6褐色土



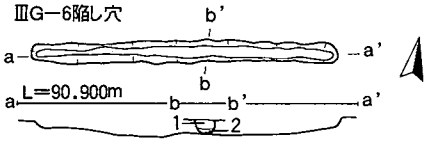
(176) ⅢG−4陥し穴
1．10YR4/6褐色土
2．10YR2/3黒褐色土
3．10YR4/6褐色土
4．10YR4/6褐色土
5．10YR4/6褐色土
6．10YR5/8黄褐色土



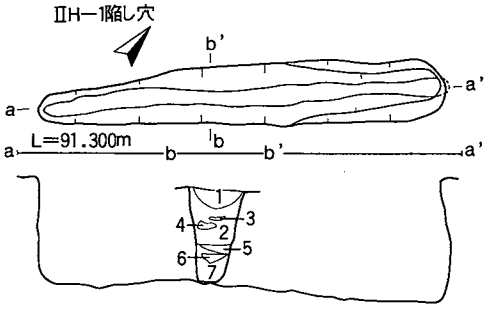
(177) ⅢG−5陥し穴
1．10YR3/4暗褐色土
2．10YR3/1黒褐色土～3/3暗褐色土



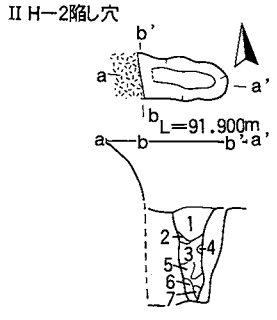
第54図　陥し穴状遺構（44）



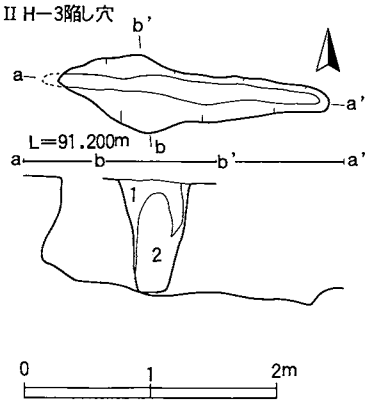
(178) ⅡG−6陥し穴
1．7.5YR3/4暗褐色土
2．7.5YR4/4褐色土



(179) ⅡH−1陥し穴
1．10YR2/1黒色土
2．10YR3/2黒褐色土
3．10YR2/1黒色土
4．10YR2/3黒褐色土
5．10YR2/1黒色土
6．10YR2/2黒褐色土
7．10YR3/4暗褐色土



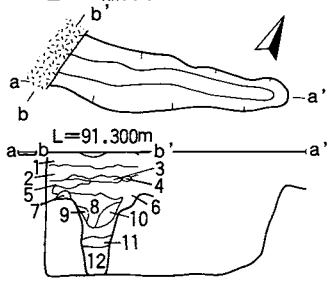
(180) ⅡH−2陥し穴
1．7.5YR1.7/1黒色土
2．10YR3/2黒褐色土
3．10YR2/3黒褐色土
4．10YR2/2黒褐色土
5．10YR3/2黒褐色土
6．10YR3/4暗褐色土
7．7.5YR4/3褐色土



(181) ⅡH−3陥し穴
1．10YR2/1黒色土
2．10YR3/2黒褐色土

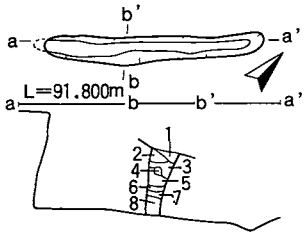
第55図　陥し穴状遺構（45）

IIH−4陥し穴



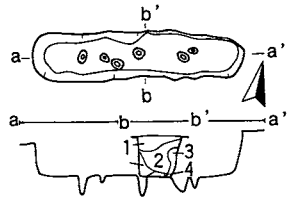
(182) IIH−4陥し穴
1. 10YR2/3黒褐色土
2. 10YR8/4浅黄橙色土
3. 10YR2/3黒褐色土
4. 10YR3/4暗褐色土
5. 10YR3/2黒褐色土
6. 10YR2/3黒褐色土
7. 10YR3/3暗褐色土
8. 10YR2/3黒褐色土
9. 10YR3/4暗褐色土
10. 10YR3/4暗褐色土
11. 10YR2/2黒褐色土
12. 10YR3/4暗褐色土

IIH−5陥し穴



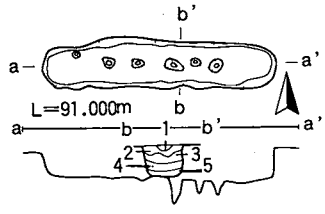
(183) IIH−5陥し穴
1. 7.5YR2/1黒色土
2. 10YR3/2黒褐色土
3. 10YR2/1黒色土
4. 10YR3/4暗褐色土
5. 10YR3/3暗褐色土
6. 10YR2/2黒褐色土
7. 10YR3/4黒褐色土
8. 10YR3/1黒褐色土

II I−1陥し穴

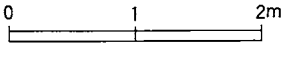


(184) II I−1陥し穴
1. 10YR2/3黒褐色土　汚れたシルト、締まりなし
2. 7.5YR3/3暗褐色土　汚れたシルト、締まりなし
3. 7.5YR3/4暗褐色土　いくぶん締まる
4. 7.5YR2/3極暗褐色土　いくぶん締まる

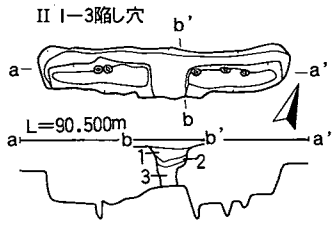
II I−2陥し穴



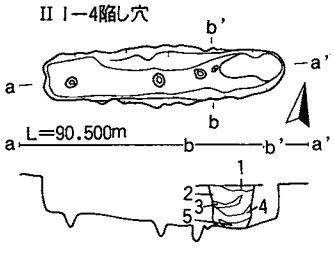
(185) II I−2陥し穴
1. 7.5YR3/2黒褐色土　汚れたシルト、締まりなし
2. 7.5YR4/4褐色土　汚れの少ないシルト、締まりなし、崩落土？
3. 7.5YR3/3暗褐色土　汚れたシルト、全体的に細かい
4. 7.5YR3/4暗褐色土　汚れたシルト
5. 7.5YR2/2黒褐色土　いくぶん締まりあり



第56図　陥し穴状遺構（46）



(186) II I－3陥し穴
1．7.5YR3/4暗褐色土　汚れたシルト、締まりなし
2．7.5YR2/3極暗褐色土　汚れたシルト、いくぶん締まる
3．7.5YR4/4褐色土　掘りすぎ



(187) II I－4陥し穴
1．10YR3/2黒褐色土　汚れたシルト、締まりなし
2．7.5YR3/3暗褐色土　汚れたシルト、いくぶん締まる
3．7.5YR3/4暗褐色土　汚れたシルト、締まりなし
4．7.5YR3/4暗褐色土　汚れたシルト、いくぶん締まる
5．7.5YR3/3暗褐色土　汚れたシルト、いくぶん締まる

第57図　陥し穴状遺構(47)

2　平安時代

〈1〉土坑

13基検出されたが、そのうちⅡＦ区から検出された６基のうち５基は同じ住居跡に伴う遺構であるとみられる。但し、この住居跡の範囲がほとんど把握できなかったため、全て単独の土坑として処理した。またⅢＨ区から住居跡と切り合う形で検出されたものは炭窯、ⅡＨ区から同じく住居跡と切り合う形で検出されたものはフラスコ状のものであった。住居跡に伴うと思われるⅡＦ区の土坑と比べるとⅡＨ・ⅢＨ区の土坑は概して規模の大きいものが多い。

表３　土坑一覧表

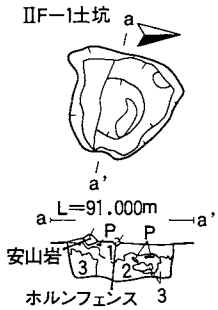
遺構名	（1） ⅡF−1土坑	（2） ⅡF−2土坑	（3） ⅡF−3土坑
図	58	58	58
写真図版	42	42	42
検出状況 重複関係			ⅡF−4住居跡の南西隅の一部を切る。
平面形	楕円形	(円形)	楕円形
開口部径	79×81cm	(132×98)cm	72×74cm
深さ	31cm	11cm	28cm
埋土	黒褐主体で、中央中〜下部に暗褐が混じる。褐は掘りすぎ。	黒褐シルト単層で土師器が入る。	黒褐シルトが３層に分かれるが、２層が20cmと最も層厚である。
底面	中央部が若干窪む。	北側が下がる。	南東側が下がる。
壁状況	若干外傾する。	大きく外傾する。	ほぼ直立する。
備考	遺物は304須恵器、305ロクロ使用坏、306須恵器(第112図、写真図版88)	遺物は307赤焼き土器（第112図、写真図版88)	遺物は309ロクロ使用甕、310、311ロクロ不使用、312ロクロ使用坏(第112図、写真図版88, 89)

遺構名	(4) IIF-4土坑	(5) IIF-5土坑	(6) IIF-6土坑
図	58	59	59
写真図版	42	43	43
検出状況 重複関係			
平面形	円形	円形	(楕円形)
開口部径	83×82cm	(68×42)cm	50×58cm
深さ	19cm	6cm	40cm
埋土	上部1層には焼土が混入し、土師器が入る。下層には暗褐シルトが入る。	暗褐～にぶい黄褐で一部火山灰？が混入する。	柱痕跡が認められ、この部分は黒褐シルト、掘り方面は暗褐～黒褐シルトである。
底面	平坦	ほぼ平坦。	南側が窪む。
壁状況	ほぼ直立する。	外傾する。	外傾する。
備考			

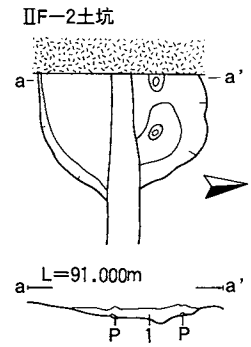
遺構名	(7) IIG-1土坑	(8) IIH-1土坑	(9) IIH-2土坑
図	59	59	60
写真図版	43	43	44
検出状況 重複関係	IIG-3陥し穴の西側一部を切る。		
平面形	楕円形	円形	円形
開口部径	(124×82)cm	106×118cm	94×94cm
深さ	50cm	48cm	8cm
埋土	黒、黒褐が細かく12層に細分される。	黒、黒褐系が主体で1～3層はレンズ状に堆積する自然堆積層。土師器含む。	黒～黒褐が薄く堆積するが、細部に撹乱もみられる。
底面	ボールの底型。	西側が大きく窪む。	ほぼ平坦。
壁状況	底面付近緩やかに外傾するもほぼ直立する。	西側がオーバーハング。東側が立ち上がる。	西側が外傾する。
備考			

遺構名	(10) IIH−3土坑	(11) IIH−4土坑	(12) IIIH−1土坑
図	60	60	61
写真図版	44	44	44
検出状況 重複関係	検出面に細かい礫が多数のる。IIH−3住居跡の北西隅を切る。		IIH−1住居跡の東側壁中央を切る。
平面形	楕円形	楕円形	円形
開口部径	(177×151)cm	190×100cm	120×131cm
深さ	79cm	34cm	12cm
埋土	上部8層はほぼ黒褐で覆われるが、一部褐も入る。下部4層は全て褐。	黒褐主体で、2〜3層、4〜6層は流れ込みの層である。	黒褐単層。
底面	東側が上がる。	ほぼ平坦。	西側が上がる。
壁状況	フラスコ状。	外傾する。	大きく外傾する。
備考			底面中央部が大きく焼成を受けており、範囲は60×82cmである。

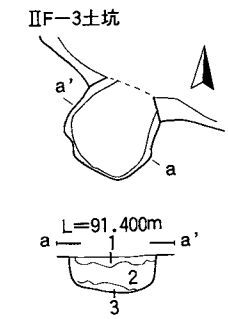
遺構名	(13) IIIH−2土坑	(14) IIIH−3土坑	
図	61	61	
写真図版	45	45	
検出状況 重複関係			
平面形	円形	楕円形	
開口部径	92×94cm	150×116cm	
深さ	28cm	37cm	
埋土	黒褐単層。	西側はほぼ黒褐細かくで覆われるが、東側には暗褐が単層で入る。炭化物、焼土少量混入。	
底面	ほぼ平坦。	東側に行くに従って下がる。	
壁状況	外傾する。		
備考		炭窯で焼成をうけている北側底面焼成部の範囲は44×37cm。	



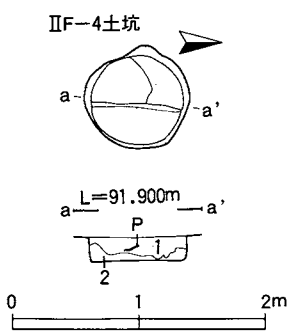
（1） ⅡF−1土坑
1．7.5YR2/2〜2/3黒褐色土　シルト質木炭片焼土ブロックを3%含む
2．7.5YR3/2黒褐色土〜3/3暗褐色土　シルト質、木炭片焼土ブロックを3%含む
3．7.5YR3/4褐色土　シルト質



（2） ⅡF−2土坑
1．7.5YR2/2黒褐色土　シルト質、粘性あり

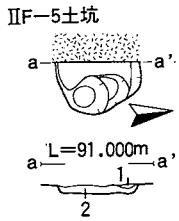


（3） ⅡF−3土坑
1．7.5YR3/2黒褐色土
2．7.5YR3/2黒褐色土
3．7.5YR3/1黒褐色土

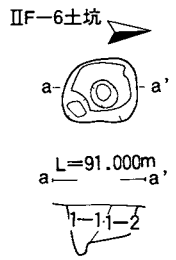


（4） ⅡF−4土坑
1．7.5YR2/3極暗褐色土〜3/3暗褐色土焼土2%、シルト質、粘性あり
2．10YR3/3暗褐色土　シルト質、粘性あり

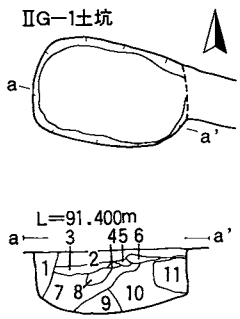
第58図　土坑（1）



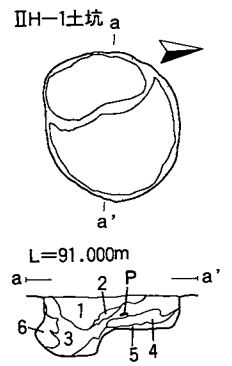
（5） ⅡF−5土坑
1．10YR3/3〜3/4暗褐色土　シルト質、粘性含む
2．10YR3/3暗褐色土〜4/3にぶい黄褐色土　シルト質、粘性あり



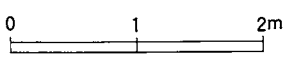
（6） ⅡF−6土坑
1−1．10YR3/2黒褐色土〜3/3暗褐色土　シルト質、粘性あり
1−2．10YR3/4暗褐色土〜4/4褐色土　シルト質、粘性あり



（7） ⅡG−1土坑
1．10YR2/2黒褐色土　撹乱層
2．10YR2/2黒褐色土
3．10YR2/2黒褐色土　焼土、褐色土2％含む
4．10YR1.7/1黒色土
5．10YR2/2黒褐色土
6．10YR2/2黒褐色土
7．10YR2/2黒褐色土　褐色土7％、黒色土5％含む
8．10YR2/2黒褐色土
9．10YR2/3黒褐色土
10．10YR2/2黒褐色土
11．10YR2/2黒褐色土　撹乱層

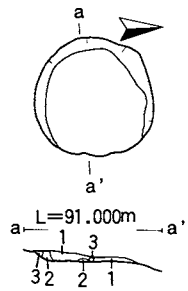


（8） ⅡH−1土坑
1．10YR2/1黒色土　暗褐色土ブロック含む
2．10YR2/2黒褐色土　黒色土との混合土
3．10YR1.7/1黒色土　暗褐色土ブロック含む
4．10YR3/4暗褐色土
5．10YR2/3黒色土　暗褐色土ブロック含む
6．10YR4/4褐色土　暗褐色土ブロック含む



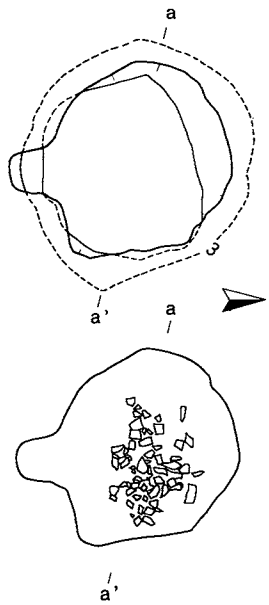
第59図　土坑（2）

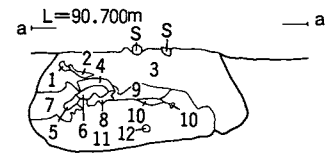
ⅡH−2土坑



(9) ⅡH−2土坑
1. 10YR1.7/1黒色土　東側しまりあり
2. 10YR3/3暗褐色土　黒褐色土ブロックを含む
3. 10YR2/3黒褐色土　暗褐色土との混合土

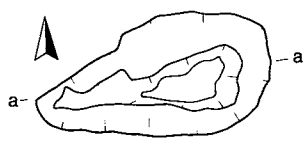
ⅡH−3土坑

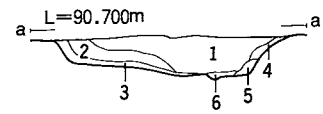




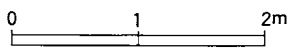
(10) ⅡH−3土坑
1. 10YR2/3黒褐色土
2. 10YR2/3黒褐色土
3. 10YR2/3黒褐色土
4. 10YR3/1黒褐色土
5. 10YR3/2黒褐色土
6. 10YR4/6褐色土
7. 10YR3/2黒褐色土
8. 10YR3/2黒褐色土
9. 10YR4/6褐色土
10. 10YR4/6褐色土
11. 10YR4/6褐色土
12. 10YR4/4褐色土

ⅡH−4土坑



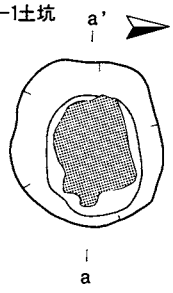


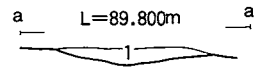
(11) ⅡF−4土坑
1. 10YR3/2黒褐色土
2. 10YR2/2黒褐色土
3. 10YR2/3黒褐色土
4. 10YR3/2黒褐色土
5. 10YR3/2黒褐色土
6. 10YR3/2黒褐色土



第60図　土坑（3）

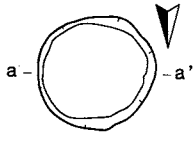
ⅢH−1土坑

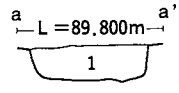




(12) ⅢH−1土坑
1．10YR3/2黒褐色土

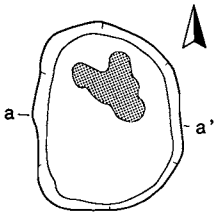
ⅢH−2土坑

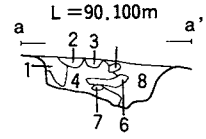




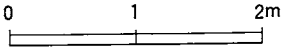
(13) ⅢH−2土坑
1．10YR2/2黒褐色土　シルト、粘性なし、10YR5/6黄褐色土を少量含む

ⅢH−3土坑





(14) ⅢH−3土坑
1．10YR2/3黒褐色土炭化物2含む
2．10YR3/2黒褐色土焼土粒5%、白色粘土2含む
3．10YR2/3黒褐色土焼土粒1%、白色粘土含む
4．10YR2/2黒褐色土炭化物1%含む
5．10YR2/3黒褐色土
6．10YR2/2黒褐色土
7．10YR2/2黒褐色土
8．10YR3/3暗褐色土炭化物1%含む



第61図　土坑（4）

〈2〉竪穴住居跡

古代の竪穴住居跡は20棟検出された。時期は全て平安時代に属するものである。このうち全体を調査できたのは6棟のみで、残りは一部が調査区外に含まれていたり、後世の削平を受けていたりで全体を調査することはできなかった。

IIB－1住居跡（第62図、写真図版48）

調査区最南端の飛び地IIB区の最北端、IIC区と隣接する境界付近より検出された。黄褐色またはやや汚れた黄褐色を呈するフラットロームの中から多量の土師器が出土したことから住居跡として精査を進めた。現況は滝名川に最も近く、カマドの東はすぐ滝名川にいたる段丘崖であり、かつ低地にあるため水が貯まりやすく、検出当時も水が貯まっている中で検出、精査を進めざるを得なかった。また数度にわたる滝名川の氾濫によって堆積したフラットロームが埋土と周りの土の判別を困難にし、プランを平面で把握することができなかった。土器や炭化物が広がる範囲でプランを把握することにつとめたが、ほぼ正確なところを把握できたのはカマドのみであった。なお、西側半分は水田の法面と調査区外にかかっていたため未調査である。

平面形　不明　**規模**　不明

埋土　第6～9層にかけては密に堆積するが、南側第6～9層は南にいくにしたがって消失し、南側は第9層のみが層の大部分を占める。水田を造成する際に盛られた客土が、調査区外の西側に3～4m、調査区内にも50cm以上堆積するが、この下にフラットロームが入り、そのレベルに一度住居をつくった痕跡が認められ、貼床の跡がある。掘り方面がその下に続き、その下部に上層のものと時期が異なるフラットロームが入る。これが30cm程堆積し、その下が検出された床面である。

床面　貼床は断面では認められるものの平面では周囲に広がるフラットロームと全く同じ色調、性状であり痕跡を確認することはできず、範囲も不明である。床面直上には再堆積の炭化物が広がる。

壁　周囲の壁は削平、氾濫による流失で正確なところはつかめなかったが、断面では第2層での生活面は2～10cm、検出した面では4～7cm程とみられる。

焼土・炭化材　ともに認められない。

柱穴　推定する住居の範囲からは11個検出されたが、本遺構の周囲に多数の柱穴群が広がっており、どれが本遺構に伴うものか明らかではない。その中でカマド状遺構の北側に存在する柱穴からは硬砂岩が出土しており、他の柱穴にはみられないことから住居跡に何らかの関係があるものと推定されるが、正確なところは不明である。

土坑　認められない。

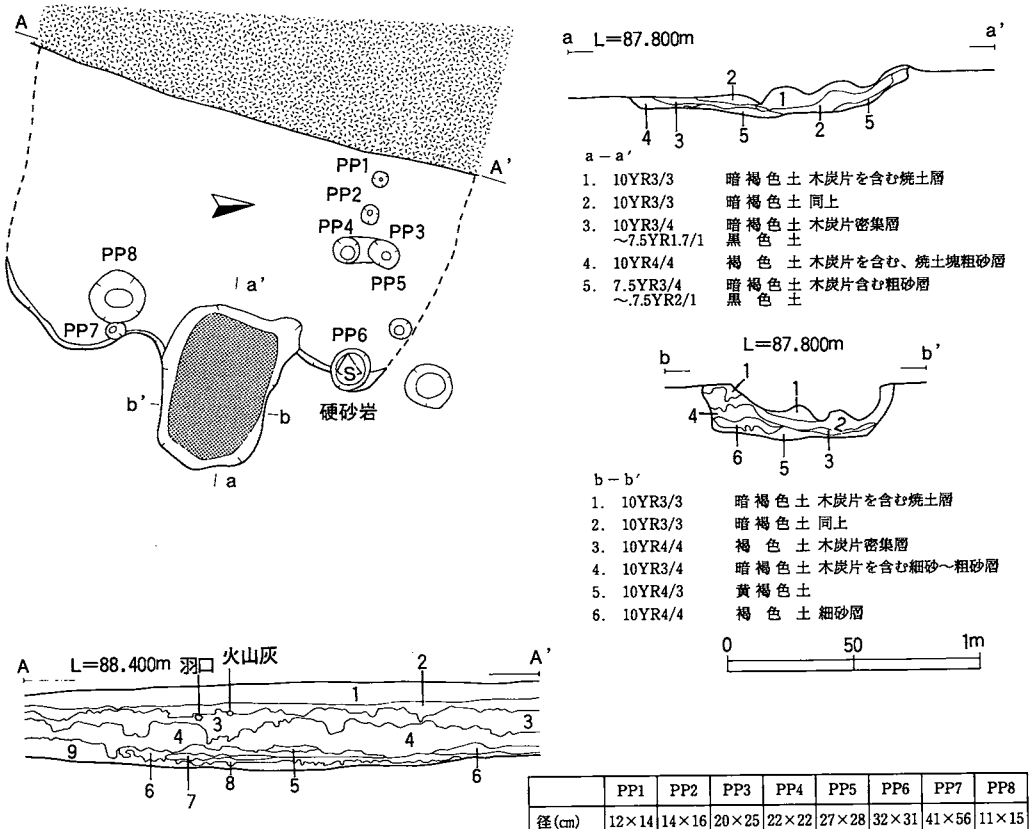
カマド 〈位置〉 東壁 〈主軸方向〉 N94°E

〈本体〉 煙道、煙出しの明確な区別がなく、東南東向きに不整な楕円形を呈し、張り出している。ほぼ全面が燃焼部となっており、規模は132×90cm、深さは4～12cm程である。この中から10世紀代の土師器が多量に出土している。

重複する遺構 柱穴群

時期 10世紀前～中葉

遺物（第90図、写真図版69）



a－a′

1. 10YR3/3 暗褐色土 木炭片を含む焼土層
2. 10YR3/3 暗褐色土 同上
3. 10YR3/4～7.5YR1.7/1 暗褐色土～黒色土 木炭片密集層
4. 10YR4/4 褐色土 木炭片を含む、焼土塊粗砂層
5. 7.5YR3/4～7.5YR2/1 暗褐色土～黒色土 木炭片含む粗砂層

b－b′

1. 10YR3/3 暗褐色土 木炭片を含む焼土層
2. 10YR3/3 暗褐色土 同上
3. 10YR4/4 褐色土 木炭片密集層
4. 10YR3/4 暗褐色土 木炭片を含む細砂～粗砂層
5. 10YR4/3 黄褐色土
6. 10YR4/4 褐色土 細砂層

0 50 1m

A－A′

1. 10YR2/3 黒褐色土 客土及びあぜ道盛土
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性なく砂状、貼床？
3. 10YR2/3 黒褐色土 上の貼床に伴う掘り方面か？シルト層、ふいごの羽口含む
4. 10YR3/3 暗褐色土 洪水による撹乱層
5. 10YR3/3 暗褐色土
6. 10YR2/3 黒褐色土 シルト層、土器を比較的多く含む。
7. 10YR3/3 暗褐色土 砂状シルト。再堆積炭化物を多く含む。
8. 10YR2/3 黒褐色土
9. 10YR3/4 暗褐色土 砂状シルト

	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6	PP7	PP8
径(cm)	12×14	14×16	20×25	22×22	27×28	32×31	41×56	11×15
深さ(cm)	13	15	17	19	29	18	9	11

0 1 2m

第62図 ⅡB－1住居跡

1はロクロを使用しない甕の口縁部から体部上半にかけての破片である。ヨコナデ、ナデ調整で口縁部との境目に一部ケズリがみられる。2も1と同じ器種であるが体部の調整はケズリの後ナデているものとみられる。3、4はいずれもロクロ使用の坏であるが、3は内面に黒色処理を施している。4の底部は糸切り後若干の再調整がみられる。5はロクロ不使用の甕で内外とも明褐色を呈し、胎土には中～細礫も含まれる。

IIC－1住居跡（第63・64図、写真図版49）

調査区最南端にある飛び地の中の最北端IIC区より東側一部が検出された。床面は周囲と異なり、褐色と黄褐色フラットロームの混合土で水気を十分に含んでいる。しかし、この面は本住居跡のすぐ北にある基本層序から観察すると滝名川の氾濫の影響を受けており、再堆積のものであると考えられる。この層から多量の土師器を中心とする遺物が出土したため、住居跡の可能性を考えながら精査を進めた。その結果、15cm程下部から褐色の床面を検出した。しかし、IIC－1住居跡同様、川の氾濫により壁や床面の一部が流失しており、全体の範囲、形状を確認することはできなかった。また、西側半分は水田の法面と調査区外にかかっていたため未調査である。

平面形　不明　**規模**　不明

埋土　上～中位にかけては暗褐色土を基調とし、60～94cm程堆積する。下位は褐色～暗褐色土に黒褐色土が細かく混入し、細分されるが、床面については明確に把握できなかった。上～下部にかけては部分的に十和田a降下火山灰が堆積するが、全て再堆積したものである。

床面　床面となるのは調査の時点で明らかに床面と確認できた褐色の面よりも上層の褐色とフラットロームが混じる面であるとみられ、ここから遺物が多く出土する。床面は双方ともシルト質でやや砂も混じる。最下部の焼土が検出された面は周囲と同じフラットロームである。床面の範囲は主に遺物と炭化物が広がる面を基準としたが明確な範囲はつかめなかった。

壁　断面でも平面でも全く確認できなかった。川の氾濫等で流失したと考えられる。

焼土・炭化材　細かい炭化物が床面に広く散らばっているが、これらは全て再堆積のものである。

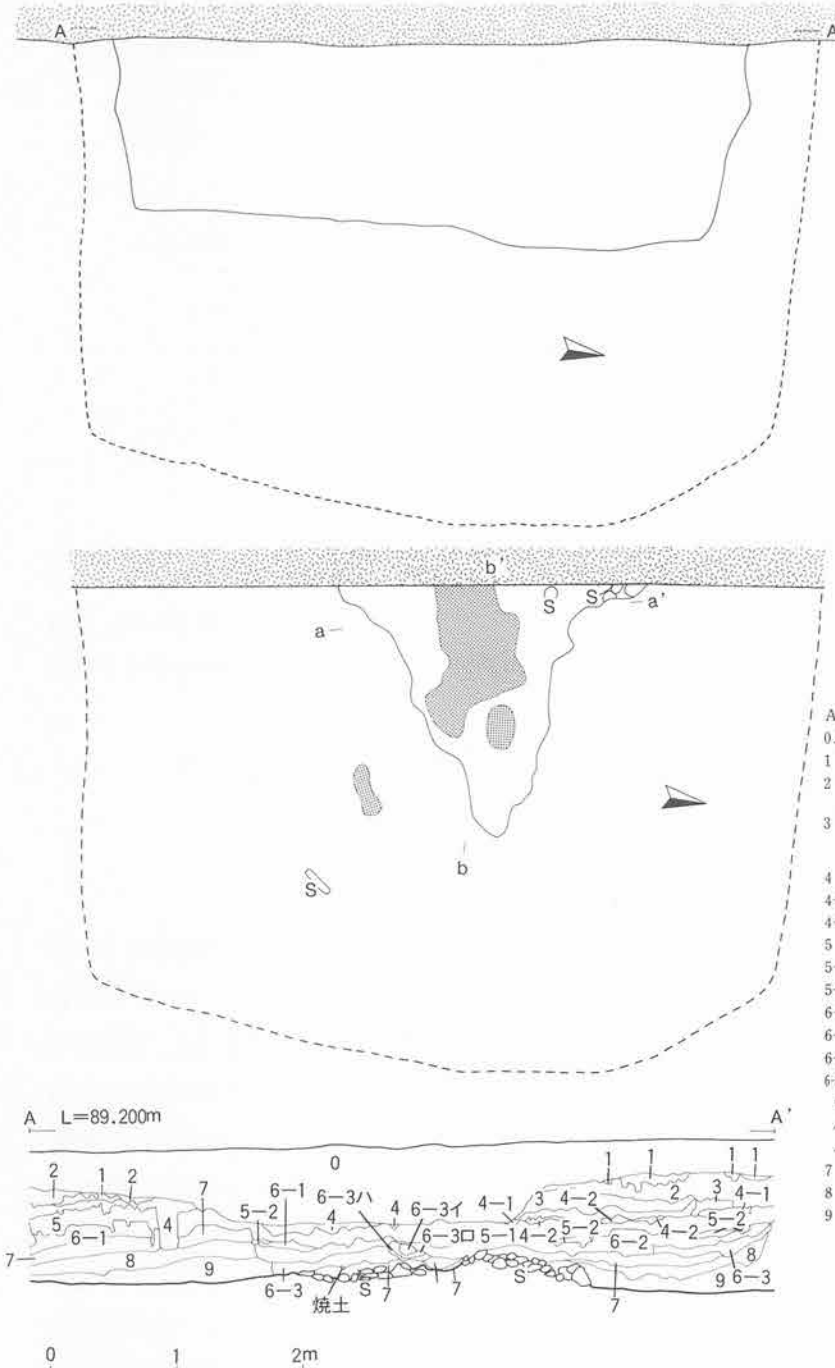
柱穴　周囲の柱穴群との区別がつかず、明らかに本住居跡に伴うものと確認されるものはない。

土坑　認められない。

カマド　〈位置〉　不明　〈主軸方向〉　不明

〈本体〉　最下部のフラットローム層から検出された焼土は通常のカマドにみられる芯材等の礫は確認されなかったが、川原の小石を多量に詰め込んでおり、焼土の部分は土や石で盛り上

げていた。焼成範囲は106×53cm程であるが、焼土の周囲を小石や土で盛り上げた範囲は196×246cm程にまで広がり、東側を頂点とする不整な三角形状を呈する。本住居跡のレベルでは壁、

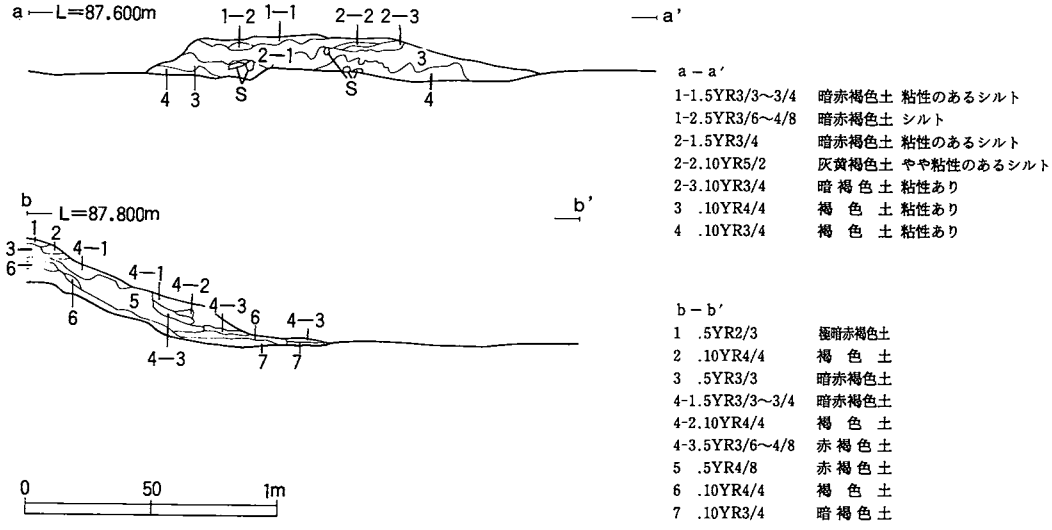


A－A'

0.耕作攪乱土 水田客土上に続く現代の攪乱土層。

1	.7.5YR3/2	黒褐色土 シルト層、粘性あり
2	.SYR3/1	黒褐色土 シルト層、木炭片と焼土塊を3～5%含む。
3	.7.5YR2/3	極暗褐色土 シルト層、粘性あり、.7.5YR4/6褐色土の粘土塊を20%含む（貼床）
4	.7.5YR3/3	暗褐色土 シルト層、粘性あり
4-1	.7.5YR3/4	暗褐色土 シルト層
4-2	.7.5YR3/3	暗褐色土 シルト層
5	.10YR3/3	暗褐色土 細砂層
5-1	.10YR3/4	暗褐色土 粘性あり
5-2	.10YR4/4	褐色土 粘性あり
6-1	.10YR4/4	褐色土 粘性あり
6-2	.10YR4/4～4/6	褐色土 粘性あり
6-3	.10YR4/4	褐色土
6-3イ	.5YR3/3	暗赤褐色土
ロ	.5YR4/6	赤褐色土
ハ	.5YR3/3～3/4	暗赤褐色土
ニ	.10YR4/4	褐色土
7	.10YR4/4	褐色土 細砂層
8	.10YR4/4	褐色土 粘性あり
9	.10YR3/4	暗褐色土 粘性あり

第63図　ⅡC－1住居跡（1）



第64図　ⅡC－1住居跡（2）

その他のカマドの施設が全く確認できないため、明確なカマドとすることはできないが、周囲を盛り上げている点や、小石を詰め込んでいる点等を考えると、カマド的な役割を持った施設である可能性が高い。

〈煙道部・煙出し部〉　認められない。

重複する遺構　柱穴群

時期　10世紀中葉

遺物（第90～93図、写真図版69～72）

6～23まではいずれもロクロを使用しない甕である。いずれも胎土は粗く、調整はほとんどが外面がヨコナデ、ケズリ、内面がヨコナデ、ナデである。外面に一部ミガキ、ナデがみられるものも一度ケズリをいれた後、再調整を施している。6は口唇部が大きく外反し、体部上半が緩やかに膨らむ。胎土は粗く、細礫が全面に密に入る。内面は丁寧なナデ調整が施されている。7、9、14は口縁部が「く」の字状を呈する。11は「く」の字状より僅かに外反し、体部上半は緩やかに膨らむ。16は一部黒ずんだ部分がみられ、指頭圧痕もみられる。17は口縁部がやや薄手である。18は胎土が橙～赤褐色系で赤焼きに近い。19は体部に巻き上げ痕がみられ、内外とも体部にはケズリ後ナデ調整を施している。24～43はロクロ使用の坏である。いずれも回転糸切り調整がみられるが、27、29、31、36は再調整されている。24は外側の一部が赤褐色を呈しており、口唇部は緩やかに外反している。25は小さめの坏である。27は外側に明瞭なロ

クロ痕が細かく残るが、内側は不明瞭である。外面底部に糸切り後、刻書を施した痕がみられるが、何を表しているかは明確でない。底部から体部中半までは比較的緩やかに立ち上がっている。28は体部下半から底部径がやや小さくなる。29は内面黒色処理されているが、処理後の擦痕もみられる。30も内面黒色処理されており、よく磨かれている。31は一部内面黒色処理されている。32～36は小型の坏である。32は口縁部の一部に炭素粒が付着している。35は皿状の台付坏である。坏台は剝がれてしまっているが、底部中央には糸切りの痕が残り、本体をつくった後に、台をつくったものである。37～42は内面黒色処理されている。37は外側口縁部にも炭素粒が付着している。38は小型でやや体部が広がり気味で、内面が剝がれてきている。39は外面体部下半にも若干の炭素粒が付着している。40は内面黒色が、剝がれてきている。41は口縁部がやや外反している。42は体部中～口縁部にかけて直立気味に立ち上がる。43は内面全面～外側体部上半は橙色、下半には炭素粒の付着がみられる。45は胎土橙～赤系、内面は黒色処理である。46はロクロ不使用の甕で体部には巻き上げ痕がみられる。48はロクロ使用の坏であるが、他のものと比べると器壁が厚い。49は内外面とも調整が不明瞭である。50はロクロ不使用の甕で胎土は粗く、極粗砂～細礫が密に入り、器壁は厚めである。51は一部内面に黒色処理の部分がある。52、53はロクロ不使用の胴部で、52はカキメが4本斜めに入り、53はカキメ（擦文？）が斜めに交差し、横にも交差部分の下に1本入るが、この系統の文様は他にはみられない。54は鉄製の釣り針である。

IID－1住居跡（第65図、写真図版50）

最南端の飛び地と隣接する調査区南部IID区のやや北よりから、西側が調査区外にかかる形で検出された。黒褐色の埋土が部分的に広がり、焼土の一部も埋土とともに確認されたことから竪穴住居跡として精査を進めた。水田造成の際の削平が著しく、一部床面が残る以外は掘り方で範囲を確認する以外に方法はなかった。また焼土部分より東側は削平によって一段低くなっており煙道部、煙出し部などは全く残っていない。当初、掘り方面とみられた第1床面の下部からは遺物や焼土を含んだ土坑が検出され、以前の生活面であることが確認された。

平面形　隅丸方形？　**規模**　（498×316）cm

埋土　第1層は水田造成時の盛土で、第2層上面から生活面とみられるが、本住居跡検出時には既に第2～4層までは削平されており、第4層下部から場所によっては第5層上部しか残っていなかった。

床面　第1床面は貼床をした跡は認められるが、削平されていた部分が多かった。貼床が残っていた面は踏みしめられており硬い。第2床面はやや砂を含む黒褐色土で貼床面よりは粘性に欠ける。

壁　第１面の壁は削平が進んでおり、壁高が１cm以下のところも多い。削平の著しい東側を除くと南北ともに直立気味に外傾する。壁高は第１面が0.5～7cm、第2面が22～40cm程である。

焼土・炭化材　認められない。

柱穴　11基確認された中、確実に第１面より前にさかのぼらないのは７基である。残りは第２面においても確認される。PP3～PP6の４基はカマド脇のP1の周囲より四隅に配されており、この遺構に関連するものであると考えられる。

土坑　本住居跡第１面に関するものは５基（P1～P5）、第２面に関するものは２基（P6、P7）である。P1は上層が炭化物１％が混入する黒褐色土で、下層は暗褐色土でそれぞれ土師器坏の底部を含む等、遺物量が非常に多い。P2は焼土粒３％混入の黒・暗褐色土で埋土が構成され、土師器坏の破片が多く出土する。P5は３～10cmの層厚で焼土粒が部分的に入る。P6、P7からも多量の土師器片が出土している。

カマド　〈位置〉　東壁やや南寄り　〈主軸方向〉　N103°E

〈本体〉　燃焼部焼土のみ残存し、煙道、煙出しは全て削平され残っていない。焼成範囲は81×104cm、層厚は13～22cm程で、燃焼部は明褐色を呈し、比較的硬質である。構成礫の残りとみられる礫は10×５cm程のものが多く残る他、土師器、須恵器の出土がみられた。

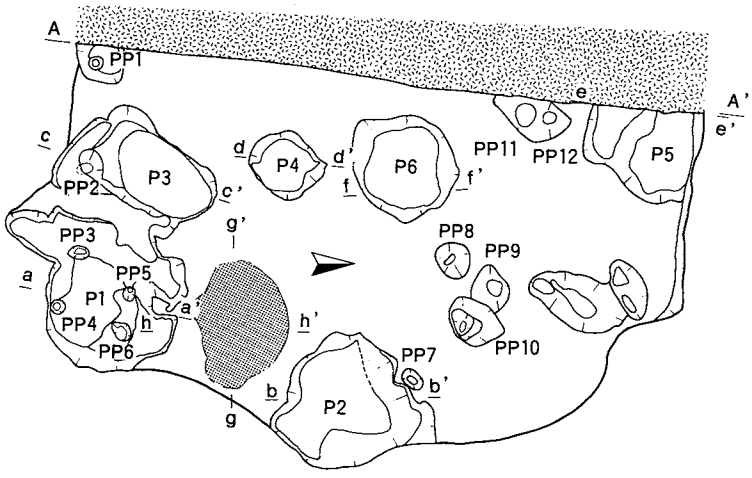
〈煙道部・煙出し部〉　削平され残っていない。

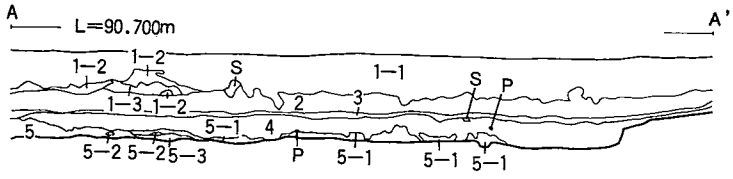
重複する遺構　ⅡＤ－６、ⅡＤ－９、ⅡＤ－21、ⅡＤ－22、ⅡＤ－28、ⅡＤ－29の各陥し穴が第１面から、第２面にかけて本住居跡と切り合う。

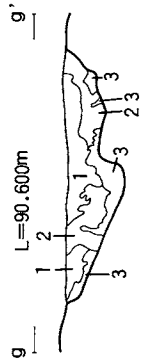
時期　出土遺物から９世紀第４四半期～10世紀前葉に比定される。

遺物（第94～98図、写真図版72～75）

55～57はロクロ不使用の甕で、55は「く」の字状口縁を呈し、体部上半がやや張り出す。56は小型で、胎土は粗く、底部は砂底である。57はナデ調整で、胎土は極粗砂以下で黒雲母も比較的多く混入し、口縁部は短く、緩やかに外反する。58はロクロ使用の小型の甕で、口縁部は外側に張り出し、体部のロクロ痕も明瞭である。59も口縁部が大きく張り出している。60～64はいずれも口縁部が「く」の字状を呈している。61、62は胎土が粗めで61は極粗砂以下の粒が密に、62は胎土に石英、輝石、角閃石等の細礫以下の粒が入り、体部の膨らみは少ない。63は口縁部内側が黒ずんでいる。64～70はロクロ使用の甕である。64は体部から頸部にかけて内側に入り、頸部～口縁部が外側に張り出す。65は口縁部が外側に張り出すが、やや折れ曲がり気味。66は胎土が粗めで薄手、頸部から外側に張り出す。67は小甕であるが、体部上半の膨らみは少なく、薄手であるが硬質である。68は口縁部最上部が平らになってやや外側に張り出す。70は「く」の字状口縁で、口縁部は中頃で肥厚し、角度を変えて強く外反する。71はロクロ不使用の甕で粒径１～２㎜程度の極粗砂が入る粗めの胎土であり、口縁部は緩やかな「く」の字

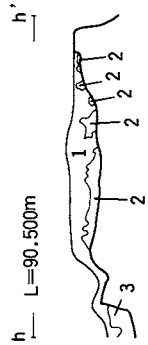






g－g'

1. 5YR5/8～4/8　明赤褐色土 焼土層
   赤褐色土
2. 7.5YR3/4　暗褐色土 焼土層
3. 10YR3/3～3/4　暗褐色土 焼土層

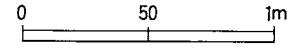


h－h'

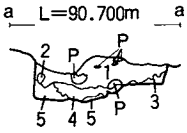
1. 7.5YR5/8　明褐色土 焼土層
2. 10YR3/4　暗褐色土 焼土層
3. 10YR3/4　暗褐色土 焼土層

A－A'

1-1.7.5YR2/1　黒色土
1-2.10YR3/3～3/4　暗褐色土
1-3.10YR2/2　黒褐色土
2 .7.5YR3/1～3/2　黒褐色土
3 .7.5YR3/2～3/3　黒褐色土 暗褐色土
4 .7.5YR2/2　黒褐色土
5 .10YR3/3～3/4　暗褐色土
5-1.10YR2/3　黒褐色土
5-2.10YR3/2～2/2　黒褐色土
5-3.10YR2/3　黒褐色土

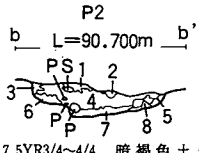


P1



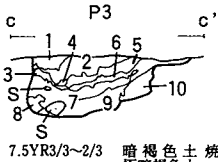
1. 10YR2/2～2/3　黒褐色土 焼土3%、土師器片含む、シルト
2. 10YR2/3～3/3　黒褐色土 シルト、暗褐色土
3. 10YR3/4～4/4　暗褐色土 シルト、褐色土
4. 10YR3/3～3/4　暗褐色土 焼土1%、土師器片含む、シルト
5. 10YR3/3～3/4　褐色土 シルト

P2



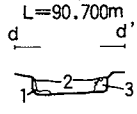
1. 7.5YR3/4～4/4　暗褐色土 焼土1%、土師器破片含む、シルト
   褐色土
2. 10YR3/4　暗褐色土 焼土1%、土師器破片含む、シルト
3. 7.5YR3/2～3/3　黒褐色土 シルト、暗褐色土
4. 7.5YR3/3～3/4　暗褐色土 焼土10%、土師器破片含む、シルト
5. 7.5YR4/4～4/6　褐色土 シルト
6. 10YR3/2～3/3　黒褐色土 シルト、暗褐色土
7. 7.5YR3/3　暗褐色土 焼土3%、土師器破片含む、シルト
8. 7.5YR2/2～3/2　黒褐色土 シルト

P3



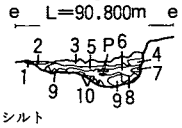
1. 7.5YR3/3～2/3　暗褐色土 焼土2%、土師器破片含む、シルト
   極暗褐色土
2. 7.5YR2/2　黒褐色土 焼土3%、土師器破片含む、シルト
3. 7.5YR2/2～3/2　黒褐色土 焼土2%、土師器破片含む、シルト
4. 10YR3/4　暗褐色土 シルト
5. 7.5YR2/3～3/3　極暗褐色土 焼土3%、土師器破片含む、シルト
   暗褐色土
6. 7.5YR2/3～2/2　極暗褐色土 土焼1%、土師器破片含む、シルト
   黒褐色土
7. 7.5YR2/3～3/3　極暗褐色土 土焼7%、土師器破片含む、シルト
   暗褐色土
8. 7.5YR3/2～3/3　黒褐色土 シルト、暗褐色土
9. 7.5YR2/2～2/3　黒褐色土 土焼3%、土師器破片含む、シルト
   暗褐色土
10. 7.5YR4/3～4/4　褐色土 シルト

P4



1. 7.5YR3/4～4/4　暗褐色土 シルト、褐色土
2. 7.5YR2/2～3/2　黒褐色土 シルト
3. 7.5YR3/3～4/3　暗褐色土 シルト、褐色土

P5



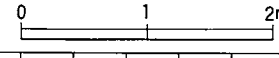
e－e'

1. 10YR2/3　黒褐色土 シルト
2. 7.5YR2/2　黒褐色土 シルト
3. 7.5YR2/3　暗褐色土 シルト
4. 7.5YR3/4～4/4　暗褐色土 シルト、褐色土
5. 10YR2/2～3/2　暗褐色土 焼土1%、土師器破片含む、シルト
6. 10YR2/2～2/3　黒褐色土 シルト
7. 10YR2/3～3/3　黒褐色土 シルト、暗褐色土
8. 10YR2/2～3/2　黒褐色土 シルト
9. 10YR3/4～4/4　暗褐色土 シルト、褐色土
10. 7.5YR3/3　暗褐色土 シルト

P6

f－f'

1. 7.5YR3/4～4/4　暗褐色土 焼土2%、土師器破片含む、褐色土
2. 7.5YR3/3～4/3　暗褐色土、褐色土
3. 10YR2/3～3/3　黒褐色土 焼土1%、土師器破片含む
   暗褐色土
4. 10YR4/4　褐色土
5. 10YR3/3　暗褐色土



	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6	PP7
径(cm)	31×38	19×25	11×17	12×11	12×10	20×12	19×12
深さ(cm)	30	66	21	14	8	15	6

	PP8	PP9	PP10	PP11	PP12
径(cm)	28×28	26×32	44×34	18×38	26×32
深さ(cm)	17	53	63	66	69

	P1	P2	P3	P4	P5	P6
径(cm)	74×98	125×108	60×102	56×63	(73×68)	83×85
深さ(cm)	38	29	48	16	39	40

第65図　IID－1 住居跡

状を呈し、口唇部の器壁は厚くなる。72～74はロクロ使用の甕である。72は「く」の字状口縁で、体部上半に僅かに膨らみを持つ。73の胎土には中礫もいくつか含まれ、内外ともに薄黒い。74は口縁部が短く外傾し、口唇部が外反気味に屈曲する。75、76はロクロ不使用の甕であるが、75は「く」の字状口縁で、口縁部内面には炭化物の付着がみられる。77～94まではロクロ使用の坏である。78は薄手で焼成はやや不良で若干脆い、赤焼き系の土器である。79は内面黒色処理でよく磨かれており、底部の器壁が厚い。80も内面黒色処理されているが、底部の糸切り痕は不明瞭で再調整している可能性もある。81は内外面とも黒色処理されよく磨かれている。82は体部上半にやや膨らみを持ち、内外面の所々が黒くなっている。83は内面黒色処理され、口縁部は若干開き気味である。84は体部上半から口縁部が僅かに開き、胎土には粗砂～中砂が多く含まれる。外面体部下半から底部にかけてと、内面底部周辺が一部黒ずんでいる。86はいわゆる赤焼き土器である。87は胎土が緻密で一部に石英も含まれる。88は口縁部から体部にかけて一部黒ずみ、口縁部が極僅かに外反する。90は胎土緻密、焼成良好で内外とも灰色を呈し、体部中半が若干膨らむ。口縁部は一定の角度で直線的に立ち上がる。91は外面体部に線刻痕があり、体部内面は薄黒い。93は胎土が粗く、粗砂が密に入る。95、96は甑で同一個体であるとみられるが、直接接合はしない。両方とも体部下半で斜めに穿孔されており、95は底部筒抜けで、「く」の字状に開く脚付である。97～101はロクロ不使用の甕である。97は外面がケズリで、全体的に黒ずんでいる。胎土には粗砂が多く含まれ、器型に丸みは少なく、底部から体部中頃までは50°ほどの角度で直線的に立ち上がる。98は小型の甕で巻き上げ痕が若干残るものの、調整は明瞭ではない。胎土は粗く中礫も若干含まれる。99にも底部と胴部の境に巻き上げ痕が残る。100は胎土が茶系で、外面は粗い。101は体部下半が黒ずんでいる。102～109はロクロ使用の坏である。102は内面黒色処理されている。103は底部がやや黒ずんでいる。104は糸切り痕がかなり薄く再調整の可能性もある。106は胎土粗めで、石英等極粗砂が40%含まれている。107は胎土がやや脆い。109は糸切り後再調整で胎土は緻密である。110は3個で1組になる坏台の中の1点である。111は土錘で本遺構からは1点だけ出土した。長さ6.3cm、幅2.1cmほどである。112～114は鉄製品である。

ⅡＥ－1住居跡（第66図、写真図版51）

文化課試掘の際、焼土、須恵器の破片と共に確認された。水田造成時の削平の他、木根、草根による攪乱を著しく受けており、西側と南側の一部が完全に削平されていると共に、東・北側の壁もほとんど立たない。本遺構も生活面が第1面（上面）と第2面（下面）に分かれ、第1面の焼土からは馬歯が焼土に付着する形で出土している。

平面形　隅丸方形？　**規模**　（316×261）cm

埋土　最上層の黒褐色土は焼土粒６％の他、土師器、須恵器が混じる遺物包含層であるが、相当部分削平されているものとみられる。床面に至るまで焼土、十和田ａ降下火山灰、炭化物等が混在しており、かなり攪乱を受けているものとみられる。

床面　第１面の床面は黒褐色を呈しており比較的硬く、これが貼床となっている。これをはがすと下部より焼土粒、土師器片を含む土坑が３基検出された。この土坑のレベルにあるのが第２面となる。南・西側は床面まで完全に削平されている。

壁　壁が残存するのは北・東側の一部のみでそれも垂直に立ち上がる形ではない。壁高が最も高いところで10cm程である。南側壁はカマド脇の土坑までは残存するものの、その南側は完全に床面まで削平されている。また、東側も床面まで完全に削平されている。

焼土・炭化材　認められない。

柱穴　完全に住居跡内に入っているものは２基である。東側に延びるものまで含めると更に５基が確認されるが、本住居跡に伴うものかどうかは不明である。

土坑　４基検出された。P1 は上層に十和田ａ降下火山灰が少量含まれ、自然堆積であるが上～中部にかけて黒褐色腐植土層が薄く入る。P2 の中～下層にかけて焼土粒を５％程度含む焼土層が大半を占めるが、北側に一部黒色腐植を含む黒褐色土層が入る。P3 は黒褐色～暗褐色土が入るが第２～４層を中心に焼土粒、土師器片等が含まれる。P4は層厚３cm程の第１層に焼土、土師器片が含まれる。

カマド　〈位置〉　東壁やや南寄り　〈主軸方向〉　N108°E

〈本体〉　燃焼部焼土が残存する。本体の構成礫と思われる22×15～９×４cm程のホルンフェルスが８個残る。また、埋土中～下部からは流紋岩、極細粒珪質凝灰岩等も６個出土しており、カマドに関するものとして使用された可能性がある。この礫は板状に割れたものも多数出土した。また焼土に付着する形で馬歯が検出されたが、この焼土直上まで草根等による攪乱を受けており、この焼土と時期が合致するか明確ではない。焼土の範囲は107×84cm程である。

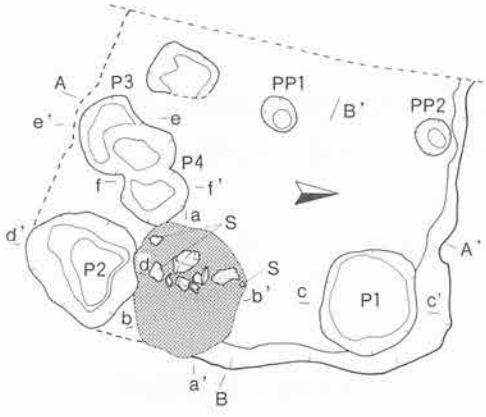
〈煙道部・煙出し部〉　煙道は完全に削平され残っていないが、煙出しは40×36cmの範囲、深さ１cm程と僅かに残存する。

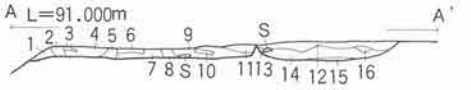
重複する遺構　ⅡＤ－36陥し穴と切り合う。

時期　９世紀末～10世紀

遺物（第98～100図、写真図版75～77）

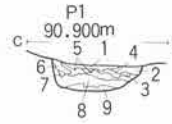
115はロクロ不使用長胴甕の完形品である。内外面ほぼ全面にヨコナデ、ナデ調整で、内面下半に一部ケズリがみられる。口縁部は「く」の字状を呈し、外面体部下半、内面底部に炭化物が付着している。若干上げ底で、内面は砂粒がとれた痕が残る。116はロクロ使用の甕で、口縁部は外側に張り出し、上方に引き出されている。口縁部内面は黒くなっている。117～121

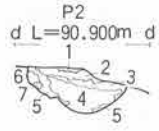


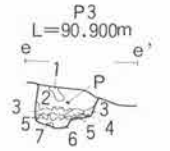


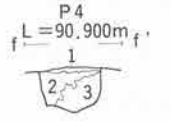
A－A'

1.	10YR2/3	黒 褐 色 土 橙色小土粒１％、焼土粒５％混入
2.	10YR3/2	黒 褐 色 土 明褐色焼土30%混入
3.	10YR2/3	黒 褐 色 土 焼土粒５％混入
4.	10YR2/3	黒 褐 色 土 一部撹乱
5.	7.5YR3/3	暗 褐 色 土 焼土粒７％混入
6.	10YR2/2	黒 褐 色 土
7.	10YR2/2	黒 褐 色 土 炭化物１％混入
8.	10YR2/2	黒 褐 色 土 礫３％、炭化物７％混入
9.	10YR2/2	黒 褐 色 土 炭化物、焼土粒各２％混入、粒師器片含む
10.	10YR2/2	黒 褐 色 土 焼土３％、炭化物１％混入
11.	10YR2/2	黒 褐 色 土 一部暗褐色土シルト含む
12.	10YR2/2	黒 褐 色 土
13.	10YR2/3	黒 褐 色 土 炭化物10%、火山灰２％混入
14.	10YR2/2	黒 褐 色 土 炭化物１％混入
15.	10YR3/4	黒 褐 色 土 固く締まりあり
16.	10YR2/3	黒 褐 色 土 黒色土20%含む









c－c'

1.	10YR4/2～4/3	灰黄褐色土 十和田ａ降下火山灰を若干含む、シルト にぶい黄色土
2.	7.5YR4/3～4/4	褐 色 土 シルト
3.	7.5YR4/4～3/4	褐 色 土 シルト 暗褐色土
4.	7.5YR3/2～3/3	黒褐色土 シルト 暗褐色土
5.	7.5YR4/3～3/3	褐 色 土 シルト 暗褐色土
6.	10YR4/4～3/4	褐 色 土 シルト 暗褐色土
7.	10YR3/3～3/4	暗褐色土 シルト
8.	10YR3/2～3/3	暗褐色土 シルト 暗褐色土
9.	7.5YR4/4～3/4	褐 色 土 シルト 暗褐色土

d－d'

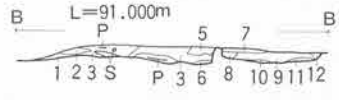
1.	10YR3/4	暗 褐 色 土 焼土１％ 土師器片含む、シルト
2.	7.5YR3/4	暗 褐 色 土 焼土７％、土師器片含む、シルト
3.	7.5YR3/3～3/4	暗 褐 色 土 焼土１％、土師器片含む、シルト
4.	7.5YR4/4～3/4	褐 色 土 焼土10%、土師器片含む、シルト 暗褐色土
5.	7.5YR2/2～2/3	黒 褐 色 土 焼土１％、土師器片含む、シルト 極暗褐色土
6.	7.5YR3/2～3/3	黒 褐 色 土 焼土７％、土師器片含む、シルト 暗褐色土
7.	10YR3/2～3/3	黒 褐 色 土 シルト 暗褐色土

e－e'

1.	7.5YR3/2～3/3	黒 褐 色 土 焼土１％、土師器片含む、シルト 暗褐色土
2.	7.5YR3/3～2/3	暗 褐 色 土 焼土７％、土師器片含む、シルト 極暗褐色土
3.	7.5YR3/4	暗 褐 色 土 シルト
4.	7.5YR3/4	暗 褐 色 土 シルト
5.	10YR3/4	暗 褐 色 土 シルト
6.	7.5YR3/2～3/3	黒 褐 色 土 焼土１％、土師器片含む、シルト 暗褐色土
7.	7.5YR3/2～3/3	黒 褐 色 土 シルト

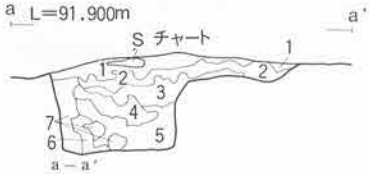
f－f'

1.	7.5YR4/3	褐 色 土 焼土３％、土師器片含む、シルト
2.	7.5YR3/2～3/3	黒 褐 色 土 シルト 暗褐色土
3.	7.5YR3/3～3/4	暗 褐 色 土 シルト



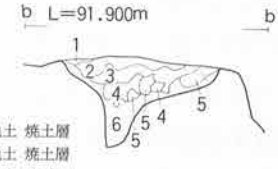
B－B'

1.	10YR2/3	黒 褐 色 土 土師器片、橙色焼土含む
2.	10YR2/3	黒 褐 色 土 須恵器片、炭化物、橙色焼土含む
3.	10YR2/3	黒 褐 色 土 礫、炭化物含む
4.	10YR2/3	黒 褐 色 土 土師器片25%含む
5.	10YR2/3	黒 褐 色 土 火山灰１％混入
6.	10YR2/2	黒 褐 色 土
7.	10YR2/2	黒 褐 色 土
8.	10YR2/2	黒 褐 色 土 焼土粒１％、土師器杯含む
9.	10YR2/2	黒 褐 色 土
10.	10YR3/1	黒 褐 色 土
11.	10YR3/1	黒 褐 色 土
12.	10YR3/1	黒 褐 色 土



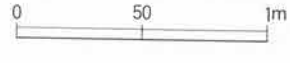
a－a'

1.	5YR3/3	暗赤褐色土 焼土層
2.	5YR3/3	暗赤褐色土 焼土層
3.	5YR4/8	赤 褐 色 土 焼土層
4.	5YR3/3	暗赤褐色土 焼土層
5.	5YR2/2	黒 褐 色 土 シルト
6.	10YR3/4	暗 褐 色 土 シルト
7.	10YR2/3	黒 褐 色 土 シルト



b－b'

1.	5YR3/4	暗赤褐色土 焼土層
2.	5YR3/4	暗赤褐色土 焼土層
3.	5YR3/3	暗赤褐色土 焼土層
4.	5YR3/6	暗赤褐色土 焼土層
5.	10YR3/3	暗赤褐色土 シルト
6.	10YR3/3	暗赤褐色土 シルト



	P1	P2	P3	P4
径(cm)	74×83	94×79	81×62	54×44
深さ(cm)	21	22	38	29

	PP1	PP2
径(cm)	25×30	29×28
深さ(cm)	46	49

第66図　ⅡＥ－１　住居跡

はロクロ不使用の甕であるが、117は胎土粗めで粗砂が密に入る。口縁部が外反し、めくれる状態になる。118は「く」の字状口縁で、口唇部はやや薄くなり、更に外反する。体部はやや膨らみを持つ形になる。119は細礫以下が混入し、口縁部は緩やかに外反する。120は器壁が厚い長胴甕で、胎土はやや粗め、石英、長石、角閃石等が混入する。121は口唇部に指頭圧痕が残る。122は暗緑灰色のロクロ使用の須恵器の甕である。123、124はロクロ使用の甕であるが、124は小型で口縁部は「く」の字状、体部上半から緩やかな膨らみを持ち、胎土は緻密である。125は体部上半まで一定角度で立ち上がり、頸部からはやや垂直気味に立ち上がる。口縁部はやや外反する。126は須恵器大甕の胴部破片で外面は斜格子目状の叩き目で、内面は平行当て具および斜格子目状当て具痕が残り、器壁は肥厚している。焼成は良好で硬質である。127はロクロ使用の須恵器甕で、口縁部に一条の沈線が入り、口唇上部は引き出されている。128はロクロ不使用の甕で巻き上げ痕があり、ほぼ直線的に立ち上がる。口縁部は緩やかに外反する。129～135はロクロ使用の坏である。129は胎土が緻密で、内面黒色処理が施されている。131は胎土が粗めで極粗砂以下の砂が密度濃く混入し、薄手である。132は底部径が小さく、体部は大きく外反し、口唇部も緩やかに外反する。薄手だが胎土は緻密、焼成は良好である。133は内面黒色処理で、底部には糸切り後「一九」の文字が刻まれ、その文字の部分が黒ずんでいる。134、135はともに内面黒色処理されており、外側口縁部付近にも炭素粒が付着している。両方とも口縁部はやや外反する。136～138は石器でいずれも岩手山の噴石を使用した粗砥であり、特に136は擦り面が4面きれいに残っている。

IIE－2住居跡（第67図、写真図版52）

調査区南部IIE区の西端より検出された。遺構の西側は調査区域外のため未調査である。削平、攪乱が著しく、黒褐色腐植土の薄い埋土が僅かに上部にのるのみで、範囲も掘り方面を追うことでしか把握できなかった。

平面形　隅丸方形？　**規模**　(470×251) cm

埋土　第1層は水田造成時の盛土で、第2層暗褐色土層から本住居跡の生活面とみられるが、これも耕作攪乱によって大分削平されており、明確に生きている層が確認できるのは第3層以下である。第3層は貼床の痕跡であり、IIE－2住居跡第1面の貼床と性状が似ている。

床面　本住居跡と調査区域外の境である北西隅の一部を除いて全て削平されている。

壁　全て削平されている。

焼土・炭化材　認められない。

柱穴　住居内では3基確認されているが、その中の2基は壁際から検出されている。

土坑　カマドの両脇に2基確認された。カマドの南側のP1は不整な楕円形を呈し、径137

×95cm、深さ40cm程で、埋土中には焼土粒と炭化物を含む他、土師器が少量含まれる。北側のP2は径121×120cm、深さ32cm程で土師器が多量に含まれる。

カマド 〈位置〉 東壁やや南寄り 〈主軸方向〉 N120°E

〈本体〉 燃焼部焼土が残存する。焼成範囲は東西に隣接して2カ所に分かれており、2時期にわたって使用された可能性もある。東側焼土の焼成範囲は69×73cm、層厚は13cm程、西側焼土の範囲は70×57cm、層厚は12cm程で、カマドの構成礫は残っていなかった。

〈煙道部・煙出し部〉 煙道部は削平により残存せず、僅かに煙出し部の残骸が残るのみである。煙出し部の切り合い関係をみると西側が東側の西壁を切っていることから西側の方が東側より新しいとみることができる。範囲は東側が49×46cm、深さが3cm、西側が40×26cm、深さが3cm程である。

重複する遺構 IIE－33陥し穴の東側部分が本住居跡北西側床面と切り合う。

時期 9世紀第4四半期～10世紀前葉

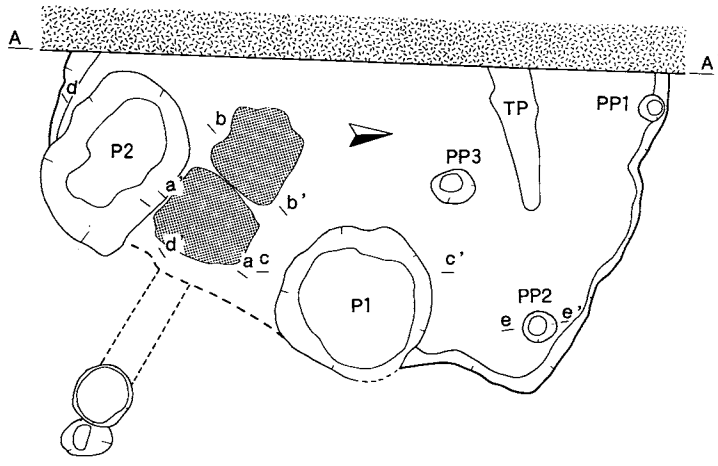
遺物（第101図、写真図版77～78）

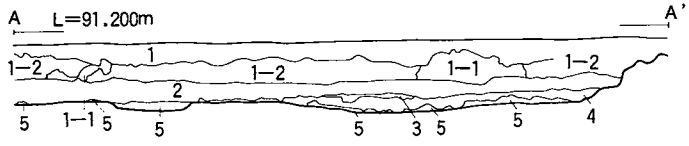
139はロクロ使用の小甕で、「く」の字状口縁を呈している。140～147はロクロ使用の坏である。140は耳皿で、内面黒色処理がなされており、口唇部と内側に折れ曲がった外側部分も黒色を呈する。141の体部は内湾して立ち上がり、口唇部で外反する。142は底部～外側体部下半にかけてやや外側に張り出し、そこから一定の角度で口縁部まで立ち上がる。143は外面～内側口縁にかけて黒ずみ、体部下半から口縁部にかけてごく緩やかに内湾しながら立ち上がる。144も143と同様に立ち上がるが、口縁部は僅かに外反する。焼成は良好で胎土には粗砂以下が僅かに含まれる。145は広めの底部からあまり外反せずに立ち上がり、口唇部が内反する。内面黒色処理されており、胎土は緻密であるが若干脆い。146は皿状の坏で体部が大きく外側に開いて立ち上がる。148は羽釜の鍔の部分でやや下向きであるが、鍔の部分から上部はやや内側に傾く。薄手であるが焼成は良好、硬質である。149はロクロ使用の坏で底部の1/3に煤が付着している。

IIF－1住居跡（第68図、写真図版53）

雑物撤去後、粗掘りの際焼土が検出され、周囲の範囲を確認したところ黒褐色の埋土が検出されたことから、竪穴住居跡として精査を進めた。南側半分は完全に削平されており、床面と削平された部分の比高は18～32cm程である。検出時点で既に焼土が検出され、上部も大分攪乱を受けていた。また、壁も削平されている。西側については壁が明確に確認できなかったが、一部調査区外にかかっているものとみられる。

平面形 隅丸方形？ **規模** （326×155）cm



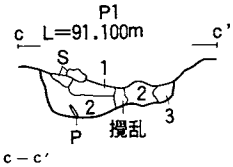


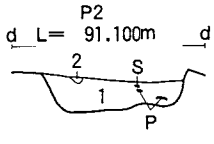
A－A'

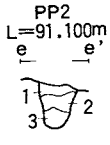
1. 10YR2/2　黒褐色土 シルト、撹乱土
1-1.10YR2/3～3/3　黒褐色土 シルト 暗褐色土
1-2.7.5YR2/2～3/2　黒褐色土 粘性のあるシルト
2. 10YR2/2～3/3　黒褐色土 シルト 暗褐色土
3. 10YR2/2～2/3　黒褐色土 シルト
4. 7.5YR2/3～3/3　極暗褐色土 シルト 暗褐色土
5. 7.5YR2/2～3/3　黒褐色土 シルト 暗褐色土

e－e'

1. 10YR2/1　黒色土 シルト、締まり、粘性共にあり
2. 10YR2/3　黒褐色土 シルト、締まり、粘性共にあり
3. 10YR2/2　黒褐色土 シルト、1・2より締まりに欠ける





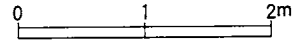


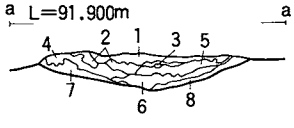
c－c'

1. 5YR2/1　黒褐色土 シルト、締まり、粘性共にあり、焼土粒、炭化物含む
2. 7.5YR2/3　極暗褐色土 シルト、締まり、粘性共にあり、焼土粒、炭化物を含む
3. 10YR2/2　黒褐色土 シルト、締まり、粘性共にあり、暗褐色土小ブロックを含む

d－d'

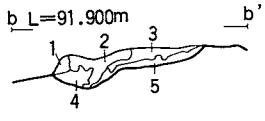
1. 10YR2/2　黒褐色土 シルト、粘性共にあり、焼土粒、褐色土粒を含む 土器片多量に含まれる
2. 10YR4/4　褐色土 粘土質シルト、締まり、粘性ともにあり





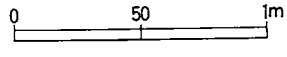
a－a'

1. 5YR2/2～3/2　黒褐色土 土師器片、炭化物混入、焼土層 暗赤褐色土
2. 7.5YR4/6～5/6　褐色土 焼土層 明褐色土
3. 7.5YR5/8　明褐色土 焼土層
4. 5YR4/6　赤褐色土 焼土層
5. 5YR6/8　橙色土 焼土層
6. 5YR3/6　暗赤褐色土 焼土層
7. 5YR3/2　暗赤褐色土 焼土層
8. 5YR3/4　暗赤褐色土 焼土層



b－b'

1. 5YR3/2　暗赤褐色土 焼土層
2. 5YR4/6　赤褐色土 焼土層
3. 5YR3/3　暗赤褐色土 焼土層
4. 5YR2/3　極暗赤褐色土 焼土層
5. 5YR3/4　暗褐色土



	P1	P2
径(cm)	137×95	121×120
深さ(cm)	40	32

	PP1	PP2	PP3
径(cm)	19×20	15×26	27×33
深さ(cm)	40	37	27

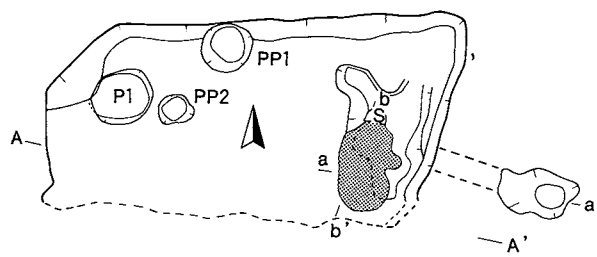
第67図　II E－2住居跡

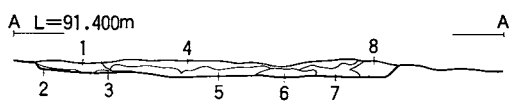
埋土　上部がかなり削平されているため、層厚は５～14cm程度である。黒褐色土を主体とし極暗褐色土、暗褐色土が西側下部に薄く堆積する。黒褐色土中に少量の焼土、炭化物が含まれるが攪乱によるものであろう。

床面　黒褐色の床面で、ⅡＥ－１、同２住居跡の床面と同じである。全体的に平坦である。

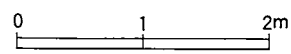
壁　南側は完全に消滅している。他の壁も削平が進んでおり直立して立ち上がるものはない。壁高は８～10cm程である。

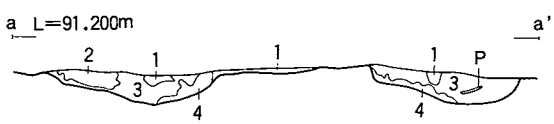
焼土・炭化材　認められない。



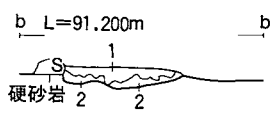


A－A'
1. 10YR2/3　黒褐色土 水分を含み、粘性が僅かにある
2. 7.5YR3/3　暗褐色土 粘性あり
3. 7.5YR2/5　極暗褐色土 粘性あり
4. 7.5YR2/2　黒褐色土 一部に暗褐色土を2%含む
5. 7.5YR3/2　黒褐色土 焼土粒、炭化物を0.5%含む
6. 7.5YR3/2　黒褐色土 褐色土2%、炭化物0.5%含む
7. 7.5YR3/2　黒褐色土 焼土粒3%、褐色土1%含む
8. 7.5YR2/2　黒褐色土 草根1%含む

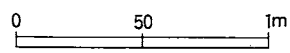




a－a'
1. 7.5YR3/2～3/3　黒褐色土 シルト 暗褐色土
2. 5YR5/8　明赤褐色土 焼土層、シルト
3. 7.5YR2/3　極暗褐色土 焼土5%含む、シルト
4. 10YR2/3～3/3　黒褐色土



b－b'
1. 5YR5/8～4/8　明赤褐色土 焼土層、シルト 赤褐色土
2. 10YR2/3　黒褐色土 シルト



	P1
径(cm)	43×47
深さ(cm)	30

	PP1	PP2
径(cm)	39×38	21×28
深さ(cm)	44	20

第68図　ⅡＦ－１住居跡

柱穴　2基検出されている。PP1は北壁側に位置し、規模は径39×38cm、深さ44cm、PP2は径21×28cm、深さ20cm程である。

土坑　1基検出されており、径43×47cm、深さ30cmで土師器坏が1点出土している。

カマド　〈位置〉　東壁　〈主軸方向〉　N107°E

〈本体〉　燃焼部焼土がカマドの構成礫とみられる硬砂岩を伴って残存している。焼成範囲は71×51cm、層厚は8～11cm程である。削平、攪乱をひどく受けている。

〈煙道部・煙出し部〉　ほとんど削平、攪乱を受けており、残存状況は極めて悪いが、煙道部は層厚0.5～2cm程度、煙出し部は径63×48cm、層厚10cm程残存している。

重複する遺構　IIF－30陥し穴が本住居跡の北西部と切り合う。

時期　出土遺物が少なく、詳細は不明である。

遺物（第101図、写真図版78）

150はロクロ使用の坏、151は器種不明の鉄製品である。

IIF－2住居跡（第69図、写真図版54）

調査区南側のIIF区の東側、IIF区と境を接する斜面上に位置する。粗掘りの後の遺構検出の際、黒色の埋土と土器片が散布している状況から竪穴住居跡として精査を進めた。このIIF区からIIF区に至る斜面から東は特に削平を深く受けており、本住居跡の場合も東側2/3程度が削平されている。カマドも東壁につけられていたものと思われるが、削平されて完全に消滅している。

平面形　隅丸方形または隅丸長方形？　**規模**　(506×150) cm

埋土　東西断面では削平の影響で東側に行くほど層は薄い。第1層～5層まではいずれの層にも炭化物が僅かに含まれている。また、これらの層には草根も2～5％混入しており、ある程度の攪乱もうけているものとみられる。

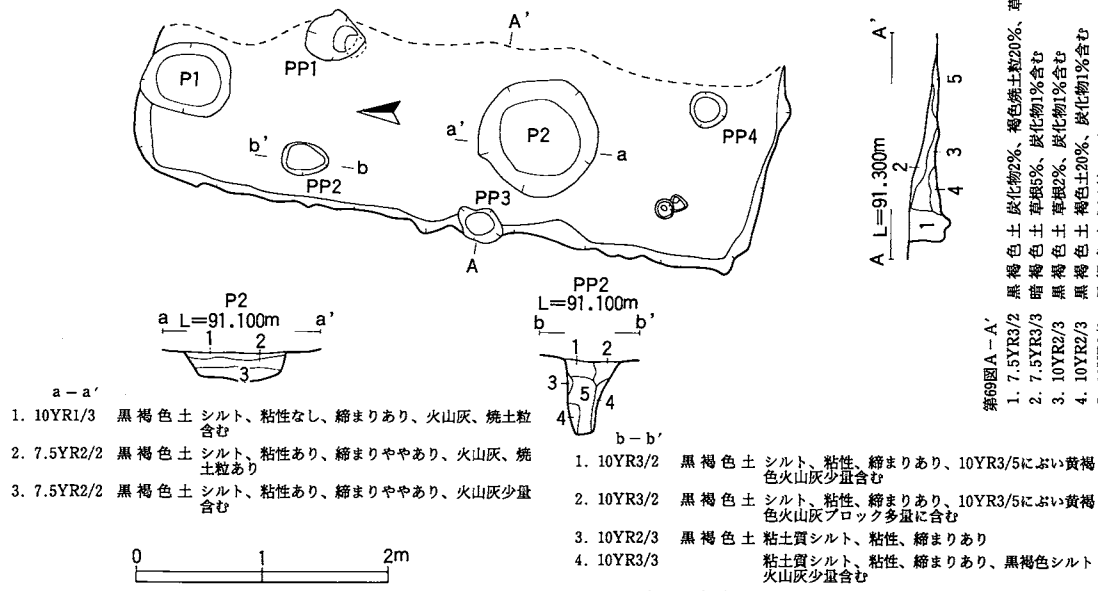
床面　床面は比較的固く、削平部分以外は比較的残りがよい。床面直上より土師器の長胴甕の完形品が出土しており、あまり攪乱は受けていない。

壁　西側はIIB～IIF区の中では比較的残りがよく、ほぼ直立し、僅かに外傾する立ち上がり方である。西側の壁高は21～27cm程である。

焼土・炭化材　認められない。

柱穴　西壁やや南寄り、南側壁近く、北西側壁近く、そして北西側の柱穴よりやや東にそれぞれ1基ずつの計4基が検出された。全て本住居跡に伴うものであるとみられる。特にPP1からは上層を中心に多量の火山灰を含む。

土坑　本住居跡の北端と、中央部やや南寄りよりそれぞれ1基ずつ確認されている。北端の



	P1	P2
径(cm)	71×57	95×94
深さ(cm)	15	23

	PP1	PP2	PP3	PP4
径(cm)	47×40	30×26	38×25	30×28
深さ(cm)	53	15	22	14

第69図　ⅡＦ－２住居跡

P1は不整な楕円形を呈し、径が71×57cm、深さ15cm、P2は不整な円形を呈し径が95×94cm、深さ23cmである。P2の埋土は全て黒褐色で火山灰が少量含まれる。

カマド　全て削平され消滅している。

重複する遺構　なし

時期　出土遺物が少なく詳細は不明である。

遺物（第101図、写真図版78）

152～156はロクロ使用の坏である。152は赤焼きで、口縁部は器壁を減じて僅かに外反する。153は底部に再調整を施しており胎土には極粗砂が密に入る。155は本遺構では最も小型の坏である。

ⅡＦ－３住居跡（第70図、写真図版55）

調査区南側のⅡＦ区、ⅡＦ－１住居跡の北側に隣接する形で検出された。埋土は黒色を呈しており、東側に陥し穴状遺構が２基切り合っていたことから陥し穴状遺構の切り合いも想定され精査を進めたところ焼土が東壁際から検出されたので竪穴住居跡として精査を進めた。尚、本住居跡も西側の半分以上が調査区外に入っており、東側一部しか調査を実施していない。

平面形　隅丸方形？　**規模**　（431×153）cm

埋土　最上層は水田耕作土で第１層も切っているとみられる。第１層以下は生きている層で

あるが、第1層～4層の黒褐色土の中には火山灰、炭化物、焼土粒等が含まれており、特に火山灰はブロック状に含まれている部分もある。

床面　暗褐色の床面で貼床をしている。

壁　本住居跡も例に漏れず上部がかなり削平されており、立ち上がりもよくわからない。残存している壁の壁高は10～17cm程である。

焼土・炭化物　認められない。

柱穴　南北の壁際に1基ずつ検出された。どちらも本住居跡に伴うものとみられる。PP1は径21×22cm、深さ41cm、PP2は22×18cm、深さ25cm程である。

土坑　認められない。

カマド　〈位置〉　東壁やや南寄り　〈主軸方向〉　N90°E

〈本体〉　燃焼部焼土が残存しているが、袖部は壊れており、構成礫とみられる礫が残るのみである。焼成範囲は55×52cm、層厚は8cm程である。

〈煙道部・煙出し部〉　煙道部は焼成部から東に95cm程僅かに延びる掘りこみ式であるが、残存状況は極めて劣悪である。煙出し部も38×42cmの範囲に広がり、深さは最大で4cmと極めて残りは悪い。

重複する遺構　カマド本体～煙出し部にかけてIIF－21、22陥し穴が切り合う。

時期　9世紀第4四半期～10世紀前葉

遺物（第102図、写真図版79）

156～157はロクロ使用の坏、158～161はロクロ使用の甕である。158は口縁部が上部に引き出されており、160は上下に引き出されている。

IIF－4住居跡（第71図、写真図版56）

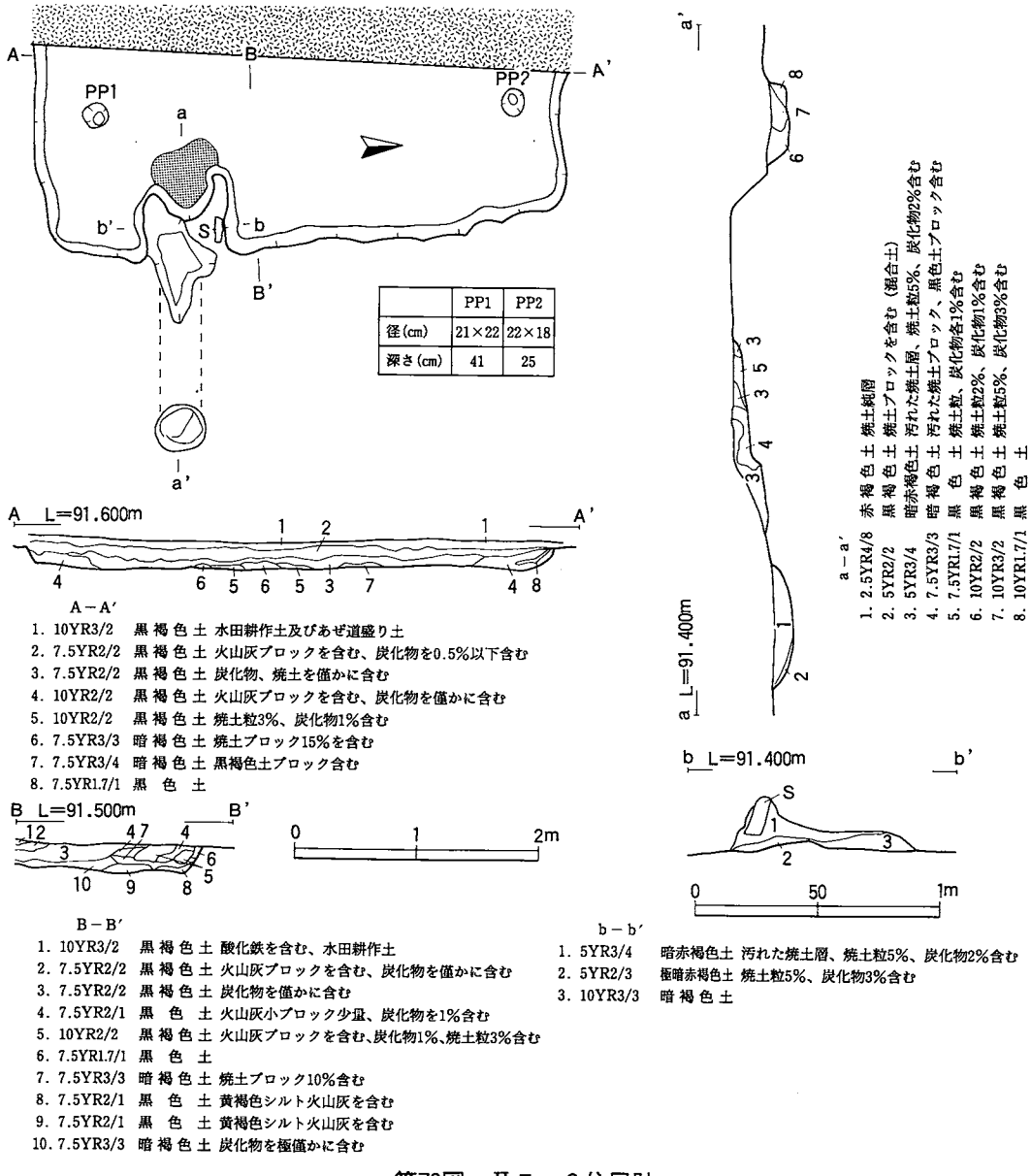
調査区南部のIIF区の北側、IIF区との境、基準点1が東部に隣接する場所に位置する。IIF－2住居跡が北部にあり、同じような形で東側が削平されている。黒褐色の埋土が方形に見えたため竪穴住居跡として精査を進めた。

平面形　隅丸方形または隅丸長方形？　**規模**　（499×392）cm

埋土　黒褐色の埋土が大半を占め、表面に見える層のいくつかが十和田a降下火山灰層がブロック状に堆積する。攪乱層は下層に一部みられるものの全体的に比較的攪乱は少ない。しかし東側の他に上部もかなり削平されているものとみられる。

床面　黒褐色で踏みしめられており固い。平坦ではあるが、東側が削平されているため東に行くに従って緩やかに傾斜し、床が消滅する。直上より須恵器坏が1点出土している。

壁　西側についてはほぼ直立し、僅かに外傾する形で比較的よく残っている。西壁の壁高は



	PP1	PP2
径(cm)	21×22	22×18
深さ(cm)	41	25

A－A′
1. 10YR3/2　黒褐色土 水田耕作土及びあぜ道盛り土
2. 7.5YR2/2　黒褐色土 火山灰ブロックを含む、炭化物を0.5%以下含む
3. 7.5YR2/2　黒褐色土 炭化物、焼土を僅かに含む
4. 10YR2/2　黒褐色土 火山灰ブロックを含む、炭化物を僅かに含む
5. 10YR2/2　黒褐色土 焼土粒3%、炭化物1%含む
6. 7.5YR3/3　暗褐色土 焼土ブロック15%を含む
7. 7.5YR3/4　暗褐色土 黒褐色土ブロック含む
8. 7.5YR1.7/1　黒　色　土

B－B′
1. 10YR3/2　黒褐色土 酸化鉄を含む、水田耕作土
2. 7.5YR2/2　黒褐色土 火山灰ブロックを含む、炭化物を僅かに含む
3. 7.5YR2/2　黒褐色土 炭化物を僅かに含む
4. 7.5YR2/1　黒　色　土 火山灰小ブロック少量、炭化物を1%含む
5. 10YR2/2　黒褐色土 火山灰ブロックを含む、炭化物1%、焼土粒3%含む
6. 7.5YR1.7/1　黒　色　土
7. 7.5YR3/3　暗褐色土 焼土ブロック10%含む
8. 7.5YR2/1　黒　色　土 黄褐色シルト火山灰を含む
9. 7.5YR2/1　黒　色　土 黄褐色シルト火山灰を含む
10. 7.5YR3/3　暗褐色土 炭化物を極僅かに含む

a－a′
1. 2.5YR4/8　赤褐色土 焼土純層
2. 5YR2/2　黒褐色土 焼土ブロックを含む（混合土）
3. 5YR3/4　暗赤褐色土 汚れた焼土層、焼土粒5%、炭化物2%含む
4. 7.5YR3/3　暗褐色土 汚れた焼土ブロック、黒色土ブロック含む
5. 7.5YR1.7/1　黒　色　土 焼土粒、炭化物各1%含む
6. 10YR2/2　黒褐色土 焼土粒2%、炭化物1%含む
7. 10YR3/2　黒褐色土 焼土粒5%、炭化物3%含む
8. 10YR1.7/1　黒　色　土

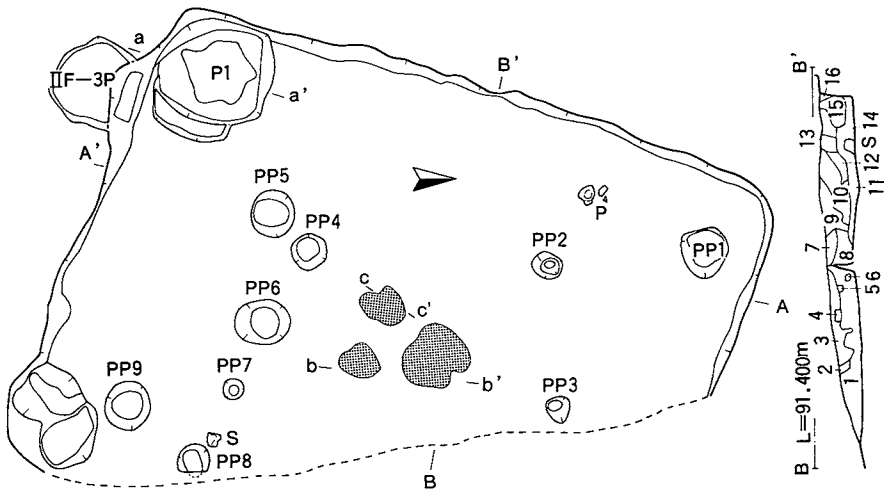
b－b′
1. 5YR3/4　暗赤褐色土 汚れた焼土層、焼土粒5%、炭化物2%含む
2. 5YR2/3　極暗赤褐色土 焼土粒5%、炭化物3%含む
3. 10YR3/3　暗褐色土

第70図　ⅡＦ－３住居跡

26～31cm程である。

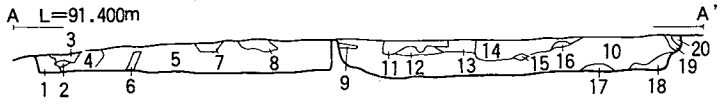
焼土・炭化材　本住居跡東側中央～やや北寄りに3つに分かれた暗赤褐色の焼成部分が検出された。いずれも床に染み込んでいるようなタイプのもので土師器片も若干含まれている。焼成範囲は焼土１が径32×29cm、層厚が８cm、焼土２が径57×52cm、層厚が14cm、焼土３は32×28cm、層厚が16cm程である。

柱穴　９基検出された。配置、規模、並びからみて、確実に本住居跡の柱穴として機能していたと考えられるのは３基であり、その中には柱痕がみられるものもある。また、主に本住居跡の南側に６基集中してみられる部分があるが、その６基のうち５基が主に貼床の下から検出



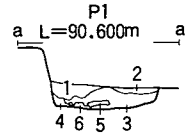
B－B'

1. 10YR2/3 黒褐色土
2. 10YR3/2 黒褐色土 褐色シルトを含む
3. 10YR2/3 黒褐色土 火山灰10%含む
4. 10YR5/6 黄褐色土 火山灰層
5. 10YR2/3 黒褐色土
6. 10YR2/3 黒褐色土 火山灰50%含む
7. 10YR2/3 黒褐色土 火山灰25%含む
8. 10YR3/2 黒褐色土 褐色シルト含む
9. 10YR2/3 黒褐色土 火山灰、黒色シルト3%含む
10. 10YR3/2 黒褐色土 褐色シルト含む、炭化物1%含む
11. 10YR3/4 暗褐色土 火山灰3%、炭化物1%含む
~2/2 黒褐色土
12. 10YR3/4 暗褐色土 火山灰10%、炭化物1%含む
13. 10YR2/2 黒褐色土 褐色シルト2%含む
14. 10YR3/2 黒褐色土 火山灰20%含む
15. 7.5YR2/1 黒 色 土 黄褐色小土粒3%含む
16. 10YR5/4 にぶい黄褐色土 粘土層



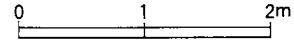
A－A'

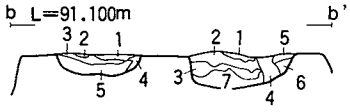
1. 7.5YR2/2 黒褐色土 シルト、粘性あり
2. 10YR1.7/1 黒 色 土 水分多く含む
3. 10YR3/2 黒褐色土 10YR4/6褐色土25%含む
4. 10YR2/2 黒褐色土 10YR4/6褐色土5%含む
5. 10YR2/2 黒褐色土 浅黄橙色火山灰2%含む
6. 7.5YR4/4 褐 色 土 撹乱層
7. 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性あり、水分多く含む
8. 10YR2/3 黒褐色土 火山灰25%含む
9. 10YR2/3 黒褐色土 火山灰25%含む
10. 10YR2/2 黒褐色土 浅黄橙色火山灰2%含む
11. 10YR2/3 黒褐色土 火山灰25%含む
12. 10YR2/2 黒褐色土 炭化物1%含む
13. 10YR2/2 黒褐色土 火山灰10%含む
14. 10YR2/3 黒褐色土 炭化物、黄橙色小土粒1%含む
15. 10YR4/4 褐 色 土 火山灰層
16. 10YR4/4 褐 色 土 火山灰層
17. 10YR2/3 黒褐色土 水分、粘性多い
18. 10YR2/3 黒褐色土 炭化物1%含む
19. 7.5YR2/1 黒 色 土 火山灰1%含む
20. 10YR2/3 黒褐色土 固い



a－a'

1. 7.5YR2/1 黒 色 土 10YR8/4浅黄小土粒1%含む
2. 10YR3/4 暗褐色土
3. 10YR3/4 暗褐色土 焼土粒3%含む
4. 10YR3/3 暗褐色土
5. 10YR3/4 暗褐色土
6. 10YR3/4 暗褐色土



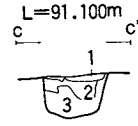


b－b'（焼土1）

1. 5YR3/2 暗赤褐色土
2. 5YR3/2 暗赤褐色土
3. 5YR3/2 暗赤褐色土
4. 7.5YR3/4 暗褐色土
5. 7.5YR3/4 暗褐色土

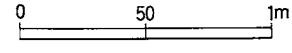
（焼土2）

1. 7.5YR3/2 黒褐色土
2. 5YR3/4 暗赤褐色土
3. 10YR3/4 暗褐色土
4. 5YR3/2 暗赤褐色土
5. 5YR4/4 にぶい赤褐色土
6. 7.5YR4/4 褐 色 土
7. 7.5YR4/6 褐 色 土



C－C'

1. 7.5YR3/3 暗褐色土
2. 7.5YR3/4 暗褐色土
3. 7.5YR3/4 暗褐色土



	P1
径(cm)	83×93
深さ(cm)	18

	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6	PP7	PP8	PP9
径(cm)	39×40	22×22	20×22	28×30	36×38	44×37	17×17	24×23	36×39
深さ(cm)	15	33	37	20	30	31	8	12	22

第71図　ⅡＦ－４住居跡

されており、配置等からみても全てが上屋の構造に関係するか疑問がある。

土坑　本住居跡の南西隅より検出された。床面より黒色の埋土がみられ精査を進めたところ中～下層にかけて焼土粒が多く含まれ、底面も焼成を受けていた。規模は径83×93cm、深さは18cmで底面の焼成範囲は54×48cmであり、埋土全体には火山灰状の黄褐色土を含んでいる。

カマド　東側にあったものと推測されるが、削平のため消滅している。

重複する遺構　南西隅の壁がIIF－3土坑に切られている。

時期　9世紀第4四半期～10世紀前葉

遺物（第102図、写真図版79）

162はロクロ不使用の長胴甕の完形品である。口縁部は「く」の字状を呈し、上下端は引き出されている。内面底部と内面口縁部の一部に炭素粒が付着する。底部は平底であるが面積は狭い。体部上半等に巻き上げ痕が残り、体部中半はやや黒っぽい。表面はややざらつき気味で細礫等がとれた痕があるが、内面は比較的滑らかである。163はロクロ不使用の小甕で外面体部最下部は黒ずんでいる。164はロクロ使用の甕で「く」の字状口縁を呈している。166～168はロクロ使用の甕である。

IIG－1住居跡（第72図、写真図版57）

調査区中央部IIG区西端のやや北側から、西側が調査区外にかかる形で検出された。IIG－2住居跡の北西、IIH－3住居跡の南西と2棟の住居跡に挟まれた場所に位置する。本住居跡ではカマドが東側と南側の2カ所に確認されている。

平面形　隅丸方形？　**規模**　（403×277）cm

埋土　東～西のベルト第1層の黒褐色土中に火山灰ブロックが入る。これは本住居跡の床面に入るものではなく、床面直上に入るのは第3層の黒褐色土である。また、層中に含まれている炭化物も床面直上に散布している。

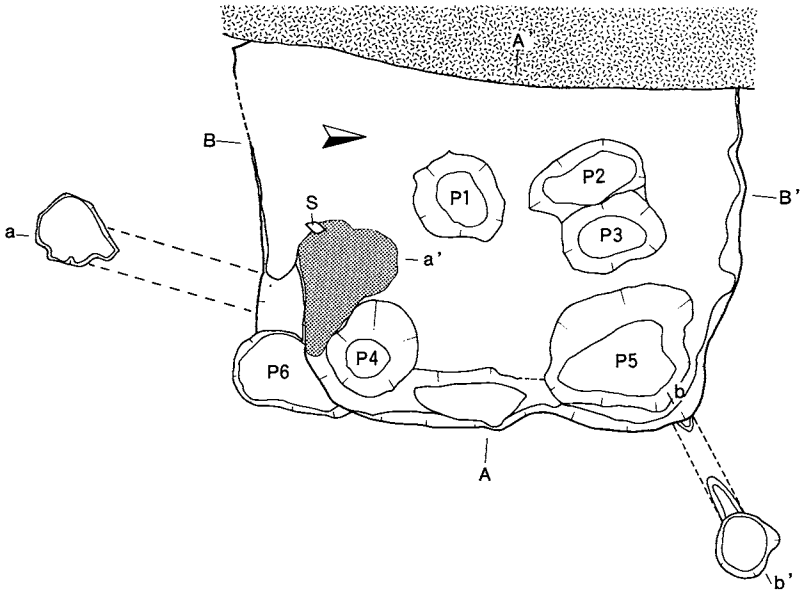
床面　多少の凹凸があるものの固く締まる。一部は貼床をしている。

壁　削平が進行し残存状況は悪い。壁高は2～8cm程である。

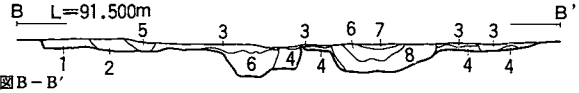
炭化材・焼土　細かい炭化物は床面全体に広がるが、層中の炭化物の広がり具合からみて再堆積のものである。

柱穴　認められない。

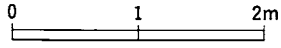
土坑　4基検出されたが、中央に位置する3基は本住居より新しい可能性がある。本住居跡の北側より検出されたP4の上部からは土師器坏が出土したが、この土坑の埋土は焼土ブロックを多量に含む汚れた焼土層が主体であり、これは本住居跡に伴う土坑であると考えられる。また、同遺構からは土鈴が出土している。P6は南東コーナーに張り出す形で検出されたが、

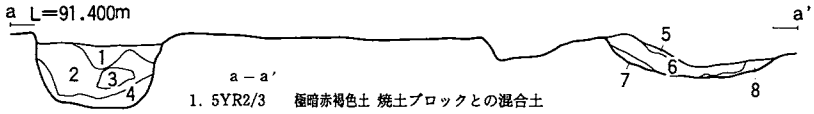


A－A'
1. 7.5YR2/2 黒 褐 色 土 火山灰ブロックを含む、焼土粒・炭化物1～2%含む
2. 7.5YR3/2 黒 褐 色 土 焼土粒・炭化物3～5%含む
3. 10YR2/3 黒 褐 色 土 炭化物3～5%含む
4. 10YR3/2 黒 褐 色 土 掘りすぎ

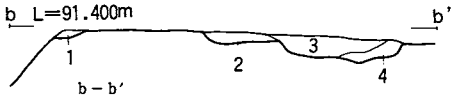


第72図B－B'
1. 10YR1.7/1 黒 色 土 先行する陥し穴状遺構の埋土
2. 7.5YR3/2 黒 褐 色 土 焼土粒・炭化物3～5%含む
3. 10YR2/3 黒 褐 色 土 炭化物3～5%含む
4. 10YR3/2 黒 褐 色 土 掘りすぎ
～10YR4/4 褐 色 土
5. 7.5YR3/2 黒 褐 色 土 暗褐色土ブロックを含む（混合土）
6. 7.5YR2/1 黒 色 土 暗褐色土ブロック、炭化物を僅かに含む
7. 7.5YR2/1 黒 色 土 炭化物1%含む
8. 7.5YR3/2 黒 褐 色 土 炭化物、焼土粒3～5%含む



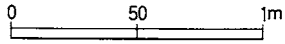


a－a'
1. 5YR2/3 極暗赤褐色土 焼土ブロックとの混合土
2. 7.5YR2/2 黒 褐 色 土 焼土粒10%、炭化物5%含む
3. 5YR3/2 暗赤褐色土 汚れた焼土層
4. 10YR3/3 暗 褐 色 土 掘りすぎ
5. 7.5YR4/6 褐 色 土 汚れた焼土層
6. 5YR5/8 明赤褐色土 焼土純層
7. 5YR4/8 赤 褐 色 土 焼土純層
8. 5YR3/6 暗赤褐色土 汚れた焼土層



b－b'
1. 7.5YR2/3 極暗褐色土 焼土粒・炭化物3%
2. 5YR3/3 暗赤褐色土 ひどく汚れた焼土層、焼土粒・炭化物3%
3. 5YR2/3 極暗赤褐色土 同上
4. 7.5YR2/2 黒 褐 色 土 焼土粒・炭化物2%

	P1	P2	P3	P4	P5	P6
径(cm)	76×68	98×48	80×53	72×73	108×130	(66×100)
深さ(cm)	21	20	23	26	20	8



第72図　ⅡG－1住居跡

埋土は上部が黒褐色、下部は炭化物、焼土粒を含む暗褐色で底面からは土師器の坏が出土している。

埋土の状況や出土遺物から住居に伴うものとみられる。

カマド 〈位置〉 1号 北東隅 2号 南壁東寄り

〈主軸方向〉 1号 N61°E 2号 N172°W

〈本体〉 本住居跡ではカマド跡とみられる遺構が2カ所あり、1号カマドは北東隅に、2号カマドは南壁東寄りにそれぞれつけられているが、1号カマドは煙道の残骸が若干と煙出しの土坑が残るのみで、焼成部分及び袖部は後からつくられた土坑によって消滅している。2号カマドも構成礫とみられる焼けた角礫と汚れた焼土、土器片が散布するのみで、袖部も確認できないなど残存状況は極めて悪い。焼土の焼成範囲は60×54cm程である。

〈煙道部・煙出し部〉 1、2号とも煙道部は削平され消滅、煙出し部も僅かに残骸を残すのみである。

重複する遺構 なし

時期 9世紀第4四半期～10世紀前葉

遺物（第102～104図、写真図版79～81）

166は「く」の字状口縁で、口唇上部は更に外反する。167は口縁部がやや外反し、器壁が口唇部先端に行くに従って薄くなる。168は「く」の字状口縁で、硬質であるが部分的にひび割れがみられる。169～170はロクロを使用しない甕で両方とも緩い「く」の字状口縁を呈する。171～173はロクロ使用甕で、171は口縁部が大きく外反し、上下に極僅かに引き出される。胎土には粒の大きいものは長石、そのほかは細砂が多く入り、表面はざらつく。172は「く」の字状口縁で、薄手、焼成は不良、ひび割れもあり表面の砂粒も落ちている。173も「く」の字状口縁であるが口唇部上端は内反し、内面のロクロ痕はハケメ状に密に入る。口縁部から頸部、体部上半には炭化物が付着する。174～186はロクロ使用の坏である。174は底部の器壁は厚手で、胎土には粗砂以下の砂も多く混じる。底部下半～体部上半にかけて極僅かな膨らみをもつが、ほぼ一定の角度で立ち上がり、口唇部は内側に入り加減である。口縁部は内側がやや黒っぽい。175は内外面とも褐色系を呈し、底部から体部中半までやや開き気味で、体部上半から口縁部にかけて若干内側に入り、口唇部は若干外反する。焼成はやや不良でひび割れもみられる。176～178は内面黒色処理されている。176の底部は小さめで肥厚している。底部～体部上半まで極緩やかに内湾し、口唇部が若干外反する。177～179も口唇部が僅かに外反している。180は内面黒色処理されている。181は焼成良好で硬質である。182は赤焼き土器で、口唇下部に一条沈線が入り、器壁を薄くして外反する。183は皿状の坏で、器壁厚めの赤焼き土器である。184は内外面褐色系の薄手、185は焼成良好、186は胎土は緻密であるが、内面は磨滅して

いる。187はロクロ使用の須恵器坏で、口縁部まで一定角度で上がる。188は猿投窯黒笹90号産灰釉陶器の輪花碗で時期的には9世紀末から10世紀初頭のものである。189は坏台で、ロクロを使用し焼成も良好である。190～192は須恵器大甕の胴部破片である。191は青海波状当て具、192は鳥足状当て具を使用している。193は土鈴で土坑中より出土した。土師質でほぼ球形、内部は空洞で、土製の球が1個入っている。紐などをつけた痕跡はみられない。

IIG－2住居跡（第73図、写真図版58）

調査区中央部のIIG区のほぼ中央付近より検出された。埋土は周囲の黒褐色土と大差なく見えたが土器片の散布の様子、周囲の土に比べて混入物がやや多かった点等から竪穴住居跡として精査を進めた。本住居跡の北西にIIG－1住居跡が、南にIIG－4住居跡がそれぞれ隣接する。

平面形　隅丸方形　**規模**　383×387cm

埋土　最上部には黒褐色土、極暗褐色土が全面に堆積するが、その中に砂状の十和田a降下火山灰を所々に含む他、同火山灰のブロックの純層を構成している部分もある。検出面最上部に火山灰が検出されていることから、この部分もある程度の削平を受けているとみられる。

床面　全面に貼床を施し、固く締まり、凹凸も少なく比較的平坦である。

壁　全て外傾して立ち上がる。最大斜度は36°ほどである。壁高は17～21cm程である。

炭化材・焼土　認められない。

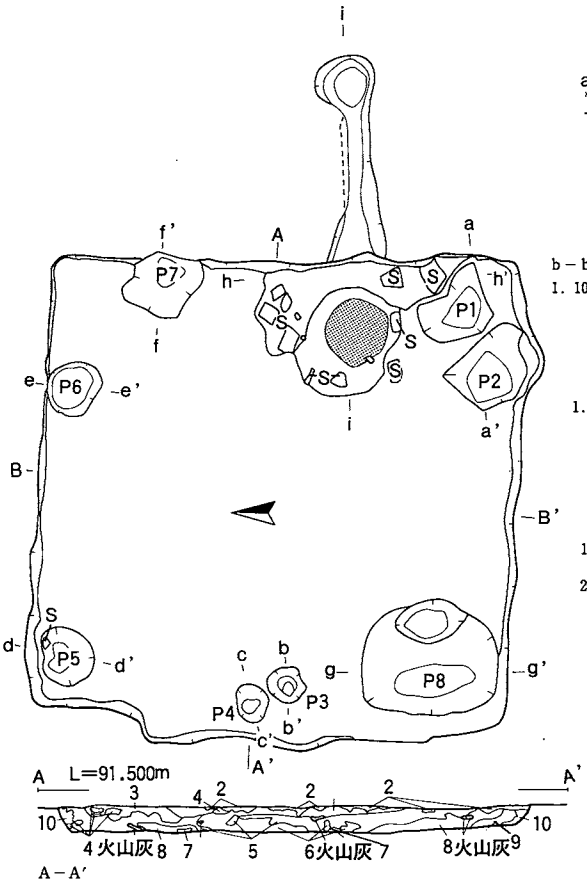
柱穴　壁際より数基の柱穴状の土坑が検出されているが、明らかに本住居跡に伴うものと確定できるものはない。

土坑　主に壁際を中心に8基検出された。P1はカマド焚口東側、隣接するP2の北側より検出され、60×60cmの不整な楕円形を呈している。焼土粒が検出されるのは第2層からであるが、最下部にも若干の焼土が混じる。P3～P4は単層であるが、いずれにも炭化物ないし、焼土粒が混入する。P5は上部に角礫が乗るものの性格は不明である。P8は舟底型の楕円形土坑であり底部が2カ所にわかれる。埋土をみると西側が黒～暗褐色の混合土、東側は焼土粒を含む暗褐色土で構成されている。

カマド　〈位置〉　北壁やや東寄り　〈主軸方向〉　N

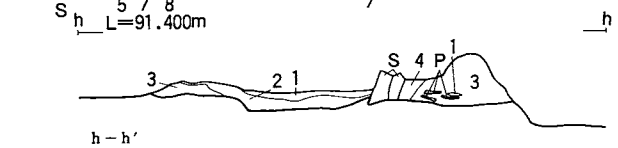
〈本体〉　本遺跡の住居跡の中で唯一北壁にカマドがある遺構である。袖部は壊れており、芯材については確認できなかった。カマドの構成礫と思われる礫が7個残存していた。

〈煙道部・煙出し部〉　くり貫き式の煙道部であり、くり貫き部分の残存状況は比較的良好である。煙道の埋土は黒色土が中心になるものの上部は壁面が焼土化した極暗褐色土となっており、煙出しの部分につながっていく。煙出し部も比較的よく残っており、下部は煙道部からの



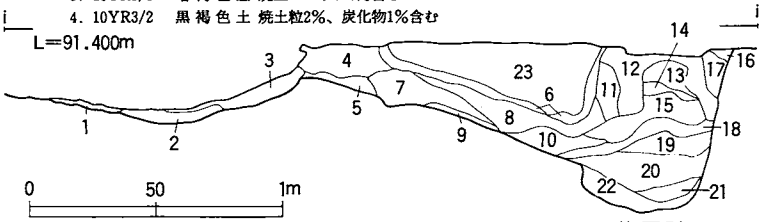
A－A′

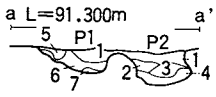
1. 10YR6/6　明黄褐色土 砂状火山灰純層
2. 7.5YR2/2　黒褐色土 砂状火山灰を含む（混合土）
3. 7.5YR2/3　極暗褐色土 火山灰小ブロックを含む
4. 10YR2/3　黒褐色土
5. 7.5YR1.7/1　黒　色　土 黒褐色土ブロックを含む
6. 7.5YR2/1　黒　色　土 黒褐色土ブロックを含む
7. 7.5YR3/3　暗褐色土 褐色土ブロックを含む
8. 10YR2/2　黒褐色土 暗褐色土ブロックを含む（混合土）
9. 7.5YR1.7/1　黒　色　土
10. 10YR2/3　黒褐色土

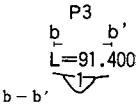


h－h′

1. 7.5YR3/3　暗褐色土 汚れた焼土層、焼土ブロックを含む
2. 5YR3/6　暗赤褐色土 汚れた焼土層、焼土粒5%、炭化物3%含む
3. 10YR3/3　暗褐色土 焼土ブロック3%含む
4. 10YR3/2　黒褐色土 焼土粒2%、炭化物1%含む

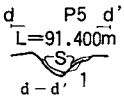






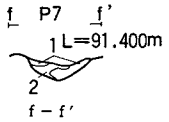
b－b′

1. 10YR2/3　黒褐色土 炭化物2%含む



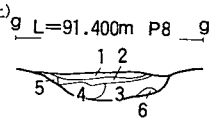
d－d′

1. 10YR3/3　暗褐色土 （混合土）



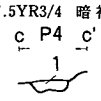
f－f′

1. 10YR2/1　黒　色　土 黒褐色土ブロックを含む
2. 10YR2/3　黒褐色土



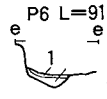
g－g′

1. 7.5YR3/3　暗褐色土 黒褐色土ブロックを含む、炭化物1%
2. 7.5YR2/1　黒　色　土 暗褐色土ブロックを含む（混合土）
3. 7.5YR3/3　暗褐色土 焼土粒5%、炭化物2%
4. 7.5YR3/2　黒褐色土 暗褐色土との混合土
5. 10YR3/3　暗褐色土



c－c′

1. 10YR3/3　暗褐色土 焼土粒3%、炭化物2%含む



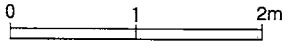
e－e′

1. 10YR2/1　黒　色　土

	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
径(cm)	60×60	65×66	29×31	28×25	46×40	43×42	51×62	91×108
深さ(cm)	19	25	12	9	16	10	14	23

B－B′

1. 7.5YR2/2　黒褐色土 砂状火山灰ブロックを含む（混合土）
2. 7.5YR2/3　極暗褐色土 火山灰小ブロックを含む
3. 7.5YR2/1　黒　色　土 黒褐色土ブロックを含む
4. 7.5YR1.7/1　黒　色　土 黒褐色土ブロックを含む
5. 10YR2/2　黒褐色土 暗褐色土ブロックを含む（混合土）
6. 7.5YR1.7/1　黒　色　土 黒褐色土ブロックを含む
7. 7.5YR2/1　黒褐色土ブロックを含む、焼土粒、炭化物を僅かに含む
8. 7.5YR4/6　褐　色　土 焼土粒を含む
9. 10YR2/3　黒褐色土



i－i′

1. 5YR2/3　極暗赤褐色土 汚れた焼土層、炭化物5%含む
2. 5YR4/8　赤褐色土 焼土純層
3. 5YR3/6　暗赤褐色土 汚れた焼土層、焼土粒5%、炭化物3%含む
4. 7.5YR2/2　黒褐色土 焼土ブロック
5. 10YR3/3　暗褐色土 焼土粒5%、炭化物3%含む
6. 2.5YR2/4　極暗赤褐色土 壁面の焼土化層（崩落土）
7. 7.5YR1.7/1　黒　色　土 焼土粒3%含む
8. 7.5YR2/1　黒　色　土 焼土粒1%含む
9. 7.5YR1.7/1　黒　色　土 焼土粒5%炭化物3%
10. 7.5YR3/3　暗褐色土 炭化物1%
11. 7.5YR2/3　極暗褐色土 暗褐色土ブロックとの混合土、炭化物1%含む
12. 7.5YR3/2　黒褐色土 暗褐色土ブロックとの混合土、炭化物2%含む
13. 10YR3/3　暗褐色土 黒褐色土ブロック含む
14. 10YR2/1　黒　色　土 暗褐色土ブロック含む
15. 10YR3/4　暗褐色土
16. 10YR3/2　黒褐色土
17. 5YR2/4　極暗赤褐色土 壁面の焼土化層（崩落土）
18. 7.5YR2/1　黒　色　土 暗褐色土との混合土
19. 10YR3/3　暗褐色土 黒褐色土ブロックを含む
20. 7.5YR2/2　黒褐色土 焼土粒3%、炭化物1%含む
21. 2.5YR2/4　極暗赤褐色土 汚れた焼土層
22. 7.5YR2/3　極暗褐色土 暗褐色土ブロックを含む
23. 地山

第73図　ⅡG－2住居跡

流れ込みの土、上部は煙出しの自然堆積層に分けられる。煙道、煙出し共礫の崩落については確認できなかった。

重複する遺構　ⅡG－9陥し穴が南西隅と切り合う。

時期　出土遺物から9世紀第4四半期～10世紀前葉に比定される。

遺物（第104図、写真図版81）

194はロクロ使用の坏で、やや砂っぽく、口唇部はやや外反する。195は須恵器の坏で、底部～体部下半までは開き気味、体部中半から口縁部までがやや内側にはいって直線的に立ち上がる。石英を中心に極粗砂以下が10%程度混入する。196はロクロ不使用の甕で内外黒色処理、体部上半に僅かな膨らみがあり、口唇部上端は僅かに外反する。197はロクロ使用の坏であるが、胎土は粗めで脆く、砂粒の痕が多く残る。内面も器壁が半分ほど落ちてしまっている。

ⅡG－3住居跡（第74図、写真図版59）

調査区中央部のⅡG区の最北端で一部ⅡH区にも入る場所において検出された。東側が削平され崖状になっており、そこに煙道の残骸と思われる焼土が検出されたところから竪穴住居跡として精査を進めた。

平面形　隅丸長方形　**規模**　（380×624）cm

埋土　残存状況は極めて悪く、最も残っているところでも14cm程で、ほとんどの部分が10cm以下である。残存している部分についても後世の攪乱を受けている部分も多い。

床面　踏みしめられており固いが、全体的に小さな凹凸がある。

壁　外傾して立ち上がるが、残存状況は悪く、特に東側に行くに従って壁の残りは悪くなる。

柱穴　壁際に近い東西南北4カ所から各1基ずつ検出されている。東西の遺構については対応しているとみられるが、そのほかの詳細については不明である。

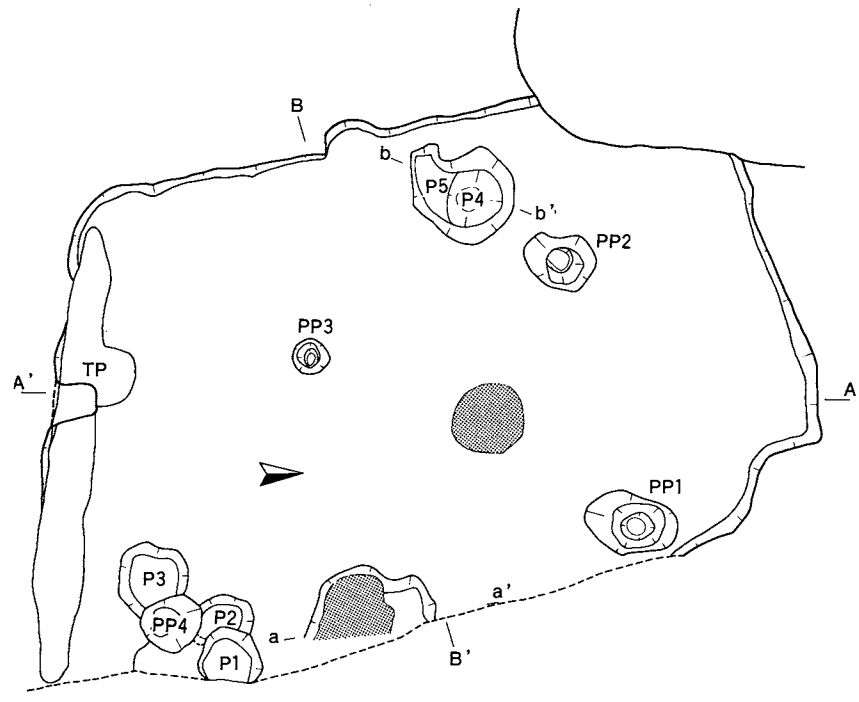
土坑　3基検出されている。底面に砂質火山灰の堆積がみられるP2はP1とPP4に切られ、P3はPP4に切られているが、同時存在は可能である。P3は焼土ブロックを多く含む黒褐色土を埋土とし、底面には汚れた焼土が検出される。P1からは土師器の坏、甕、P2からはロクロ使用の土師器の小型甕が出土している。

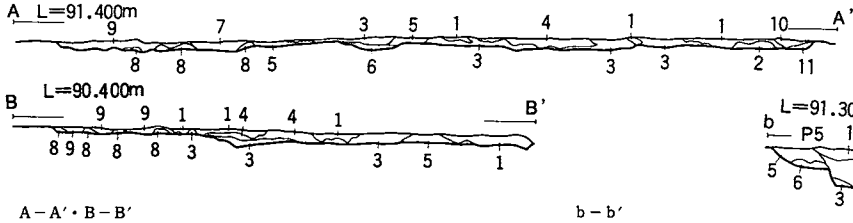
カマド　〈位置〉　東壁やや南寄り　〈主軸方向〉　不明

〈本体〉　東側壁際が完全に削平されて崖になっているため、東側にあったとみられるカマドは燃焼部焼土と煙道のごく一部を残して消滅している。残っている焼土の焼成範囲については48×52cm、層厚3～8cm程である。

〈煙道部・煙出し部〉　削平され消滅している。

重複する遺構　ⅡG－11陥し穴が最南端壁際で東西に伸びている。



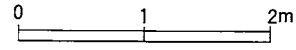


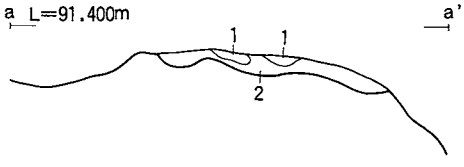
A－A′・B－B′

1. 7.5YR2/2 黒褐色土 焼土粒3%、炭化物1%含む
2. 10YR3/3 暗褐色土 黒褐色土ブロック含む（混合土）
3. 10YR2/2 黒褐色土 焼土粒5%、炭化物10～15%含む
4. 10YR3/1 黒褐色土 焼土粒1%、炭化物3%含む
5. 10YR2/2 黒褐色土 焼土粒3%、炭化物2%含む
6. 5YR2/3 極暗赤褐色土 汚れた焼土層、炭化物10%含む
7. 10YR2/3 黒褐色土 暗褐色土ブロック、火山灰ブロックを含む
8. 7.5YR3/2 黒褐色土 地山？
9. 7.5YR3/1 黒褐色土 炭化物1%含む
10. 7.5YR3/2 黒褐色土
11. 7.5YR2/2 黒褐色土

b－b′

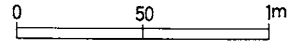
1. 10YR2/2 黒褐色土 焼土粒・炭化物若干含む
2. 10YR2/1 黒色土 焼土粒5%、炭化物7%含む
3. 10YR2/1 黒色土 暗褐色土ブロック含む（混合土）
4. 10YR3/2 黒褐色土 暗褐色土ブロック、焼土粒・炭化物2%含む
5. 10YR2/2 黒褐色土 焼土粒・炭化物2%
6. 7.5YR2/2 黒褐色土 焼土粒10%、炭化物5%、下部に黄白色の砂質土





a－a′

1. 7.5YR2/1 黒色土 焼土粒・炭化物3%含む
2. 2.5YR3/4 暗赤褐色土 汚れた焼土層



	P1	P2	P3	P4	P5
径(cm)	51×43	(26×41)	(46×54)	45×45	96×78
深さ(cm)	11	18	19	10	13

	PP1	PP2	PP3	PP4
径(cm)	74×48	44×55	28×30	42×48
深さ(cm)	64	74	37	68

第74図　ⅡG－3住居跡

時期　出土遺物が少なく詳細は不明である。

遺物（第105図、写真図版81）

198は胎土が緻密であるが焼成不良気味である。内面に炭化物が付着している。199は土錘で長さ6cm、幅2.4cmほどである。

IIG－4住居跡（第75図、写真図版60）

調査区中央部北側より、南側をIIG－5住居跡と接する形で検出された。底面近くまで開田時の削平を受けており、検出面だけでは十分プランがつかめなかったため、貼床を剝がしながらプランの把握につとめた。

平面形　隅丸長方形　**規模**　470×429cm

埋土　層厚は2～8cm、黒褐色の層も単層に近く、極少量の暗褐色系の土がブロック状に入るだけである。

床面　プランが把握できた範囲の半分近くが床面まで開田時の削平の影響を受けており、貼床部が壊れている。

壁　残存状況は極めて悪く、僅かに残存している南壁も立ち上がるという感じではなく、緩やかな傾きがみられるという程度である。

炭化材・焼土　認められない。

柱穴　東西南北4基を検出した。最大のものは径46×47cm、深さ62cm、最小のものは径35×26cm、深さ39cm程である。

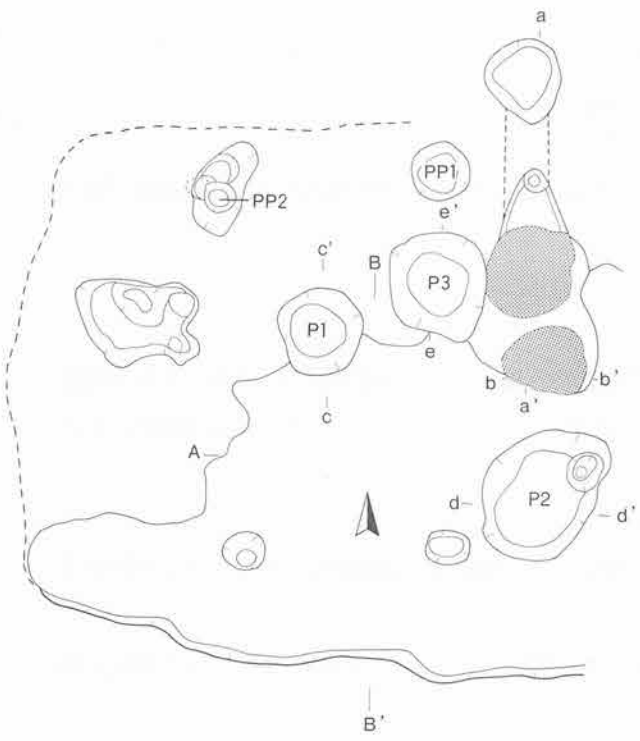
土坑　3基検出された。P1はカマド西側やや内側から検出され、焼土層が大半を占める汚れた焼土が主体となっており、土師器が多く出土している。東端の燃焼部南側でも隅丸長方形のP2を検出しているが、同土坑は東側で他の柱穴と重複することが断面観察から明らかとなっている。この付近から灰釉陶器片が出土していることから、同土坑は遺物の時期に近いものと考えられる。カマド西脇から検出されたP3の埋土は汚れた焼土層を主体とするがP1より汚れは多く、層中に黄白色の粉状の火山灰ブロックを含む。

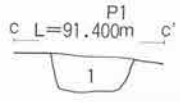
カマド　〈位置〉　北壁やや東寄り　〈主軸方向〉　N3°W

〈本体〉　燃焼部焼土より北側の貼床面が削平されており、焼土も上部はかなりの削平を受けている。焼成部は大きく2つに分けられるが南側は攪乱層である。焼成範囲は南側が65×56cm、層厚12cm、北側は72×68cm、層厚20cmで、構成礫は1個出土した。

〈煙道部・煙出し部〉　煙道部は削平を受けて全く残っておらず、円形の煙出しの深さ13cmを残すのみである。ただ、燃焼部と煙出しの間の長さをみると、他の住居跡のに比べて短い。

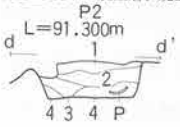
重複する遺構　住居跡の南側が南北にかけて伸びるIIG－8陥し穴と切り合う。





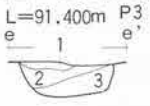
c-c'

1. 2.5YR3/4 暗赤褐色土 汚れた焼土層、焼土粒15%、炭化物5%



d-d'

1. 7.5YR2/2 黒 褐 色 土 焼土粒3%、炭化物2%含む
2. 7.5YR2/1 黒 色 土 焼土粒、炭化物各々2%含む
3. 5YR3/3 暗赤褐色土 汚れた焼土層、焼土粒15%、炭化物5%含む
4. 7.5YR3/2 黒 褐 色 土 いくぶん締まる、焼土粒3%、炭化物2%含む



A'

e-e'

1. 10YR2/3 黒 褐 色 土 焼土粒3%、炭化物2%、火山灰小ブロック含む
2. 10YR2/2 黒 褐 色 土 焼土粒、炭化物各々5%含む
3. 5YR3/3 暗赤褐色土 汚れた焼土層、焼土粒15%、炭化物5%、火山灰小ブロック含む

A-A'

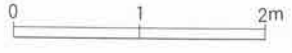
1. 7.5YR2/2 黒 褐 色 土 焼土粒1%、炭化物3%含む
2. 7.5YR2/3 極暗褐色土 焼土粒、炭化物を各々3%含む
3. 7.5YR3/4 暗 褐 色 土 炭化物1%含む

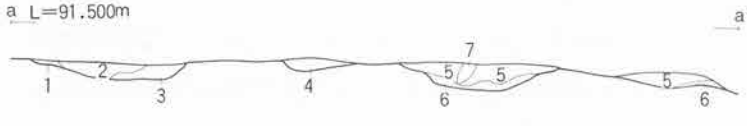
B-B'

1. 7.5YR2/2 黒 褐 色 土 焼土粒1%、炭化物3%含む
2. 2.5YR2/4 極暗赤褐色土 焼土粒5%、炭化物3%含む

	P1	P2	P3
径(cm)	66×70	89×122	71×81
深さ(cm)	34	25	26

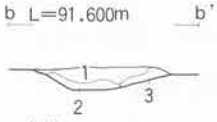
	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5
径(cm)	46×47	26×22	34×31	35×26	28×32
深さ(cm)	62	61	55	39	50





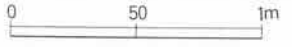
a-a'

1. 10YR2/2 黒 褐 色 土 炭化物2%含む
2. 5YR3/2 暗赤褐色土 焼土ブロックとの混合土、炭化物1%含む
3. 10YR3/3 暗 褐 色 土 焼土ブロック、炭化物各々1%含む
4. 7.5YR2/2 黒 褐 色 土 焼土粒、炭化物1%
5. 2.5YR4/8 赤 褐 色 土 焼土純層
6. 2.5YR4/6 赤 褐 色 土 焼土純層 (5より暗い)
7. 5YR2/3 暗赤褐色土 攪乱層



b-b'

1. 2.5YR4/8 赤 褐 色 土 焼土純層
2. 2.5YR4/8 赤 褐 色 土 焼土純層
3. 5YR4/6 赤 褐 色 土 汚れた焼土層



第75図 ⅡG－4住居跡

時期　9世紀第4四半期～10世紀前葉

遺物（第105～106図、写真図版82）

200～203は「く」の字状口縁であるが、200～202はロクロ使用、203はロクロ不使用の甕である。200は長胴甕で口唇部上端が僅かに上に引き上げられ、外面体部上半から下半にかけてロクロ調整された後、中～下半にケズリ調整がなされ、体部の膨らみは少ない。201は口唇部上端が僅かに上に引き上げられる。202は小型で体部中半に膨らみをもち、底部はやや広めである。口唇部が若干内反する。203は頸部に一条の沈線が巡る。口縁部は中半より肥厚し、口唇部は内反する。204～207はロクロ使用の坏である。204、207は焼成良好で内面底部に炭素粒が付着し、底部から体部下半が開き気味になり、上半にかけてはやや内側に入り一定の角度で口縁部まで立ち上がる。205は口縁部付近が極僅かに内反する。206は赤焼き土器で、一定の角度で口縁部は立ち上がる。208はロクロ不使用の甕で、胎土には雲母が細かく混入し、表面はざらつく。口唇部が上下に極僅かに引き出される。209～213はロクロ使用坏で、209は赤焼き、210は須恵器の皿状の坏である。211は緑釉陶器で、住居内の柱穴より出土したが器種は不明である。212、213は赤焼き土器で、両方とも胎土は砂っぽい。214はロクロ使用の小甕で外側は黒っぽく、体部には緩やかな丸みを帯びる。

ⅡG－5住居跡（第76図、写真図版61）

調査区中央部南側、ⅡG－4住居跡の南側に隣接する。本住居跡は周囲とは若干異なる黒褐色の埋土で、やや小型ながら竪穴住居跡の可能性が高いとして精査を進めた。その結果、四方の壁は立ち上がるものの、他の付属施設は何も持たない住居跡となった。

平面形　隅丸方形　**規模**　208×209cm

埋土　主体は黒、黒褐色土で大変を占めるが、壁際に流れ込みの黒褐色、暗褐色系の埋土が堆積する。

床面　踏みしめられており固い。層位の観察から一部貼床と認められるところが部分的にあるが明確には確認できない。

壁　全て外傾して立ち上がる。壁高は7～14cm程である。

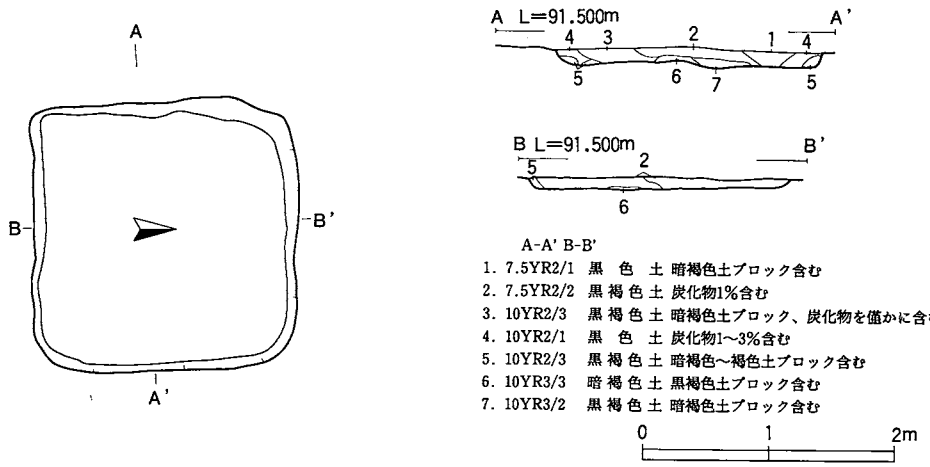
炭化材・焼土　なし

柱穴　なし

土坑　なし

カマド　なし

時期　出土遺物が皆無のため不明である。



第76図　ⅡG－5住居跡

ⅡH－1住居跡（第77図、写真図版62）

調査区中央部やや北寄りのⅡH区の最南端に位置し、ⅡH－2住居跡の南に隣接する。検出状況から西側一部が調査区域外に入っているため、西側は未調査である。東側にⅡH－1溝が入っており、カマド、壁の一部が同遺構によって切られている。

平面形　隅丸方形または隅丸長方形　**規模**　453×310cm

埋土　黒褐色土、暗褐色土が主体で各層にわずかずつではあるが、焼土粒、炭化物が入る。また所々に混合土の混入もみられる。

床面　貼床をしており固く締まっている。

壁　南壁はいくぶん外傾して立ち上がるが、ほぼ直立に近い。東側は削平のため壁がほとんど残っておらず、壁高は4cm程しかなく緩やかに立ち上がる。東側を除くと壁高は20~32cm程である。

炭化材・焼土　なし

柱穴　本住居跡の南壁際及び東壁際から土坑群が検出され、その中には柱穴になりそうなものも見受けられるが、明確に柱痕を残すものはない。配置等からみると3基が本住居跡に伴うものとみられる。

土坑　南、東壁を中心に9基検出されている。その中で特徴的なものとしてP4、P5、P6についてはカマド脇、南東コーナーから南壁際にかけて重複するが、いずれも本住居に伴うものと考えられる。P4は焼土ブロックを含む汚れた焼土層が埋土の主体で、P6も焼土、炭化物を多く含んでいる。P5はこの2基に挟まれる形で下部から検出されている。これらの西側か

ら検出されたのはP7である。東壁中央部から2個の小土坑としてP8、P9が検出されているが、埋土は焼土ブロック、炭化物を含む黒褐色の混合土である。P8からは甕の破片が出土している。

カマド　〈位置〉　東壁やや南寄り　〈主軸方向〉　N90°E

〈本体〉　本体には燃焼部焼土と1個の礫が残存する。袖部は破壊されている。礫は焼土中央やや東側より検出されており、袖部の芯材として利用されたものではない。

〈煙道部・煙出し部〉　掘り込み式の煙道であるが、上部の削平が著しく、煙道の一部はIIH－1溝跡によって切られている。煙道部の埋土は上層が暗赤褐色土、極暗赤褐色土の汚れた焼土層が多量に入っており、ここから流れ込んだ層が煙り出し下部に入る。

重複する遺構　IIH－1溝が煙道部を切る。

時期　9世紀第4四半期～10世紀前葉

遺物（第106～107図、写真図版83～84）

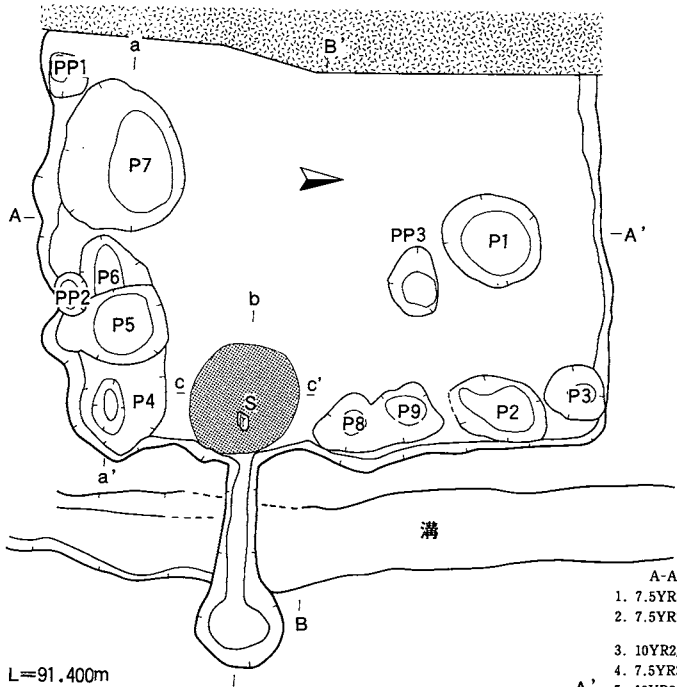
215～222は甕で218を除いて全てロクロ使用で、218も含めて全て「く」の字状口縁を呈している。215、216は焼成やや不良で表面にひび割れがみえ、口唇部下端が短く引き出される。217は口縁部直下に太めの沈線が一条走り、体部上半にも見受けられる。体部上半の沈線は一部曲線状である。218も頸部に沈線が一条走り、口唇部は下部が一段緩い段になっており、更に外側に広がる。219は口縁部～体部にかけて黒色部分があるが、丁寧なナデ調整がなされており、焼成も良好で硬質である。220は内外面の70%が褐色系で、中～細礫も5%程混入している。222は底部がやや小さめで体部中半にやや膨らみをもって立ち上がり、内面体部の一部が黒ずむ。223は須恵器の坏であるが、底部から口縁部まであまり開かず、一定の角度で直線的に立ち上がる。224はロクロ使用甕であるが内面黒色処理、底部は再調整されている。225はロクロ使用の坏であるが、磨滅が激しく、当初入っていた砂もとれている。焼成は不良で脆い。226はロクロ不使用の甕で体部内外面に刷毛目調整がみられ、口縁部は「く」の字状である。228～232は土錘で、5点全てが破損している。形状からみて比較的細長いものが多く占めている。233は流紋岩製の砥石で遺構内柱穴から出土している。234は器種不明の鉄製品である。

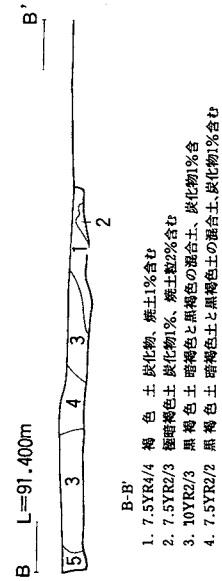
IIH－2住居跡（第78図、写真図版63）

調査区中央部やや北寄りのIIH区の南側西端IIH－1住居跡の北に隣接する。西側一部が調査区外に入っているため、西側は一部未調査である。カマドの煙道部はIIH－1住居跡同様、IIH－1溝によって削平されている。

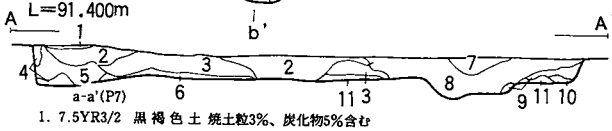
平面形　隅丸長方形？　**規模**　（532×328）cm

埋土　上部がかなり削平されているため、全体的に薄く、重なり合う堆積状況がみられる部

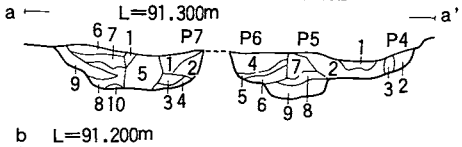




B-B'
1. 7.5YR4/4 褐 色 土 炭化物、焼土1%含む
2. 7.5YR2/3 極暗褐色土 炭化物1%、焼土粒2%含む
3. 10YR2/3 黒 褐 色 土 暗褐色と黒褐色の混合土、炭化物1%含
4. 7.5YR2/2 黒 褐 色 土 暗褐色土と黒褐色土の混合土、炭化物1%含む
5. 7.5YR2/2 黒 褐 色 土 同上

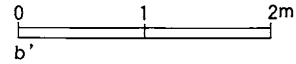


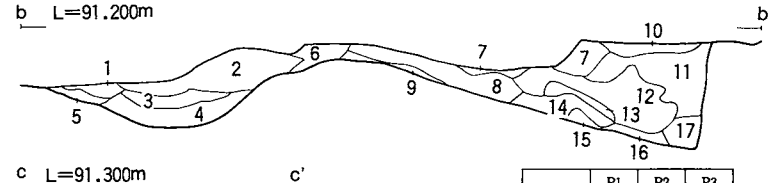
a-a'(P7)
1. 7.5YR3/2 黒 褐 色 土 焼土粒3%、炭化物5%含む
2. 7.5YR2/1 黒 色 土 暗褐色土との混合土、焼土粒1%含む
3. 7.5YR1.7/1 黒 色 土
4. 7.5YR2/2 黒 褐 色 土 暗褐色土ブロック、焼土粒3%、炭化物1%含む
5. 7.5YR3/2 黒 褐 色 土 暗褐色土ブロック、焼土粒、炭化物各々1%含む
6. 7.5YR3/3 暗 褐 色 土 黒褐色土ブロック含む、焼土粒、炭化物各々1%含む
7. 7.5YR3/3 暗 褐 色 土 焼土粒1%含む、締まる
8. 7.5YR2/1 黒 色 土 暗褐色土ブロック含む
9. 7.5YR3/3 暗 褐 色 土 締まる
10. 7.5YR2/3 極暗褐色土 焼土粒1%含む



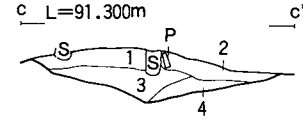
A-A'
1. 7.5YR3/2 黒 褐 色 土 水田耕作土、締まる
2. 7.5YR2/2 黒 褐 色 土 黒褐色土と暗褐色土の混合土、炭化物を僅かに含む
3. 10YR2/3 黒 褐 色 土 黒褐色土と暗褐色土の混合土
4. 7.5YR3/4 暗 褐 色 土 締まる、地山に近い
5. 10YR2/3 黒 褐 色 土 焼土粒2%、炭化物3%含む
6. 10YR2/2 黒 褐 色 土 焼土粒1%、炭化物2%含む
7. 7.5YR2/1 黒 色 土 黒褐色土ブロック含む
8. 7.5YR2/2 黒 褐 色 土 黒褐色土と暗褐色土の混合土、炭化物1%含む
9. 7.5YR2/1 黒 色 土 黒褐色土小ブロック含む
10. 10YR3/3 暗 褐 色 土 炭化物僅かに含む
11. 7.5YR3/4 暗 褐 色 土 黒褐色土ブロック含む

(P4～6)
1. 2.5YR2/4 極暗赤褐色土 ひどく汚れた焼土層、焼土粒3%、炭化物5%含む
2. 2.5YR3/4 暗赤褐色土 汚れた焼土層、焼土粒15%、炭化物5%含む
3. 7.5YR2/3 極暗褐色土 焼土粒2%、炭化物1%含む、攪乱層
4. 5YR2/4 極暗赤褐色土 汚れた焼土と黒褐色土の混合土、焼土粒7%、炭化物5%含む
5. 7.5YR3/2 黒 褐 色 土 焼土粒1%含む
6. 7.5YR2/2 黒 褐 色 土 焼土粒5%、炭化物3%、底面に焼土ブロック含む
7. 10YR3/3 暗 褐 色 土 黒褐色土ブロック、締まる
8. 10YR2/1 黒 色 土 暗褐色土ブロック含む、締まる
9. 10YR3/3 暗 褐 色 土 炭化物、焼土粒各々1%含む

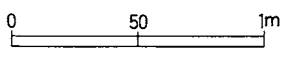




b-b'
1. 7.5YR3/4 暗 褐 色 土 焼土粒20%、炭化物3%含む
2. 5YR3/6 暗赤褐色土 焼土ブロックとの混合土、汚れた焼土層、炭化物2%含む
3. 2.5YR4/8 赤 褐 色 土 焼土純層、ブロック状
4. 2.5YR4/8 赤 褐 色 土 焼土純層
5. 10YR3/3 暗 褐 色 土 炭化物、焼土粒各々1%含む
6. 5YR3/4 暗赤褐色土 汚れた焼土層、焼土ブロック40%、炭化物3%含む
7. 5YR2/3 極暗赤褐色土 ひどく汚れた焼土層、炭化物2%含む
8. 5YR3/6 暗赤褐色土 汚れた焼土層、焼土ブロック40%、炭化物3%含む
9. 10YR3/3 暗 褐 色 土 炭化物、焼土粒1～2%含む
10. 10YR3/2 黒 褐 色 土 焼土粒2%、炭化物1%含む
11. 5YR3/6 暗赤褐色土 汚れた焼土層、炭化物1%
12. 5YR3/3 暗赤褐色土 ひどく汚れ焼土層、焼土ブロックとの混合
13. 5YR3/6 暗赤褐色土 汚れた焼土層、焼土ブロック40%、炭化物1%含む
14. 5YR2/3 極赤暗褐色土 焼土ブロック含む
15. 5YR3/6 暗赤褐色土 汚れた焼土層
16. 10YR2/1 黒 色 土 焼土粒、炭化物2%含む
17. 7.5YR3/4 暗 褐 色 土 焼土ブロックを含む、炭化物1%含む



1. 7.5YR4/6 褐 色 土 7.5YR5/8明褐色土1%含む、礫を若干含む
2. 7.5YR4/4 褐 色 土 土師器片を含む
3. 7.5YR5/6 明 褐 色 下部が一部7/6橙色
4. 7.5YR4/6 褐 色 土



	P1	P2	P3
径(cm)	74×78	52×73	44×50
深さ(cm)	10	16	21

	P4	P5	P6
径(cm)	(72×63)	(61×63)	(45×56)
深さ(cm)	34	74	48

	P7	P8	P9
径(cm)	(119×100)	(47×48)	48×54
深さ(cm)	63	17	20

	P1	P2	P3
径(cm)	33×29	34×25	55×40
深さ(cm)	47	25	22

第77図 ⅡＨ－１住居跡

分は少ない。主体となるのは黒色土であるが、その中で全体的に十和田ａ降下火山灰を多く含み、部分的にはブロック状に入る部分がみられる。また、底面近くには焼土ブロック混じりの暗褐色～褐色土が堆積する。

床面　踏みしめられており固い。

壁　東側がⅡＨ－１溝によって完全に削平されているため壁は消滅している。残存している南北の壁は緩やかに外傾して立ち上がるが、壁の残りは悪く、壁高は４～５cm程である。

炭化材・焼土　カマドの西部22cmの地点及び96cmの地点に焼土が確認される。前者は焼成範囲が32×41cm、後者が30×28cm、また西端中央調査区域外との間にかけて40×83cmの範囲に炭化物が広がる。

柱穴　南壁際を中心に９基の土坑が検出されているが、この中で柱穴の可能性があるのは２基である。

土坑　７基検出されている。P1はカマド南側南東隅より検出された。平面形は隅丸長方形で底面に焼土ブロック混じりの暗褐色～褐色土が堆積している他、埋土中から土師器、須恵器が多く出土している。P3はP1の北隣に位置するが、須恵器坏が２個出土している。北壁西端にある楕円形を呈するP2は埋土上部が黒、下部が焼土ブロックを含む暗褐色土で構成されるが、ここからも土師器、須恵器が出土している。北東隅の不整な楕円形を呈するP4の埋土は黒褐色ブロックを含む暗褐色土で構成され、底面には凹凸があり、掘り方の可能性もある。南壁に連なるP5、P6、P7のうち、P6はP5、P7を切る。P5、P7は汚れた焼土が埋土となり、P7は浅皿状を呈する。

カマド　〈位置〉　東壁南寄り　〈主軸方向〉　N87°E

〈本体〉　残存するのは燃焼部焼土と２個の構成礫である。焼成範囲は60×86cm、層厚は14～23cm、焼成は良好である。

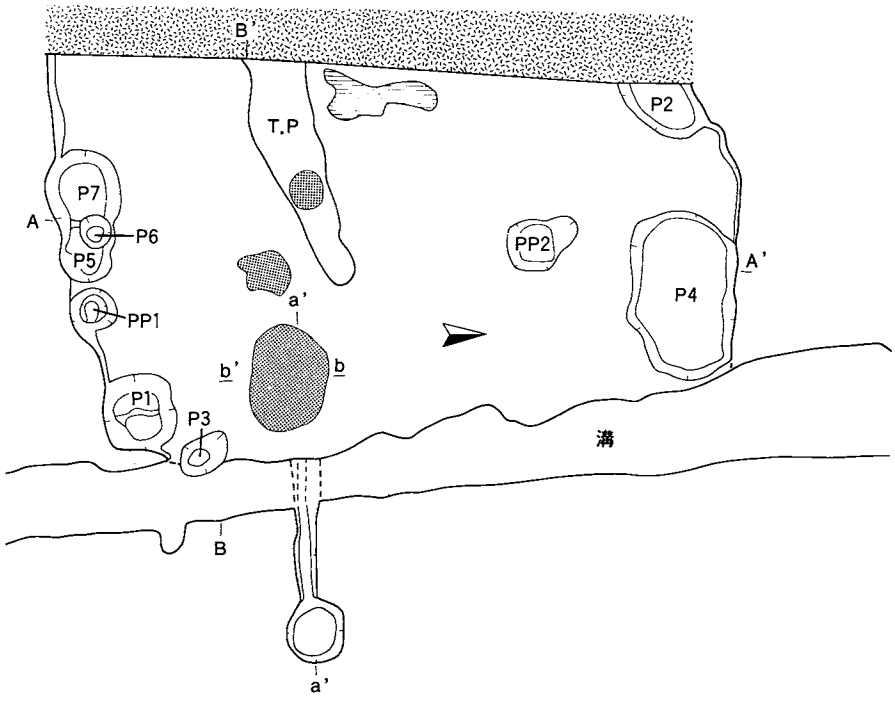
〈煙出し部・煙道部〉　掘り込み式で、焚口から東側55cm程をⅡＨ－１溝によって切られており、その部分は全く消滅している。煙出し部上部の土は焼土ブロックとの混合土である褐色土で占められる。一部に壁崩落土が混じっているものと思われる。

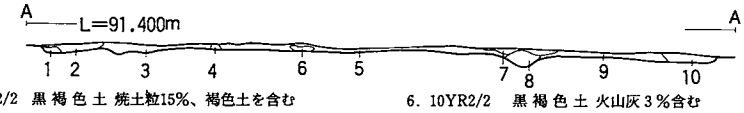
重複する遺構　ⅡＨ－１溝に切られる。

時期　９世紀第４四半期～10世紀前葉

遺物（第107～108図、写真図版84）

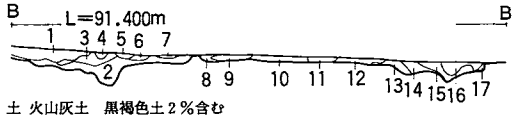
235はロクロ使用の甕で口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部上端が僅かに上に引き上げられる。胎土は粗めで、極粗砂以下が密度濃く混入している。236は須恵器の坏で口唇部は極僅かに外反する。237はロクロ使用の坏で胎土は粗めで脆く、砂粒の落ちた痕が密度濃く残っている。底部はやや広めで一定の角度で立ち上がり、口縁部がやや外反する。238～241は須恵器





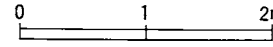
A－A′

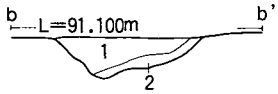
1. 7.5YR2/2 黒褐色土 焼土粒15%、褐色土を含む
2. 7.5YR2/2 黒褐色土 焼土粒1%、炭化物1%含む
3. 10YR2/2 黒褐色土
4. 10YR8/4 浅黄橙色土 火山灰土、炭化物1%含む
5. 10YR2/2 黒褐色土 炭化物1%含む
6. 10YR2/2 黒褐色土 火山灰3%含む
7. 10YR2/3 黒褐色土 火山灰質土3%含む
8. 10YR4/6 褐色土 火山灰土、暗褐色土15%含む
9. 7.5YR2/3 黒褐色土 火山灰質土、炭化物各々1%を含む
10. 10YR2/3 黒褐色土 固く締まりがある



B－B′

1. 10YR4/6 褐色土 火山灰土 黒褐色土2%含む
2. 7.5YR3/2 黒褐色土 暗褐色土ブロック20%含む
3. 10YR2/2 黒褐色土 火山灰10%、炭化物1%含む
4. 10YR5/6 黄褐色土 火山灰土 黒褐色土1%含む
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 全体に黒褐色土混入、炭化物1%含む
6. 10YR2/3 黒褐色土 暗褐色土を含む
7. 10YR4/4 褐色土 火山灰土、炭化物3%、焼土粒1%を含む
8. 10YR2/3 黒褐色土 火山灰20%、焼土粒5%含む
9. 10YR2/3 黒褐色土 炭化物25%、火山灰2%、焼土粒1%含む
10. 10YR2/2 黒褐色土 火山灰質土25%、炭化物7%、焼土粒3%含む
11. 5YR2/3 極暗赤褐色土 汚れた焼土層
12. 10YR3/2 黒褐色土 固く締まりあり
13. 10YR3/2 黒褐色土
14. 10YR2/3 黒褐色土 褐色土10%、焼土粒5%含む
15. 7.5YR3/2 黒褐色土 褐色土10%、焼土粒1%含む
16. 10YR2/3 黒褐色土
17. 7.5YR4/4 褐色土 粘性ややあり



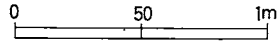


a－a′

1. 5YR3/8 暗赤褐色土 焼土ブロックとの混合土、炭化物が僅かに混入
2. 10YR2/3 黒褐色土 焼土粒2%、炭化物1%含む

a－a′

1. 5YR3/6 暗赤褐色土 焼土ブロックとの混合土
2. 2.5YR4/8 赤褐色土 焼土純層
3. 10YR2/3 黒褐色土 焼土粒、炭化物僅かに含む、締まりあり
4. 5YR2/2 黒褐色土 焼土粒2%、炭化物1%
5. 5YR3/2 暗赤褐色土 焼土ブロックとの混合土、炭化物3%含む



	P1	P2	P3	P4
径(cm)	60×58	(49×54)	48×28	135×82
深さ(cm)	51	17	13	9

	P5	P6	P7
径(cm)	42×44	26×24	57×60
深さ(cm)	18	31	7

	PP1	PP2
径(cm)	32×38	38×67
深さ(cm)	57	50

第78図 ⅡH－2住居跡

の坏である。238は体部がやや内湾して開き、口縁部は外反気味、灰白色を呈する還元炎焼成のものである。239は底部から体部まで一定の角度で開くが、体部上半よりやや垂直気味に立ち上がり、口唇部はやや外反する。240、241も焼成良好で硬質である。242はロクロ使用の甕である。243は底部がやや小さめの長胴甕で、巻き上げ痕、指頭圧痕がみられる。底部は砂底であるが砂は中央部には少なく、周囲に密度濃く入っている。

ⅡＨ－３住居跡（第79図、写真図版64）

調査区中央部やや北よりのⅡＨ区内の北側、ⅢＨ区との境界付近に位置する。全体的に床面まで削平されているが、特に東西両側の削平が著しい。カマドは削平され残っていない。北西隅がⅡＨ－３土坑に切られる。

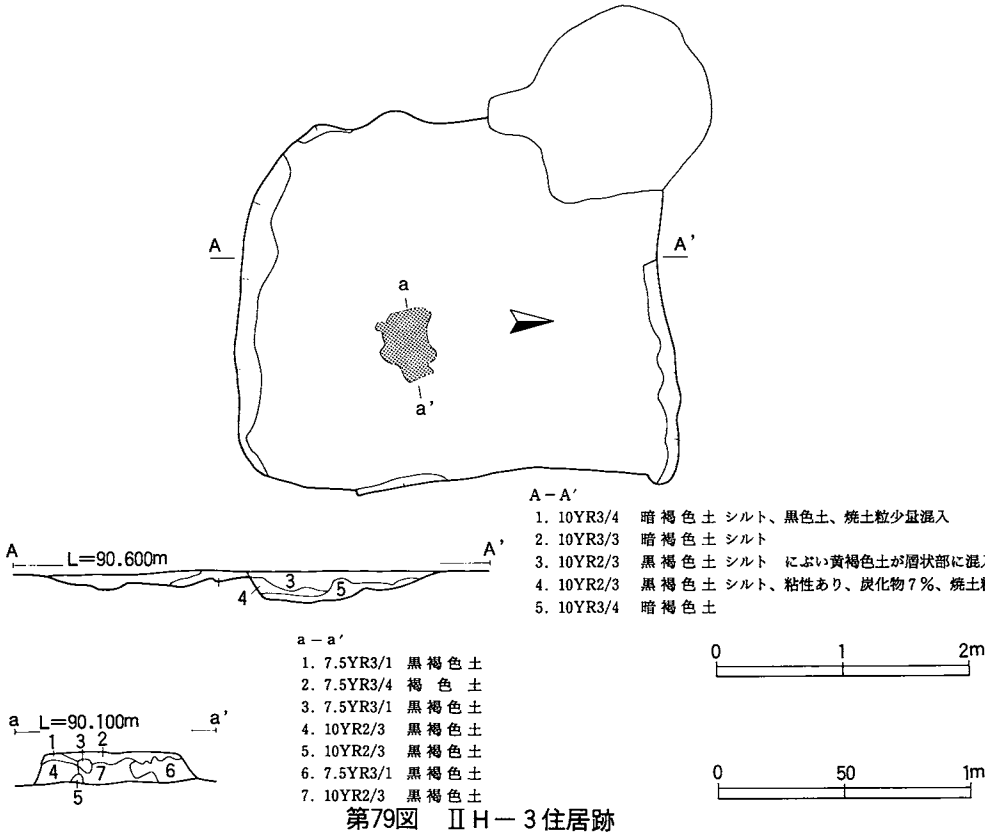
平面形　隅丸方形　**規模**　350×300cm

埋土　暗褐色土及び黒褐色土で占められ、３層上部には一部火山灰が散布する。

床面　削平されている部分が多いが、貼床が一部残存している部分もある。

壁　東西の壁はほぼ削平されており消滅している。残存している壁の高さは６～14cm程である。

炭化材・焼土　中央からやや南東部の位置にある。焼成範囲は37×58cm、層厚13cm程である。



第79図　ⅡＨ－３住居跡

柱穴・土坑　認められなかった。

カマド　全て削平され消滅している。

重複する遺構　IIH－3土坑

時期　9世紀第4四半期～10世紀前葉

遺物（第108～109図、写真図版85～86）

244～250は須恵器の甕である。244、245、248、249は叩き目、当て具痕をもつが、叩き目は平行線文が多く、249に一部斜格子目状文が入る。当て具痕は244が青海波状文で、その他は平行線文である。246、247は叩き目、当て具痕はないが、内外面とも丁寧なナデ調整が施されている。250はロクロ使用で、口縁部が上下に引き出されている。251はロクロ調整がなされているが、体部に若干のケズリが入る。252は土師質の埦で体部上半に沈線が入り、体部にはケズリ調整がみられる。253はロクロ使用の甕、254～262はロクロ使用の坏である。256は内面黒色処理され、257、260は内面が、261、262は内外面が丁寧に磨かれている。

IIIH－1住居跡（第80・81図、写真図版65・66）

調査区中央部やや北寄りの東側のIIH区の東端に近い地点に位置する。表土除去後、フラットローム上層で方形の住居跡と明確に確認され、最上面でも既に焼土や炭化材が見えていたため、焼失住居跡を想定して精査を進めた。また、本住居跡西端中央部に土坑が検出されたが住居跡の壁を切っているところからみて、本住居跡には伴わないものである。

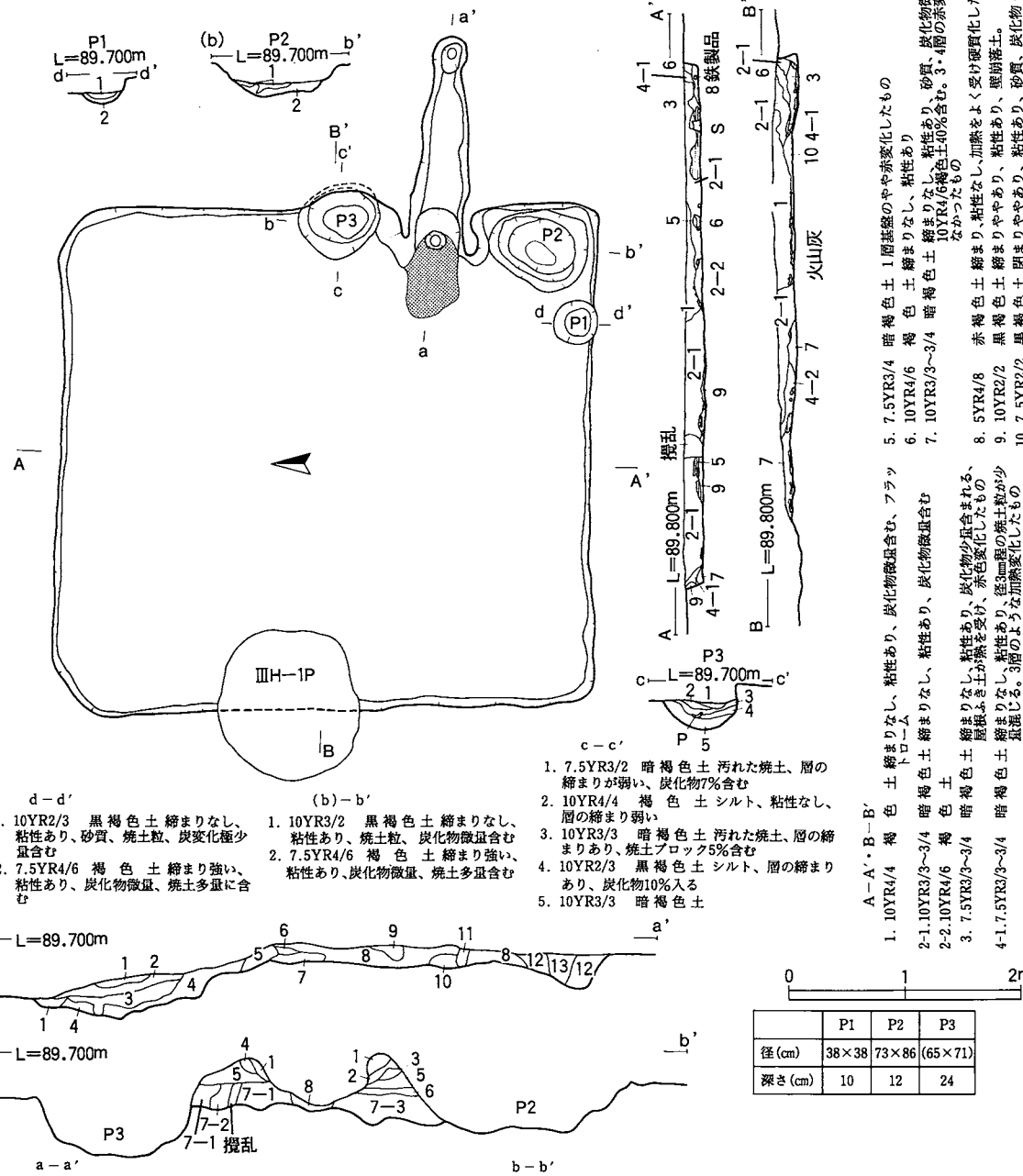
平面形　隅丸方形　**規模**　470×442cm

埋土　最上層には10YR4/3にぶい黄褐色土が入るが、これは屋根の土であるとみられる。南東部にはこの砂がより多く堆積するが、同時に同区には焼土、炭化材ともほとんどない。最も焼土、炭化材が多いのは北西部である。南西区には焼土の下に火熱変化を受けない黄褐色土が広がる。

床面　貼床をしており比較的固い。西端中央からやや東よりにかけての部分を除いて炭化材が床面直上に広がる他、その炭化材が広がらない部分には76×137cmの範囲に須恵器大甕、土錘の破片が広がっている。

壁　全体的に外傾して立ち上がるが、西側が一部削平されている。壁高は13～18cm程である。

炭化材・焼土　須恵器等、遺物の広がりがみられる西端中央からやや東寄りにかけての部分を除いて、炭化材がほぼ全面に広がる。焼土は南東部にはほとんど広がらず、その他の面に多く広がる。最も材の残りがよいものは100～126cm程で、南西部では中央に向かって一部放射状に広がる様子が見られる。西部～北西部にかけても材の密度からすると南西部以上に広がっているが、南西部のものと比べると細かくなっている。しかし、中央部に向かっている様子はう



d－d'

1. 10YR2/3　黒褐色土 締まりなし、粘性あり、砂質、焼土粒、炭変化極少量含む
2. 7.5YR4/6 褐　色　土 締まり強い、粘性あり、炭化物微量、焼土多量に含む

(b)－b'

1. 10YR3/2　黒褐色土 締まりなし、粘性あり、焼土粒、炭化物微量含む
2. 7.5YR4/6 褐　色　土 締まり強い、粘性あり、炭化物微量、焼土多量含む

c－c'

1. 7.5YR3/2 暗褐色土 汚れた焼土、層の締まりが弱い、炭化物7%含む
2. 10YR4/4　褐　色　土 シルト、粘性なし、層の締まり弱い
3. 10YR3/3　暗褐色土 汚れた焼土、層の締まりあり、焼土ブロック5%含む
4. 10YR2/3　黒褐色土 シルト、層の締まりあり、炭化物10%入る
5. 10YR3/3　暗褐色土

A－A'・B－B'

1. 10YR4/4　褐　色　土 締まりなし、粘性あり、炭化物微量含む、フラットローム
2-1.10YR3/3~3/4 暗褐色土 締まりなし、粘性あり、炭化物微量含む
2-2.10YR4/6　褐　色　土
3. 7.5YR3/3~3/4　暗褐色土 締まりなし、粘性あり、炭化物少量含まれる、層根ふき土が熱を受け、赤色変化したもの
4-1.7.5YR3/3~3/4　暗褐色土 締まりなし、粘性あり、径3mm程の焼土粒が少量混じる。3層のような加熱変化したもの
4-2.7.5YR3/3~3/4　暗褐色土 焼土粒50%含む
5. 7.5YR3/4　暗褐色土 1層基盤のやや赤変化したもの
6. 10YR4/6　褐　色　土 締まりなし、粘性あり
7. 10YR3/3~3/4　暗褐色土 締まりなし、粘性あり、砂質、炭化物微量、10YR4/6褐色土40%含む。3・4層の赤変化しなかったもの
8. 5YR4/8　赤褐色土 締まり、粘性なし、加熱をよく受け硬質化したもの
9. 10YR2/2　黒褐色土 締まりやや有り、粘性あり、壁崩落土。
10. 7.5YR2/2　黒褐色土 閉まりやや有り、粘性あり、砂質、炭化物・焼土粒微量含む。7層に類する。

a－a'

1. 7.5YR3/3　暗褐色土 焼土粒・炭化物5%含む
2. 5YR4/6　赤褐色土 汚れた焼土層、焼土粒3%、炭化物1%含む
3. 5YR4/8　赤褐色土 焼土層
4. 5YR3/6　暗赤褐色土 汚れた焼土層、焼土粒7%、炭化物3%含む
5. 10YR2/3　黒褐色土 焼土粒、炭化物各2%含む
6. 5YR2/4　極暗赤褐色土 汚れた焼土、炭化物5%含む
7. 5YR4/6　赤褐色土 汚れた焼土
8. 5YR3/4　暗赤褐色土 焼土粒3%
9. 10YR4/4　褐　色　土 火山灰？
10. 5YR3/3　暗赤褐色土 汚れた焼土
11. 10YR3/6　暗褐色土 攪乱層
12. 5YR3/4　暗赤褐色土 汚れた焼土、焼土粒1%、炭化物5%含む
13. 5YR2/2　黒褐色土 焼土粒1%、炭化物3%含む

b－b'

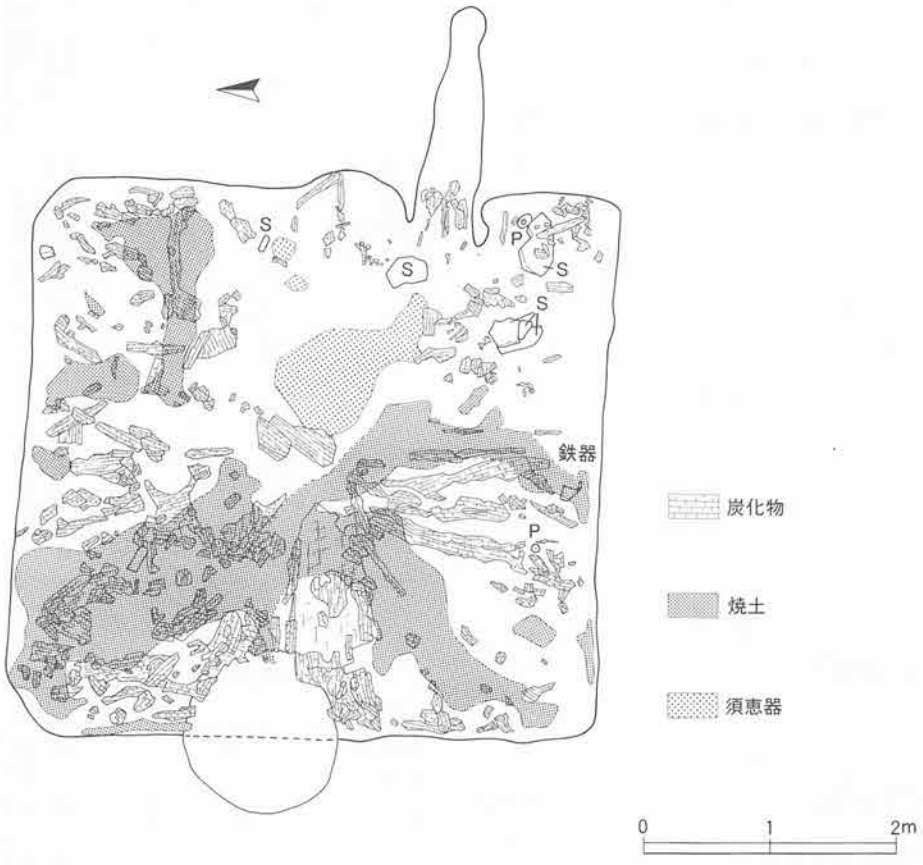
1. 5YR4/6　赤褐色土 内壁、最も赤色変化した部分、カマド構築土
2. 5YR3/4　暗赤褐色土 カマド構築土
3. 5YR4/6　赤褐色土 カマド構築土
4. 5YR3/4　暗褐色土 カマド構築土
5. 10YR2/3　黒褐色土 貼床
6. 10YR2/1　黒　色　土 貼床
7-1.10YR　黒褐色土 褐色シルト30%含む、貼床
7-2.10YR　褐　色　土 黒褐色土少量含む、貼床
7-3.10YR2/3　黒褐色土 褐色シルトが粒子及びブロック状に微量混入、貼床
8. 7.5YR3/4　暗褐色土 ～4/3褐色土　貼床

	P1	P2	P3
径(cm)	38×38	73×86	(65×71)
深さ(cm)	10	12	24

0　1　2m

0　50　1m

第80図　ⅢH－1住居跡（1）



第81図　ⅢＨ－1 住居跡⑵炭化物検出状況・焼土検出範囲・須恵器出土範囲

かがい知ることができる。本住居跡に広がる材は全てケヤキである。

柱穴　明確に柱穴となるものはない。

土坑　3基検出されている。カマドの南北両脇からP2、P3を、南東壁のP2の西側からP1を検出した。P1には下層に焼土粒が多量に含まれていた。また、P2、P3は掘り込みが12～24cmと浅いが、P3の方が比較的多くの焼土、炭化物を含む。

カマド　〈位置〉　東壁南寄り　〈主軸方向〉　N98°E

〈本体〉　焼成部焼土を中心によく残り、構成礫は5点程検出された。最も大きいもので24×51×10cm程である。カマドの構築土は焚口から煙道部に通じる部分の両側によく残っている。埋土の様子では第1層～第5層にかけてはカマドの構築土であり、内側の部分はよく焼成を受けている。焚口焼成部焼土の焼成範囲は76×44cm、層厚16cmである。

〈煙道部・煙出し部〉　煙道部は掘り込み式であるが礫はみられない。焚口から18°の角度で上がり、極暗赤褐色土～赤褐色土の堆積がみられる。

重複する遺構　IIH－1土坑

時期　9世紀第4四半期～10世紀前葉

遺物（第110～111図、写真図版86～87）

263は須恵器の胴張大甕の完形品である。外側は斜格子目状叩き目、内側は格子目状当て具痕が残る。口縁部は頸部がやや外反して立ち、口唇下部が引き出される、折り返しの二重口縁気味になっている。体部中半は大きく張り出し、底部にいくにしたがって狭くなり、底部は丸底になっている。叩き目は底部にもみられる。264はロクロ使用の坏で内面黒色処理され、外側体部中央に「善」の文字が記されている墨書土器である。底部～体部中半にかけて若干丸みを帯びて立ち上がり、内面のミガキ痕は明瞭である。265は須恵器の壺の頸部である。外面の1/3は黒色を呈し、頸部から緩やかに外反し、口唇部が更に外側に張り出す形で上部に引き出される。266、268、272、274はロクロ使用坏で、内面黒色処理がなされている。267はロクロ使用の甕で比較的薄手で、底部から体部中半までは外反気味に立ち上がるが、体部中～上半、口辺部までは垂直に立ち上がり、口縁部は外側に張り出し、上下に引き出されている。269～274はロクロ使用の坏であり、比較的胎土は粗めである。特に271は極粗砂以下の粒が密度濃く混入している。275はロクロ使用の甕で、「く」の字状口縁、口唇部上下には若干の引き出しがあり、口縁部内側には炭化物が付着する。277～284は土錘である。8点全て床面中央より出土したが、長さは最大で6cm、最小で4.4cmほどである。285は硬質泥岩製のフレークである。286～289は鉄製品であるが、286、287は鎌、288は紡錘車の本体、289は288の一部である。

IIIH－2住居跡（第82図、写真図版67）

調査区中央部やや北寄りの東側IIIH区の北端、IIII区と境を接する地点に位置する。IIIH－1住居跡は本住居跡の南東に位置する。既に文化課のトレンチで検出されており、北西部は一部トレンチの際に削平されている。

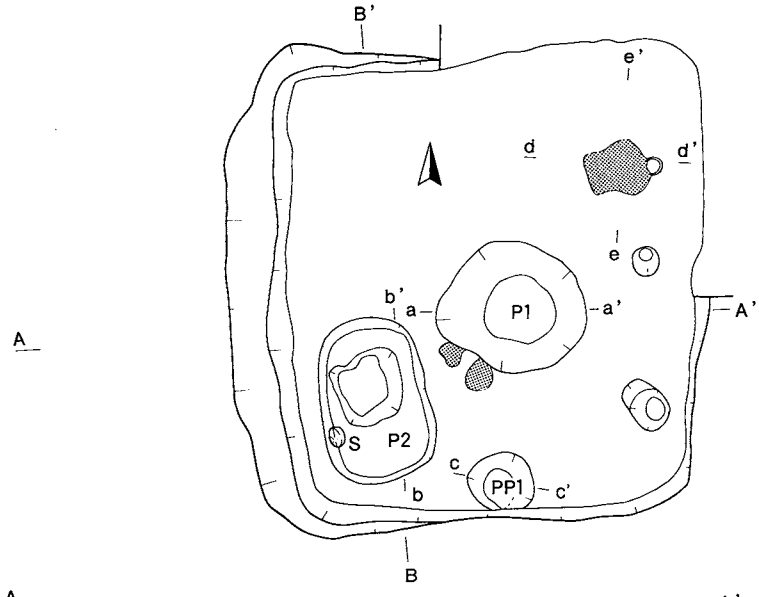
平面形　隅丸方形　**規模**　388×374cm

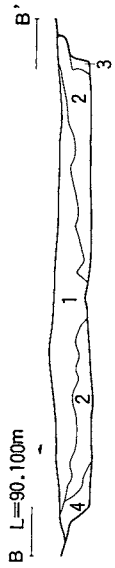
埋土　基本的には黒褐色系の埋土で火山灰が中位に部分的な層をなし3層に分かれる。

床面　貼床は掘り方全面にわたり、床面からの深さ10～20cmを測る。掘り方埋土は10YR2/2黒褐色土を基調として褐色土シルトがブロック状に少量混入する。

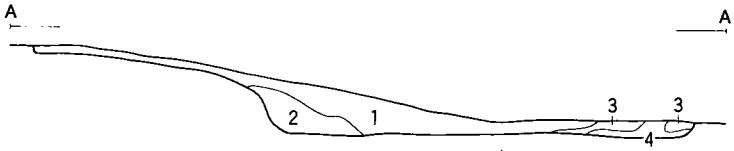
壁　北東部は削平が著しくほとんど残存していない。残存する壁はどれも緩やかに外傾し立ち上がる。壁高は24～31cm。

炭化材・焼土　東部に1基存在する。焼成範囲は39×25cmである。

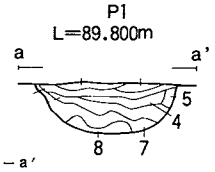




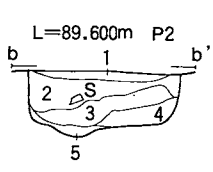
B－B'
1. 10YR2/2　黒褐色土 炭化物若干含む
2. 10YR2/3　黒褐色土 火山灰を含む、炭化物、焼土粒1%含む
3. 10YR2/1　黒　色　土 黒褐色土ブロックを含む、炭化物、焼土粒1%含む
4. 10UR3/1　黒褐色土 黒色土との混合土、火山灰ブロックを含む

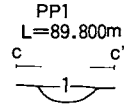


A－A'
1. 10YR2/2　黒褐色土 炭化物若干含む
2. 10YR2/3　黒褐色土 火山灰含む、炭化物、焼土粒1%含む
3. 10YR3/3　暗褐色土 褐色土（汚れた火山灰）ブロックとの混合土、炭化物1%含む
4. 10YR2/3　黒褐色土 褐色土（汚れた火山灰）ブロックとの混合土、炭化物、焼土粒各3%含む



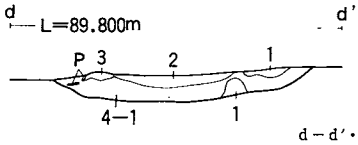
a－a'
1. 10YR2/2　黒褐色土 締まり、粘性あり、火山灰がブロック状に微量混入
2. 10YR3/3　暗褐色土 締まりあり、粘性なし、火山灰が多量、炭化物が微量含む
3. 10YR2/3　黒褐色土 締まり、粘性あり、火山灰が多量、炭化物が微量含む
4. 10YR2/3　黒褐色土 締まり、粘性あり、火山灰、炭化物が微量含む
5. 10YR2/1　黒　色　土 締まりにやや欠け、粘性あり
6. 10YR2/3　黒褐色土 締まりにやや欠け、粘性あり、焼土粒微量含む
7. 7.5YR2/3　極暗褐色土 締まり、粘性あり、焼土微量に含む
8. 10YR2/2　黒褐色土 締まり、粘性あり、焼土多量に含む

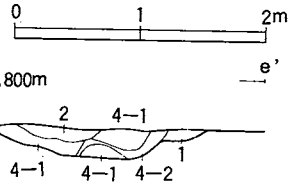




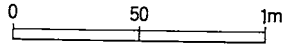
c－c'
1. 10YR2/3　黒褐色土 締まり、粘性あり、褐色土25%、炭化物微量含む

b－b'
1. 10YR2/2　黒褐色土 締まりなし、粘性あり、褐色シルトブロック微量に含む
2. 10YR2/3　黒褐色土 締まりなし、粘性あり、褐色シルトブロック50%含む
3. 10YR2/3　黒褐色土 締まりなし、粘性あり、褐色シルトブロック微量含む
4. 10YR3/2　黒褐色土 締まりなし、粘性あり、褐色シルトブロック極微量含む
5. 10YR2/1　黒　色　土 締まりなし、粘性あり





d－d'・e－e'
1. 10YR2/3　黒褐色土 焼土粒、炭化材極めて微量含む
2. 5YR4/8　赤褐色土 焼土純層
3. 7.5YR2/2　黒　色　土 焼土粒微量、支脚内埋土
4-1.7.5YR3/3　暗褐色土 焼土、炭化物が多量含む
4-2.7.5YR3/3　暗褐色土 4層より焼土多い



	P1	P2
径(cm)	106×120	132×86
深さ(cm)	41	46

	PP1
径(cm)	45×52
深さ(cm)	68

第82図　ⅢH－2住居跡

柱穴　確実なのは南壁際にある１基だけである。規模は45×52cm、深さ64cmである。

土坑　２基検出された。１基は中央部より検出され、不整な円形を呈し、範囲106×120cm、深さ41cm、もう１基は不整な楕円形を呈し、範囲132×86cm、深さ46cmである。

カマド　〈位置〉　東壁北寄り　〈主軸方向〉　不明

〈本体〉　焼成部焼土と土器片が残る。焼成部範囲は40×54cm、層厚は22cmである。

〈煙道部・煙出し部〉　削平され全く残っていない。

重複する遺構　なし

時期　９世紀第４四半期～10世紀前葉

遺物（第111図、写真図版88）

290、291はロクロ使用の甕で、口縁部は「く」の字状を呈する。292、293はロクロ使用の坏であるが、292は底部再調整である。294は須恵器の坏で、内面底部付近に炭化物が付着している。295、296はロクロ使用の坏であるが、296は口唇下部に他のロクロ痕と異なる沈線がみられる。297はロクロ使用の甕であるがやや焼きがあまい。298は薄手の坏で胎土には極粗砂以下の粒が入る。299は玉随製の石匙であるが、産地は不明である。

ⅢＩ－１住居跡（第83図、写真図版68）

調査区北部東側ⅢＩ区に位置し、ⅢＨ－１住居跡の北東に隣接する。周囲の土は滝名川の氾濫によって形成されたフラットロームで本遺跡の中では低い地点に位置し、レベル的には調査区最南端の飛び地の低い面より２ｍ程高い。また、本遺跡で最も高い位置にある基点２との比高差は１ｍである。

平面形　隅丸方形　**規模**　402×407cm

埋土　西側半分が削平を受け残りが悪い。第１層に細かい浅黄橙色の火山灰がブロック状に入り、第２層にも炭化物と共に褐色土火山灰が混入する。これらは攪乱による再堆積のものと考えられる。

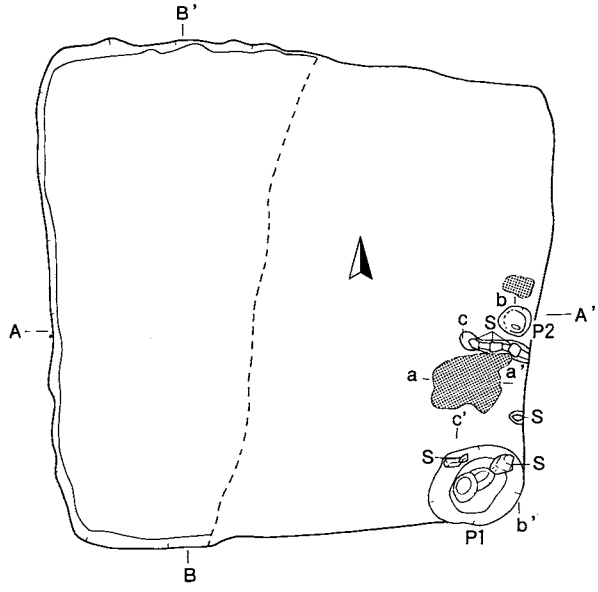
床面　床面は東側に貼床がみられるものの、残り半分は削平され、貼床は消滅してしまっている。元々は全面貼床西側半分に火山灰がドーナツ状に入り込む。掘り方は凹凸が著しく、黒ボク間の褐色土をやや掘り込み、下位の黒ボクには及ばない。

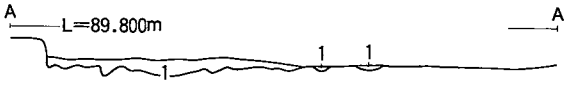
壁　僅かに残存している東側の壁はほぼ直立して立ち上がる。壁高は13cm程である。

炭化材・焼土　カマド焼成部の北側50cmのところに15×14cmの範囲で焼土が広がる。

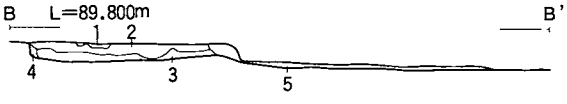
柱穴　確実に検出されたものはなかった。但し、掘り方は西側の２隅で最も深く、柱を立てるのを意識して掘り込んだものと思われる。

土坑　２基検出された。

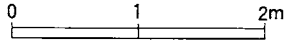


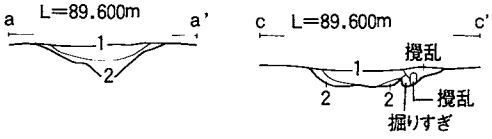


A－A'
1. 10YR2/3～3/2　黒褐色土 締まり固く、粘性あり、10YR5/6砂質土がブロック状に入る貼床

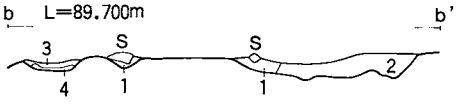


B－B'
1. 2.5YR7/4　浅黄橙色 細かい砂状の火山灰ブロック
2. 10YR3/3　暗褐色土 褐色土火山灰ブロックを含む
3. 10YR2/3　黒褐色土 炭化物を僅かに含む
4. 10YR2/2　黒褐色土 暗褐色土ブロックを含む
5. 10YR2/2　黒褐色土 酸化鉄を含む水田耕作土

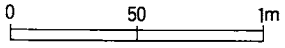




a－a'・c－c'
1. 5YR4/8　赤褐色土 焼土純層
2. 5YR3/6　暗赤褐色土 締まり固く、粘性あり、熱変化の少ない下位



b－b'
1. 10YR3/3　暗褐色土 締まりが強く、粘性あり、袖芯材置きの掘り穴
2. 10YR3/4　暗褐色土 締まりが強く、粘性あり、貼床
3. 10YR2/3　黒褐色土 締まりがあり、粘性にやや欠ける、炭化物少量
4. 10YR1.7/1　黒　色　土 炭化物層



	P1	P2
径(cm)	73×64	22×26
深さ(cm)	31	9

第83図　Ⅲ－1住居跡

カマド 〈位置〉 東壁南寄り 〈主軸方向〉 不明

〈本体〉 燃焼部焼土とカマドの袖部の一部が残る。焼成範囲は56×42cm、層厚は11cm。袖部の芯材の石は床面整地後のほぼ貼床上面に据えられている。南東隅の土坑は柱痕は確認できなかったが、柱を据えた後、打ち据え、その上にカマド焚口が構築されたものとみられる。

〈煙道部・煙出し部〉 全て削平され残存していない。

重複する遺構 なし

時期 出土遺物は土錘のみで時期も不明である。

遺物（第112図、写真図版88）

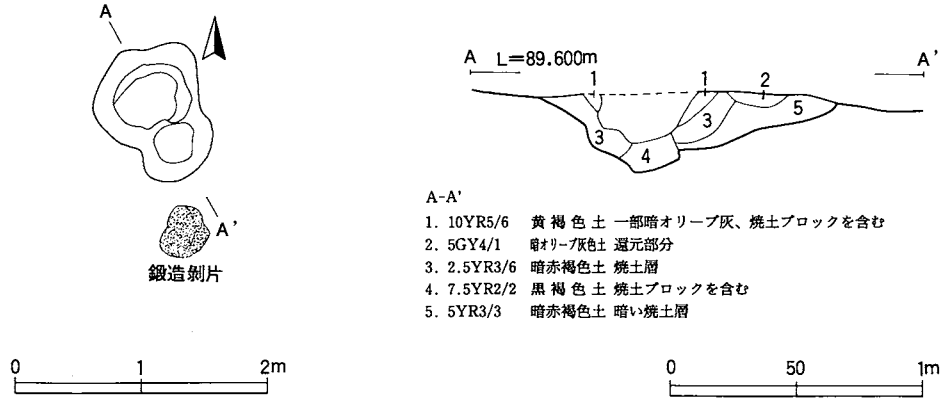
300～303は土錘で、本遺構からは4点出土した。300は中ほどがやや膨らみ、301は300に比べるとふくらみは少ないがやや長い。302は一方の先端がやや細く、303は他の3点に比べると短めである。

〈3〉 鍛冶炉跡（第84図、写真図版41）

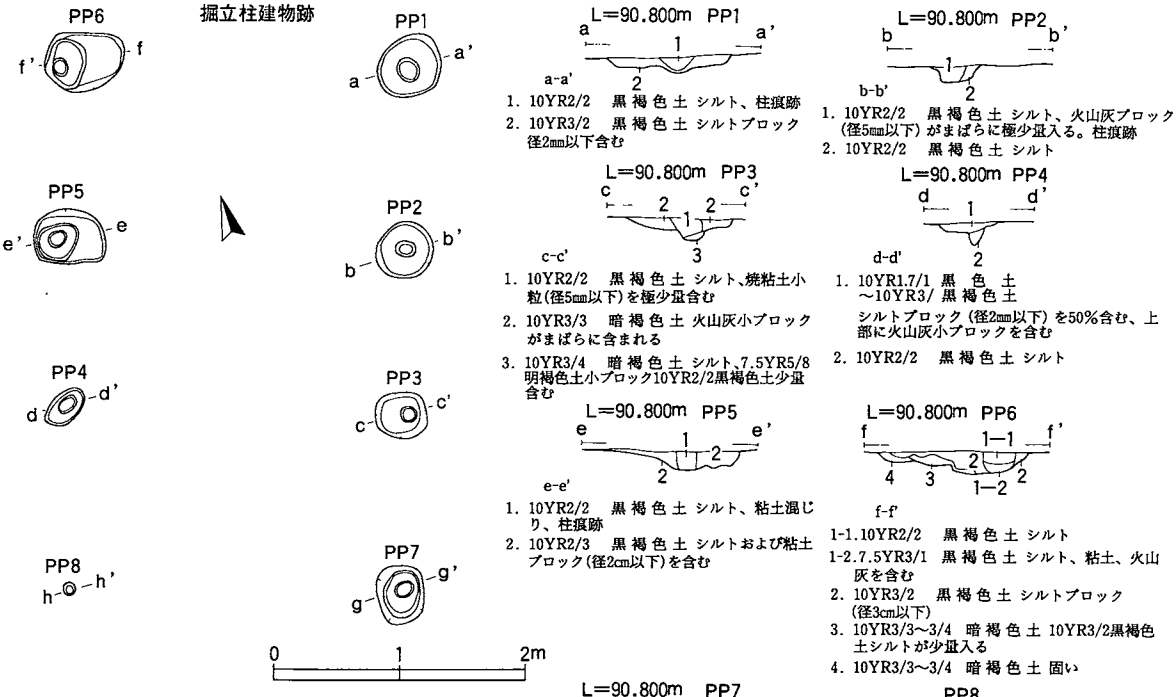
調査区北東部のIIH区に位置する。遺構の範囲は赤褐色を呈しており、中心部を囲むように青色系の還元部分が20×15cmの範囲に広がり、その周辺に鍛造剝片が径10×10cmの範囲に広がる。

〈4〉 掘立柱建物跡（第85図、写真図版46・47）

調査区中央部IIF区に位置する。規模は桁行3間、梁行2間の南北棟である。桁行西側間尺は北から2.8m、2.8m、2.8mで、東側間尺は2.8m、2.6m、2.8mである。梁行は南から北にかけて5.4m、5.4m、5.6m、5.6mであり、柱穴の平均スパンは桁行が2.8m、梁行が5.5mである。

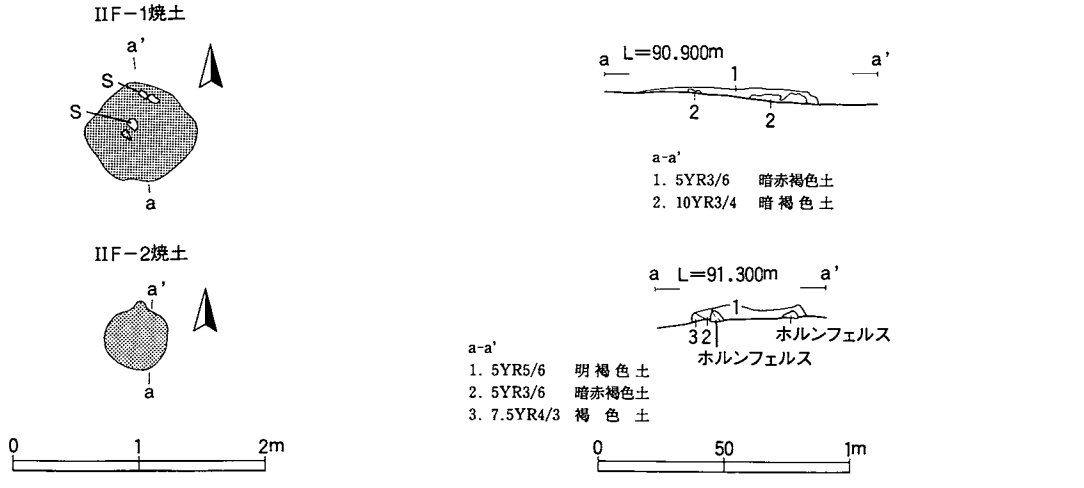


第84図 鍛冶炉跡

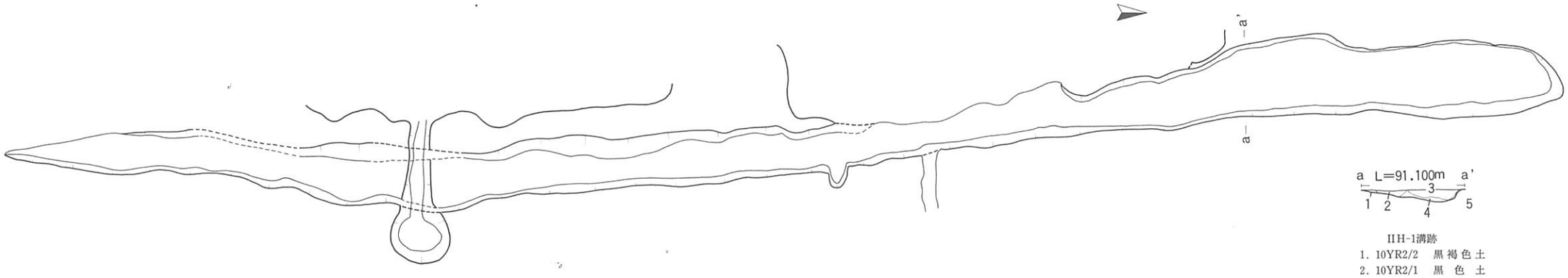


	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6	PP7	PP8
径 (cm)	95×100	93×86	81×76	95×72	97×132	112×85	86×44	20×18
柱痕跡深さ(cm)	12		17	18	15	18	31	13
掘り方深さ(cm)	7	12	9	6	14	10	18	

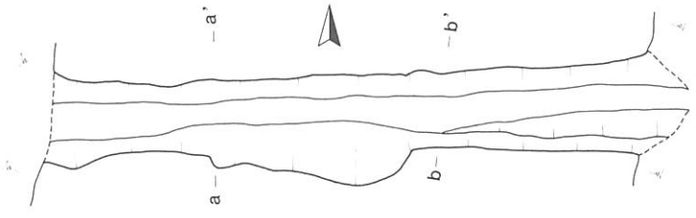
第85図　掘立柱建物跡

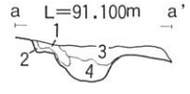


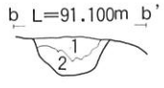
第86図　焼土遺構



IIH-1溝跡
1. 10YR2/2　黒褐色土
2. 10YR2/1　黒　色　土
3. 10YR2/3　黒褐色土
4. 10YR2/3　黒褐色土
5. 10YR2/3　黒褐色土



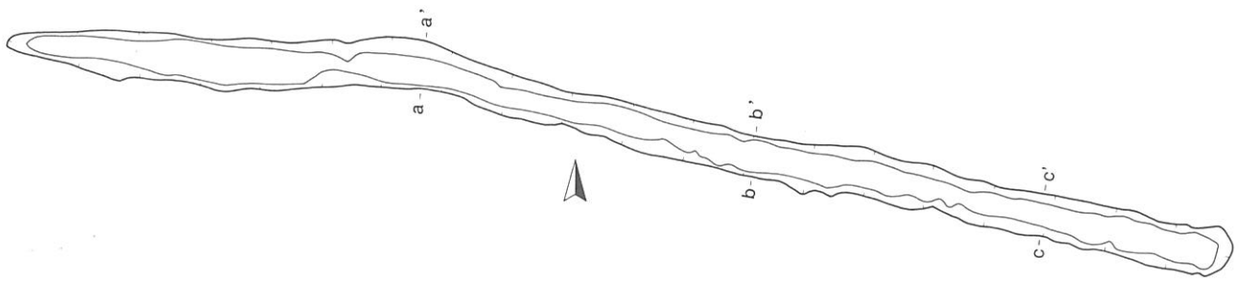


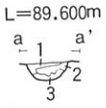


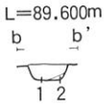
IIH-2溝跡

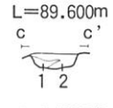
a-a'
1. 10YR2/1　黒　色　土 暗褐色土ブロックを含む
2. 10YR2/3　黒褐色土 暗褐色土との混合土
3. 10YR2/1　黒　色　土 攪乱層
4. 10YR3/4　暗褐色土 掘りすぎ

b-b'
1. 10YR2/1　黒　色　土 暗褐色～黒褐色土ブロックを含む
2. 10YR2/3　黒褐色土 暗褐色土との混合土





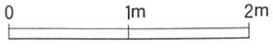




IIIｉ溝跡
1. 7.5YR3/2　黒褐色土 締まり、粘性なし
2. 7.5YR3/1　黒褐色土 締まり、粘性なし
3. 7.5YR3/2　黒褐色土 褐色土シルトブロック含む

1. 7.5YR3/1　黒褐色土 締まり、粘性なし
2. 7.5YR4/4　褐　色　土 締まり、粘性なし

1. 7.5YR2/2　黒褐色土 締まり、粘性なし
2. 7.5YR3/1　黒褐色土 締まり、粘性なし



第87図　溝跡

柱穴の掘り方は円形～楕円形で径86×44～97×132cm、深さ7～18cmの規模をもつ。柱痕跡も各柱穴で確認されており、径20×18～35×40cm、深さ8～37cm程度である。

検出面は調査区東側の滝名川に最も近く、後世の水田造成等による削平の最も激しい部分であり、PP8は柱痕の一部しか残っていなかった。本遺構からは土師器の砕片等も出土しており、平安時代の可能性が高いものとみられる。

〈5〉焼土遺構（第85図、写真図版45）

調査区中央部やや南寄りIIF区より2基検出された。IIF－1焼土はIIF区中でもやや南寄りにあり、IIF－3土坑をのぞく、同区の土坑と同じ場所に位置する。径79×89cm、層厚4cmほどで、焼成は良好硬質で現地性のものである。配置等からみて周辺の土坑と同じ時期のものであるとみられ、平安時代のものである可能性が高い。IIF－2焼土はIIF－1焼土より北側に位置し、IIF－28陥し穴とIIF－26陥し穴のほぼ中間に位置する。径51×56cm、層厚6cmで焼成は不良、現地性のものか否かは不明である。

IIF－1焼土遺構出土遺物（第112図、写真図版89）

313はロクロ使用坏であるが、内面黒色処理でされ、外面口縁部まで黒ずむ。314は「く」の字状口縁を呈するロクロ不使用の甕である。

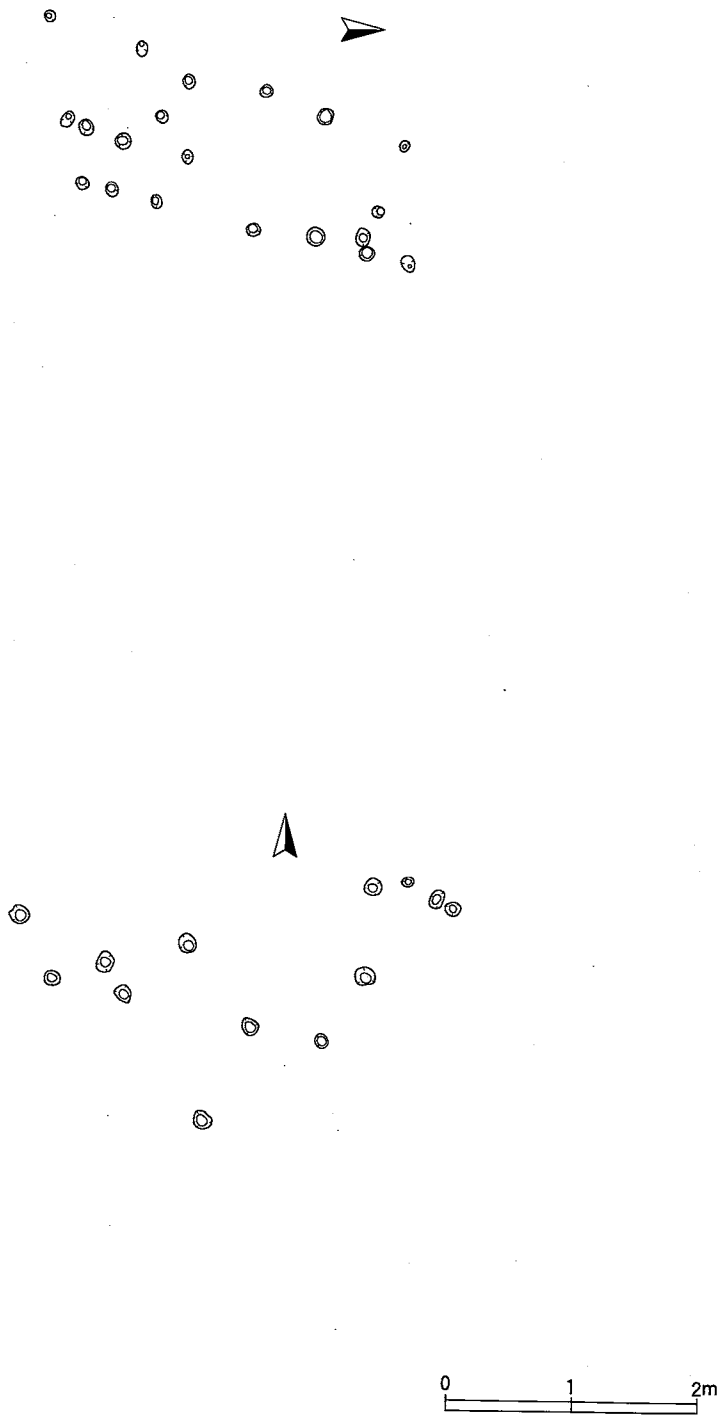
〈6〉溝跡（第87図、写真図版40・41）

調査区の北西部IIH区で2条、北部の低い面IIII区から1条の計3条が検出された。IIH区はIIII区より一段高い面にあり、レベル的にはIIG、IIF区等と同じあたりにある。

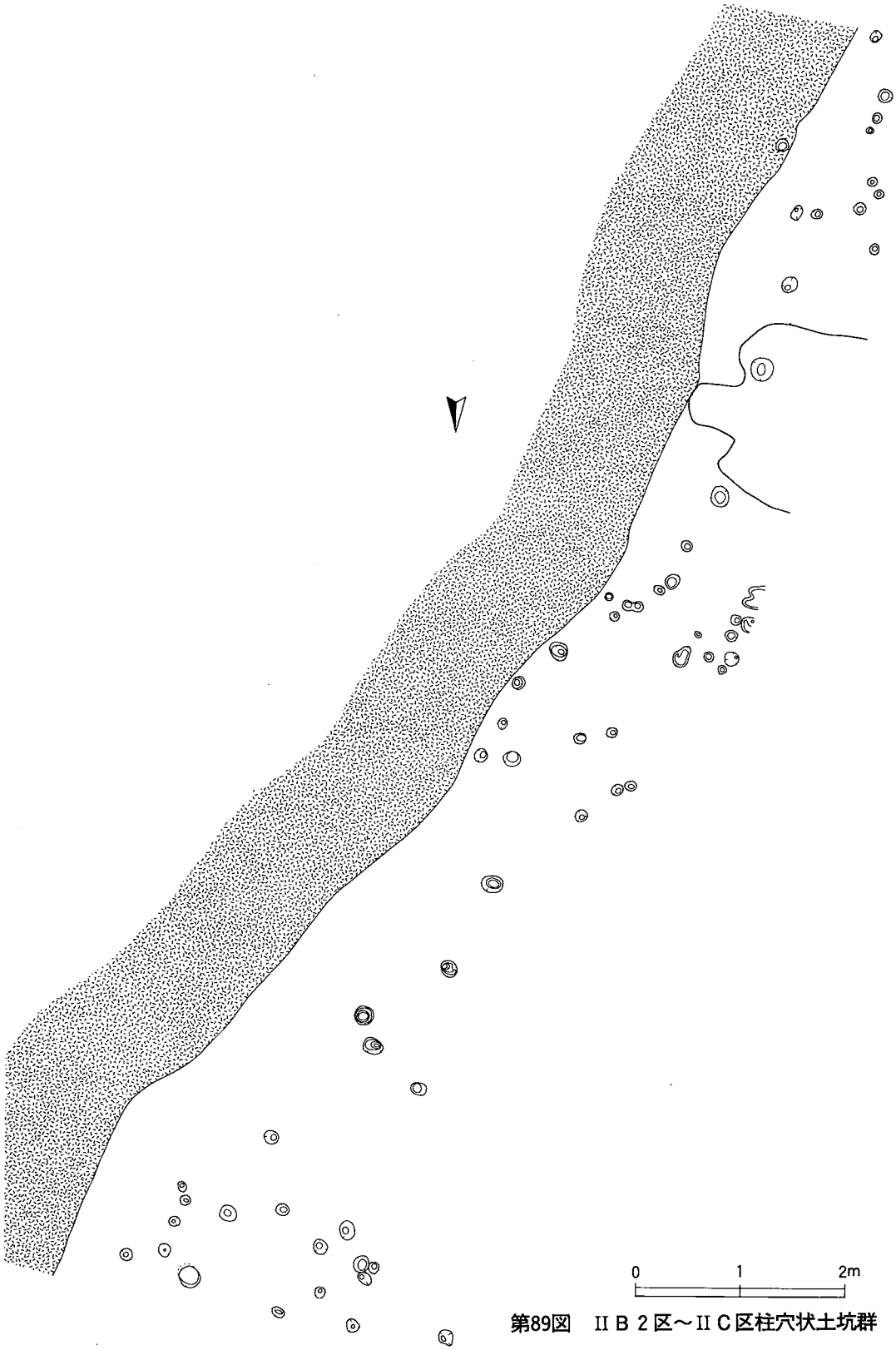
IIH－1溝はIIH－1住居跡、同2住居跡の東側に南北に延びている。本遺構は2つの住居の煙道部を切っており、時期的には住居跡より時期は新しい。長さ1788cm、幅46～92cm、深さ2～15cmである。IIH－2溝はIIH－2住居の南側に位置し、西側の一部は調査区西側に入っており、全長は定かではないが、検出した部分だけみると、長さ530cm、幅58～79cm、深さ17～37cmである。IIII溝はIIII柱穴群の北側に位置し、東～西にかけて延びている。長さは1022cm、幅26～40cm、深さ8～13cmである。

〈7〉柱穴状土坑群（第88・89図）

調査区南部のIIB区、その隣のIIC区、そして調査区北部のIIII区の3カ所に位置する。IIB区およびIIC区の遺構群は滝名川に至る段丘崖の縁辺部にあり、検出面は大多数が平安時代以前のフラットロームである。規模は径が最大のもので40×43cm、最小のものが12×13cmほどで、深さは最大が56cm、最小が3cmほどである。IIB1区の柱穴群に、一部柱穴列を構成しそ



第88図　ⅡＢ１区・ⅡⅠ区柱穴状土坑群



第89図　ⅡＢ２区～ⅡＣ区柱穴状土坑群

うなものもみられるが定かではない。埋土はほとんどが黒褐色土～汚れたにぶい黄褐色土である。IIIＩ区柱穴群はIIIＩ－１溝の南側に位置する。全部で13基で並びに規則性はみられない。規模は径が最大で28×30cm、最小で19×16cm、深さが最大で７cm、最小で２cm程とIIＢおよびIIＣ区のものよりは規模は小さい。

なお、いずれの柱穴群もその時代や性格については不明である。

柱穴番号	規模cm	深さcm	柱穴番号	規模cm	深さcm	柱穴番号	規模cm	深さcm
1	18×18	17	8	18×26	36	15	20×18	21
2	18×22	37	9	24×25	23	16	23×22	17
3	23×22	20	10	26×24	25	17	22×23	24
4	21×22	20	11	22×18	31	18	30×30	23
5	26×29	11	12	20×18	25	19	22×30	17
6	12×19	8	13	20×21	22	20	22×24	45
7	19×19	22	14	20×20	25			

表４　IIＢ１区柱穴状土坑計測表

柱穴番号	規模cm	深さcm	柱穴番号	規模cm	深さcm	柱穴番号	規模cm	深さcm
1	32×28	5	6	28×26	7	11	19×16	2
2	25×34	4	7	26×32	4	12	30×22	3
3	29×30	4	8	22×21	7	13	24×26	4
4	28×32	5	9	29×34	4			
5	30×24	4	10	25×29	6			

表５　IIＩ区柱穴状土坑計測表

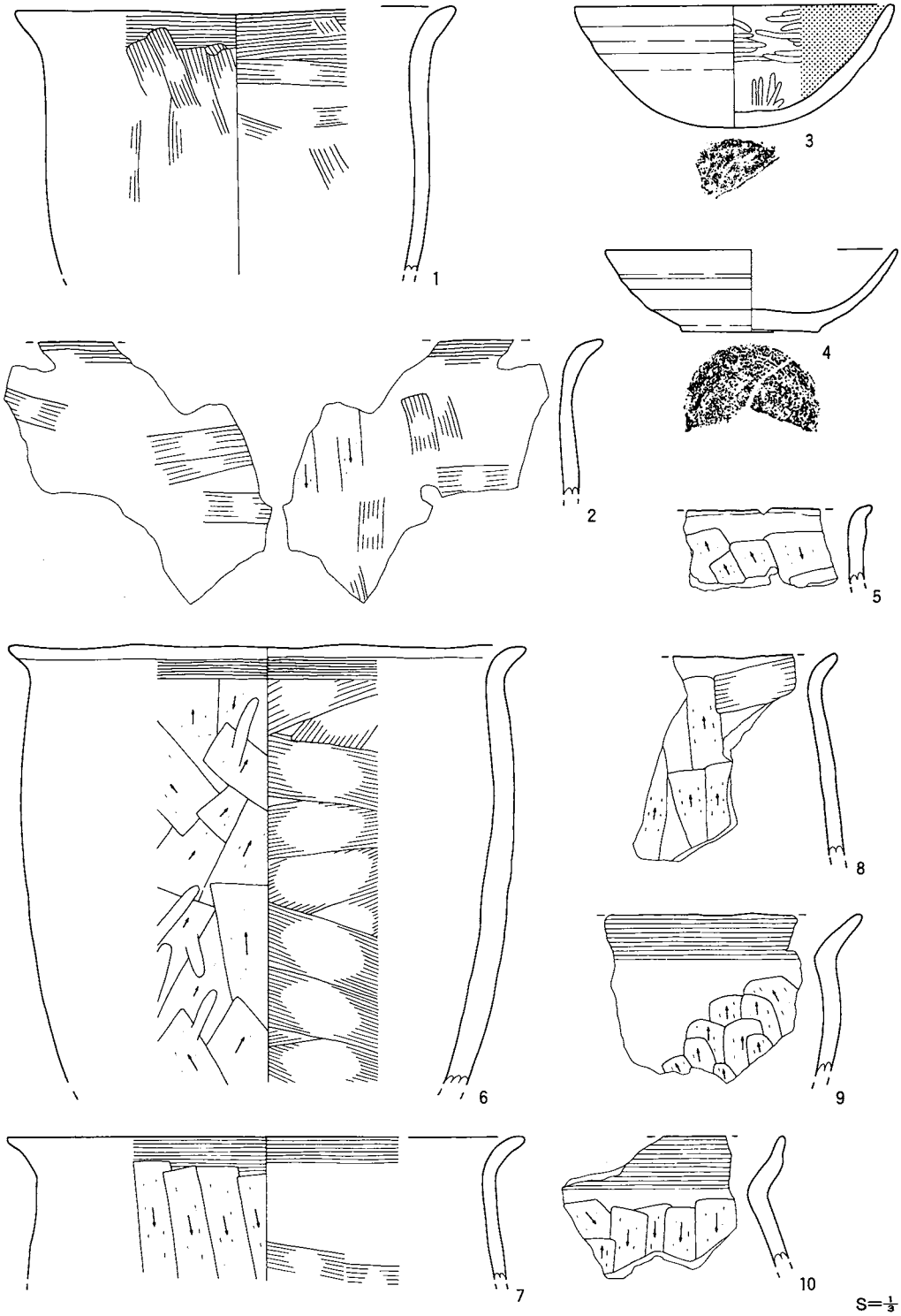
柱穴番号	規模cm	深さcm	柱穴番号	規模cm	深さcm	柱穴番号	規模cm	深さcm
1	24×21	38	21	16×14	27	41	22×26	34
2	28×25	26	22	18×20	20	42	29×36	48
3	18×20	36	23	18×18	20	43	27×30	20
4	12×13	22	24	18×18	32	44	21×21	31
5	18×18	31	25	26×41	31	45	25×19	22
6	16×18	31	26	31×34	45	46	24×26	34
7	22×22	25	27	20×17	34	47	22×20	28
8	18×18	28	28	20×20	29	48	27×26	34
9	19×20	28	29	20×20	39	49	32×29	28
10	32×20	54	30	20×22	24	50	20×18	23
11	28×38	56	31	22×22	34	51	24×26	28
12	38×35	28	32	21×20	30	52	16×20	37
13	24×24	47	33	19×16	30	53	20×19	27
14	16×14	34	34	30×31	44	54	20×20	37
15	(40×36)	4	35	21×26	38	55	16×15	28
16	(28×24)	3	36	31×39	23	56	22×22	50
17	18×20	3	37	28×32	35	57	40×43	39
18	18×20	4	38	34×36	49	58	24×22	54
19	24×28	29	39	36×30	31			
20	16×17	11	40	21×30	23			

表6　IIB2区～IIC区柱穴状土坑計測表

V　遺構外出土遺物

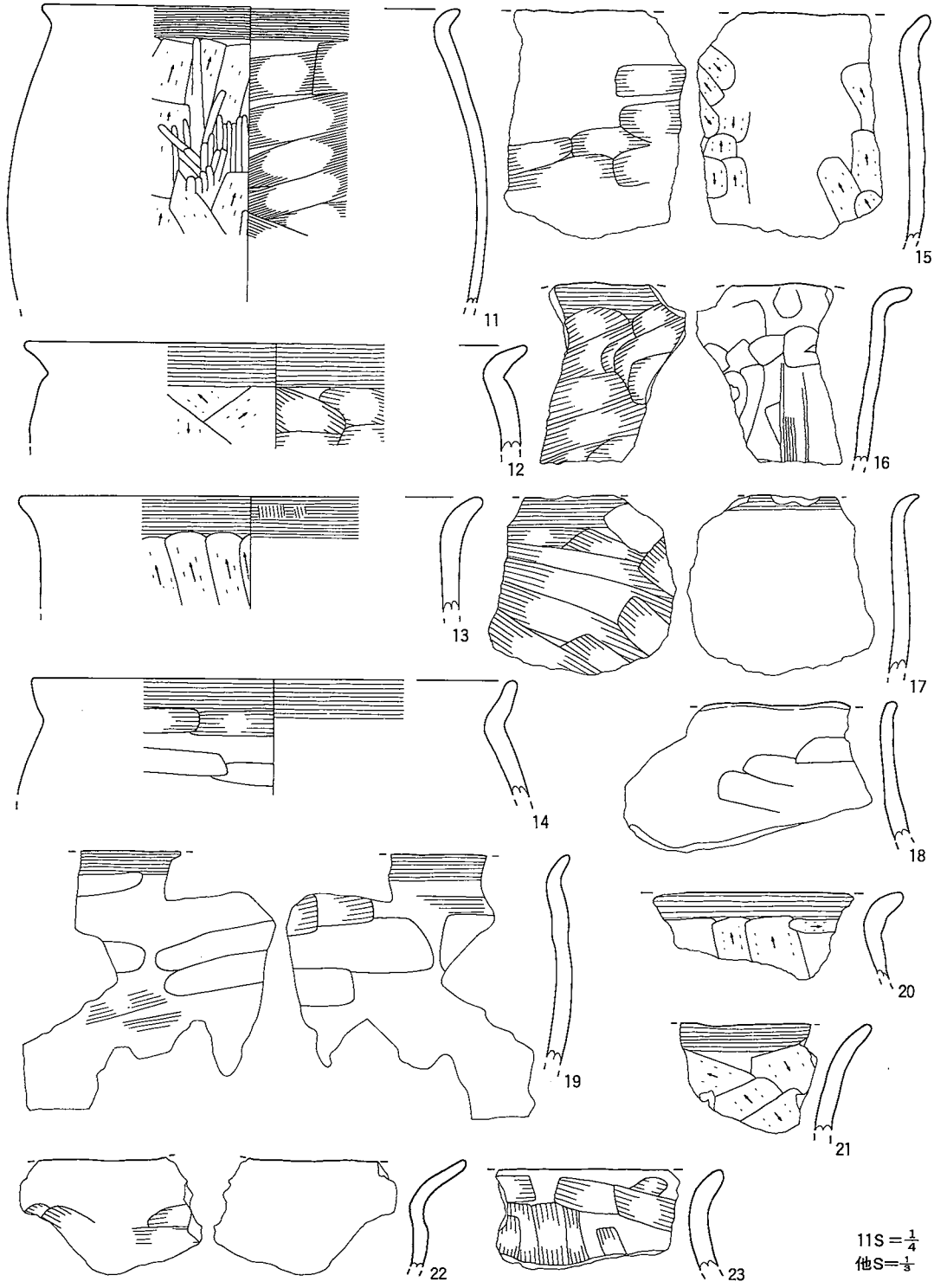
（第113～114図、写真図版90～91）

316は粗製の縄文土器、317はロクロ不使用の甕で、外面はケズリ調整、内面にはミガキが施されている。318はロクロ使用の坏で内外面に黒色処理がなされているが摩耗している。319は円盤状土製品で、3カ所に穿孔されているが土師器の坏を転用したものである。320～325は石器で全てフレークで、石質は320が粘板岩、321、324、325は硬質泥岩、322、323は極細粒珪質凝灰岩である。326～327は鉄製品で326は鎌、327は大型の鉄鏃である。328、329は鉄滓である。

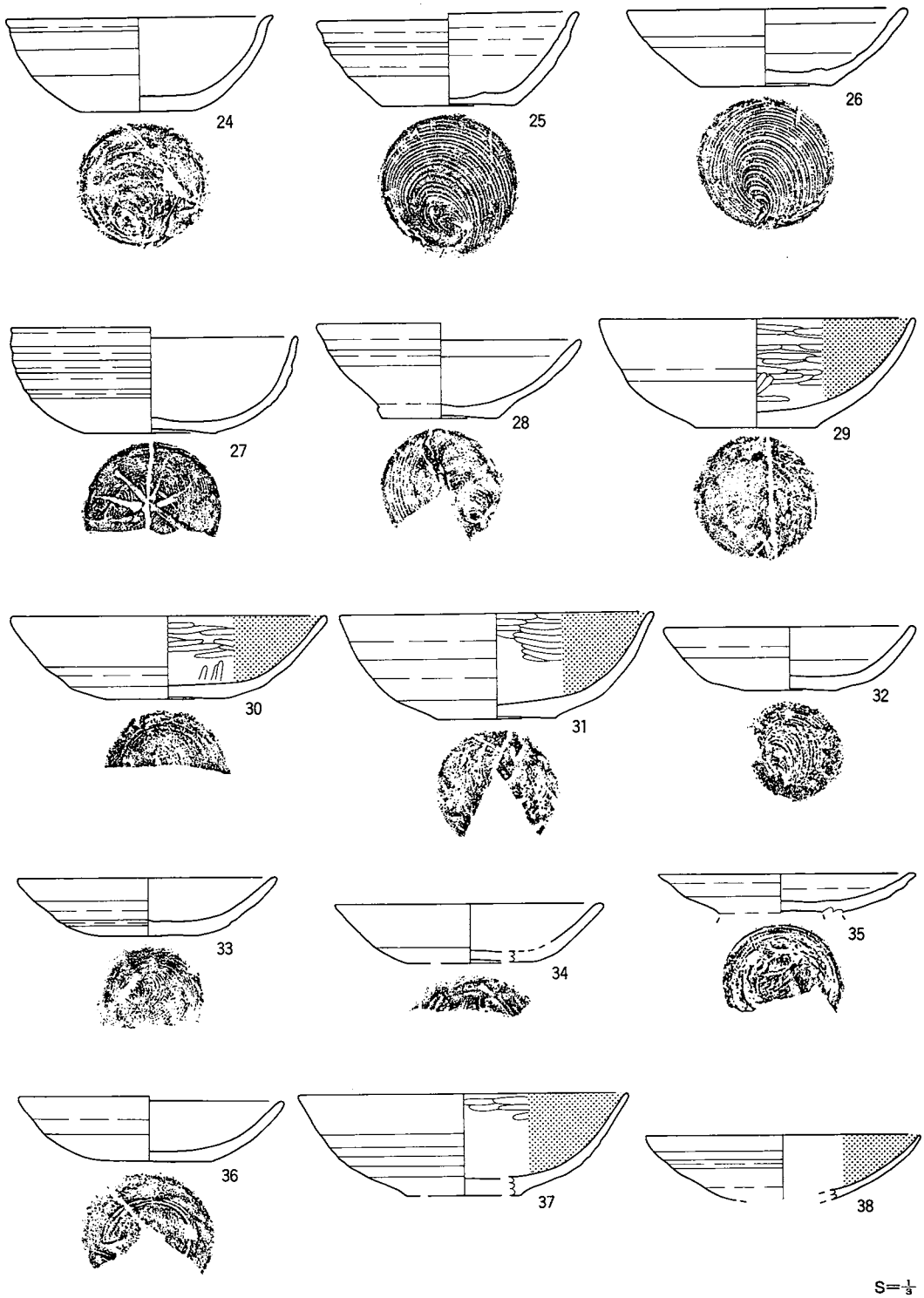


S=$\frac{1}{3}$

第90図　ⅡB－1（1～5）・ⅡC－1（6～10）住居跡出土遺物

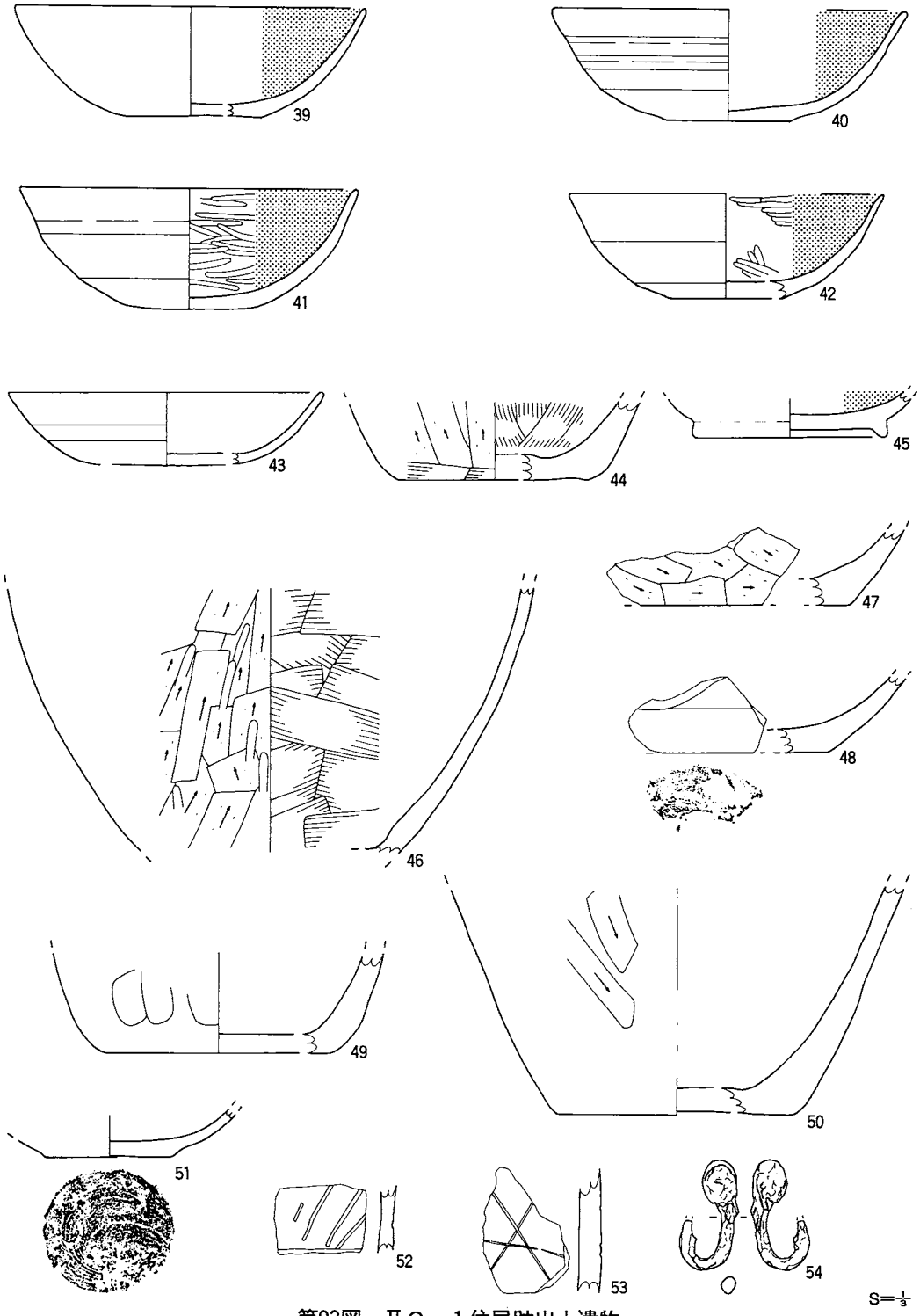


第91図　ⅡＣ－１住居跡出土遺物



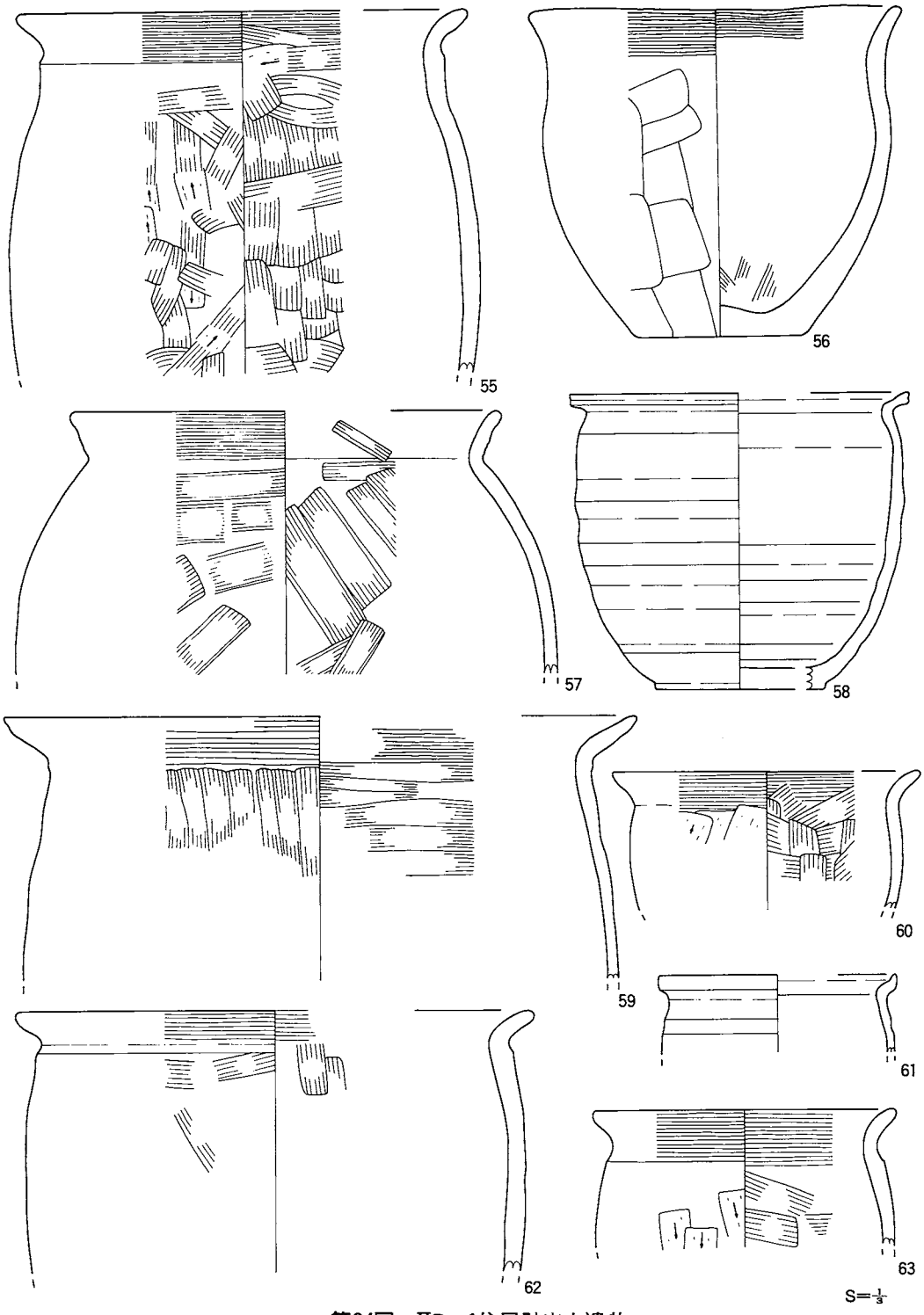
S=$\frac{1}{3}$

第92図　ⅡC－1住居跡出土遺物

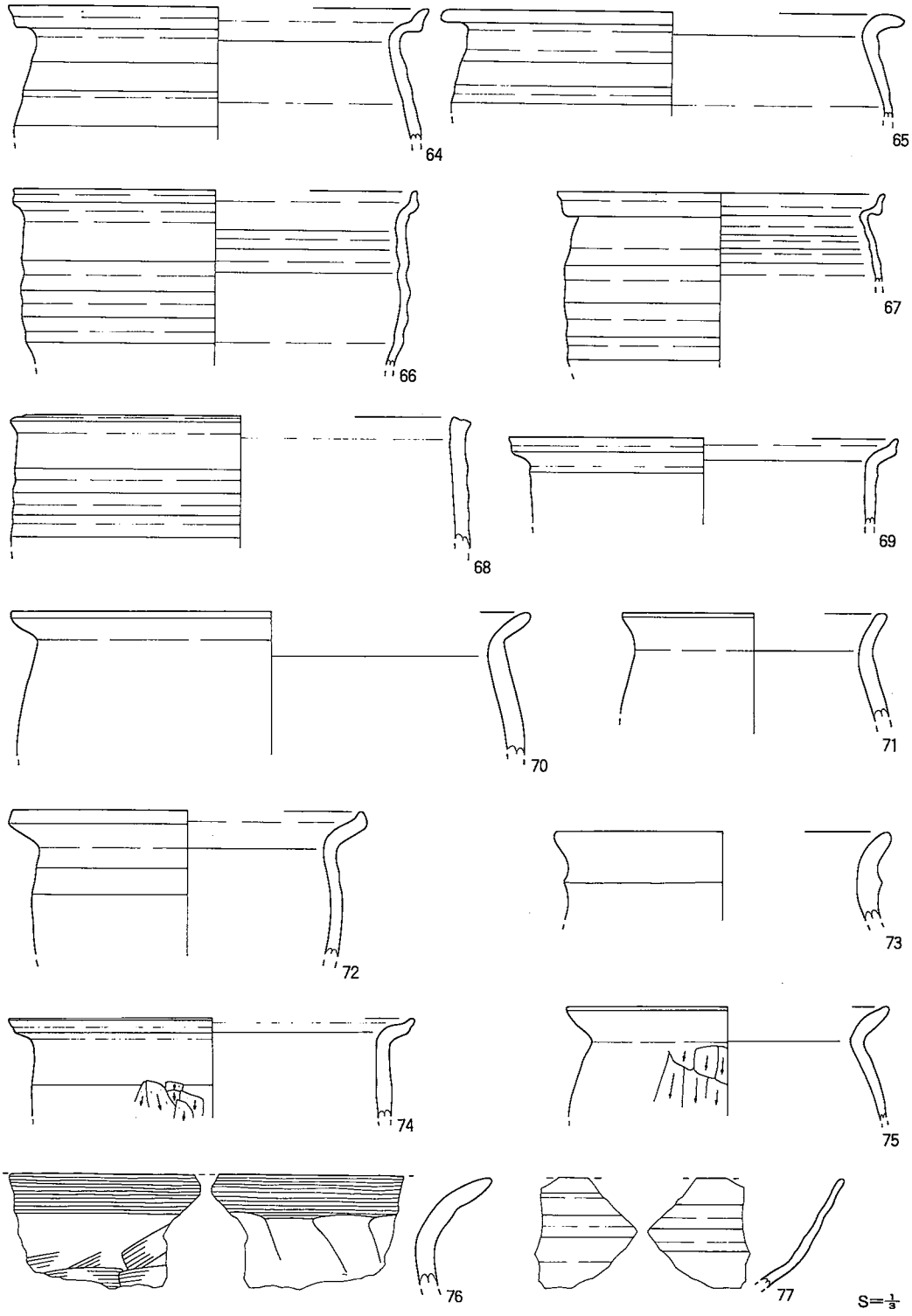


S=$\frac{1}{3}$

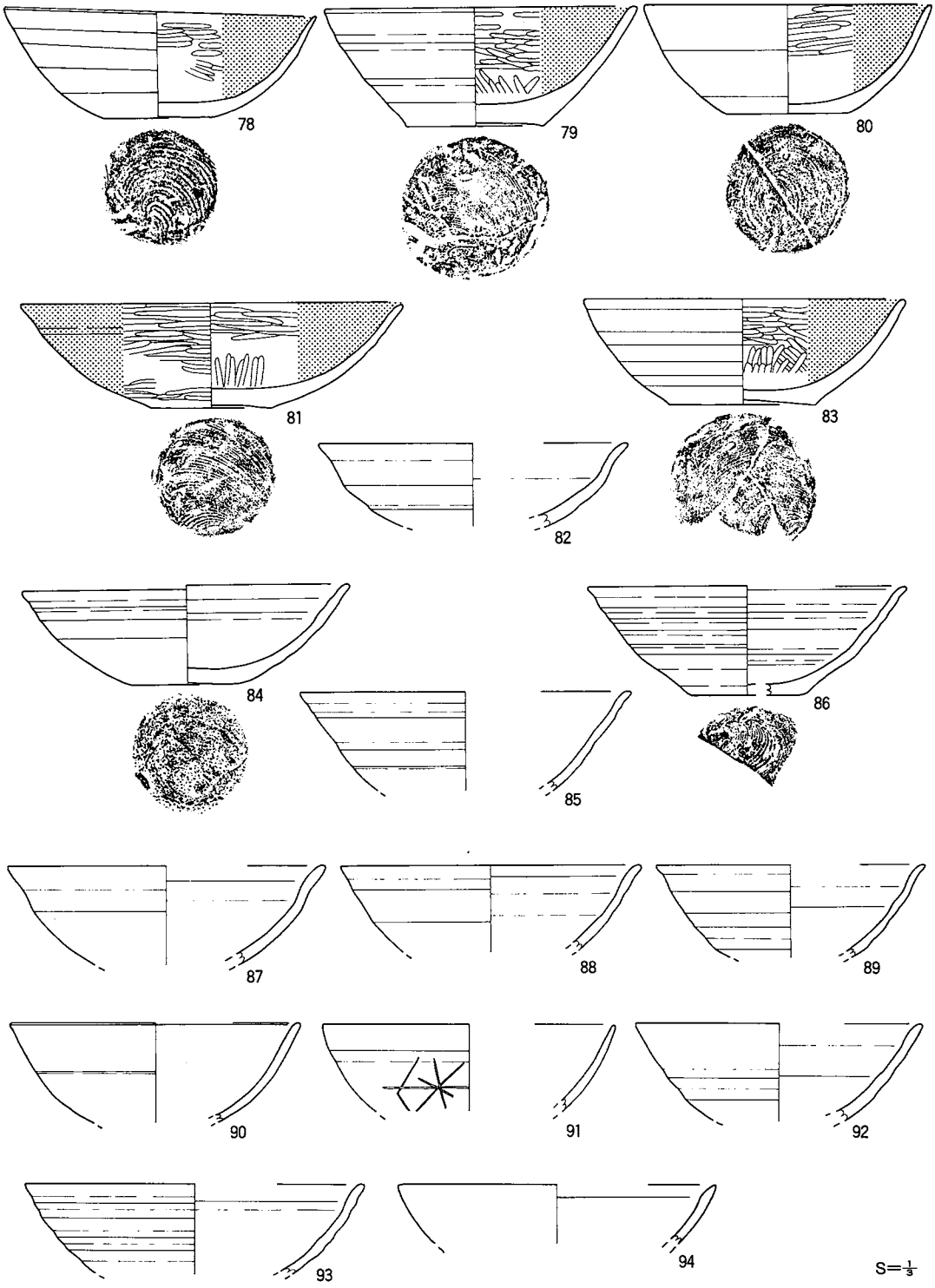
第93図　ⅡＣ－１住居跡出土遺物



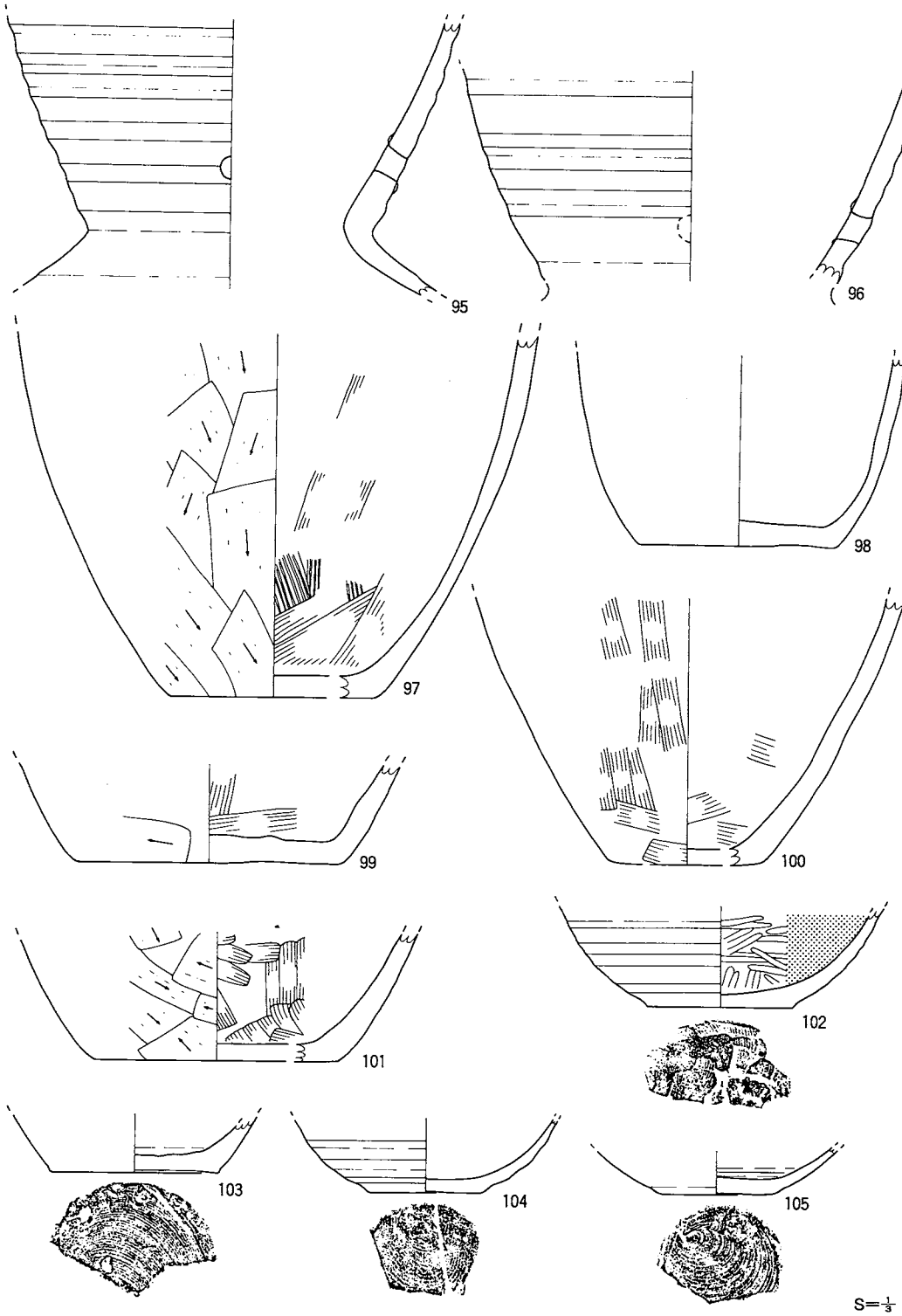
第94図　IID−1住居跡出土遺物



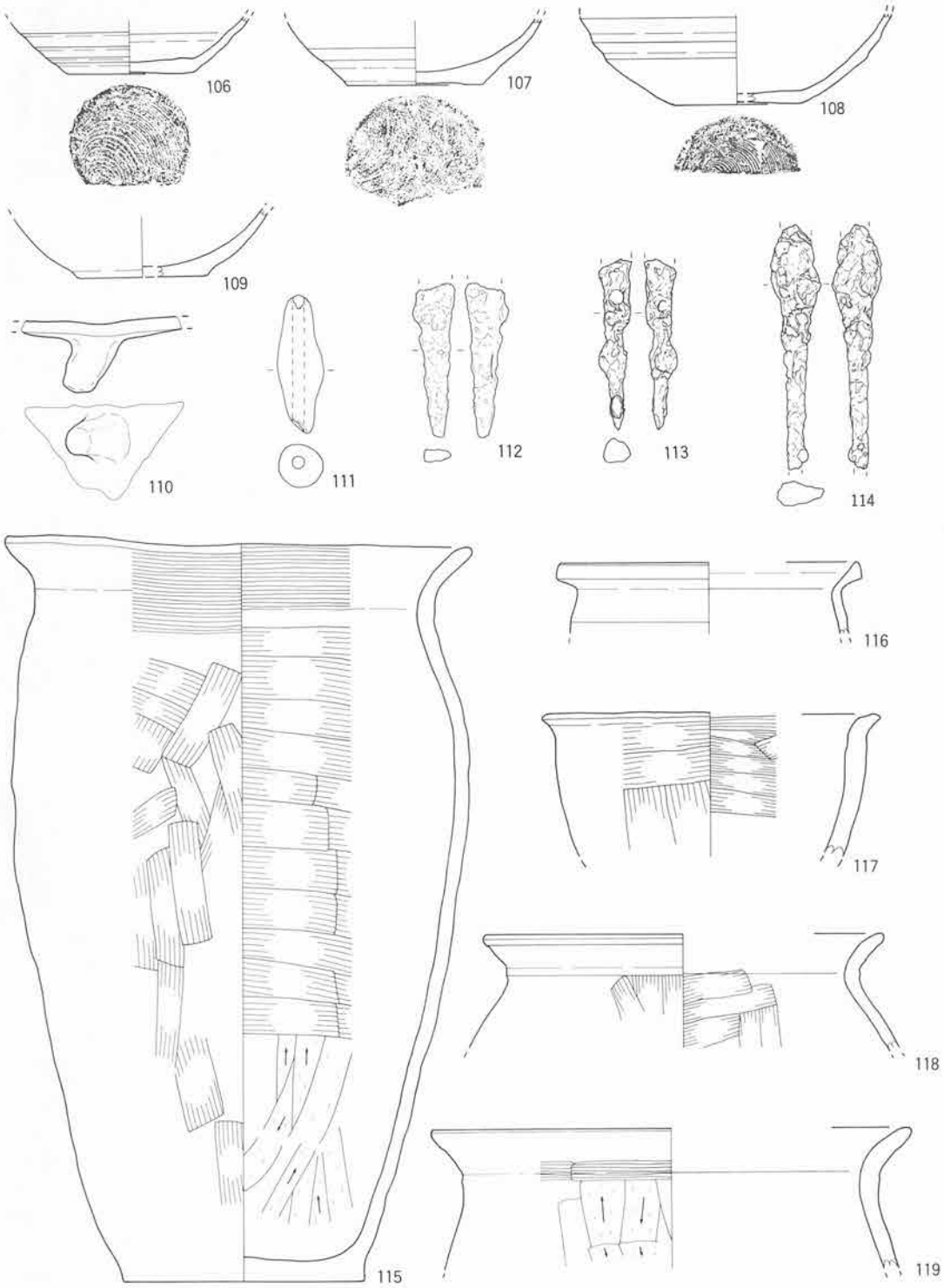
第95図　ⅡD—1住居跡出土遺物



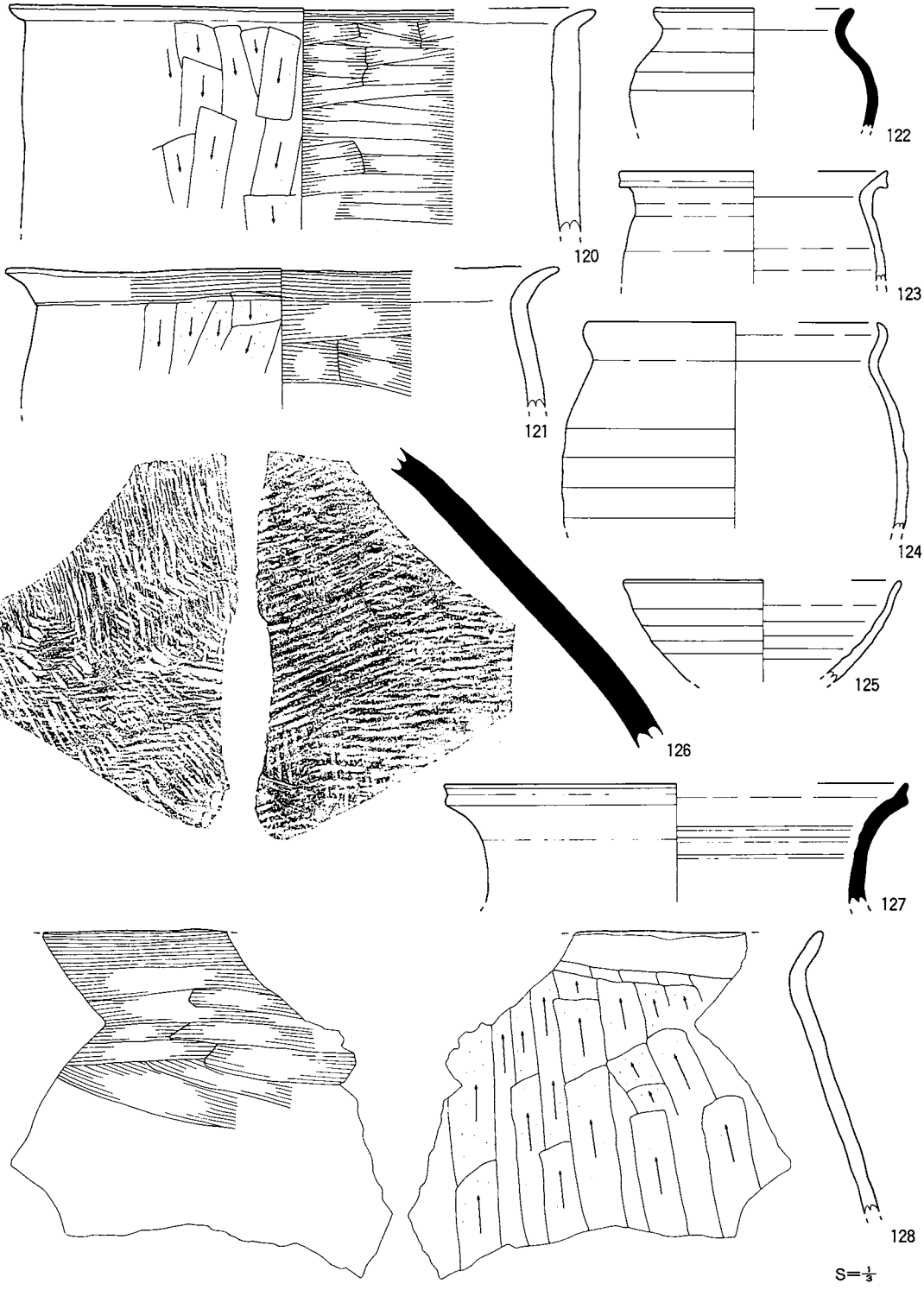
第96図　ⅡＤ－１住居跡出土遺物



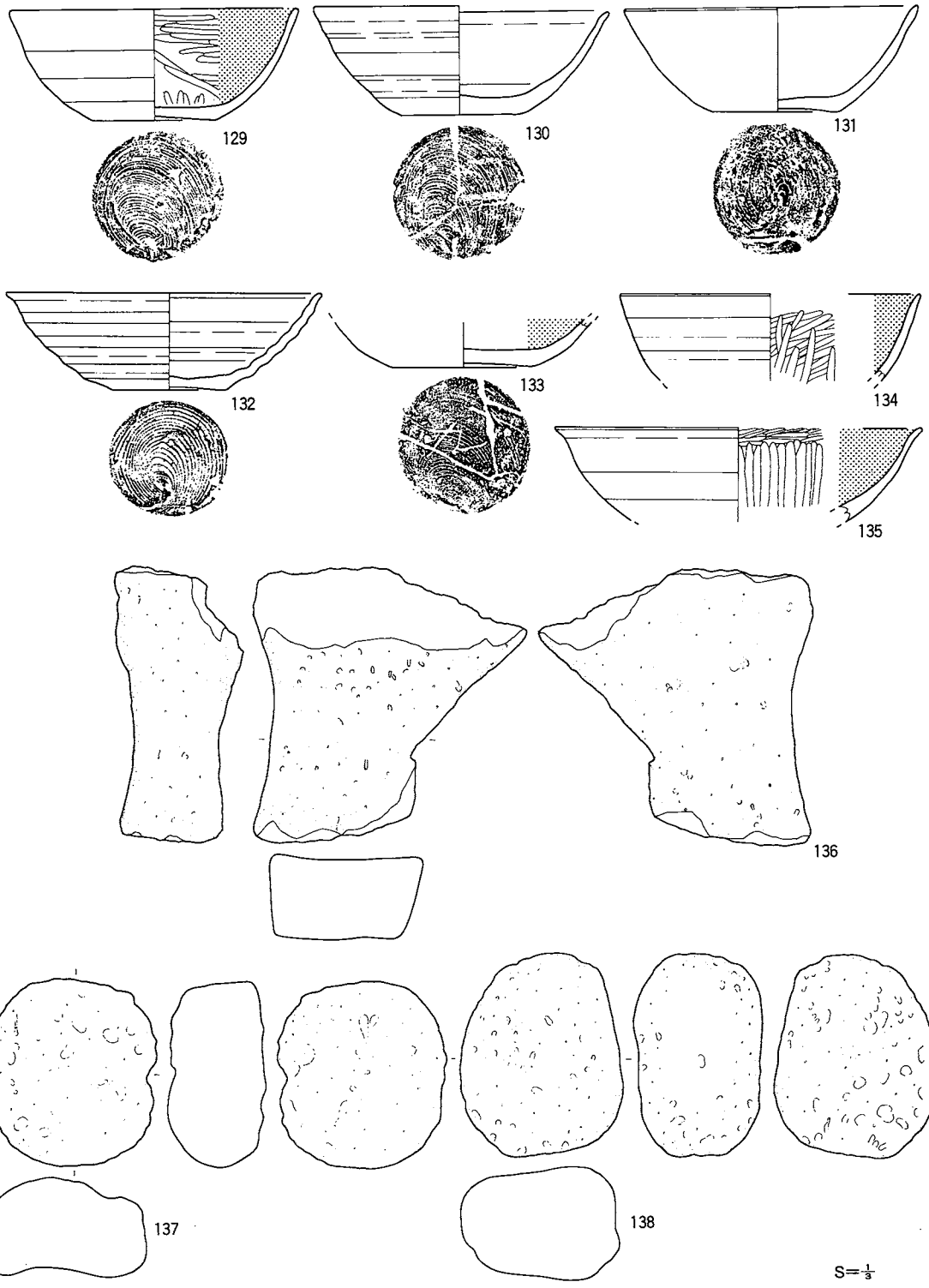
第97図　ⅡＤ－１住居跡出土遺物



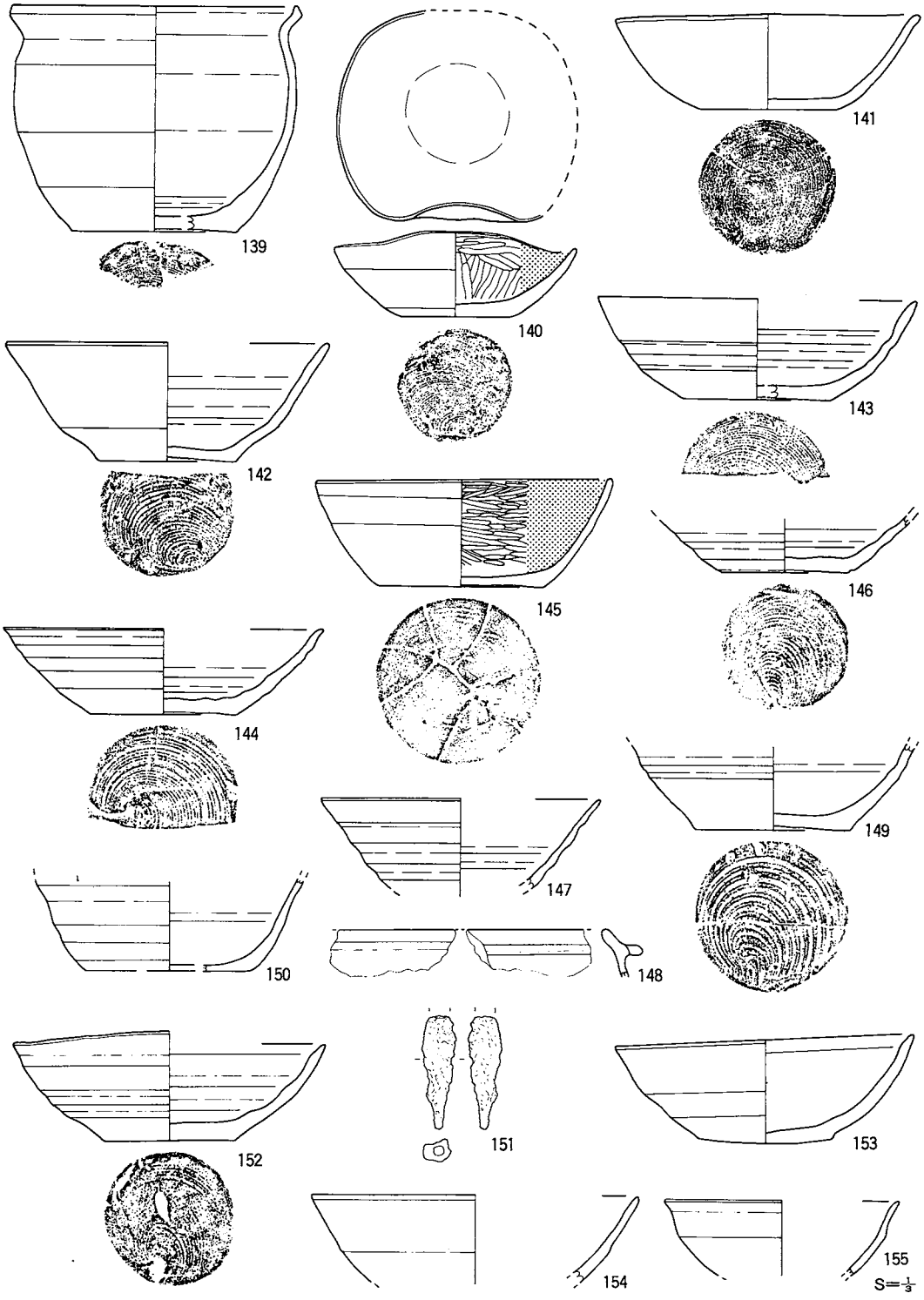
第98図　ⅡＤ－１（106～114）・ⅡＥ－１（115～119）住居跡出土遺物　S=$\frac{1}{3}$



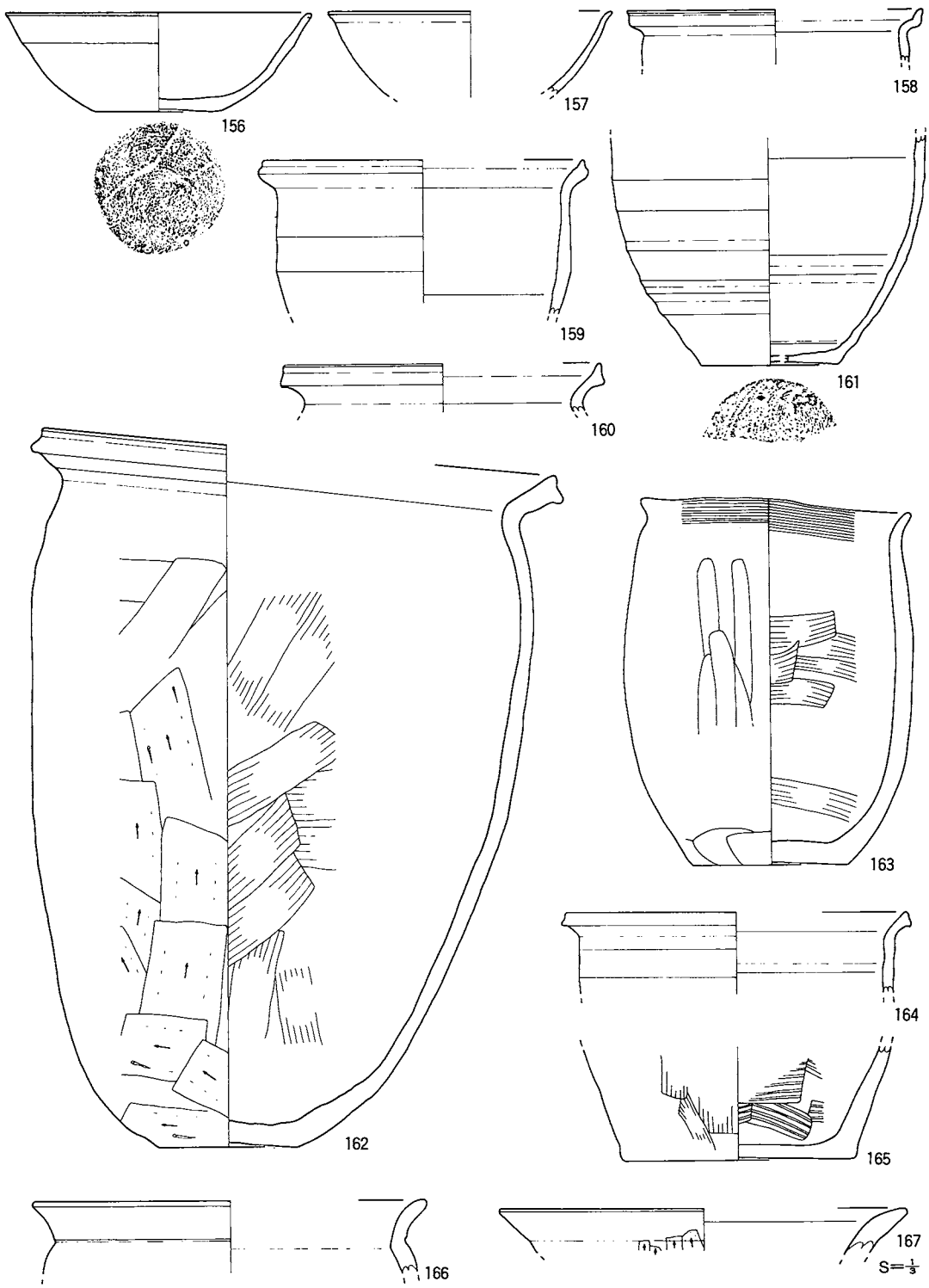
第99図　ⅡＥ－１住居跡出土遺物



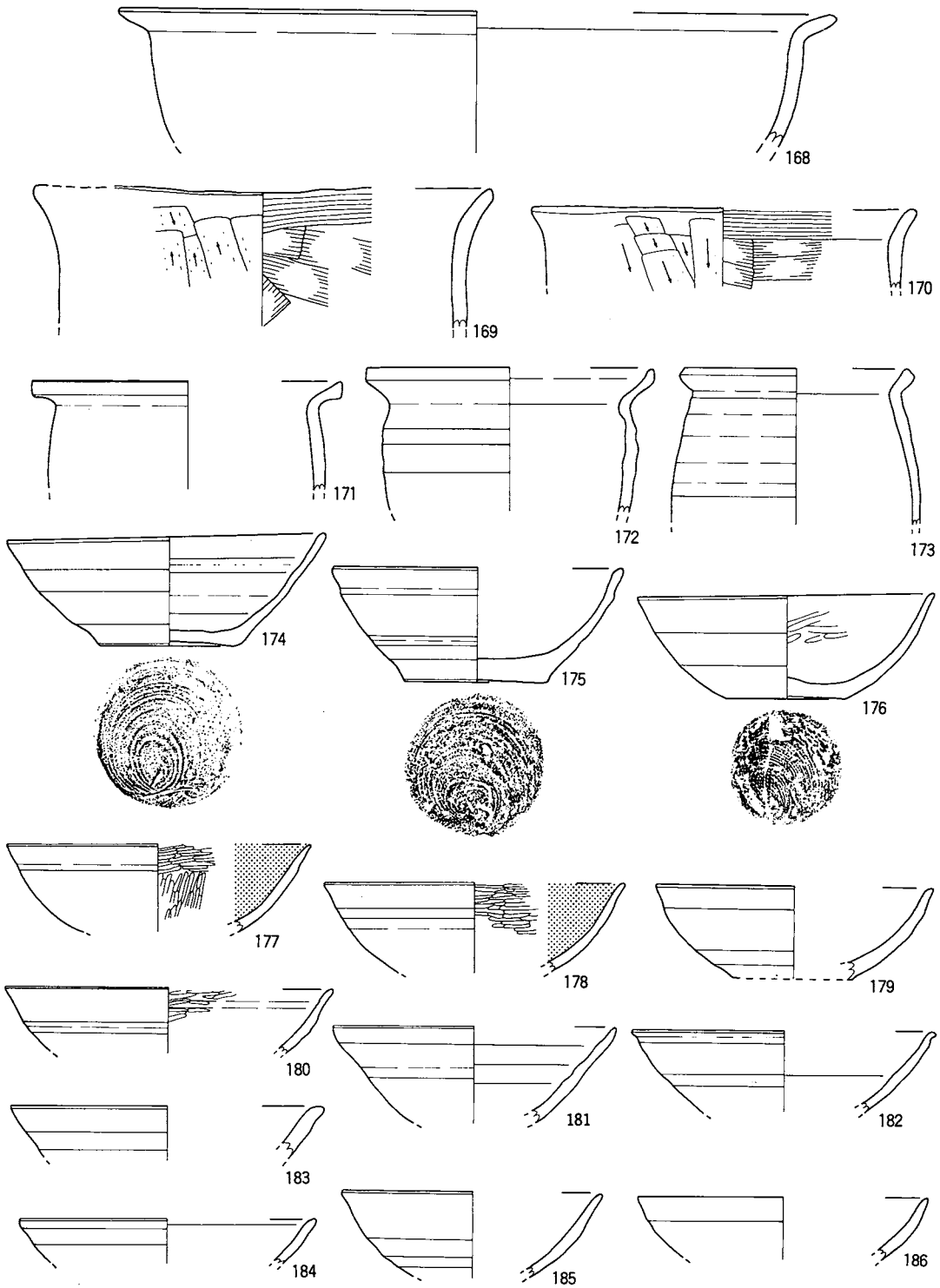
第100図　ⅡＥ－１住居跡出土遺物



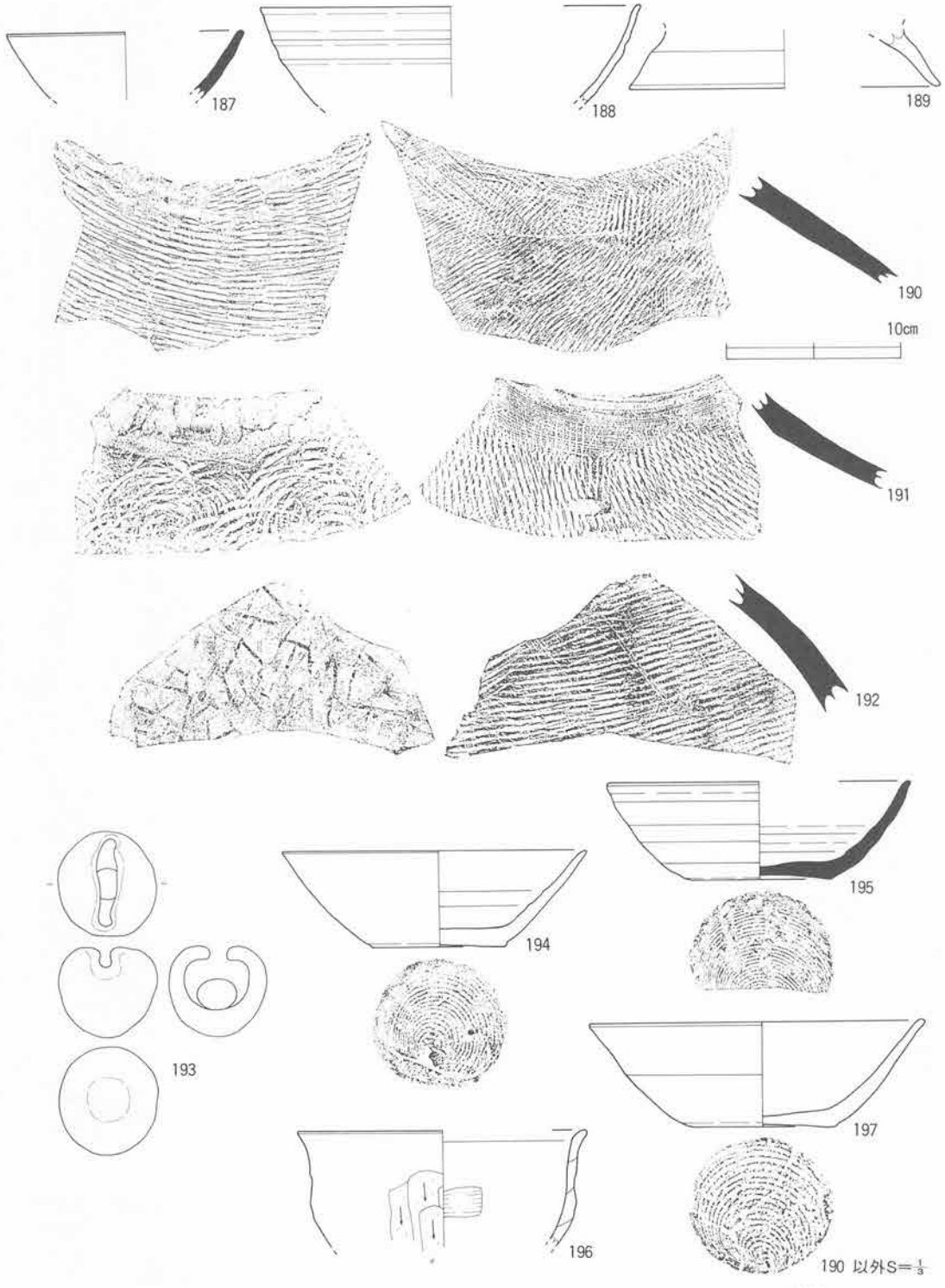
第101図　ⅡＥ－２（139～149）・ⅡＦ－１（150～151）・ⅡＦ－２（152～155）住居跡出土遺物



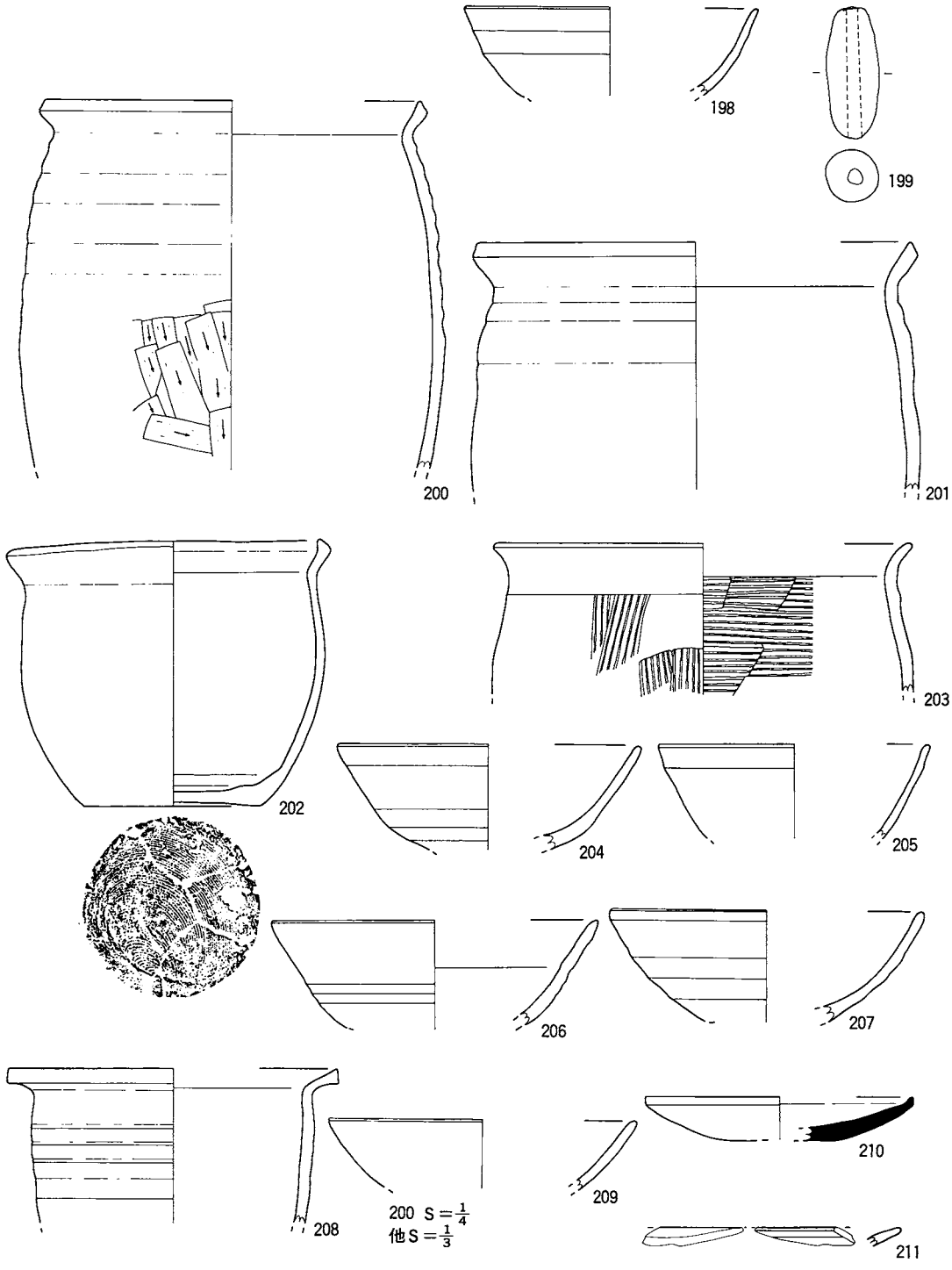
第102図　ⅡＦ－3　(156～161)　・ⅡＦ－4　(162～165)　・ⅡＧ－1　(165～167) 住居跡出土遺物



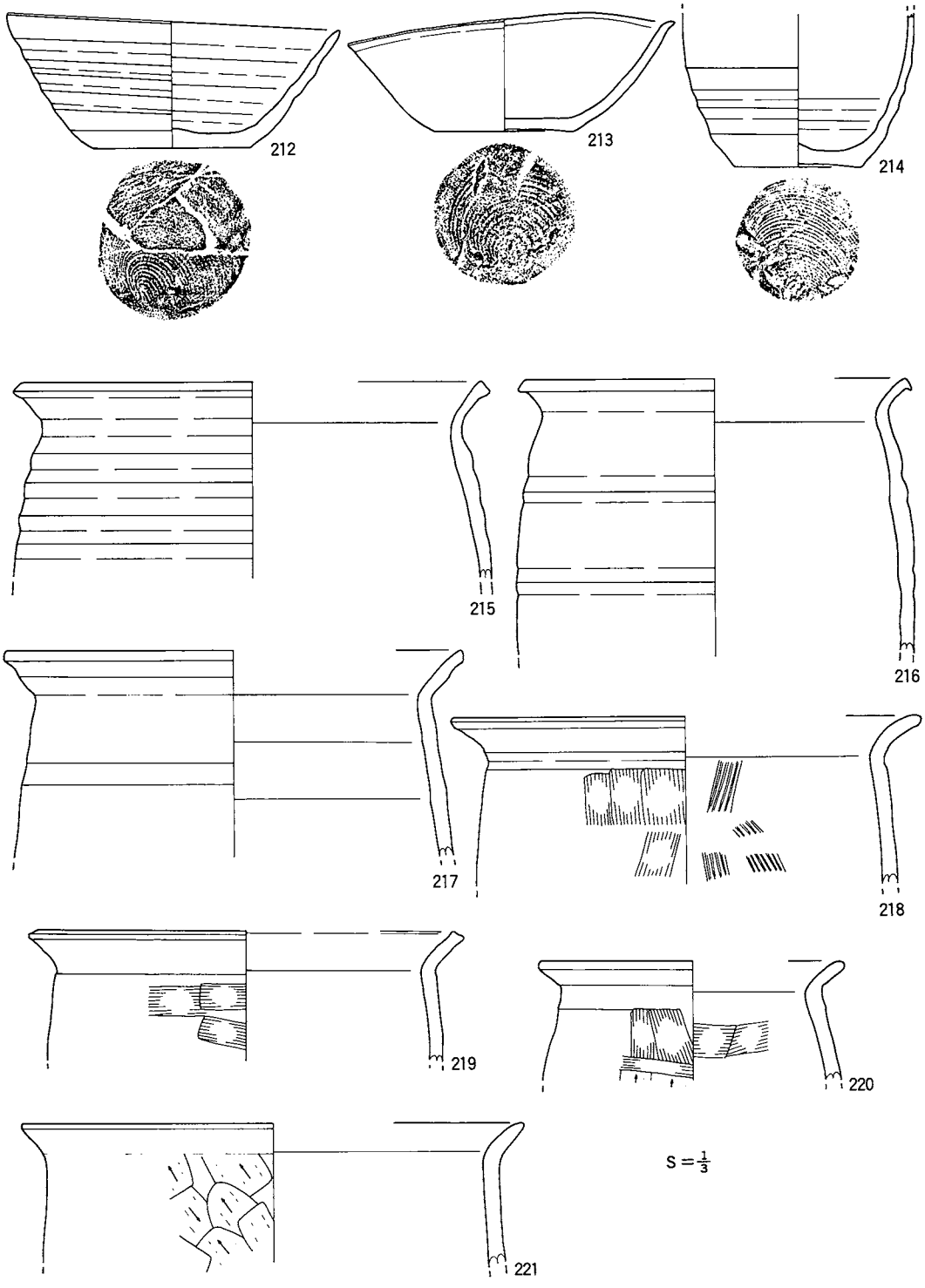
第103図　ⅡＧ－１住居跡出土遺物



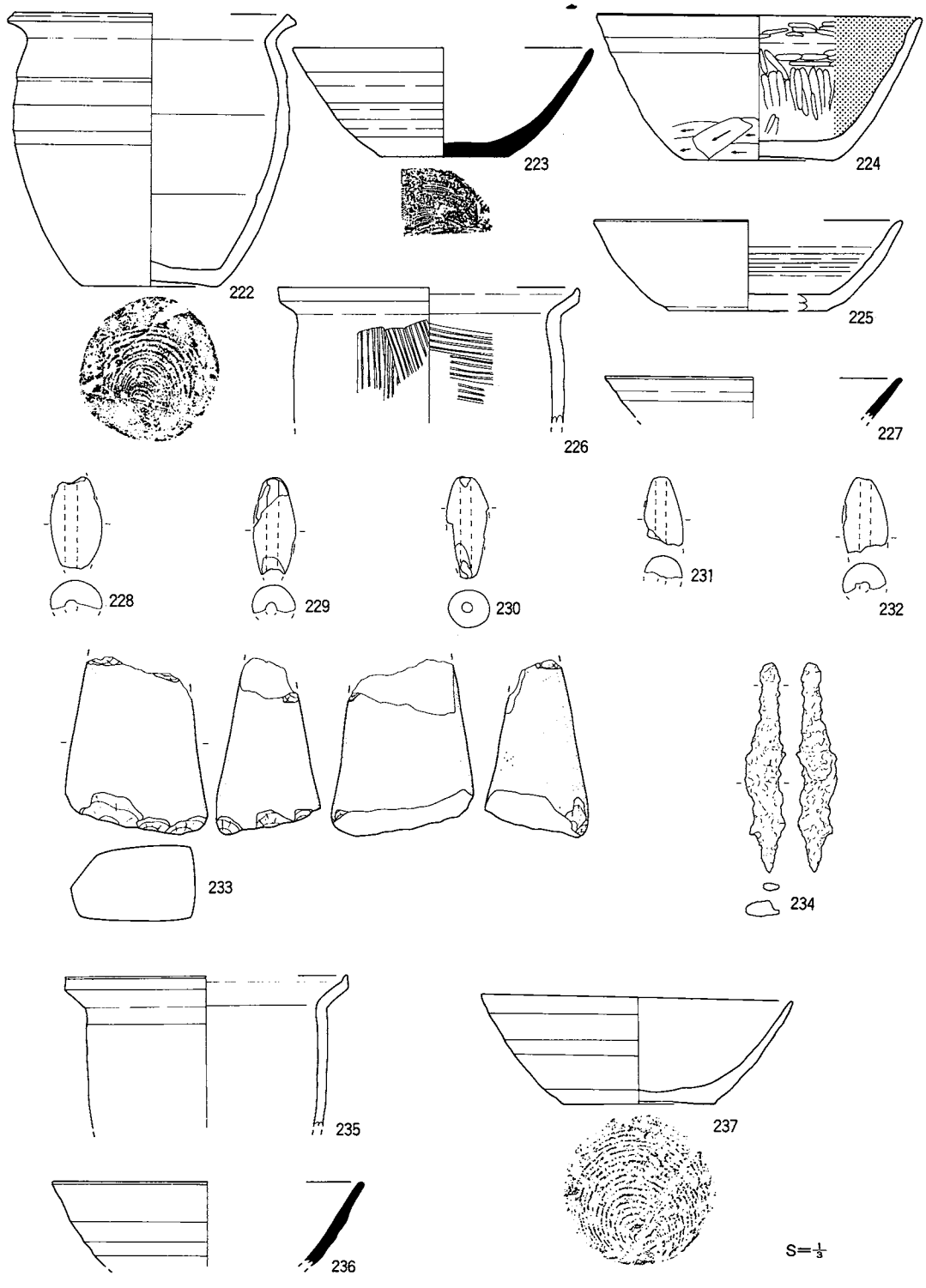
第104図　ⅡG－1（187～193）・ⅡG－2（194～197）住居跡出土遺物



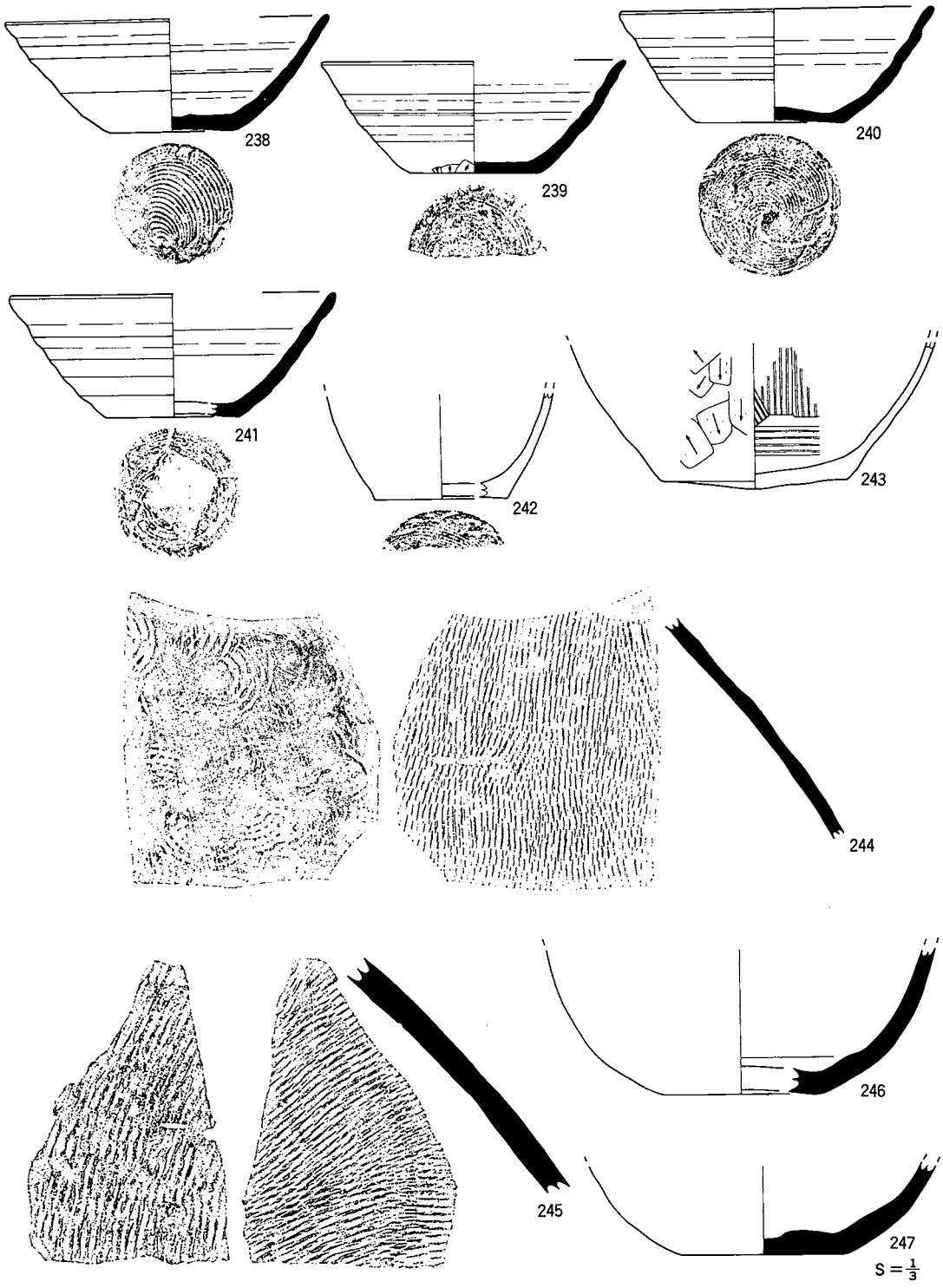
第105図　ⅡG－3（198～199）・ⅡG－4（200～211）住居跡出土遺物



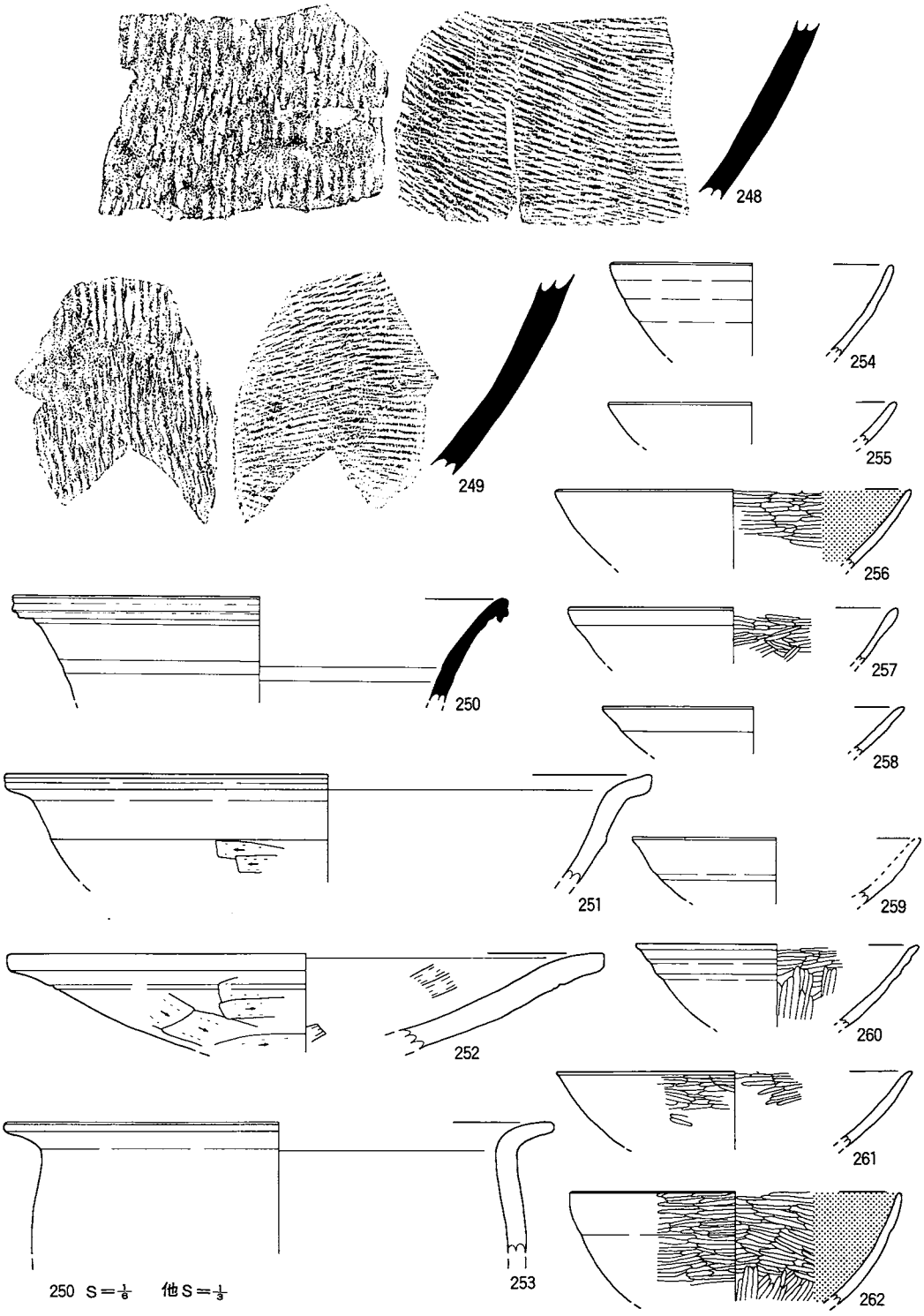
第106図　ⅡG－4（212～214）・ⅡH－1（215～221）住居跡出土遺物



第107図　ⅡH－1（222～234）・ⅡH－2（235～237）住居跡出土遺物

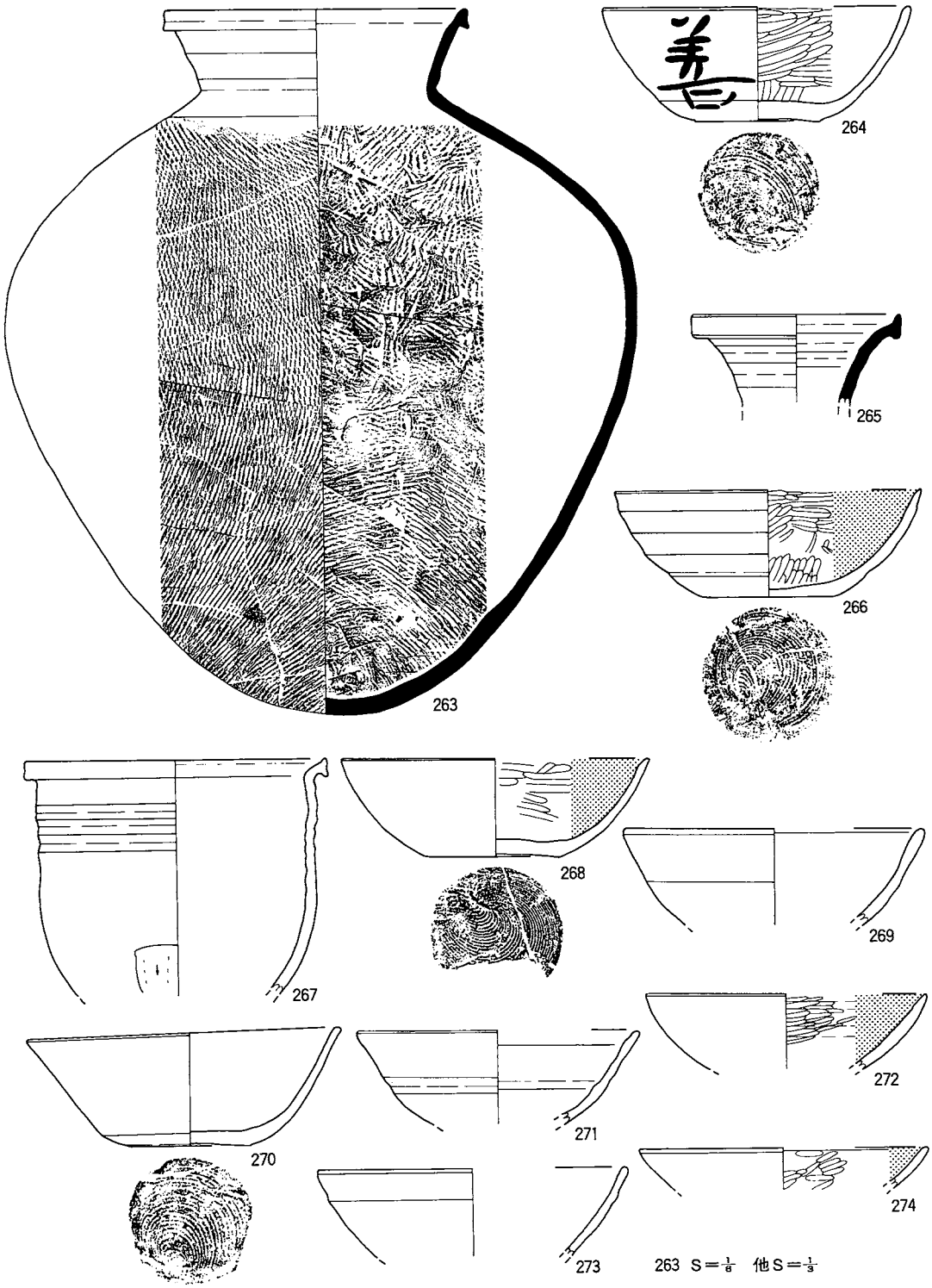


第108図　ⅡＨ－２（238～243）・ⅡＨ－３（244～247）住居跡出土遺物

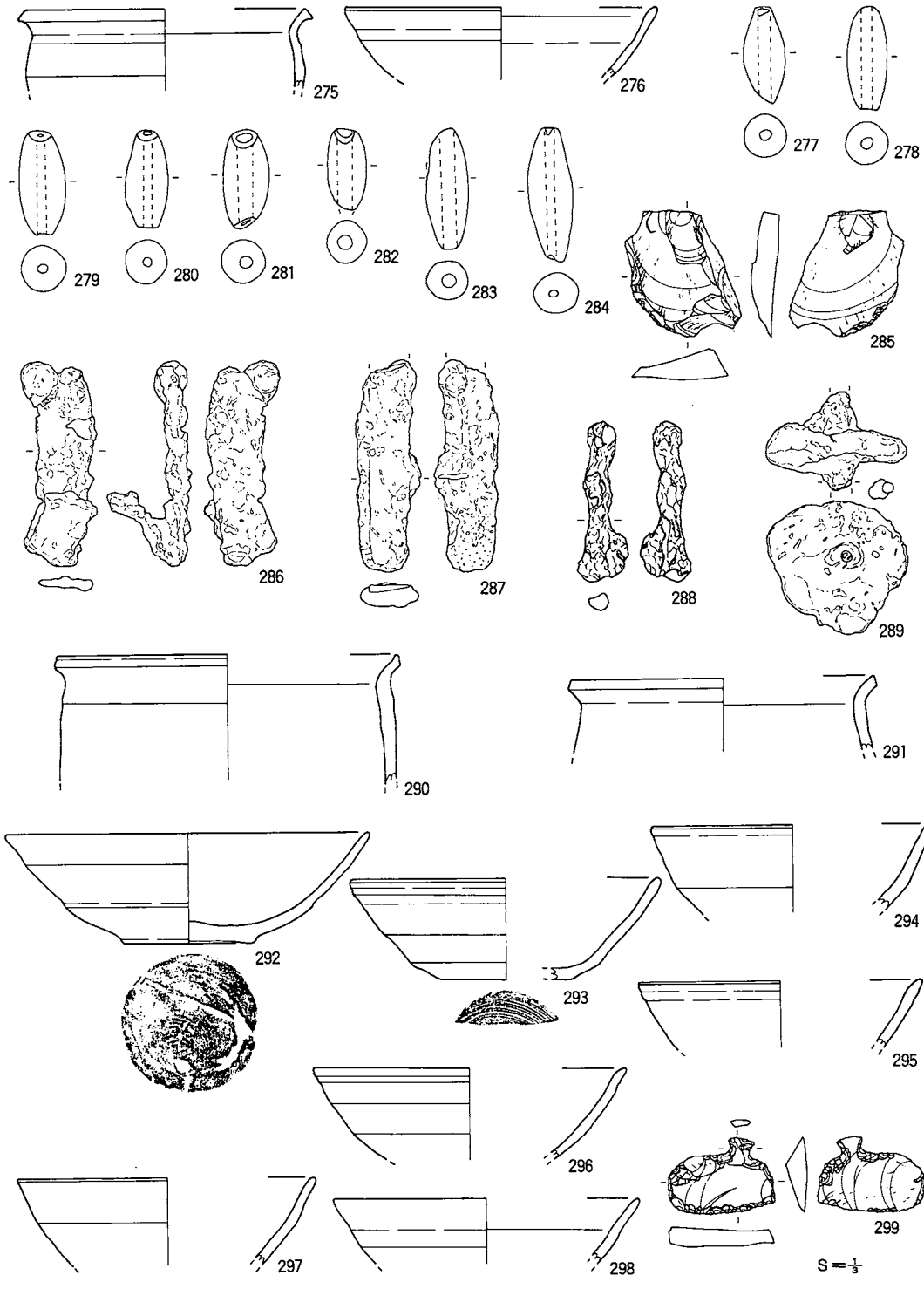


250 S＝$\frac{1}{6}$　他S＝$\frac{1}{3}$

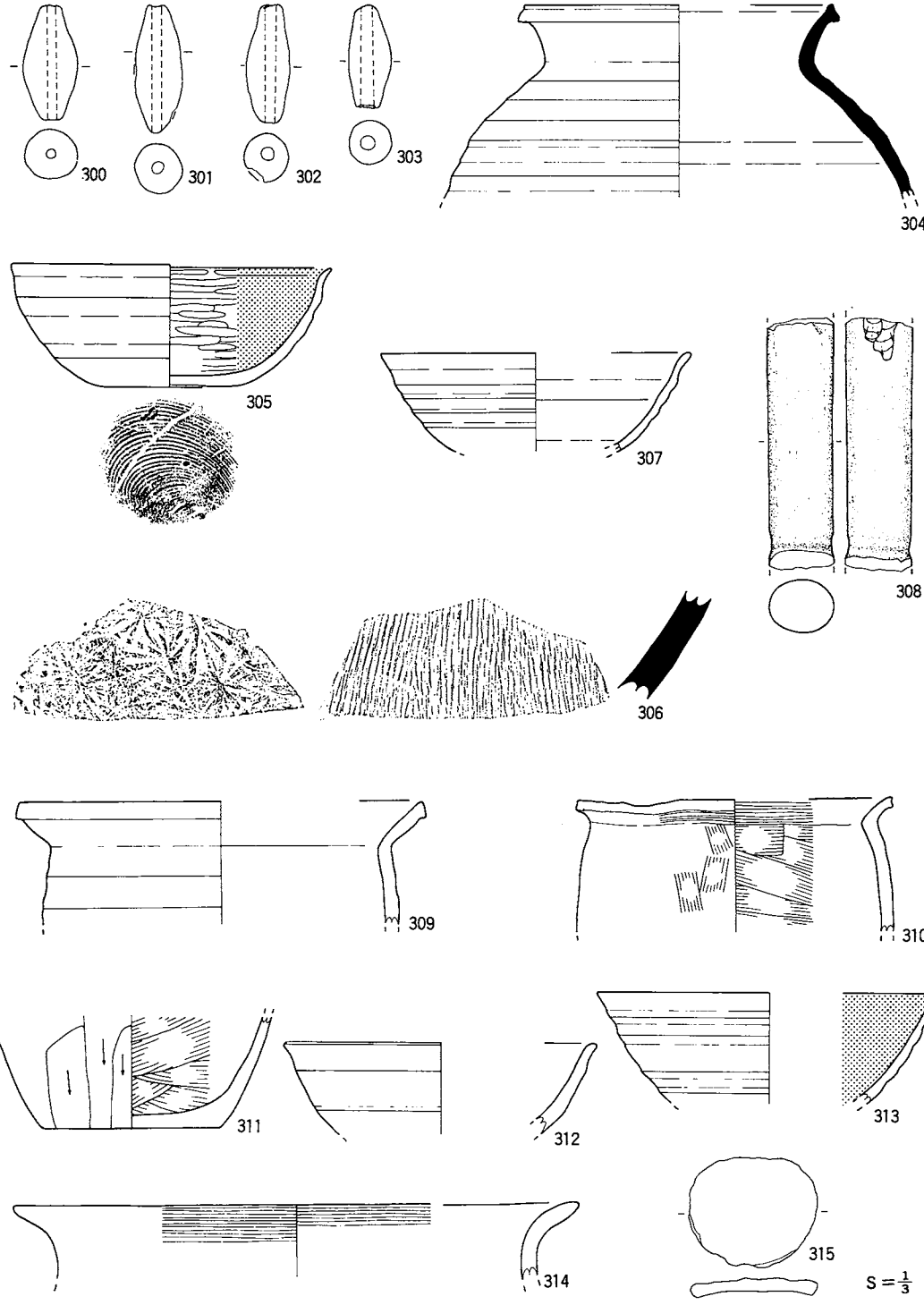
第109図　ⅡH－3住居跡出土遺物



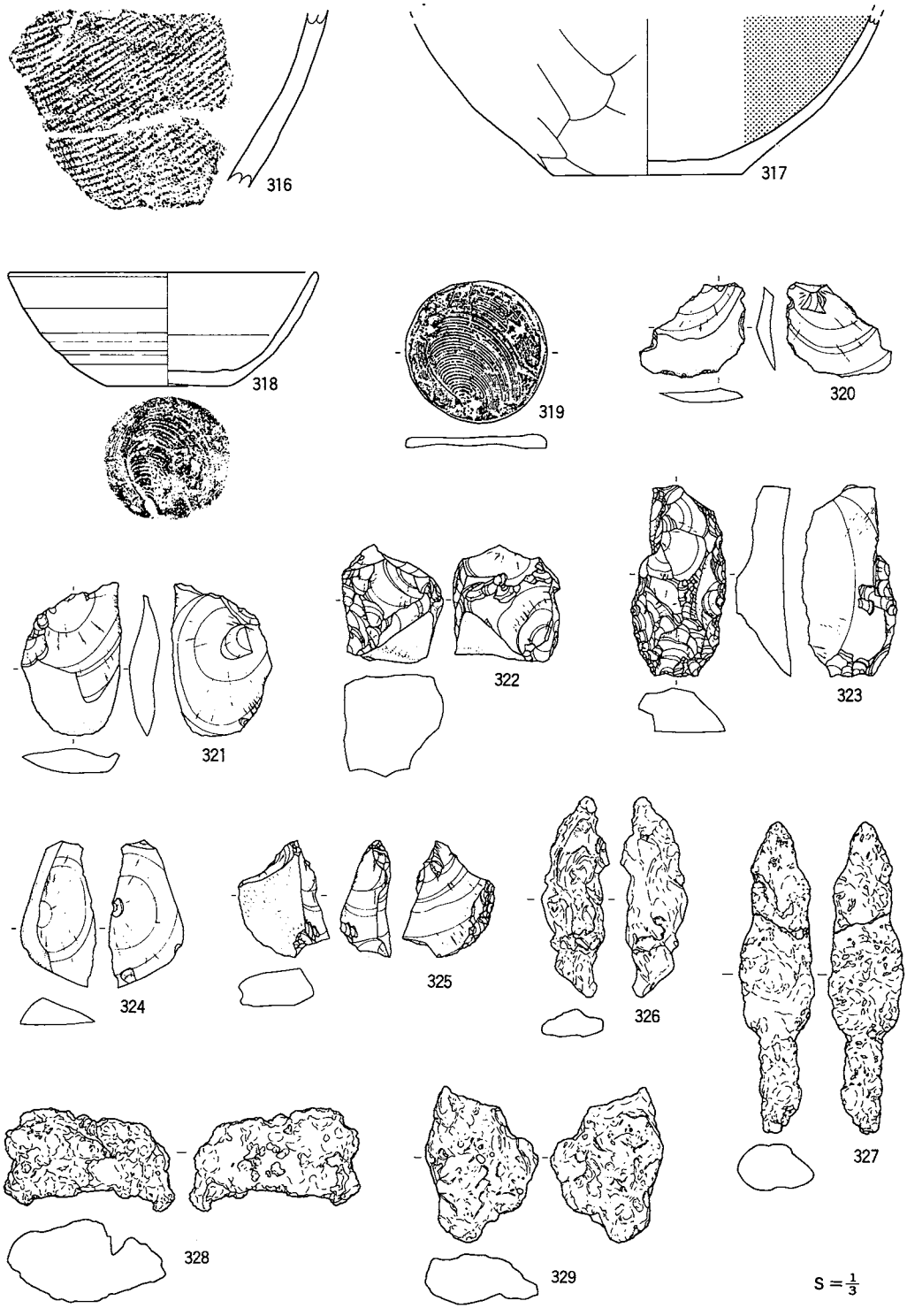
第110図　ⅢＨ－１住居跡出土遺物



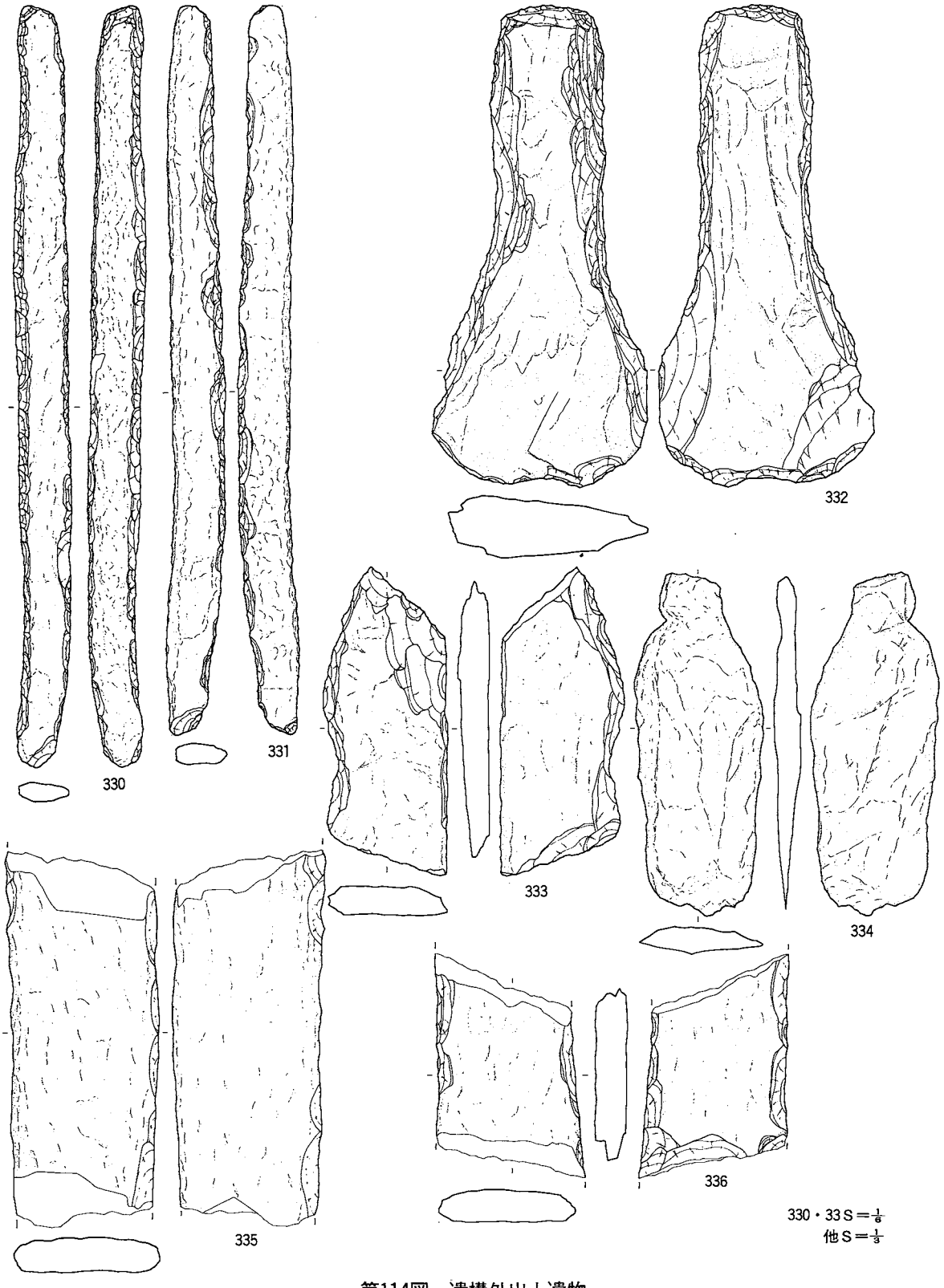
第111図　ⅢＨ－１（275～289）・ⅢＨ－２（290～299）住居跡出土遺物



第112図　Ⅲ I －1 住居跡 (300～303) ・ Ⅱ F－1 土坑　(304～306) ・ Ⅱ F－2 土坑　(307)
Ⅱ F－5 土坑　(308) ・ Ⅲ H－3 土坑　(309～312) ・ Ⅱ F－1 焼土 (313～314)
Ⅱ E－32陥し穴 (315) 出土遺物



第113 図　遺構外出土遺物



第114図　遺構外出土遺物

表7　掲載遺物一覧〈1〉

土器　(1)

番号	遺構名	出土地点	器種	成形	縁外	胴外	底外	縁内	胴内	底内	口径	器高	底径	色調	備考
1	ⅡB－1住	床面直上	土甕	非	ヨ	ナ		ヨ	ナ		20	12		浅黄橙	
2	ⅡB－1住	埋土下部	土甕	非	ヨ	ケ		ヨ	ナ					橙	
3	ⅡB－1住	カマド状埋土	土坏	ロ	ロ	ロ	回再	ミ	ミ	ミ	14.4	5.5		にぶい黄褐	内黒
4	ⅡB－1住	カマド状埋土	土坏	ロ	ロ	ロ	回再	ミ	ミ	ミ	13.2	3.7	6.2	浅黄橙	
5	ⅡB－1住	埋土下部	土甕	非		ナ								にぶい黄橙	
6	ⅡC－1住	床面直上	土甕	非	ヨ	ケミ		ヨ	ナ		23.4	19.9		橙	
7	ⅡC－1住	カマド状埋土	土甕	非	ヨ	ケ		ヨ	ナ		23.4	6.6		浅黄橙	
8	ⅡC－1住	埋土中～下部	土甕	非	ヨ	ケ								にぶい黄橙	
9	ⅡC－1住	床面直上	土甕	非	ヨ	ケ								にぶい黄橙	
10	ⅡC－1住	床面直上	土甕	非	ヨ	ケ								にぶい黄橙	
11	ⅡC－1住	カマド状埋土	土甕	非	ヨ	ケミ		ヨ	ナ		25.6	18.1		橙	
12	ⅡC－1住	埋土中～下部	土甕	非	ヨ	ケ		ヨ	ナ		23	4.6		浅黄橙	
13	ⅡC－1住	カマド	土甕	非	ヨ	ケ		ヨ			21.4	5.2		浅黄橙	
14	ⅡC－1住	床面直上	土甕	非	ヨ	ナ		ヨ			22.4	5.4		にぶい黄橙	
15	ⅡC－1住	埋土中～下部	土甕	非		ケ			ナ					にぶい黄橙	
16	ⅡC－1住	埋土中～下部	土甕	非		ケナ		ヨ	ナ					灰褐	
17	ⅡC－1住	床面直上	土甕	非	ヨ			ヨ	ナ					にぶい黄橙	
18	ⅡC－1住	埋土中～下部	土甕	非	ケ									橙	
19	ⅡC－1住	埋土中～下部	土甕	非	ヨ	ケナ		ヨ	ケナ					橙	
20	ⅡC－1住	床面直上	土甕	非	ヨ	ケ								にぶい黄橙	
21	ⅡC－1住	床面直上	土坏	非	ヨ	ケ		ヨ	ケ					浅黄橙	
22	ⅡC－1住	埋土中～下部	土甕	非					ナ					橙	
23	ⅡC－1住	埋土中～下部	土甕	非	ヨ	ナ								にぶい黄橙	
24	ⅡC－1住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	12.3	4.3	5.2	浅黄橙	
25	ⅡC－1住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	12	4.2	6.2	黄橙	
26	ⅡC－1住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	12.8	3.5	6	浅黄橙	
27	ⅡC－1住	カマド状	土坏	ロ	ロ	ロ	再	ロ	ロ	ロ	13.1	4.9	6	浅黄橙	
28	ⅡC－1住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	12.2	4.4	5.3	淡黄	
29	ⅡC－1住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ	再	ミ	ミ	ミ	14.5	5	5.6	淡黄	内黒
30	ⅡC－1住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ミ	ミ	ミ	14.6	3.8	5.4	浅黄橙	内黒
31	ⅡC－1住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ	再	ミ	ミ	ミ	14.4	4.8	5.4	にぶい黄橙	内黒
32	ⅡC－1住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	11.6	2.9	4.4	淡黄	
33	ⅡC－1住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	11.9	2.7	4.6	淡黄	
34	ⅡC－1住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	12.4	2.7		淡黄	
35	ⅡC－1住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	11.8	1.8		黄橙	
36	ⅡC－1住	床面直上	台坏	ロ	ロ	ロ	再	ロ	ロ	ロ	12.1	3	5.8	浅黄橙	
37	ⅡC－1住	埋土最下部	土坏	ロ	ロ	ロ		ミ	ミ	ミ	15.2	4.7	5.2	灰白	内黒
38	ⅡC－1住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ					12.6	3		浅黄橙	内黒
39	ⅡC－1住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ					16	5	6.2	灰白	内黒
40	ⅡC－1住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ					16.2	5.1	5.6	浅黄橙	内黒
41	ⅡC－1住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ		ミ	ミ	ミ	15.4	5.5	6	灰白	内黒
42	ⅡC－1住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ		ミ	ミ	ミ	14.4	4.8		浅黄橙	内黒
43	ⅡC－1住	カマド状	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ	ロ	14.4	3.3		橙	
44	ⅡC－1住	埋土最下部	土甕	非		ケ			ナ	ナ		3.6	8.6	にぶい橙	
45	ⅡC－1住	埋土中～下部	台坏	ロ								1.8	8.9	橙	内黒

表8　掲載遺物一覧〈2〉

土器　(2)

番号	遺構名	出土地点	器種	成形	縁外	胴外	底外	縁内	胴内	底内	口径	器高	底径	色調	備考
46	IIC－1住	カマド状	土甕	非		ケミ			ナ	ナ		12	16.4	にぶい橙	
47	IIC－1住	埋土中～下部	土甕	非		ケ								明黄褐	
48	IIC－1住	埋土中～下部	土坏	ロ		ロ	回							にぶい黄橙	
49	IIC－1住	埋土中～下部	土甕	非		ケ						4.6	10.2	橙	
50	IIC－1住	埋土最下部	土甕	非		ケ						10.3	10.8	にぶい橙	
51	IIC－1住	床面直上	土坏	ロ		ロ	回					2	5.8	にぶい橙	
52	IIC－1住	埋土中～下部	土甕	非		擦文								にぶい黄橙	擦文土器？
53	IIC－1住	埋土中～下部	土甕	非		擦文								にぶい黄橙	擦文土器？
55	IID－1住	P4下部	土甕	非	ヨ	ケナ		ヨ	ナ		20.4	16.6		浅黄橙	
56	IID－1住	P6	土甕	非	ヨ	ナ		ヨ	ナ	ナ	17	15	7.8	灰白	
57	IID－1住	床面直上	土甕	非	ヨ	ナ		ヨ	ナ		19.6	12		灰白	
58	IID－1住	P2，P3	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ	ロ	15.4	13.5	7.6	橙	
59	IID－1住	P1埋土下部	土甕	非	ヨ	ナ		ヨ	ナ		28.8	12		にぶい橙	
60	IID－1住	P1埋土	土甕	非	ヨ	ケ		ヨ	ナ		14	6.3		にぶい橙	
61	IID－1住	P1埋土	土甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		10.8	3.6		橙	
62	IID－1住	P2埋土	土甕	非	ヨ	ナ		ヨ	ナ		23.6	12		浅黄橙	
63	IID－1住	P3埋土	土甕	非	ヨ	ケ		ヨ	ナ		13.8	6.3		にぶい橙	
64	IID－1住	P1埋土	土甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		19.2	6		浅黄橙	
65	IID－1住	埋土下部	土甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		21.2	4.7		灰黄褐	
66	IID－1住	P4下部	土甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		18.4	8		にぶい黄橙	
67	IID－1住	P2	土甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		15	8.1		灰白	
68	IID－1住	P3	土甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		21	6		浅黄橙	
69	IID－1住	P2	土甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		17.8	3.9		浅黄橙	
70	IID－1住	床面直上	土甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		23.6	6.5		にぶい橙	
71	IID－1住	床面直上	土甕	非							12	4.7		浅黄橙	
72	IID－1住	P1	土甕	ロ											
73	IID－1住	P2下部	土甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		15.4	4		にぶい黄橙	
74	IID－1住	床面直上	土甕	ロ	ロ	ケ		ロ	ロ		18.4	4.4		浅黄橙	
75	IID－1住	床面直上	土甕	非		ロ					14.5	5		にぶい褐	
76	IID－1住	P1埋土	土甕	非	ヨ	ナ		ヨ	ナ					浅黄橙	
77	IID－1住	P2埋土	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ					浅黄橙	
78	IID－1住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ミ	ミ	ミ	14.3	5.2	5	にぶい橙	内黒
79	IID－1住	P1埋土	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ミ	ミ	ミ	14.4	5.4	6.4	にぶい橙	内黒
80	IID－1住	P2埋土	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ミ	ミ	ミ	13.2	5	5.6	浅黄橙	内黒
81	IID－1住	P1，P2	土坏	ロ	ミ	ミ	再	ミ	ミ	ミ	17.5	4.9	5.4	にぶい黄橙	内外面黒色処理
82	IID－1住	埋土下部	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		14.2	3.8		橙	
83	IID－1住	P1埋土	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ミ	ミ	ミ	24.8	4.9	6.6	にぶい黄橙	内黒
84	IID－1住	P3埋土	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	15	4.6	5.2	浅黄橙	
85	IID－1住	P1埋土	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		15.2	4.6		浅黄橙	
86	IID－1住	P1埋土	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	14.6	5	5.1	にぶい黄橙	赤焼き
87	IID－1住	P1埋土	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		14.6	4.6		橙	
88	IID－1住	P4埋土下部	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		13.8	4		灰白	黒斑あり
89	IID－1住	P1	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		12.4	4.3		浅黄橙	
90	IID－1住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		13.4	4.5		にぶい橙	
91	IID－1住	焼土内	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		13.4	4		にぶい橙	底部外面に刻書

表9　掲載遺物一覧〈3〉

土器　(3)

番号	遺構名	出土地点	器種	成形	縁外	胴外	底外	縁内	胴内	底内	口径	器高	底径	色調	備考
92	ⅡD－1住	1面貼床下部	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		13.2	4.5		橙	
93	ⅡD－1住	P2	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		15.6	4.2		浅黄橙	
94	ⅡD－1住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		14.6	2.8		にぶい橙	
95	ⅡD－1住	1面貼床下部	甕	ロ		ロ			ロ			12.3		浅黄橙	96と同一個体
96	ⅡD－1住	1面貼床下部	甕	ロ		ロ			ロ			9.7		浅黄橙	95と同一個体
97	ⅡD－1住	P1，3埋土	土甕	非		ケ			ナ	ナハ		16.6	9.4	灰白	
98	ⅡD－1住	P6埋土	土甕	非								8.8	9	赤褐	
99	ⅡD－1住	P6埋土	土甕	非		ケ				ナ		4.5	12.2	にぶい黄橙	
100	ⅡD－1住	P6埋土	土甕	非		ナ			ナ	ナ		12.2	7	灰白	
101	ⅡD－1住	P3埋土	土甕	非		ケ			ナ	ナ		5.9	11	にぶい黄橙	
102	ⅡD－1住	焼土内	土坏	ロ		ロ	回		ミ	ミ		4.6	6.6	褐	内黒
103	ⅡD－1住	P1埋土	土坏	ロ		ロ	回		ロ	ロ		2.6	7.8	浅黄橙	
104	ⅡD－1住	P2埋土	土坏	ロ		ロ	回		ロ	ロ		3.3	5.2	浅黄橙	
105	ⅡD－1住	焼土内	土坏	ロ		ロ	回		ロ	ロ		2	5.2	浅黄橙	
106	ⅡD－1住	貼床下部	土坏	ロ		ロ	回		ロ	ロ			5.6	灰白	
107	ⅡD－1住	床面直上	土坏	ロ		ロ	再		ロ	ロ		3	6.3	にぶい黄橙	
108	ⅡD－1住	床面直上	土坏	ロ		ロ	回		ロ	ロ		4.1	6	にぶい橙	
109	ⅡD－1住	埋土下部	土坏	ロ		ロ	再		ロ	ロ			5.8	灰白	
110	ⅡD－1住	床面直上	土脚											黄橙	
115	ⅡE－1住		土甕	非	ヨ	ナ	ナ	ヨ	ナ	ケ	21.4	34.4	11	にぶい橙	
116	ⅡE－1住	埋土上部	土甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		14	3.3		にぶい黄橙	
117	ⅡE－1住	床面直上	土甕	非	ヨ	ナ		ヨ	ナ		15.6	6.5		橙	
118	ⅡE－1住	床面直上	土甕	非	ヨ	ナ		ヨ	ナ		18.4	5.2		灰白	
119	ⅡE－1住	床面直上	土甕	非	ヨ	ケ					22	6.5		にぶい橙	
120	ⅡE－1住	床面直上	土甕	非	ケ	ケ		ヨ	ナ		27	10.3		橙	
121	ⅡE－1住	床面直上	土甕	非	ヨ	ケ		ヨ	ナ		25.4	6.5		浅黄橙	
122	ⅡE－1住	埋土一括	須甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		11.2	5.5		暗緑灰	
123	ⅡE－1住	P1～P4	土甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		12.4	5.2		橙	
124	ⅡE－1住	P1～P4	土甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		13.4	9.6		にぶい黄橙	
125	ⅡE－1住		土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		12.8	4.7		灰白	
126	ⅡE－1住		須甕	非		叩			当					灰	
127	ⅡE－1住	床面直上	須甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		21.4	5.5		灰	
128	ⅡE－1住	床面直上	土甕	非	ヨ	ナ			ケ					橙	
129	ⅡE－1住	P4	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ミ	ミ	ミ	13.4	5.2	5.8	にぶい橙	内黒
130	ⅡE－1住	P1～P4	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	10.8	5.1	6	にぶい黄橙	
131	ⅡE－1住	埋土一括	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	13.6	5	6	淡橙	ロクロ痕摩滅
132	ⅡE－1住		土坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	14.7	4.5	5.4	浅黄橙	
133	ⅡE－1住	埋土上部	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ミ	ミ	ミ		2	6.4	にぶい橙	内黒．底部刻書
134	ⅡE－1住	焼土内	土坏	ロ	ロ	ロ		ミ	ミ		14	4		灰黄褐	内黒
135	ⅡE－1住	埋土一括	土坏	ロ	ロ	ロ		ミ	ミ		7	4.3		にぶい黄橙	内黒
140	ⅡE－2住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ミ	ミ	ミ	11	3.9	5	にぶい黄橙	内黒．耳皿
141	ⅡE－2住	P埋土	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	14	4.4	6.4	淡橙	
142	ⅡE－2住	P埋土	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	14.8	5.4	6.4	浅黄橙	
143	ⅡE－2住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	14.6	4.7	6.8	にぶい黄橙	
144	ⅡE－2住	P埋土	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	14.6	4	6.8	橙	

表10　掲載遺物一覧〈4〉

土器　(4)

番号	遺構名	出土地点	器種	成形	縁外	胴外	底外	縁内	胴内	底内	口径	器高	底径	色調	備考
145	IIE－2住	カマド右袖内	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ミ	ミ	ミ	13.6	5.1	7.6	にぶい橙	内黒
146	IIE－2住	P埋土	土坏	ロ		ロ	回		ロ	ロ		2.4	5.9	浅黄橙	
147	IIE－2住	PP埋土	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		12.8	4.1		浅黄橙	
148	IIE－2住	PP埋土	羽釜	ロ	ロ			ロ						灰白	
149	IIE－2住	PP埋土	土坏	ロ		ロ	回		ロ	ロ		4.8	7.1	浅黄橙	
150	IIF－1住	P埋土	土坏	ロ		ロ	回		ロ	ロ		4.3	7.6	浅黄橙	
152	IIF－2住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	14.3	5.2	6	橙	赤焼き
153	IIF－2住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ	再	ロ	ロ	ロ	13.7	5.1	6.2	浅黄橙	
154	IIF－2住	埋土一括	土坏	ロ	ロ			ロ			15	4		淡黄	
155	IIF－2住	P1埋土	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		10.8	3.5		浅黄橙	
156	IIF－3住	埋土下部	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	14.1	4.6	5.9	浅黄橙	
157	IIF－3住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		13.2	3.8		明黄褐	
158	IIF－3住	床面直上	土甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		13.7	2.4		暗灰黄	
159	IIF－3住	カマド周辺	土甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		14.9	7.1		浅黄橙	
160	IIF－3住	床面直上	土甕	ロ	ロ			ロ			14.6	2.2		淡黄	
161	IIF－3住	床面直上	土甕	ロ		ロ	回		ロ	ロ		10.5	6.4	にぶい橙	
162	IIF－4住	床面直上	土甕	非	ヨ	ケ	ケ	ヨ	ナ	ナ	24.7	33.5	6.4	浅黄橙	
163	IIF－4住	床面直上	土甕	非	ヨ	ケ	ケ	ヨ	ナ	ナ	12.5	17	7.2	浅黄橙	
164	IIF－4住	床面直上	土甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		15	3		浅黄橙	
165	IIF－4住	床面直上	土甕	非		ナ	ナ		ハ	ハ			5.4	浅黄橙	
166	IIG－1住	カマド周辺	土甕	ロ	ロ			ロ			18.3	3.4		にぶい黄橙	
167	IIG－1住	床面直上	土甕	ロ	ロケ			ロ			18.9	2.1		にぶい橙	
168	IIG－1住	床面直上	土甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		33	6.1		にぶい橙	
169	IIG－1住	カマド周辺	土甕	非	ケ	ケ		ヨ	ナ		21	6.3		浅黄橙	
170	IIG－1住	カマド周辺	土甕	非	ケ	ケ		ヨ	ナ		19.6	3.7		にぶい黄橙	
171	IIG－1住	埋土下部	土甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		14.2	5		浅黄橙	
172	IIG－1住	埋土下部	土甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		13	6.5		にぶい黄橙	
173	IIG－1住	煙出し	土甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		10.8	7.2		灰黄褐	
174	IIG－1住	P6床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	14.6	5.2	6.4	淡黄	
175	IIG－1住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	13.4	5.3	6.4	にぶい橙	
176	IIG－1住	カマド周辺	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ミ	ミ	ミ	13.7	4.9	5.4	にぶい黄橙	
177	IIG－1住	カマド周辺	土坏	ロ	ロ	ロ		ミ	ミ		14	4		にぶい黄橙	
178	IIG－1住	貼床下部	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		13.8	4		浅黄橙	
179	IIG－1住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		12.8	4.2	5.4	浅黄橙	
180	IIG－1住	カマド周辺	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		15	3		浅黄橙	
181	IIG－1住	カマド周辺	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		13	4		橙	
182	IIG－1住	カマド周辺	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		14	3.7		橙	
183	IIG－1住	カマド周辺	土坏	ロ	ロ			ロ			14.4	2.4		橙	
184	IIG－1住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		13.6	2.1		橙	
185	IIG－1住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		12	4		にぶい黄橙	
186	IIG－1住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		13.2	2.9		橙	
187	IIG－1住	床面直上	須坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		11	3.1		灰黄	
188	IIG－1住		陶器	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		17.6			灰黄	灰釉陶器
189	IIG－1住		坏台	ロ			ロ			ロ	14.4	2.7		橙	
190	IIG－1住	埋土下部	須甕	非		叩			当					灰黄	

表11　掲載遺物一覧〈5〉

土器　(5)

番号	遺構名	出土地点	器種	成形	縁外	胴外	底外	縁内	胴内	底内	口径	器高	底径	色調	備考
191	ⅡG－1住	埋土下部	須甕	非		叩			当					灰黄	青海波状当て具
192	ⅡG－1住	カマド周辺	須甕	非		叩			当					暗灰黄	鳥足状当て具
194	ⅡG－2住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	14.1	4.6	6.1	浅黄橙	
195	ⅡG－2住	床面直上	須坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	14	4.6	6.6	灰白	
196	ⅡG－2住	P2埋土	土甕	非	ケ	ケ		ヨ	ナ		13.4	5.5		灰白	
197	ⅡG－2住	カマド	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	15.5	5	6.5	にぶい橙	
198	ⅡG－3住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		13.5	4		橙	
200	ⅡG－4住	埋土一括	土甕	ロ	ロ	ロケ		ロ	ロ		23	22.2		にぶい橙	
201	ⅡG－4住	埋土一括	土甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		19.8	11.3		橙	
202	ⅡG－4住	埋土一括	土甕	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	14.8	12.2	8	浅黄橙	
203	ⅡG－4住	P1埋土	土甕	非	ヨ	ハ		ヨ	ハ		19	6.7		橙	
204	ⅡG－4住	P2埋土	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		13.8	4.8		明赤褐	
205	ⅡG－4住	カマド周辺	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		12.4	4.3		にぶい橙	
206	ⅡG－4住	貼床下部	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		14.8	4.8		橙	赤焼き
207	ⅡG－4住	埋土下部	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		14.2	5.1		浅黄橙	
208	ⅡG－4住	カマド周辺	土甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		15	7.1		にぶい橙	
209	ⅡG－4住	P2埋土	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		14	3.2		橙	赤焼き
210	ⅡG－4住	PP1埋土	須皿	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ	ロ	12.2	2	5.2	灰	
211	ⅡG－4住	P2埋土	陶器											浅黄	緑釉陶器
212	ⅡG－4住	P3埋土	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	15.2	6.2	7.2	橙	赤焼き
213	ⅡG－4住	P2埋土	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	13.9	5	6.4	橙	
214	ⅡG－4住	P1埋土	土甕	ロ		ロ	回		ロ	ロ		7	5.8	にぶい橙	
215	ⅡH－1住	P4埋土	土甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		21.8	9		橙	
216	ⅡH－1住	カマド周辺	土甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		17.4	12.5		橙	
217	ⅡH－1住	カマド周辺	土甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		21	9.5		浅黄橙	
218	ⅡH－1住	埋土一括	土甕	非	ヨ	ナ		ヨ	ナ		21.4	7.8		淡黄	
219	ⅡH－1住	埋土一括	土甕	非	ヨ	ナ					20	6		橙	
220	ⅡH－1住	埋土一括	土甕	非	ヨ	ナ		ヨ	ナ		14	5.5		橙	
221	ⅡH－1住	埋土一括	土甕	非	ケ	ケ		ヨ	ナ		23	6.5		にぶい橙	
222	ⅡH－1住	カマド南掘方	土甕	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	13.3	12.7	6.4	にぶい橙	
223	ⅡH－1住	床面直上	須坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	14	5.1		灰	
224	ⅡH－1住	P底面	土坏	ロ		ロ	再		ミ	ミ	15	6.7	7	橙	内黒
225	ⅡH－1住	P4埋土	土坏	ロ	ロ	ロ	再	ロ	ロ	ロ	14.4	4.3		浅黄	
226	ⅡH－1住	掘り方	土甕	非	ヨ	ハ		ヨ	ハ		14	6.3		橙	
227	ⅡH－1住	掘り方	須坏	ロ	ロ			ロ			13.8	1.9		灰黄	
235	ⅡH－2住	P1底面	土甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		13	7.1		にぶい黄橙	
236	ⅡH－2住	P1底面	須坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		14.4	4		灰	
237	ⅡH－2住	P1底面	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	14.5	5.2	7.2	淡黄	
238	ⅡH－2住	P埋土	須坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	14.9	5.2	5.8	灰白	
239	ⅡH－2住	カマド脇小P	須坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	14	5.2	6	灰白	
240	ⅡH－2住	カマド脇小P	須坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	14.3	5.3	6	灰	
241	ⅡH－2住	カマド脇小P	須坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	15	5.7	6.2	灰白	
242	ⅡH－2住	床面直上	土甕	ロ		ロ	回		ロ	ロ		4.8	6.2	にぶい黄橙	
243	ⅡH－2住	P2埋土	土甕			ケ	再		ハ	ハ		6.7	8.6	浅黄橙	
244	ⅡH－3住	床面直上	須甕	非		叩			当					灰	青海波状当て具

表12　掲載遺物一覧〈6〉

土器　(6)

番号	遺構名	出土地点	器種	成形	縁外	胴外	底外	縁内	胴内	底内	口径	器高	底径	色調	備考
245	ⅡH－3住	床面直上	須甕	非		叩			当					灰	
246	ⅡH－3住	床面直上	須甕	非			ナ			ナ		6.7	7.4	オリーブ黒	内面巻き上げ痕
247	ⅡH－3住	床面直上	須甕	非			ナ			ナ		4.1	7.6	灰	
248	ⅡH－3住	床面直上	須甕	非		叩			当					灰	
249	ⅡH－3住	床面直上	須甕	非		叩			当					黄灰	
250	ⅡH－3住	貼床内	須甕	ロ	ロ			ロ			45	9.5		褐灰	
251	ⅡH－3住	床面直上	土甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		29.2	5		にぶい黄橙	
252	ⅡH－3住	床面直上	土鍋	非	ヨ	ケ		ヨ	ナ		27	4.4		浅黄橙	
253	ⅡH－3住	床面直上	土甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		24.9	6		にぶい黄橙	
254	ⅡH－3住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		12.8	4.1		にぶい橙	
255	ⅡH－3住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		13	2		浅黄	
256	ⅡH－3住	貼床内	土坏	ロ	ロ	ロ		ミ	ミ		16	3.5		黒褐	内黒
257	ⅡH－3住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ		ミ	ミ		14.8	2.6		浅黄	
258	ⅡH－3住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		13.6	2.1		にぶい橙	
259	ⅡH－3住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		13	3		黄灰	
260	ⅡH－3住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ		ミ	ミ		12.8	3.3		淡黄	
261	ⅡH－3住	床面直上	土坏	ロ	ミ	ミ		ミ	ミ		16	3.4		にぶい黄橙	内外面ミガキ
262	ⅡH－3住	床面直上	土坏	ロ	ミ	ミ		ミ	ミ		15	5.1		にぶい黄橙	内外面ミガキ
263	ⅢH－1住	床面直上	須甕	非	ヨ	叩	叩	ヨ	当	当	21.5	48.5		灰	丸底，完形
264	ⅢH－1住	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ミ	ミ	ミ	14.2	5.3	5.8	にぶい橙	墨書「善」
265	ⅢH－1住	埋土一括	須壺	ロ	ロ			ロ			17	5.2		オリーブ灰	
266	ⅢH－1住	埋土一括	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ミ	ミ	ミ	14.2	4.9	6	にぶい橙	内黒
267	ⅢH－1住	埋土一括	土甕	ロ	ロ	ロケ		ロ	ロ		14	11		にぶい橙	
268	ⅢH－1住	P3埋土一括	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ミ	ミ	ミ	14.2	4.6	6	にぶい黄橙	内黒
269	ⅢH－1住	カマド	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		14	4.5		浅黄橙	
270	ⅢH－1住	P3埋土一括	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	14.5	5.5	5.6	にぶい橙	
271	ⅢH－1住	埋土一括	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		13	4.3		浅黄橙	
272	ⅢH－1住	カマド	土坏	ロ	ロ	ロ		ミ	ミ		13	3.6		にぶい黄橙	内黒
273	ⅢH－1住	埋土一括	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		14.4	4.2		灰黄褐	
274	ⅢH－1住	焼土内	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		13.4	2		にぶい橙	
275	ⅢH－1住	カマド	土甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		13.6	3.7		にぶい橙	
276	ⅢH－1住	埋土一括	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		14.4	3.2		浅黄橙	
290	ⅢH－2住	貼床内	土甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		15.6	5.8		にぶい黄橙	
291	ⅢH－2住	埋土一括	土甕	ロ	ロ			ロ			13.8	3.5		黄橙	
292	ⅢH－2住	P2埋土	土坏	ロ	ロ	ロ	再	ロ	ロ	ロ	16.8	5	6	浅黄橙	
293	ⅢH－2住	P2埋土	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	14.2	4.7	6	浅黄橙	
294	ⅢH－2住	貼床埋土	須坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		12.8	4		灰白	
295	ⅢH－2住	埋土一括	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		13	3		淡橙	
296	ⅢH－2住	P埋土下層	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		14.4	4.2		浅黄橙	
297	ⅢH－2住	埋土一括	土甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		13.6	4		にぶい黄橙	
298	ⅢH－2住	貼床埋土	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		14	3		浅黄橙	
304	ⅡF－1P	埋土一括	須甕	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		13.8	8.6		灰	
305	ⅡF－1P	埋土一括	土坏	ロ	ロ	ロ	回	ミ	ミ	ミ	14.3	5.5	6.4	浅黄橙	内黒
306	ⅡF－1P	埋土一括	須甕	非		叩			当					灰白	放射状当て具痕
308	ⅡF－2P	床面直上	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		13.8	4.4		浅黄橙	

表13　掲載遺物一覧〈7〉

土器　(7)

番号	遺構名	出土地点	器種	成形	縁外	胴外	底外	縁内	胴内	底内	口径	器高	底径	色調	備考
309	ⅡF－3P	埋土一括	土製	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		18	5.5		灰白	
310	ⅡF－3P	埋土一括	土製	非	ヨ	ナ		ヨ	ナ		14	6		浅黄橙	
311	ⅡF－3P	埋土一括	土製	非		ケ	再		ナ	ナ		4.9	8	淡黄	
312	ⅡF－3P	埋土一括	土坏	ロ	ロ	ロ		ロ	ロ		14	4		明黄褐	
313	ⅡF－1焼土		土坏	ロ	ロ	ロ		ミ	ミ		15.4	4.9		橙	
314	ⅡF－1焼土		土製	非	ヨ			ヨ			25.2	3.3		におい黄橙	
316	遺構外ⅡD区		縄文												胴部単節縄文
317	遺構外ⅡB区		土製	非			ケ			ミ				浅黄橙	内黒
318	遺構外ⅡH区		土坏	ロ	ロ	ロ	回	ロ	ロ	ロ	14	5.2	5.6	浅黄橙	

石器・石製品

番号	遺構名	出土地点	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	産地
136	ⅡE－1住	埋土上部	砥石	12.9	12.7	6	438	両輝石安産岩溶岩（多孔質）	岩手火山
137	ⅡE－1住	埋土上部	砥石	8.7	7.9	4.7	221	両輝石安産岩溶岩（多孔質）	岩手火山
138	ⅡE－1住	埋土上部	砥石	9.6	7.6	6	284	両輝石安産岩溶岩（多孔質）	岩手火山
233	ⅡH－1住	PP	砥石	8.2	6.7	4.8	303	流紋岩	北上山地・中生界
285	ⅡH－1住	貼床下埋土	フレーク	5.8	5.3	1.5	33.2	硬質泥岩	奥羽山地・中新統
299	ⅡH－2住	P1埋土	石匙	3.5	4.9	1	14.8	玉髄	不詳
307	ⅡF－5P	埋土1層	石棒	11.3	2.9	2.4	151	粘板岩	北上山地・古生界
320	ⅡA遺構外	表土	フレーク	4.8	4.3	0.7	11.8	粘板岩	北上山地・古生界
321	ⅡA遺構外	表土	フレーク	6.4	4.4	1.1	20.3	硬質泥岩	奥羽山地・中新統
322	ⅡB遺構外		フレーク	5.4	4.6	4.8	147	極細粒珪質凝灰岩	奥羽山地・中新統
323	ⅡE遺構外		フレーク	8.6	4.3	2.1	78	極細粒珪質凝灰岩	奥羽山地・中新統
324	ⅡA遺構外		フレーク	6.6	3.4	1.3	23.3	硬質泥岩	奥羽山地・中新統
325	ⅡA遺構外		フレーク						
330	遺構外	第2トレンチ	石剣	76.2	5.4	1.9	1112	凝灰質千枚岩	北上山地・古生界
331	遺構外	第2トレンチ	石剣	72.6	5.2	2.1	1197	凝灰質千枚岩	北上山地・古生界
332	遺構外	第2トレンチ	石鏃	23.9	10.7	3	736	凝灰質千枚岩	北上山地・古生界
333	遺構外	第2トレンチ	石剣	15.3	6.1	1.5	182	凝灰質千枚岩	北上山地・古生界
334	遺構外	第2トレンチ	石鏃	17	6.4	1.4	157	凝灰質千枚岩	北上山地・古生界
335	遺構外	第2トレンチ	石鏃	13.7	7.5	1.8	451	凝灰質千枚岩	北上山地・古生界
336	遺構外	第2トレンチ	石剣	11.1	7.2	1.6	182	凝灰質千枚岩	北上山地・古生界

表14　掲載遺物一覧〈8〉

土製品

番号	遺構名	出土地点	器種	最大長	最大厚	備考
111	IID－1住	P6埋土	土錘	6.3	2.1	
193	IIG－1住	P4底面	土鈴			中に土製の球
199	IIG－3住	床面直上	土錘	6	2.4	
228	IIH－1住	床面直上	土錘	4.2	2.4	
229	IIH－1住	床面直上	土錘	4.5	2	
230	IIH－1住	床面直上	土錘	4.7	1.9	
231	IIH－1住	床面直上	土錘	2.2	1.7	
232	IIH－1住	床面直上	土錘	3.5	2	
277	IIIH－1住	床面直上	土錘	4.4	1.9	
278	IIIH－1住	床面直上	土錘	4.7	1.9	
279	IIIH－1住	床面直上	土錘	4.7	2.1	
280	IIIH－1住	床面直上	土錘	4.4	1.9	
281	IIIH－1住	床面直上	土錘	4.5	2.1	
282	IIIH－1住	床面直上	土錘	3.7	1.8	
283	IIIH－1住	床面直上	土錘	5.4	1.9	
284	IIH－1住	床面直上	土錘	6	2	
300	IIII－1住	床面直上	土錘	5.1	2.4	
301	IIII－1住	床面直上	土錘	5.6	2	
302	IIII－1住	床面直上	土錘	5.2	1.9	
303	IIII－1住	床面直上	土錘	4.5	1.9	
315	IIE－32陥し穴	埋土上部	円盤状土製品	5.6	0.6	
319	IIE遺構外		円盤状土製品	6.4	0.4	

鉄製品・鉄滓

番号	遺構名	出土地点	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)
54	IIC－1住	埋土下部		5.1	1.6	0.9	8.4
112	IID－1住	貼床下部		7.1	1.9	1.3	11
113	IID－1住	貼床下部		7.8	1.5	1.6	9.5
114	IID－1住	埋土下部		11.2	2.3	1.4	19.5
151	IIF－1住	床面直上		5.2	1.6	1.4	7.2
234	IIH－1住	床面直上		5.2	1.6	1.2	10.8
286	IIIH－1住	埋土一括	鎌	9.4	2.8	1.5	31.7
287	IIIH－1住	埋土一括	鎌	9.7	2.9	1.7	23.5
288	IIIH－1住	埋土一括	紡錘車	7.4	2.4	1.4	17
289	IIIH－1住	焼土内	紡錘車	4.5	6.5	2.2	72
326	IIC遺構外			9	2.8	1.7	34.1
327	IIC遺構外			14	3.4	2.1	67
328	IIB遺構外		鉄滓	4.4	7.7	3.8	130
329	IIC遺構外		鉄滓	7	5.1	98	2.7

VI　まとめ

1　陥し穴状遺構

187基検出されたが、この数はこれまでの本県における１遺跡からの検出例としては最多となる。

分類等については、これまでも瀬川(1981)や田村(1987)の業績があるが、本遺跡において検出された遺構は溝状の遺構が多く、これまでの多様な形状分類基準に当てはめにくいことを考慮し、分類の基準については本遺跡と同様、溝状タイプの遺構が数多く検出された報告がなされている『鼻館跡発掘調査報告書』(濱田、佐瀬1992)の中の分類を参考にし、ごく簡単な分類を試みてみた。

(1)　分類基準

開口部平面形、縦断面形、横断面形をそれぞれ３群に分けた。

「開口部平面形」

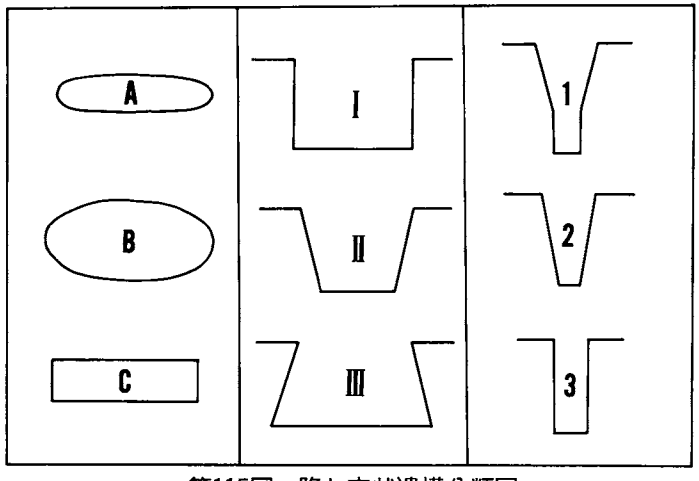
Ａ型：溝型を呈し、細長い形状を示すもの。

Ｂ型：楕円形に近い形状を示すもの。

Ｃ型：長方形の箱形を示すもの。

「縦断面形」

Ⅰ型：開口部と底部の縦長の差が10cm未満のもの、もしくはほぼ箱状を呈するもの。



第115図　陥し穴状遺構分類図

II型：開口部縦長が底部縦長より10cm以上長く、縦断面が平底ボール状を呈するもの。

III型：底部縦長が開口部縦長より10cm以上長いもの。

「横断面形」

1型：Y字状

2型：V字状（開口部と底部の差が10cm以上のもの）

3型：U字状

以上の分類基準を設定して、本遺跡の陥し穴状遺構を分類した結果、上記の組み合わせに合致したのは、AI1、AII1、AIII1、AI2、AII2、AIII2、AI3、AII3、AIII3、BI2、CI3の11型だけであった。ここではAI型ではあるが、横断面が1と2の中間であるとか、A型で横断面が1型ではあるが、縦断面がIIとIIの中間ぐらいであるというような同項目で2つの形式にあてはあるものや、調査区外に遺構がかかっているもの、削平や切り合いを受けているものはも除いた99基を分類の対象にしたが、最も多かったのがAI3型で全体の44%と全体の半分近くを占めた。続いてAII3型の15.1%、AI2型の11.1%、AI1型、AII3型、CI3型の7%の順になり、開口部平面形A型の占める割合は全体の90%以上を占める。

(2) 立地・分布・配列

本遺跡のように多数の陥し穴状遺構が検出されている場合、全体図にその位置を記し、検討してみると何かしらの法則性が見えてくるように思えるが、本遺跡において明らかに法則性をもった配列をしているとみられるのは、一番北に位置しているIII－1～4陥し穴の4基のみである。これは滝名川に対して直交しており、いずれも杭穴をもっている。その他、規模、深さ、配置等の点からみても同じ時期にある規則性をもってつくられた可能性が高い。しかし、遺構が密集しているE、F区など他の遺構については、長軸が川に対して直交、あるいはやや北か、南にずれているものに対して、その中に稀に川に平行な遺構も見受けられるという大まかな傾向は把握できても、方向性や、配列についての詳細な分析をすることは困難である。ただ、密集している地域のある一部を抽出すれば、何らかの傾向はつかめるようで、例えばE、F区では南西から北東にかけて、川に直交している陥し穴が3基ほどのまとまりをもってつくられているようにも見受けられる。

これらについては他の遺跡の例をみてもいえるようで、石岡(1991)によれば北海道旭町1・函館空港遺跡群・石川1・桔梗2・青森県発茶沢・長七谷地・和野前山・売場・大久保・湯沢など多数検出されている遺跡では配列を認識しづらいが、同規模を抽出すればやや広い間隔で3～10基程度並列する傾向が認められ、岩手県下平・安比内I・飛鳥台地I・荒屋IIなど10～20基程度の事例では2～3群に分類できる一群が密に並列しているという。

立地条件をみると、本遺跡は完新世において2段に段下した自然堤防上に立地しており、この面は北上盆地の完新世地形面のうち最も安定する地形面で、旧河道変遷図(P.21)の初期(3～4)に所属する。瀬川(1981)によると陥し穴状遺構の立地は大きく2つにわけられ、1つは低位段丘の縁辺部を占地しており、この縁辺部は緩傾斜面をもち、そのまま低湿地へと連続する地形で、もう一つは中位段丘の縁辺部を占地しているもので、この分類からいけば本遺跡は前者に属することになる。本遺跡が西田遺跡の一部として機能していたと仮定した場合、川を含めたこの地域が狩猟の中心地となっていたことは想像に難くない。

(3) 構築年代

本遺跡においても他の遺跡同様、殆ど遺物を伴出しなかったため、年代の特定は難しい。しかし、地形からみると、本遺跡は旧河道Ⅰ期に所属することから、周囲の遺跡の分布と対応させてみた場合、縄文時代前期以前には構築されていなかった可能性が高い。また、他の例をみても溝状のものは縄文時代中期以降に出現する頻度が高いこと、西田遺跡が最も隆盛を誇った時期が縄文時代中期であることなどを合わせて考えた場合、本遺構は中期以降に構築されたといえよう。ただし、これが全て一斉に同じ時期につくられていたかどうかは定かではない。確かに、このくらいの数の陥し穴が同時に存在していれば、獲物が掛かる可能性は高い。しかし、これでは人間の歩く場所もないほどで、人間が穴に落ちてしまう危険性も大きい。また、掘り方の若干の差、例えば、AⅠ3型とAⅡ3型では全体に占める割合からみても、全く同じ時期につくったとは必ずしもいえない。また、本遺構には陥し穴どうしの切り合いのみられる遺構がいくつかあるが、これは構築時期がいくぶんずれていることを示している明らかな証拠の一つである。しかし、その他の年代を示す資料の出土がないため、特定することはできない。

② 埋土

本遺構の埋土の特徴としては、他の遺跡と同様、自然埋没のものが大部分を占めることが挙げられる。但し、本遺跡の場合、遺構の上部が多かれ少なかれ削平されており、上部の状況は不明な点が多い。しかし、最下層に黒色土が入り、砂状の土が下部から中部にかけてレンズ状に堆積しているものについては自然堆積と判断してよいであろう。

このほかに検出面最上層に大きなブロック状の褐色土が入り、その周囲が黒色土で覆われている例が数基にみられた。これは元々の最上層がそのような状態になっているか否かは別にして、自然的な埋没では考えられない状態である。また、これらの遺構が廃棄されたと同時期に人為的な埋め戻しがなされたかということについても明らかではない。また本遺構の埋土についてその埋没の時間をみると、2年間にわたる本遺跡の調査において、1年目に掘った遺構を2年目調査に入る7カ月後に観察したところ、遺構の約80%が埋没していた。もちろん、これは周囲が裸土で植生がないことを考えれば、陥し穴状遺構を構築した時期の本遺構もこのくら

いの速度で埋没したとは考えにくい。しかし、何十年も、何百年もかかって埋まるものではないことはいえるのではないだろうか。

2　竪穴住居跡

本遺跡において竪穴住居跡が20棟検出されているが、時期は全て平安時代に属するものである。このうち全体を調査できたのは6棟のみで、残りは一部が調査区外に含まれていたり、後世の削平を受けていたりで全体を調査することはできなかった。検出された住居跡は互いに切り合うことなく存在している。

遺跡全体からの分布状況を見ると、その多くは遺跡中央部よりやや南部の位置から北部にかけて、かつ西側に偏って広く分布しているが、最北端のJ、K区には存在しない。また、これは本遺跡の中で比較的削平が少なかった場所に集中しているといえる。レベル的にみると90～92mの場所にあたる。例外は本遺跡南部飛び地の北端に位置するIIB－1とIIC－1でレベルはmと他の住居跡と比べて極端に低い位置にある。

本住居跡で検出された20棟中7棟が全体を調査できたが、その中の内訳としては1辺が2～3mのもの1棟、3～4mのもの3棟、4m以上のもの3棟と3区分される。また全体を調査できなかったものを含めてこの3区分に当てはめると、2～3mのものはなく、3～4mのもの5棟、4m以上のもの10棟になる。更に4m以上のものの中には5～6mのものが1棟、6m以上のものが1棟ある。このうちIIG－5は2m強の最小の住居跡であるが、内部には何の施設もなく、かつ遺物、柱穴も検出されなかったことから、住居跡でない可能性もある。人間が住むスペースを考えても、1辺3m以上のものが実際に住居として使用されたものであろう。

時期は出土遺物から9世紀第4四半期～10世紀前葉に比定されるものが多い。また住居跡どうしの切り合いはみられないが、全ての住居跡が同時期に存在したか否かは不明である。

カマドは煙道部・煙出しが検出された6棟のうち東向きは4棟で、全て中央よりやや南よりに位置する。その他1棟は北向き、更にもう1棟は2つのカマドをもつが、1基は北東隅に、もう1基は南壁東寄りに位置する。煙道の構造は不明のものが多いが、くり貫き式はIIG－2の1例であとは掘り込み式とみられる。また煙道は削平されているが、燃焼部が壁際に残っているもので東壁に位置するものはIIB－1、東壁やや南寄りがIID－1、IIE－1、同2、IIG－3、III－1、東壁やや北寄りがIIH－2とそれぞれ当該の方向に煙道部があったのであろうし、東側が完全に削平されているものも、東側にカマドの存在があったものと推測されるが、例外もあり、IIC－1については壁際に位置するカマドは検出されなかったものの、住居

内中央部付近と思われる部分から、小石を多数詰め込んだカマド状の遺構が検出されている。これは同住居跡が一般のカマドを持つ住居として用いられたのではない、特殊な役割を担った施設であったことを物語るものである。

柱穴についてはⅡG－1、ⅡG－5、ⅡH－3の3棟で検出されなかった。また住居内に柱穴らしき掘り込みはみられるものの、深さ、掘り方、配列からみて柱穴になりそうがないものも、ⅡG－2、ⅡH－1、ⅡⅠ－1の3棟でみられた。その他については柱穴の存在が確認されており、ⅡG－3、ⅡG－4は東西南北より計4基ずつ検出されるなど、全て規則的な配列がみられる。飛び地のⅡB－1、ⅡC－1については周囲に多数の柱穴が存在すること、また数回に渡る洪水等による攪乱で住居の壁が消失してしまっていることなどから、同住居に伴う明らかな柱穴は確認できなかった。

焼失住居跡はⅡH－1の1棟のみ検出された。炭化材が全面にわたってみられ、その上に焼土が広がる、残りが非常によい住居跡である。本住居跡に広がる材は全てケヤキである。本遺跡とほぼ同時期の住居跡21棟が検出された対岸の下川原Ⅱ遺跡では焼失住居跡が6棟検出されているが、このうち7号住居跡の一部にケヤキが使用されていたものの、ほとんどクリが主体となっていることから、同遺跡の住居跡とは相をやや異にする。

3　掘立柱建物跡

調査区中央部ⅡF区より1棟検出された。D～G区において竪穴住居跡が削平の少ない西部から偏って検出されたのに対して、本遺構は東部の滝名川に近い面から検出された。柱痕は底の部分のみが残っており、上部は開田の際削平されているものとみられる。鬼頭(1985)によればこの時期の集落の一般的傾向として、掘立柱建物が建てられていた場所には竪穴住居は建てられず、またその逆もない。おそらく、掘立柱建物と竪穴住居を村民が十分意識して、それぞれの場所を設定して、同時に作り営んだものであろうと推察している。本遺跡の場合もこれに当てはまるようにも思われるが、掘立柱建物跡が位置するⅡF区は調査区の東側に位置し、西側と比べて削平が進んでいるとみられるため、削平された部分に竪穴住居が存在した可能性も全く否定できないわけではない。しかし、柱の直径をみると86×44～97×132cmとかなり太く、このくらいの規模の建物を支えるためには、相当上部より掘り込まないと建たないであろう。従って、本遺構は平安時代に竪穴住居跡と同時に機能していた可能性が高いとみられる。

4　その他の遺構

溝跡は調査区北西部及び北部で計３条が検出されている。北西部で検出されたⅡＨ－１溝跡についてはⅡＨ－１、同２住居跡の煙道部を切っているため、時期的には住居跡より時期は新しい。その他の２条については性格、時期についても不明である。対岸の下川原Ⅱ遺跡でも時期決定ができるものは少なかったが、一部遺物が入り込んでいるものもあった。また同遺跡では滝名川に注ぐようになっているものも検出されているが、本遺跡においては性格を示す材料はみられなかった。

鍛冶炉跡は還元焼成部分に鍛造剝片が広がり、土坑と共にその周囲に柱穴が配される。規則的に並ぶものではなく、本遺構に関わるものか否かは不明であるが、この場所で鉄器の生産は行われていたことは明らかである。

土坑・焼土遺構の性格は３つにわけられる。１つは本来竪穴住居に伴っていたもので、これはⅡＦ区から検出された土坑５基、焼土２基がそれにあたる。もう１つは土坑そのものが単独での役割をもつものである。ⅡＨ区から検出された炭窯がそれにあたる。更にもう１つが性格不明のものである。性格不明の土坑はⅡＧ区１基の他はⅡＨ区に集中する。土坑の性格については従来様々な説があるが、竪穴住居跡を切っている例もみられることから、比較的新しいものである可能性もある。

柱穴状土坑群はその分布に偏りがみられ、調査区南部の飛び地ⅡＢ、ⅡＣ区と北部のⅡⅠ区に集中してみられる。配列、深さ、形状、規模等がまちまちで掘立柱建物跡を構成するものとはならないが、検出面がどちらも低い面のフラットロームで、ⅡＢ、ⅡＣ区においてはフラットロームの最上層から検出されているものも1/3程度見受けられた。フラットロームが検出される面が上層では平安時代より新しくなる可能性もあり、住居跡と同じ面から検出されたものは当該時期のものである可能性が高い。

5　出土遺物

(1)土器

ここでは住居跡出土の遺物を中心に記載する。本遺跡から出土している土器は全て高橋（1983)編年のⅢ－２群（９世紀末～10世紀）に属している。また、もっと時期を限定したものとしては、村田(1992)が多賀城周辺における平安時代前半の土器編年を試みているが、それにおいては４群（９世紀第４四半期）～５群（10世紀前葉）の中に含まれるものである。また、この時期の遺物ではよく言及されることであるが、土師器か須恵器か判別しがたいものも非常に

多く出土した。ここで須恵器としたのは明らかに還元炎焼成されている灰色系の土器である。

土師器は坏、甕、羽釜、甑、堝が出土しているが、圧倒的に多いのは甕、坏である。甕についてはロクロ使用と不使用のものが出土しているが、分布をみるとレベル的に低い位置にあるⅡB－1、ⅡC－1の2つの住居跡出土のものは全てがロクロ不使用で占められている。また、調査区南部のⅡD－1ではロクロ使用と不使用がほぼ半数であるが、北に行くに従ってロクロ使用が不使用を上回る傾向がみられる。ⅡH－1、ⅡH－2はほぼ半数であるが、ⅡH－3、ⅢH－1、ⅢH－2ではロクロ不使用がみられなくなる。ロクロ使用のものは回転糸切りがほとんどで、再調整がみられたのはⅡH－1で2点あるのみであった。また、ⅡC－1では北海道でみられる擦文を思わせる土器片が2点出土している他、ⅡD－1では砂底土器がみられた。坏は全てロクロ使用、回転糸切りがほとんどで、再調整がなされているものはⅡC－1、ⅡD－1で各4点、ⅡB－1で2点、ⅡF－2、ⅡH－2で各1点あるのみであった。

甑は周辺の胴部から底部にかけての破片1点と、胴部の破片1点が出土している。これまで本遺跡出土の甑については、本遺跡から最も近い古館駅前遺跡の資料をみる限り、胴部下半穿孔については似ている点があるが、形状、穿孔の位置等の細部については異なるところがある。甑の集成については外山(1987)が群馬県を中心とした関東地方の類例を集成した業績がある。この集成に本遺跡出土のものを照合してみると、3期（9世紀後半～10世紀）の底部筒抜けで、受け孔を設け、くの字状に開く脚付のものにあたる。羽釜についても氏は甑と羽釜の出現は強いつながりがあり、須恵器生産集団の変容と大きく拘わるとしている。また、傾向として羽釜のある集落遺跡には甑ありと言えるほど多く出土するというが、本遺跡においてもその例に漏れなかったということが言えよう。

堝については松本(1991)によれば、東北北部においては9世紀前半～11世紀中葉にかけて使用されていたとしており、北上川流域ではロクロ使用と不使用が共存するという。氏の分類や形態からみて本遺跡出土のものは水沢市・膳性遺跡出土のものに似かよっている。耳皿については羽釜と同じⅡE－2から出土している。内面黒色処理がなされており、他の土師器と同時代に存在していたことは確実であるが、実用したものであるか否かについては不明である。

土師器についてはこれらの他に、墨書土器と刻書土器が各1点ずつ出土している。墨書土器に記されている「善」の文字は吉祥を意味するものとされる。刻書土器は底部糸切り後に、数字の「一九」が刻まれている。どちらもその用途については不明である。

須恵器については、土器全体からみると土師器に比べその量は少ないが、分布の傾向としては調査区中央～やや北寄りのⅡG、ⅡH、ⅡHから比較的多く出土している。甕はロクロ使用が1点、その他は全てロクロ不使用である。ⅡH－1からは大甕が1個体出土しているが、同住居跡は焼失住居であり、焼土、炭化材も広がるが、遺物はそれらがみられない部分に広がっ

ていた。また、同住居跡からは須恵器の壺の頸部も出土している。坏については全てロクロ使用で、底部には回転糸切り痕をもつ。

(2) 土製品

本遺跡から出土した土製品は、土錘19点、円盤状土製品2点、土鈴1点である。

土錘は19点のうち、飛び地以外の調査区最南端IID－1から1点出土した以外は、調査区中央～南寄りのIIG、IIH、IIH、IIⅠ区に集中している。最も数多く出土しているのが、焼失住居のIIH－1住で、8点出土しているが、全て床面中央からの出土である。

円盤状土製品についての性格は不明であるが、2点のうち遺構外から出土したものは回転糸切り痕を残し、3カ所が穿孔されている平安時代のものである。

土鈴はIIG－1住居跡のP4底面から出土している。土鈴については国生(1992)が全国の集成をしている。これによると本遺跡と同じ町内に所在する杉ノ上II遺跡からも1/4の破片が出土している他、本県からは16例の出土がみられている。本遺跡出土のものは、紐孔をもたず、球形を呈している。鈴口は一文字に開き、中には粘土粒が1個入っており、振るとコロコロと音がする。氏によれば、土鈴の出土は共伴遺物から、祭祀遺物との関連が極めて強いことから祭祀遺物として分類できるとしているが、本遺跡においては共伴遺物は出土していない。

(3) 石器・石製品

砥石については住居跡内で出土していることから、当該時期に使われたものであろう。その他の出土遺物は全て縄文時代のものであるとみられる。性格は不明である。

(4) 鉄製品

残存状態が不良で、器種不明のものが多い。12点出土したもののうち、器種が確認できたのは、鎌2点、紡錘車、釣針各1点で、鉄滓も1点出土している。

(5) 施釉陶器

緑釉陶器、灰釉陶器の破片各1点ずつが出土しているが、どちらもIIG区内住居跡からの出土である。灰釉陶器は奈良・平安時代に猿投山西南麓古窯跡群（略して「猿投窯」）を中心とした東海地方でつくられた、植物灰を原料とした高火度焼成の陶器である。本遺跡のものは黒笹90号産の輪花碗で時期的には9世紀末～10世紀初頭のものである。同陶器は黒笹90号の段階になると、重ね焼きの大量生産方式がとられるが、本遺跡のものも重ね焼きがなされているものとみられる。緑釉陶器は鉛釉を基調としたわが国最古の施釉陶器で、奈良・平安時代を通じて用いられた。本遺跡出土のものは小破片のため、詳細は定かではないが、壺の一部であるとみられる。この2つの施釉陶器とも日常生活容器として用いられたとは考えられず、遺跡、遺構の性格も鑑みながら検討していく必要がある。

6　遺跡の性格とまとめ

今回の調査によって、本遺跡は縄文時代には大規模な狩場として、平安時代には大規模な集落として利用されていたことが明らかになった。

縄文時代については、本遺跡より200ｍ西に位置する中期の大集落である西田遺跡との関わりが問題となる。同遺跡は集落の核となる中心部に占地する墓壙群のあり方からみて、墓域が基本となる集落である。しかし、北部を中心に35棟もの竪穴住居跡が検出されたことからみても多数の人間の居住する地域であったことも事実である。本遺跡から西田遺跡までの200ｍの間に何が埋蔵されているか知る由もないが、今回の187基の陥し穴状遺構が、その規模や立地状況、更には本遺跡を掘る労力等を考慮した場合、西田遺跡と全く関係しないということは考えにくい。陥し穴状遺構が何の目的で作られたのかは未だに議論の余地があるところであるが、仮に一般的に言われる「陥し穴」であるならば、西田遺跡を中心とするこの地域に住んだ人々の重要な食料獲得手段となっていたことであろう。

しかし、この陥し穴状遺構がいつの時代に特定できるのか、検出面及び地形からみて縄文時代中期以降であることは確実であるが、これが定かではないため、西田遺跡と本遺跡との関係を決定づけることはできない。

また、これらの陥し穴状遺構が一度に作られたものでないことは、陥し穴状遺構どうしの切り合いがみられることで証明されるが、前述したように陥し穴状遺構の埋まり方が想像以上に早いことなどを考えると、毎年その「陥し穴」は掘り返され、役目が終わったものは自然、または人為的に廃棄され、また新しい「陥し穴」を掘ることを繰り返したものとみられる。

一方、平安時代の集落としては、対岸の下川原II遺跡との関わりで本遺跡を概観すると、時期的には両遺跡とも、前述した高橋編年のII－２群に属することから、ほぼ同時期にあたると考えてよい。佐々木(1992)によれば、下川原II遺跡は集落の西側の一部を調査したと考えられ、調査区の東側にも集落が広がると推定され、全体としては規模の大きな集落になる可能性があるとしているが、本遺跡の場合は集落の東側を調査したと考えられ、同時期に滝名川を挟んで大規模な集落が存在していた可能性がある。また、本遺跡から検出された掘立柱建物跡も集落の中でどんな位置を占めていたのか、集落の構造をみていく上で興味深い。

また、住居の位置や遺物からみていくと、本遺跡における漁労活動の重要性も指摘できよう。住居の位置からみると調査区の南北にわかれて北の焼失住居からは大量の土錘が、南のIIＢからは釣り針が出土している。また、IIＢ、IIＣの住居跡については数度の洪水による立て替えが行われているが、遺物量などからみて重要な住居として頻繁に使用されたものとみられる。洪水の影響を受けやすい場所にあえて住む場所を作らなければならない理由は何であったのか。

その理由を漁労に求めることはできないだろうか。

その他、本遺跡から土鈴、施釉陶器や耳皿などという日常生活用品とはみられないものが数点出土している。これについては一般的に祭祀関連の遺物であるとか、官衙に関連する遺物であるということもいわれることから、今後はこの観点からも更に検討していく必要があろう。

《参考・引用文献》

瀬川司男(1981)：「陥し穴状遺構について」　紀要Ⅰ　㈶岩手県埋蔵文化財センター

岩手県立博物館(1982)：『岩手の土器』

鬼頭清明(1985)：『古代の村』　古代日本を発掘する－6　岩波書店

田村壮一(1987)：「陥し穴状遺構の形態と時期について」　紀要Ⅱ　㈶岩手県文化振興事業団

石岡憲雄(1991)：「Ｔピットについて（再論）」埼玉考古学論文―設立10周年記念論文集―
㈶埼玉県埋蔵文化財調査事業団

松本建速(1991)：「東北北部の平安時代のなべ」　紀要XI　㈶岩手県文化振興事業団

国生尚(1992)：「土鈴集成」岩手考古学第４号

岩手県文化振興事業団(1992)：『鼻館跡発掘調査報告書』岩埋文報告書第171集

岩手県文化振興事業団(1992)：『上鬼柳Ⅱ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩埋文報告書第161集

岩手県文化振興事業団(1993)：『下川原Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩埋文報告書第192集

村田晃一(1994)：「土器からみた官衙の終末―東北地方の場合―」『古代官衙の終末をめぐる諸問題―第Ⅰ分冊―』東日本埋蔵文化財研究会

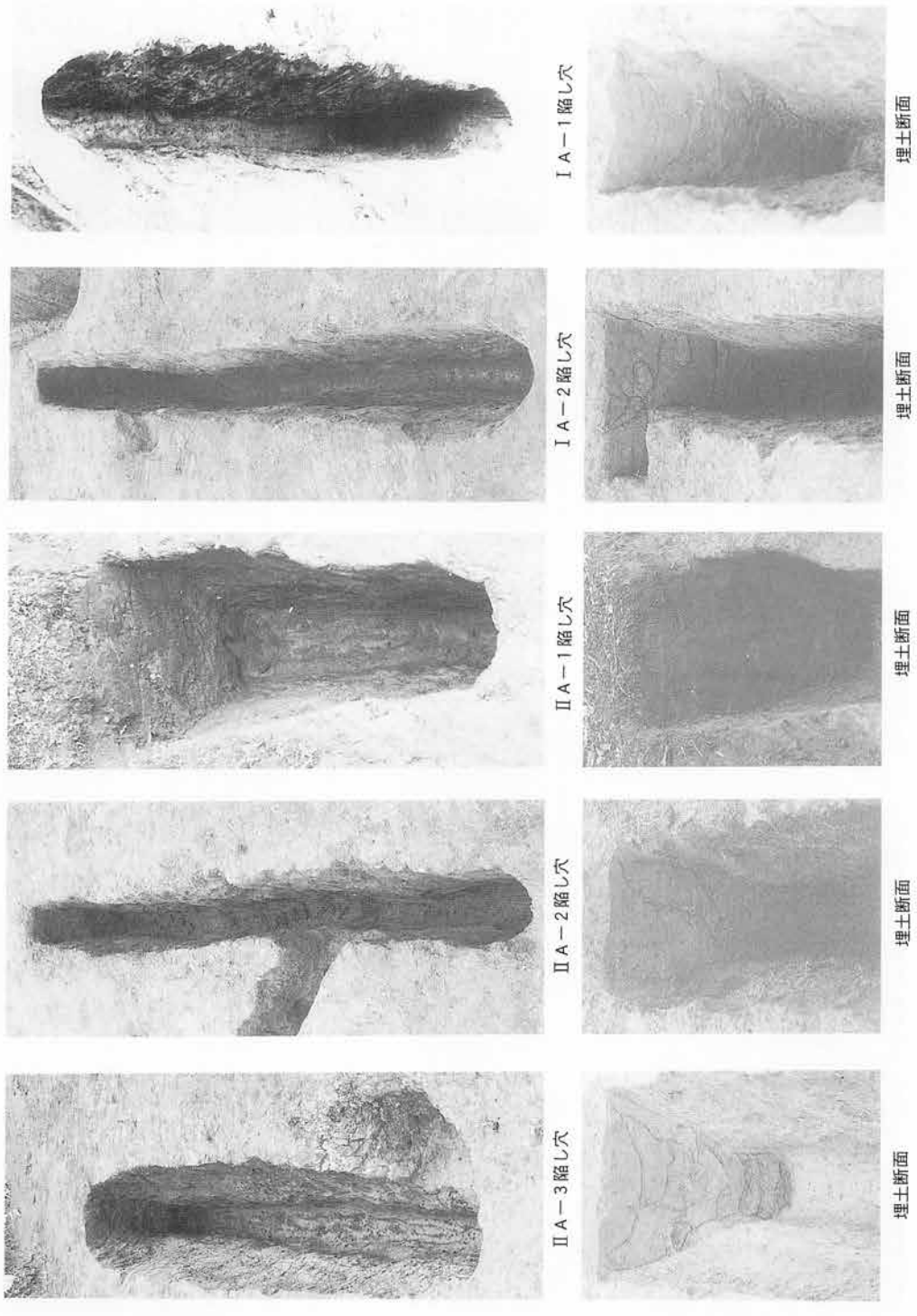
写真図版

写真図版１　空中写真・立地状況

南　側

北　側

写真図版2　基本土層断面



写真図版３　陥し穴状遺構（１）

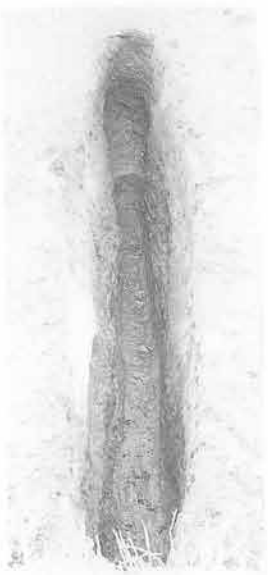
写真図版4　陥し穴状遺構（2）

写真図版5　陥し穴状遺構（3）

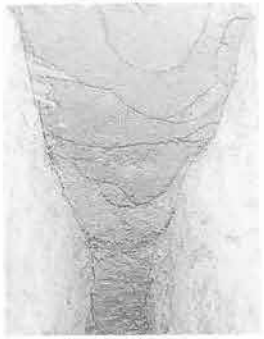
写真図版６　陥し穴状遺構（４）

ⅠＢ－３陥し穴

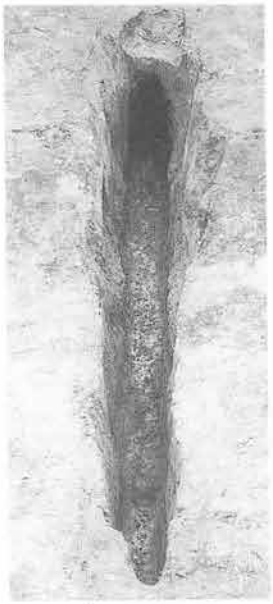
埋土断面



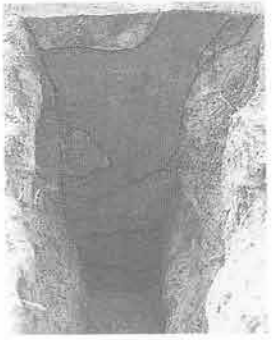
ⅠＢ－２陥し穴



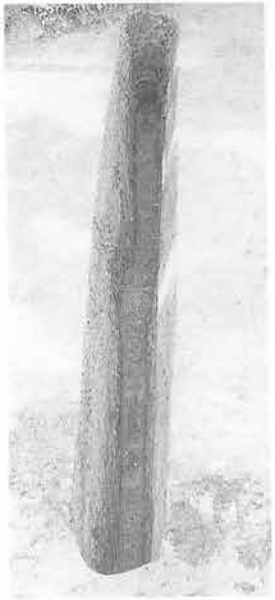
埋土断面



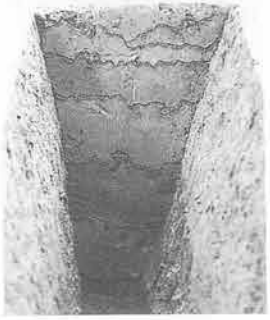
ⅠＢ－１陥し穴



埋土断面



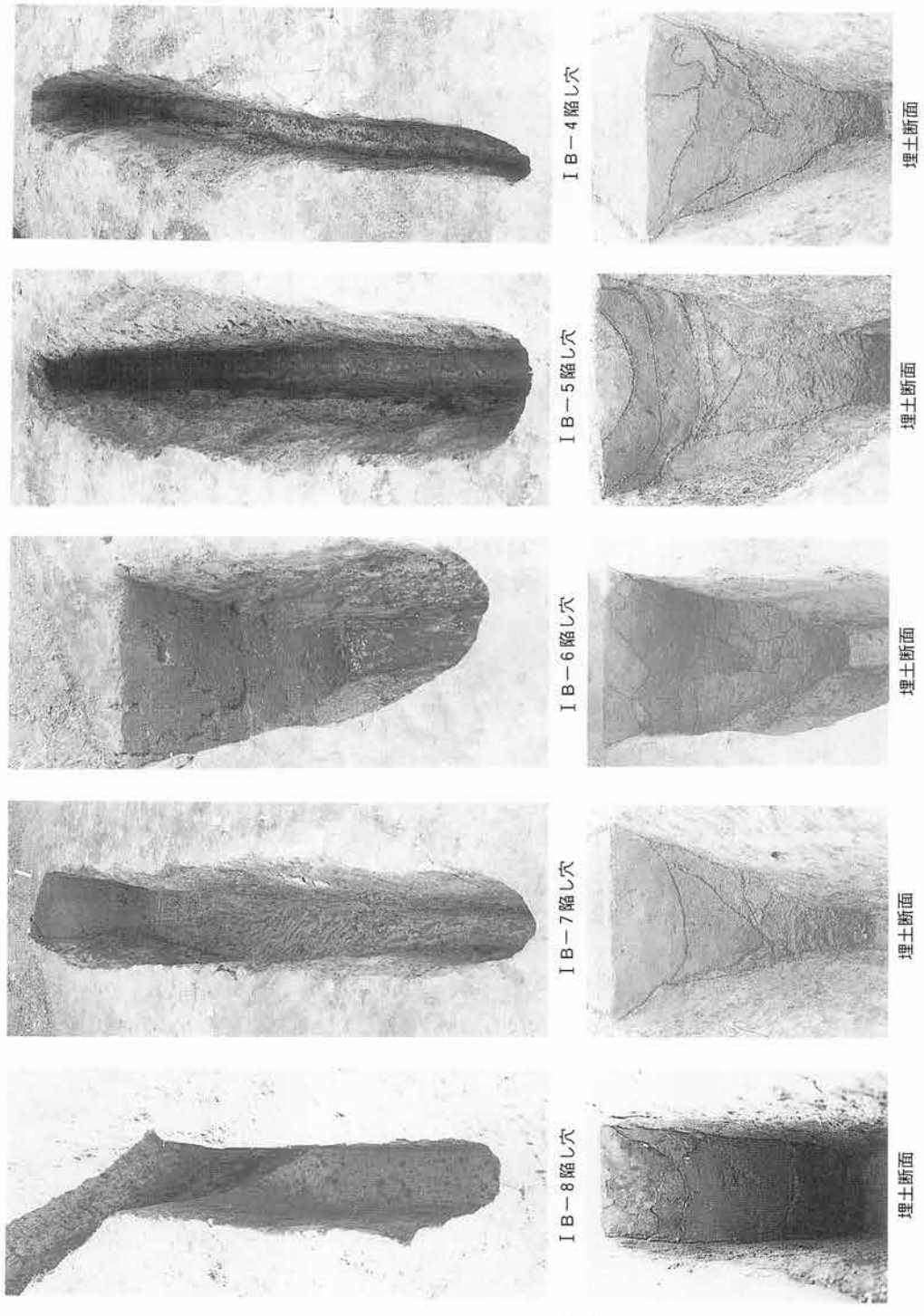
ⅡＡ－15陥し穴



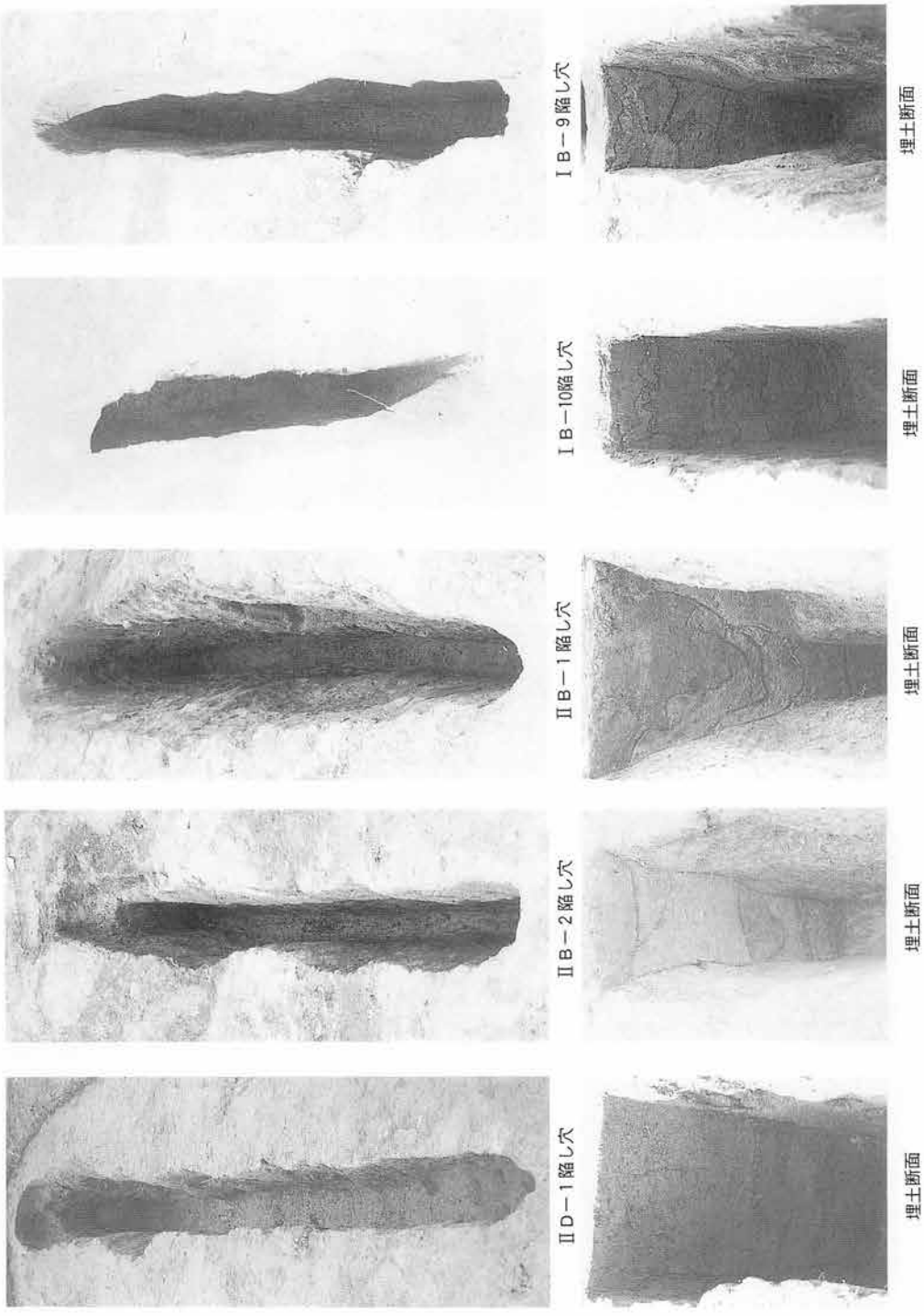
埋土断面

ⅡＡ－14陥し穴

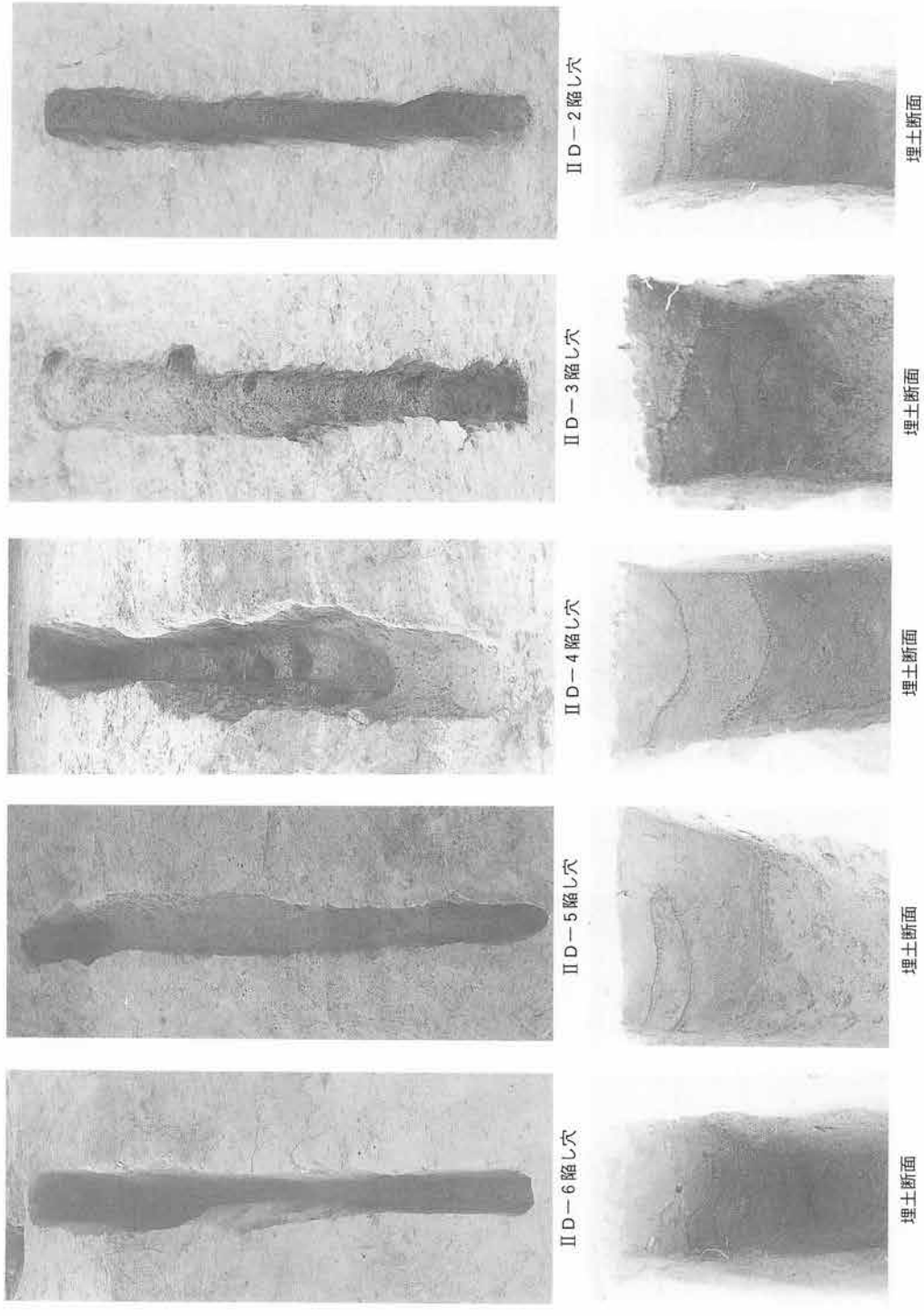
埋土断面



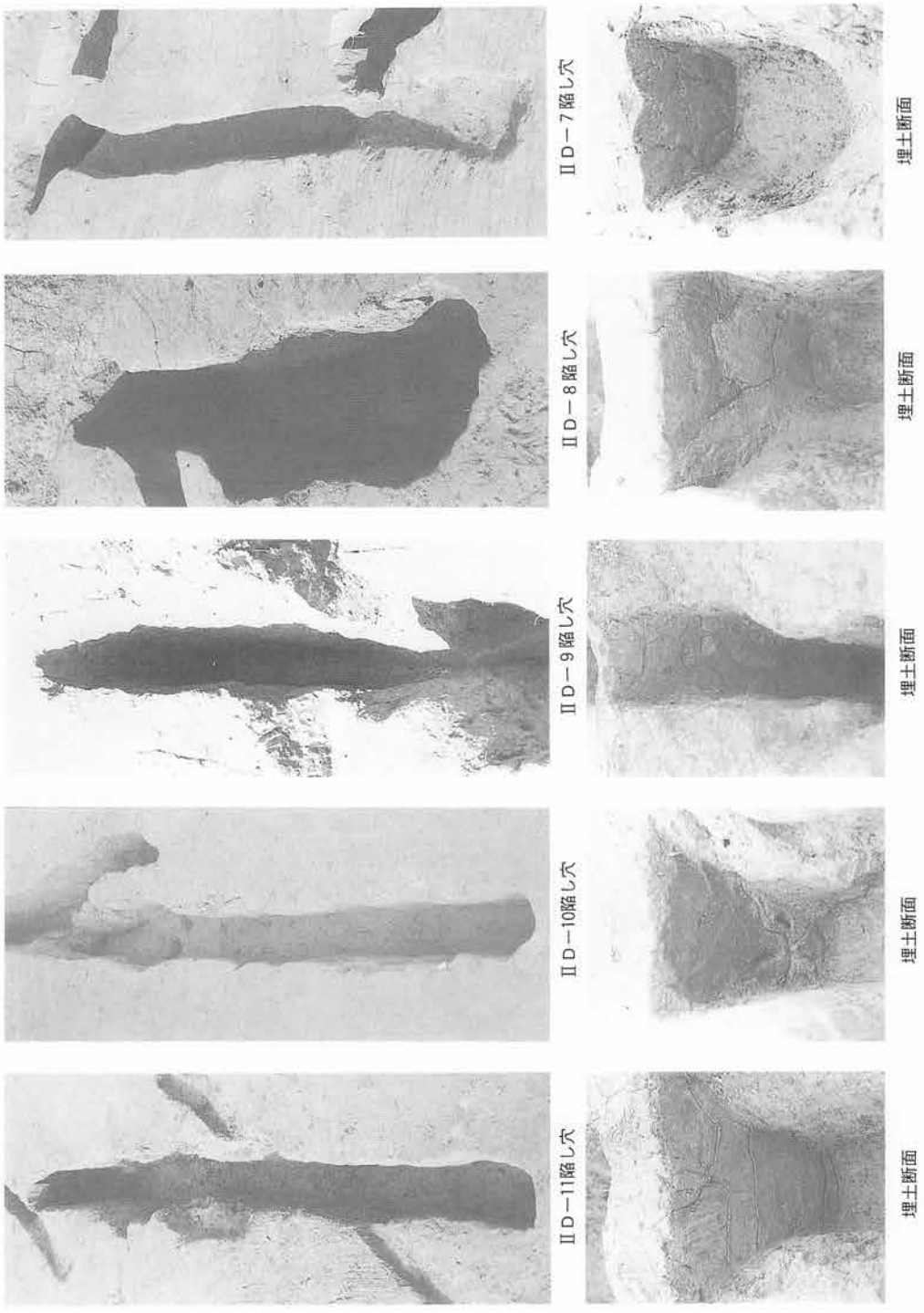
写真図版7　陥し穴状遺構（5）



写真図版８　陥し穴状遺構（６）

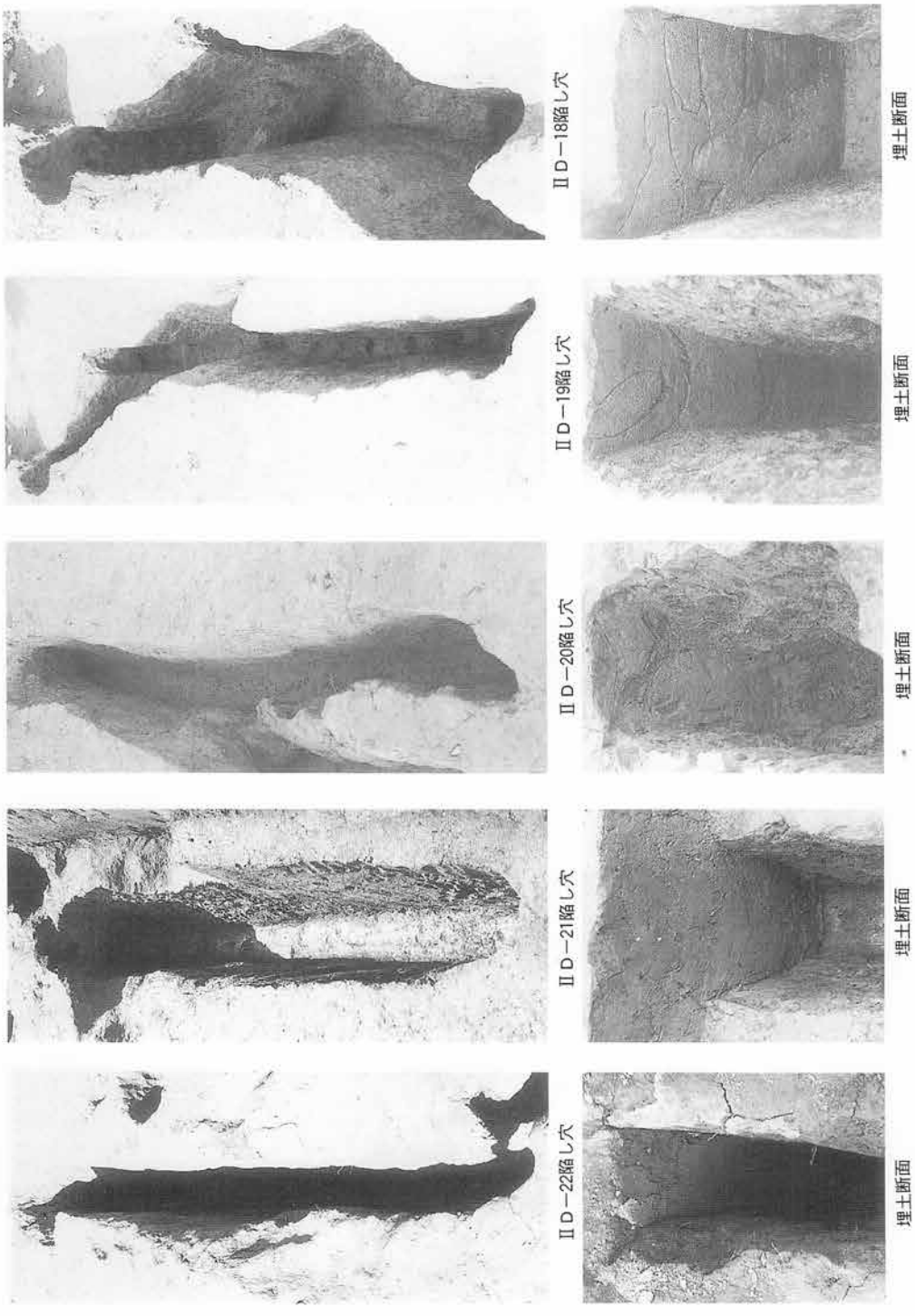


写真図版９　陥し穴状遺構（７）



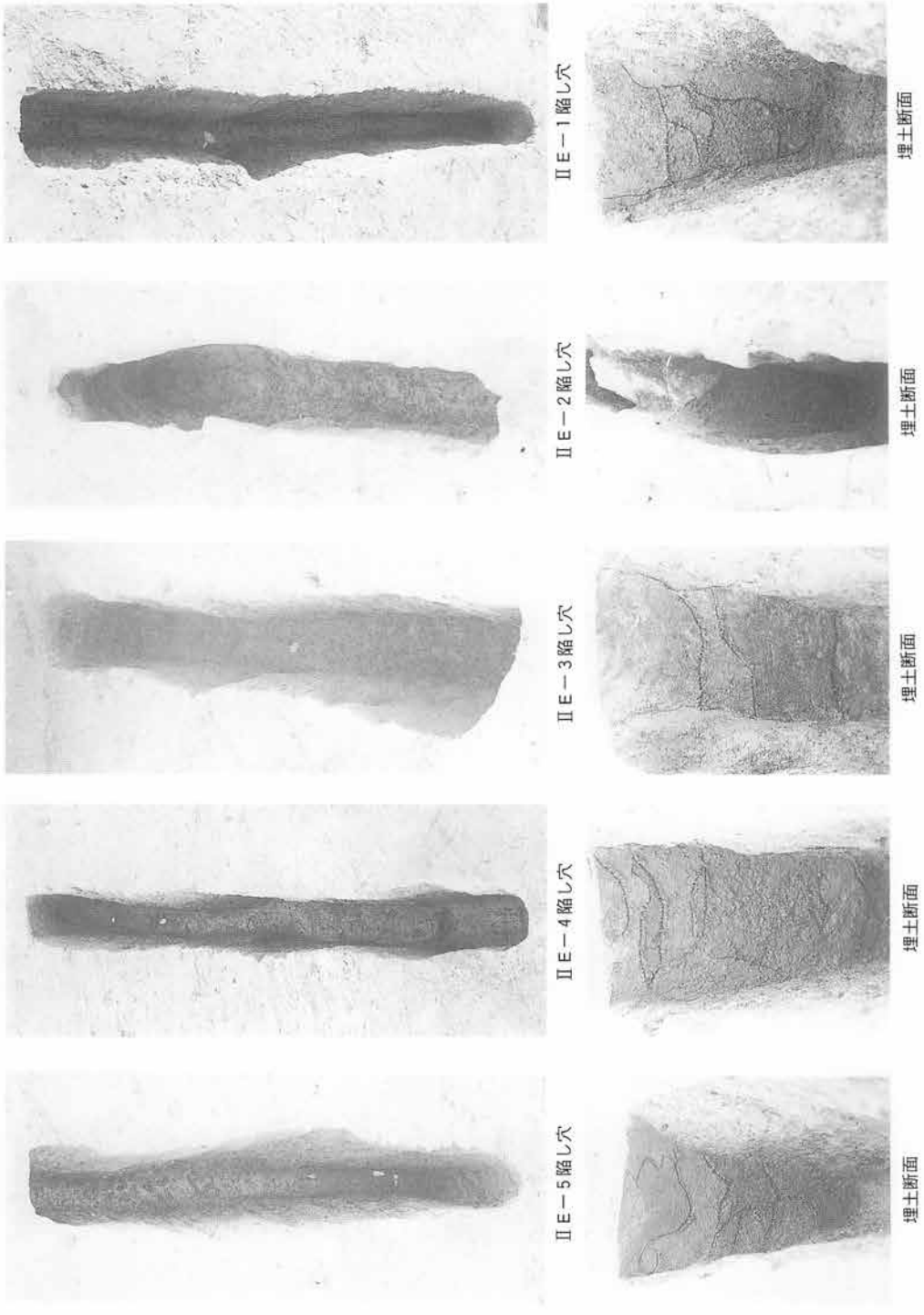
写真図版10　陥し穴状遺構（8）

写真図版11　陥し穴状遺構（9）



写真図版12　陥し穴状遺構（10）

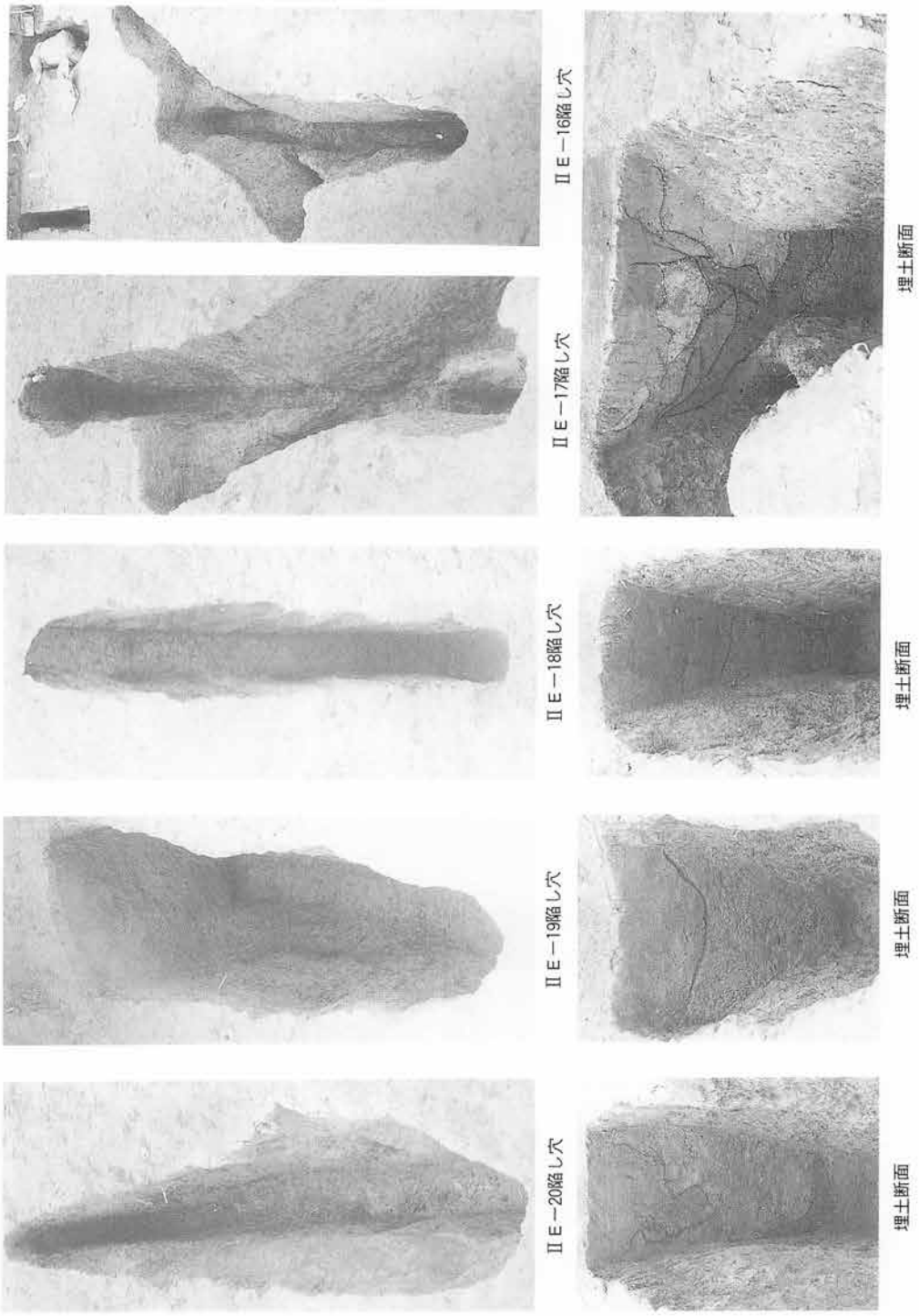
写真図版13　陥し穴状遺構（11）



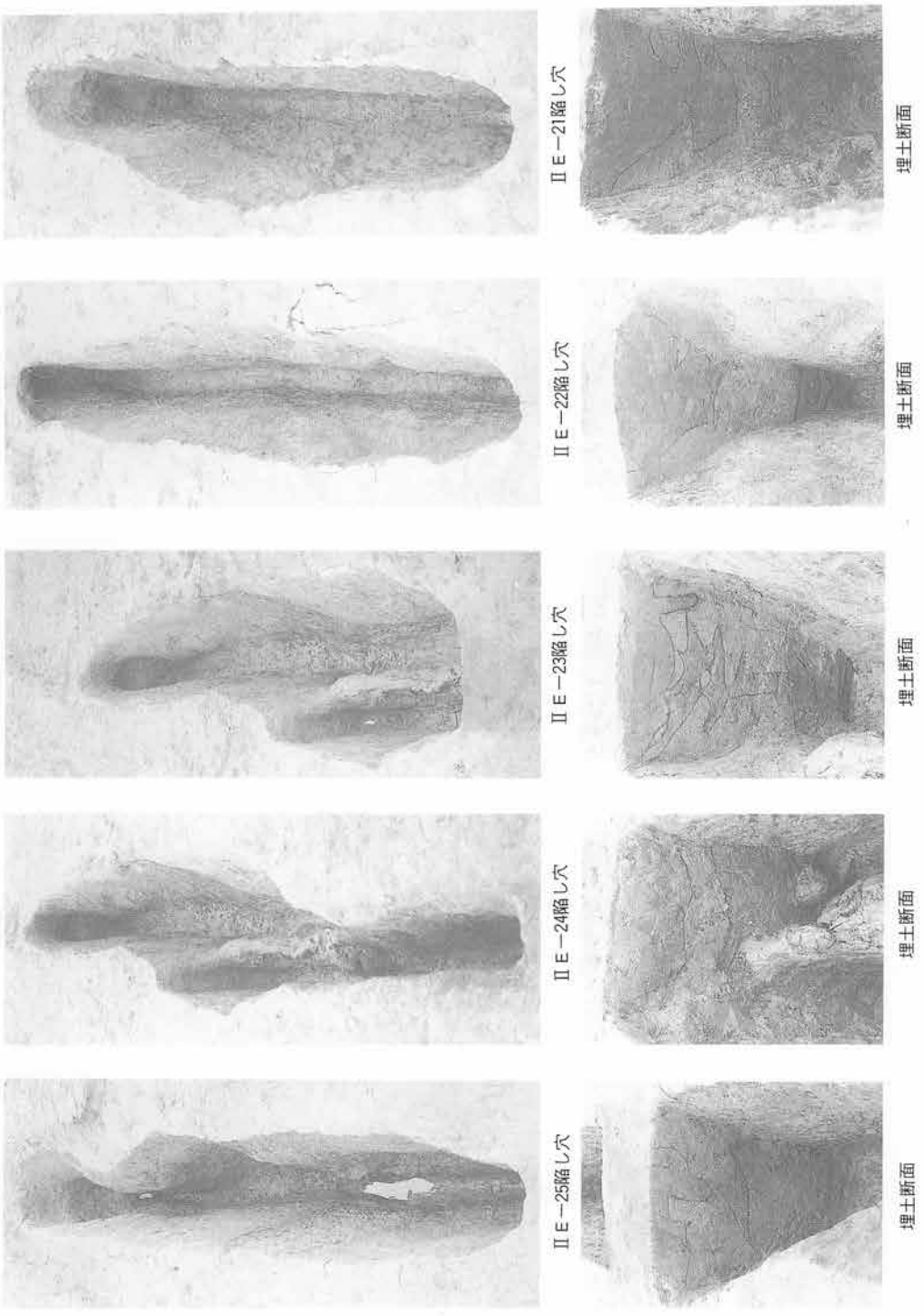
写真図版14　陥し穴状遺構（12）

写真図版15　陥し穴状遺構（13）

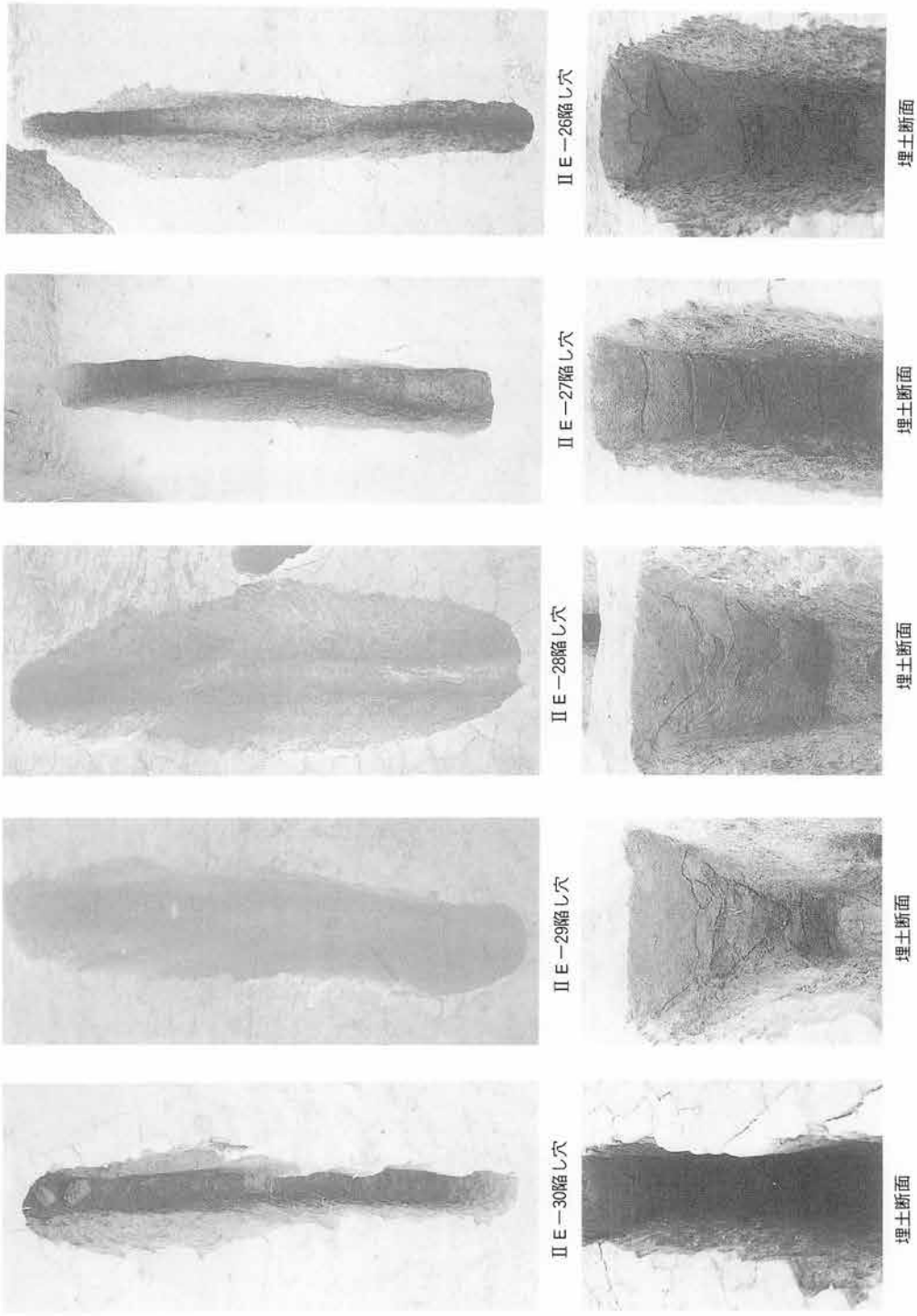
写真図版16　陥し穴状遺構（14）



写真図版17　陥し穴状遺構（15）



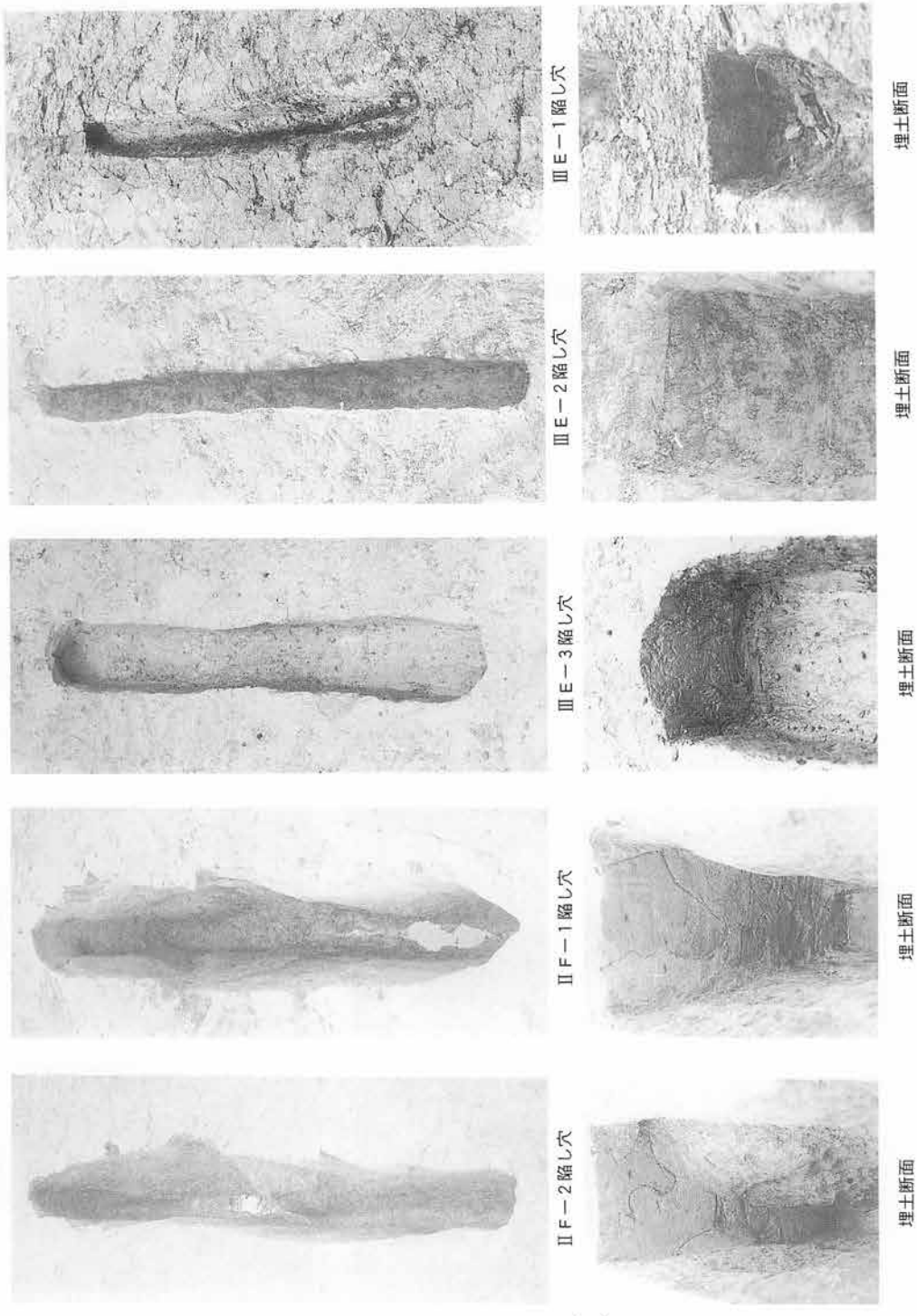
写真図版18　陥し穴状遺構（16）



写真図版19　陥し穴状遺構（17）

写真図版20　陥し穴状遺構（18）

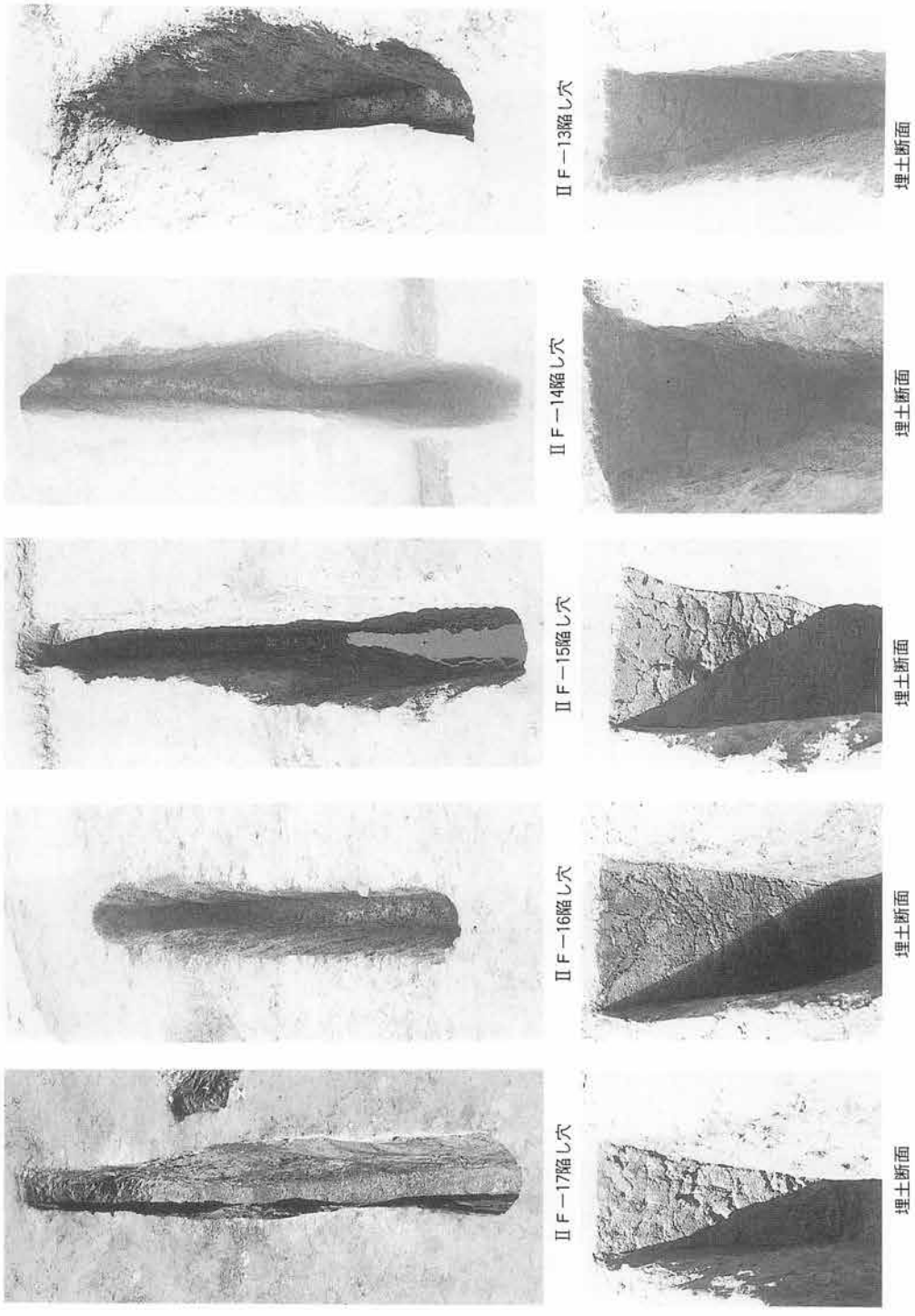
写真図版21　陥し穴状遺構（19）



写真図版22　陥し穴状遺構（20）

写真図版23　陥し穴状遺構（21）

写真図版24　陥し穴状遺構（22）



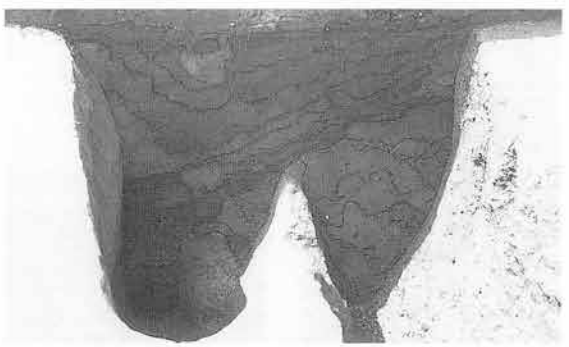
写真図版25　陥し穴状遺構（23）

写真図版26　陥し穴状遺構（24）

ⅡＦ－27陥し穴

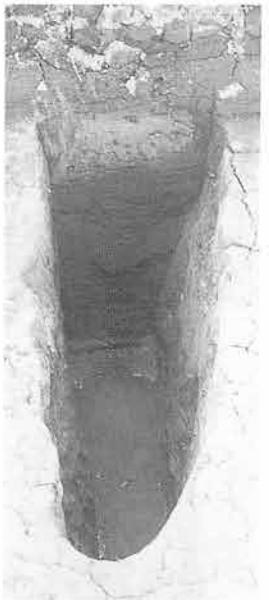
埋土断面

ⅡＦ－26陥し穴



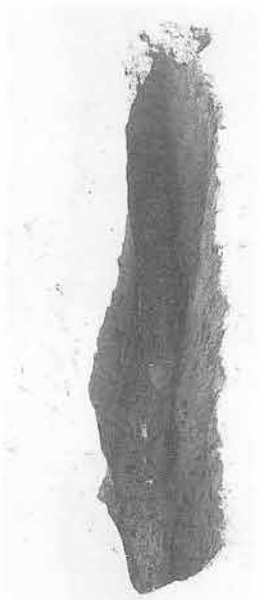
埋土断面

ⅡＦ－25陥し穴



ⅡＦ－24陥し穴

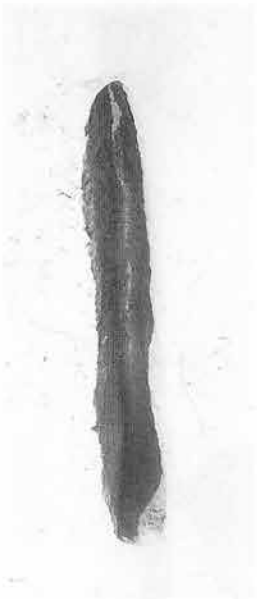
埋土断面



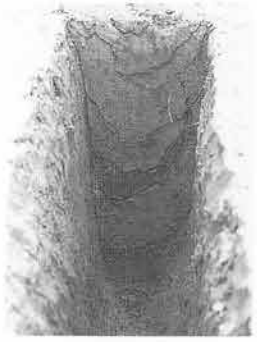
ⅡＦ－23陥し穴

埋土断面

写真図版28　陥し穴状遺構（26）

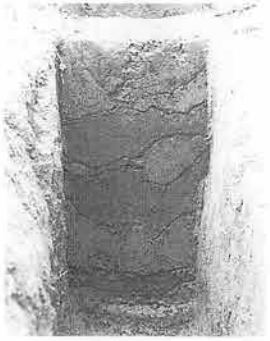


ⅢＦ－１陥し穴



埋土断面

ⅡＦ－31陥し穴

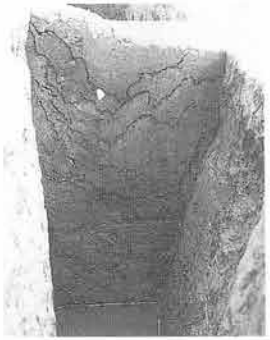


埋土断面

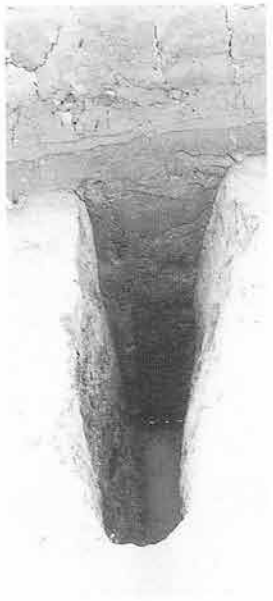
ⅡＦ－30陥し穴

埋土断面

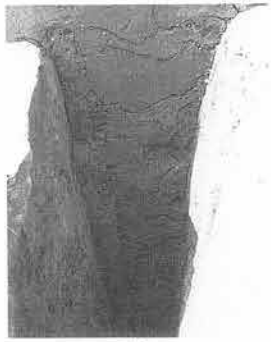
ⅡＦ－29陥し穴



埋土断面

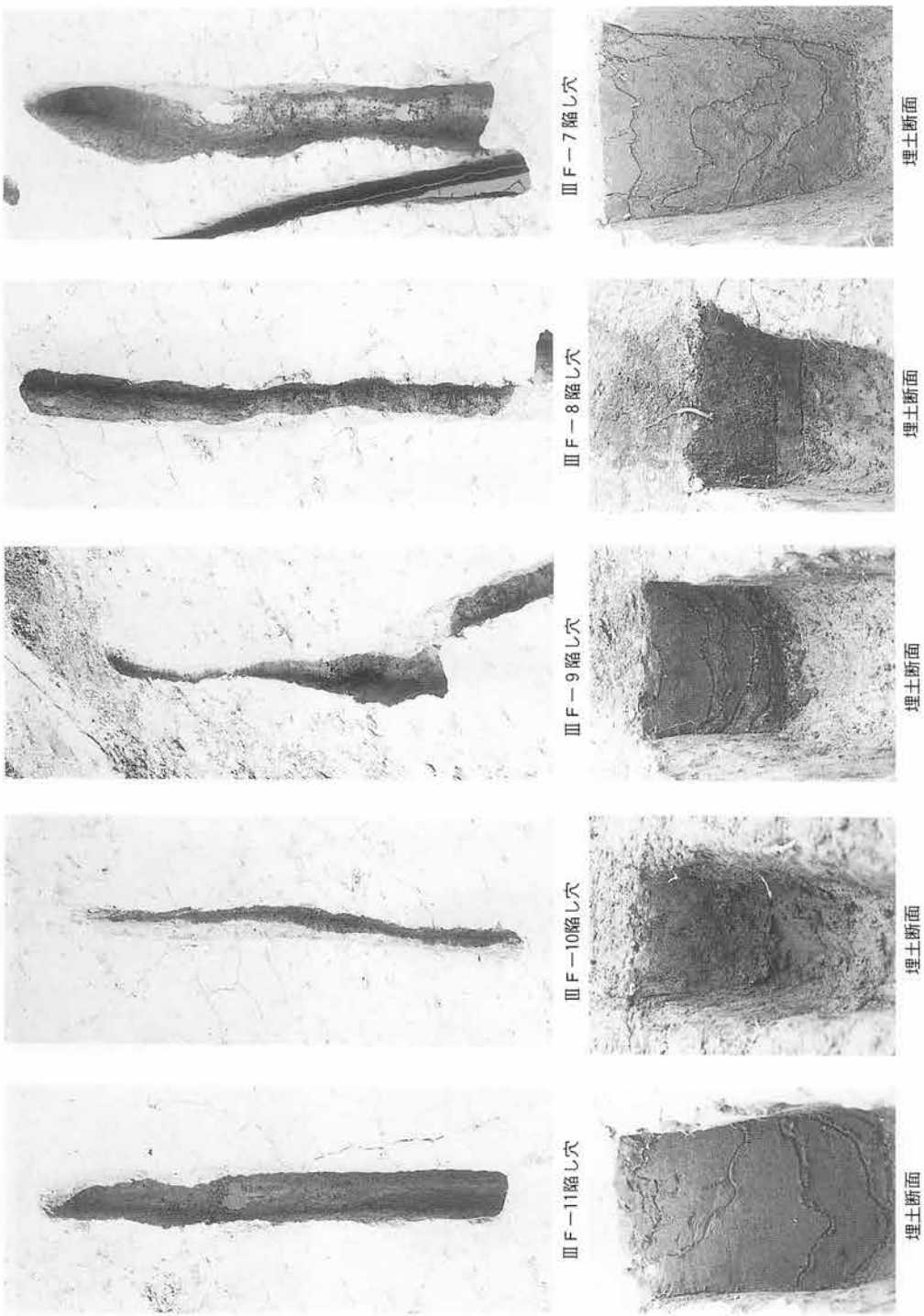


ⅡＦ－28陥し穴



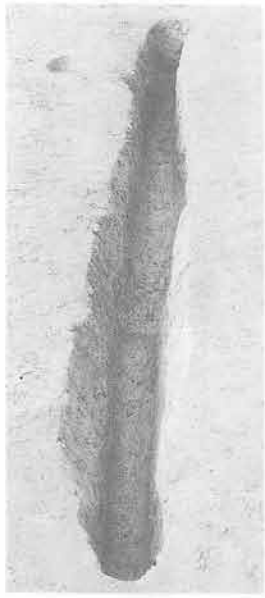
埋土断面

写真図版29　陥し穴状遺構（27）

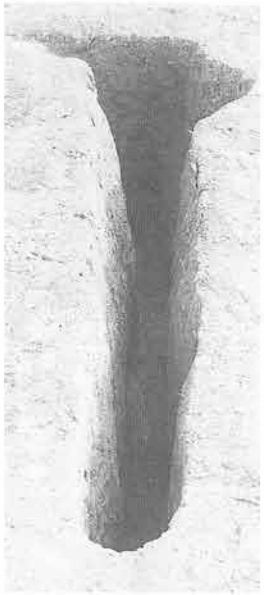


写真図版30　陥し穴状遺構（28）

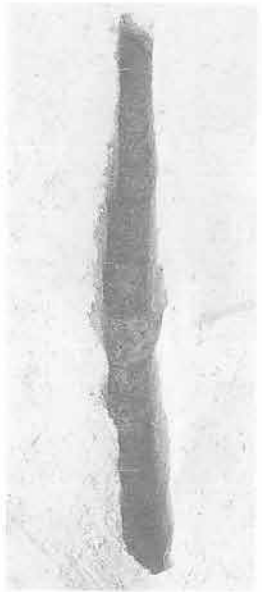
写真図版31　陥し穴状遺構（29）



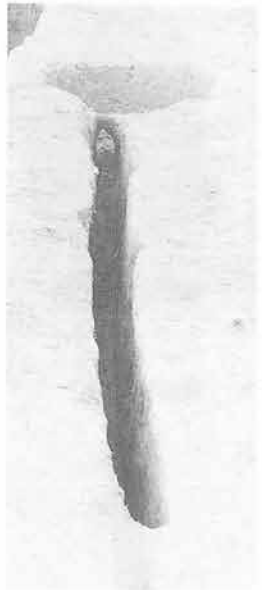
ⅢＦ－16陥し穴



ⅢＦ－15陥し穴



ⅢＦ－14陥し穴



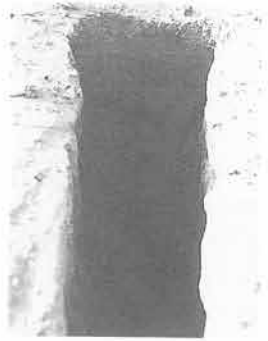
ⅢＦ－13陥し穴

ⅢＦ－12陥し穴

埋土断面

埋土断面

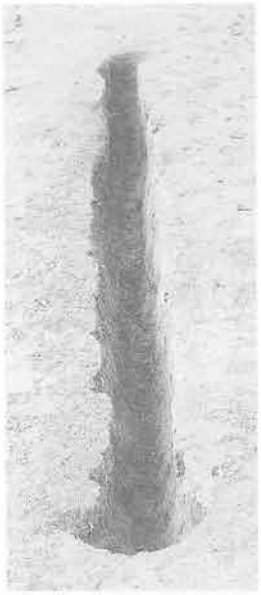
埋土断面

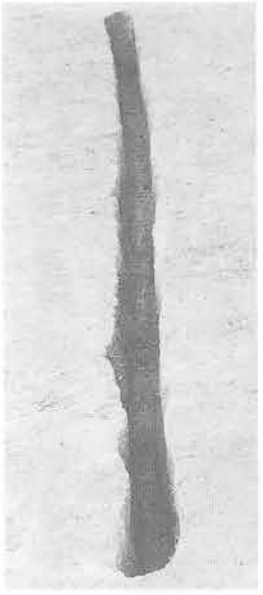


埋土断面

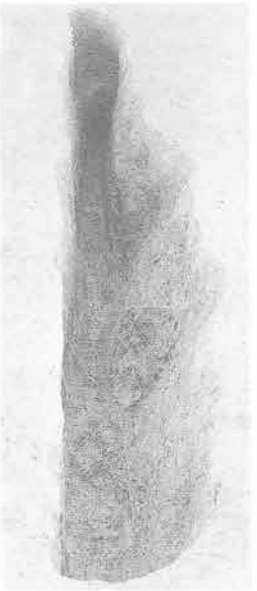
埋土断面

写真図版32　陥し穴状遺構（30）


ⅢＦ－21陥し穴


ⅢＦ－20陥し穴

ⅢＦ－19陥し穴


ⅢＦ－18陥し穴

ⅢＦ－17陥し穴

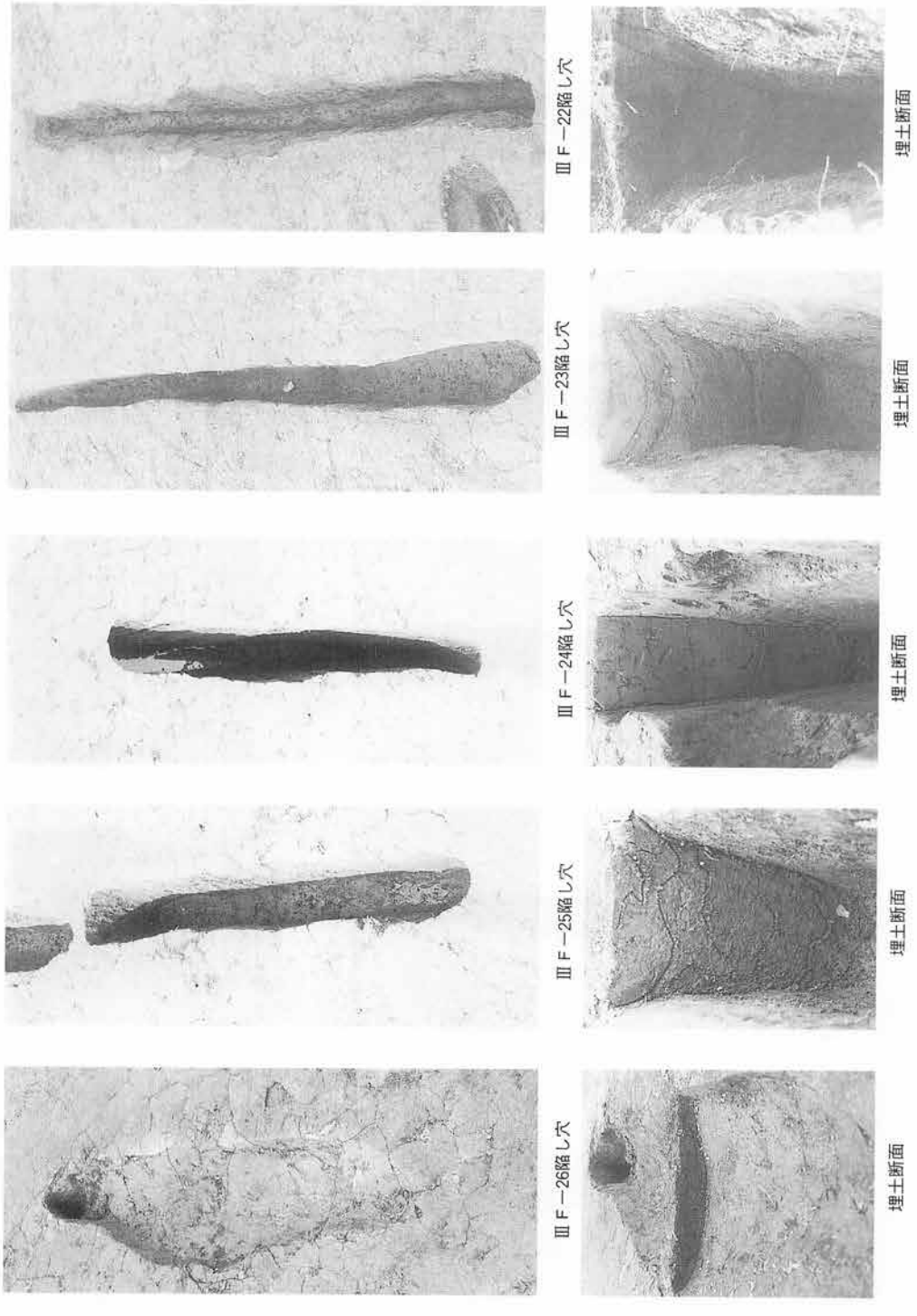
埋土断面

埋土断面

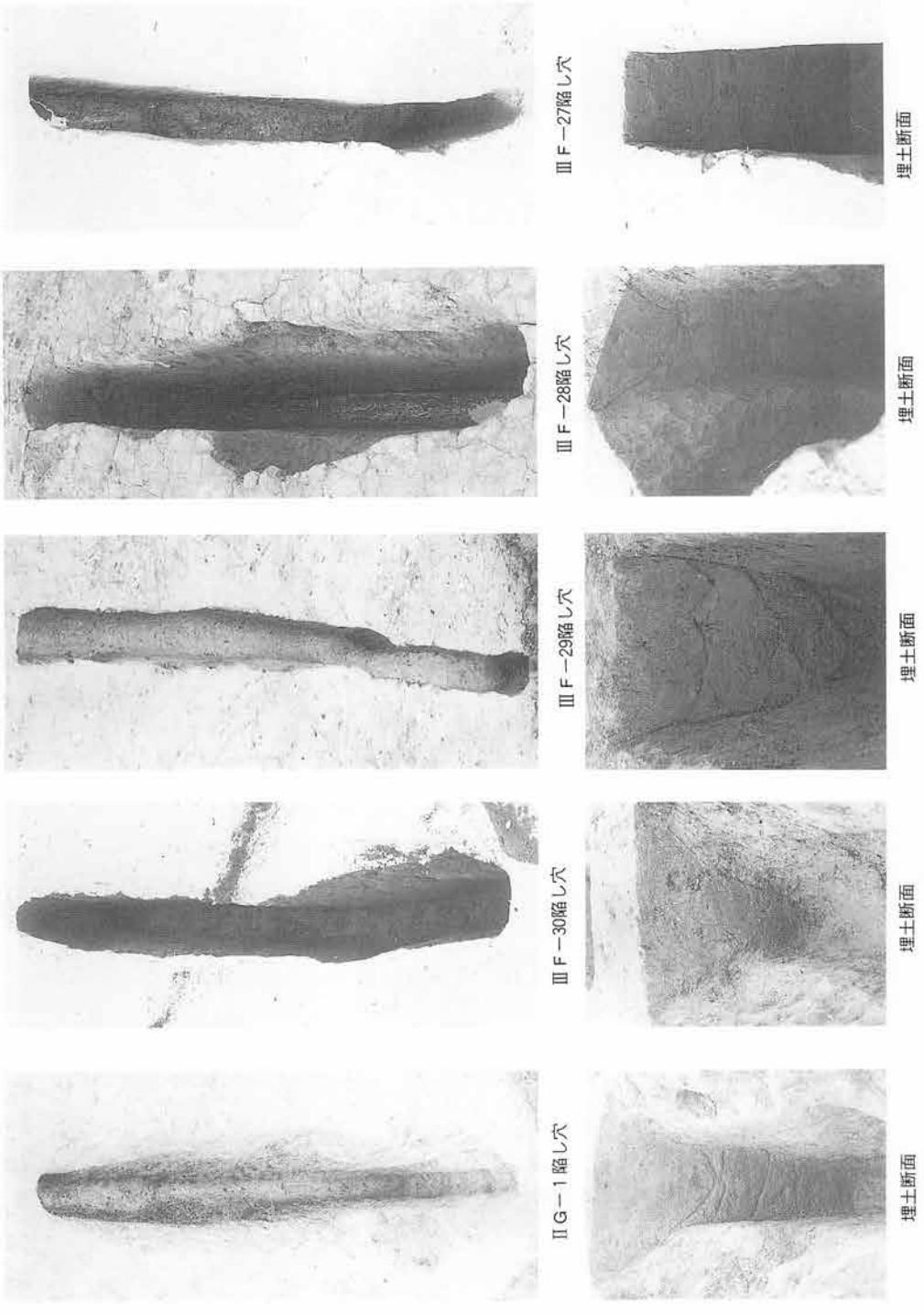
埋土断面

埋土断面

埋土断面



写真図版33　陥し穴状遺構（31）



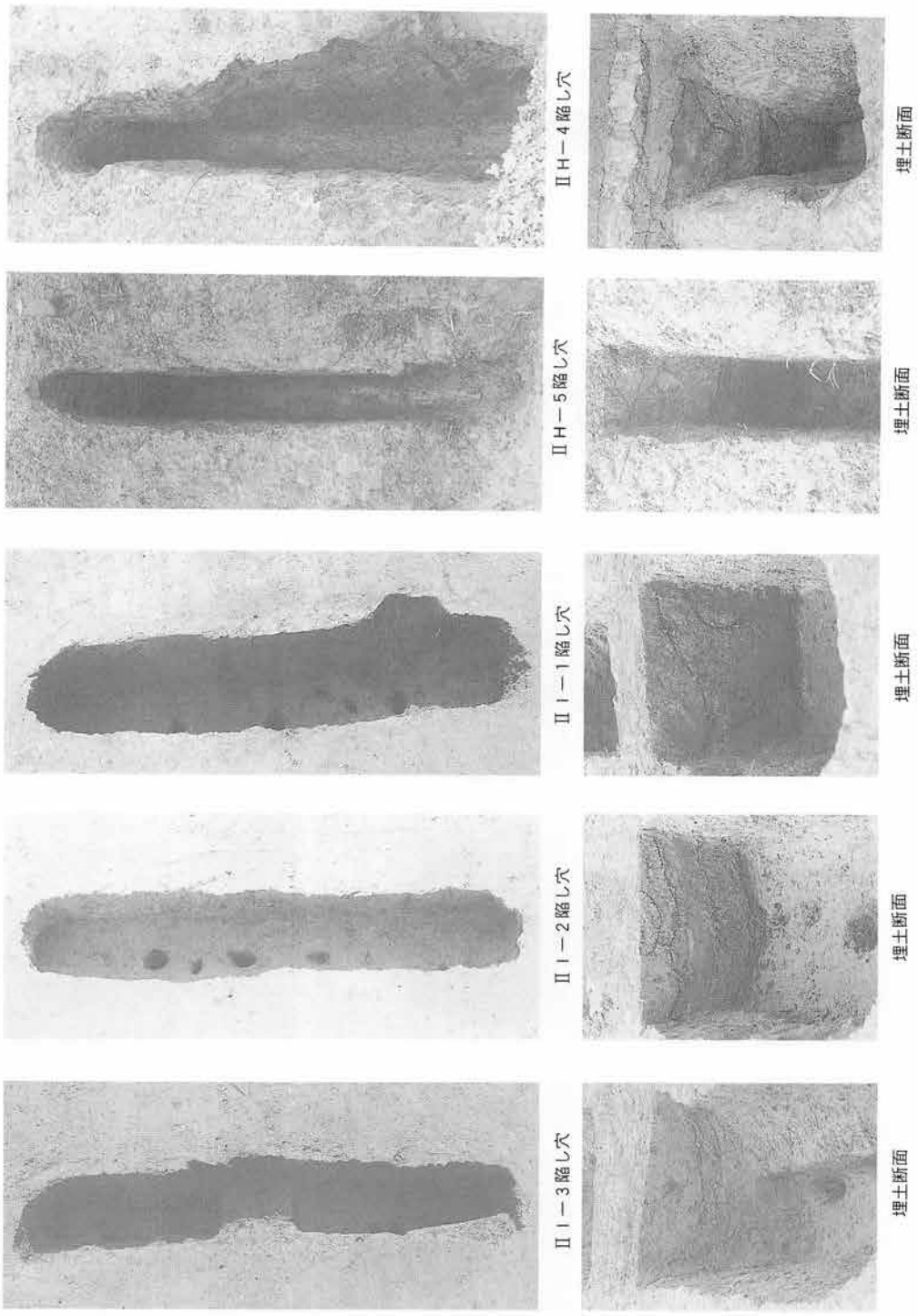
写真図版34　陥し穴状遺構（32）

写真図版35　陥し穴状遺構（33）

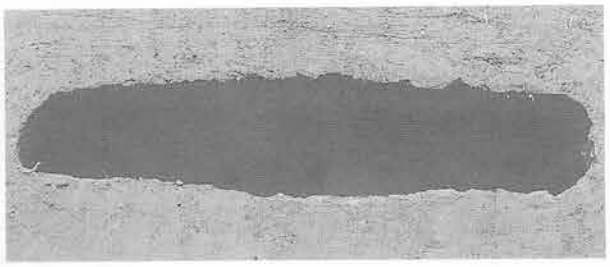
写真図版36　陥し穴状遺構（34）

写真図版37　陥し穴状遺構（35）

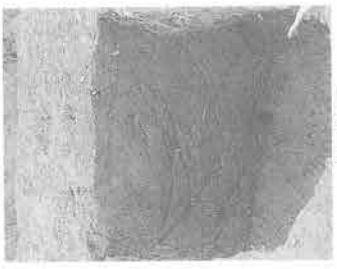
写真図版38　陥し穴状遺構（36）



写真図版39　陥し穴状遺構（37）

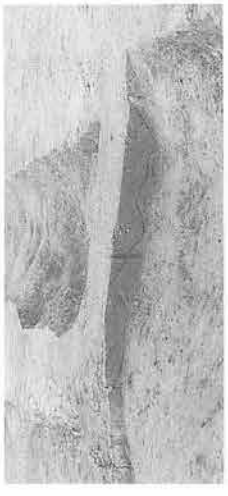


ⅡⅠ－4陥し穴

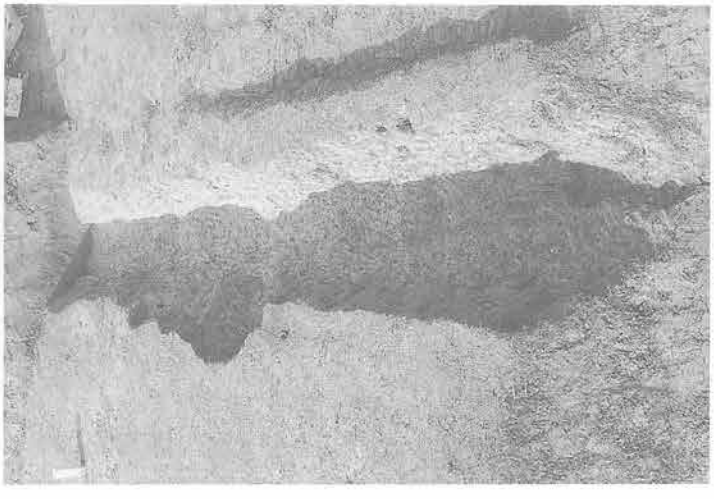


埋土断面

ⅡH－1溝跡



埋土断面



ⅡH－2溝跡

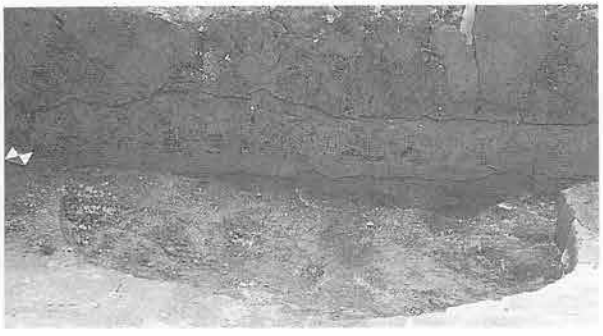
埋土断面

写真図版40　陥し穴状遺構（38）・ⅡH－1、2溝跡

写真図版41　Ⅲ－1溝跡・鍛冶炉跡

ⅡＦ－１土坑断面

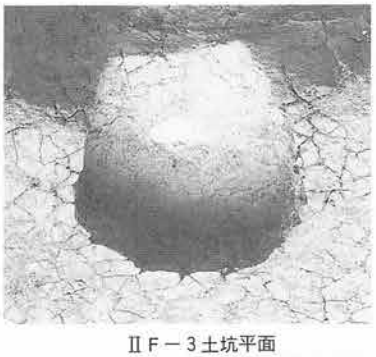
ⅡＦ－１土坑平面



ⅡＦ－２土坑断面

ⅡＦ－２土坑平面

ⅡＦ－３土坑断面

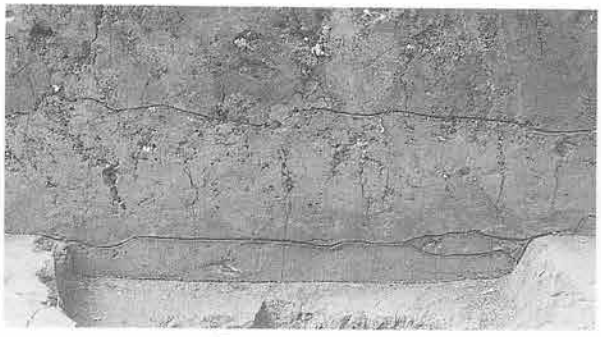


ⅡＦ－３土坑平面

ⅡＦ－４土坑断面

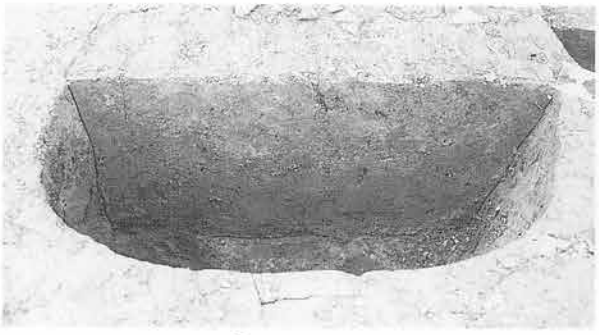
ⅡＦ－４土坑平面

写真図版42　土坑（１）

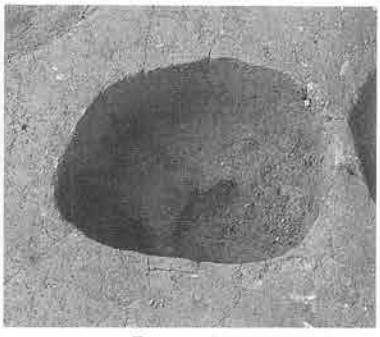


ⅡＦ－５土坑断面

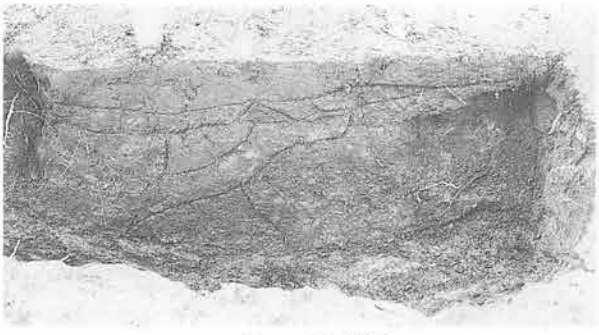
ⅡＦ－５土坑平面



ⅡＦ－６土坑断面



ⅡＦ－６土坑平面



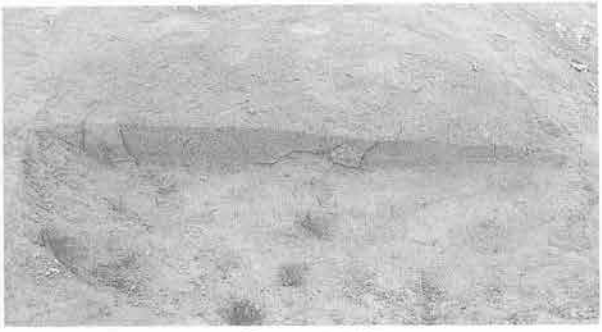
ⅡＧ－１土坑断面

ⅡＧ－１土坑平面

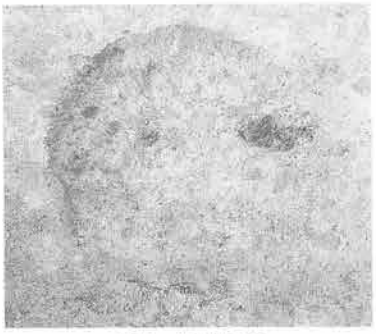
ⅡＨ－１土坑断面

ⅡＨ－１土坑平面

写真図版43　土坑（２）



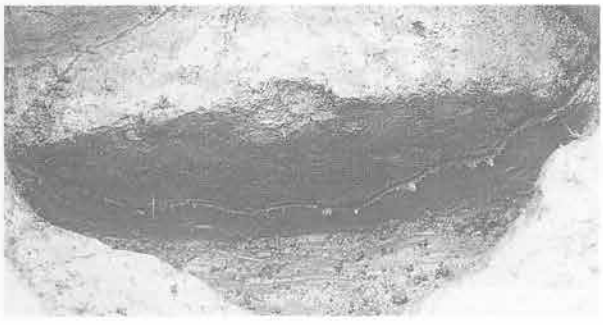
ⅡＨ－２土坑断面



ⅡＨ－２土坑平面

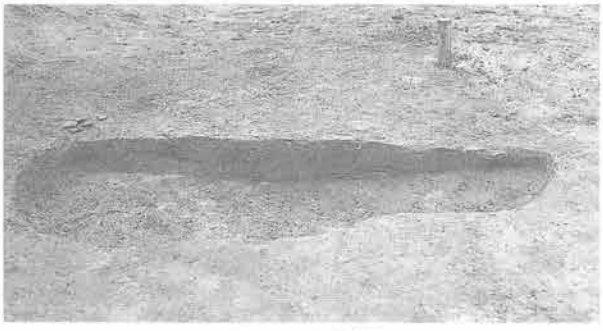
ⅡＨ－３土坑断面

ⅡＨ－３土坑平面



ⅡＨ－４土坑断面

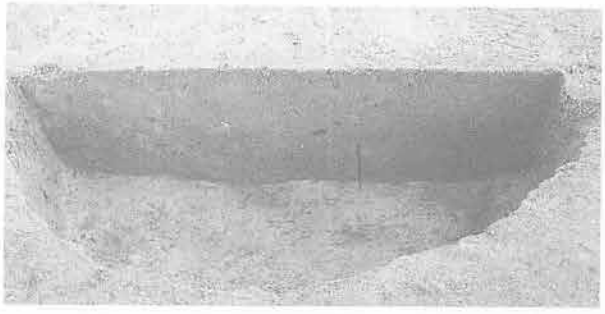
ⅡＨ－４土坑平面



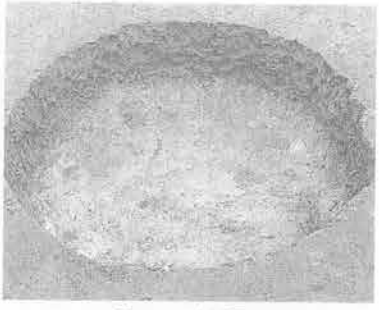
ⅢＨ－１土坑断面

ⅢＨ－１土坑平面

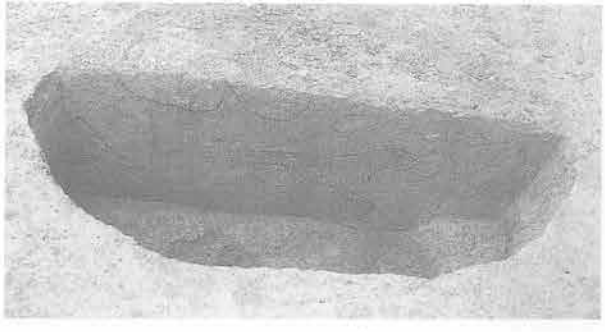
写真図版44　土坑（３）



ⅢＨ－２土坑断面



ⅢＨ－２土坑平面



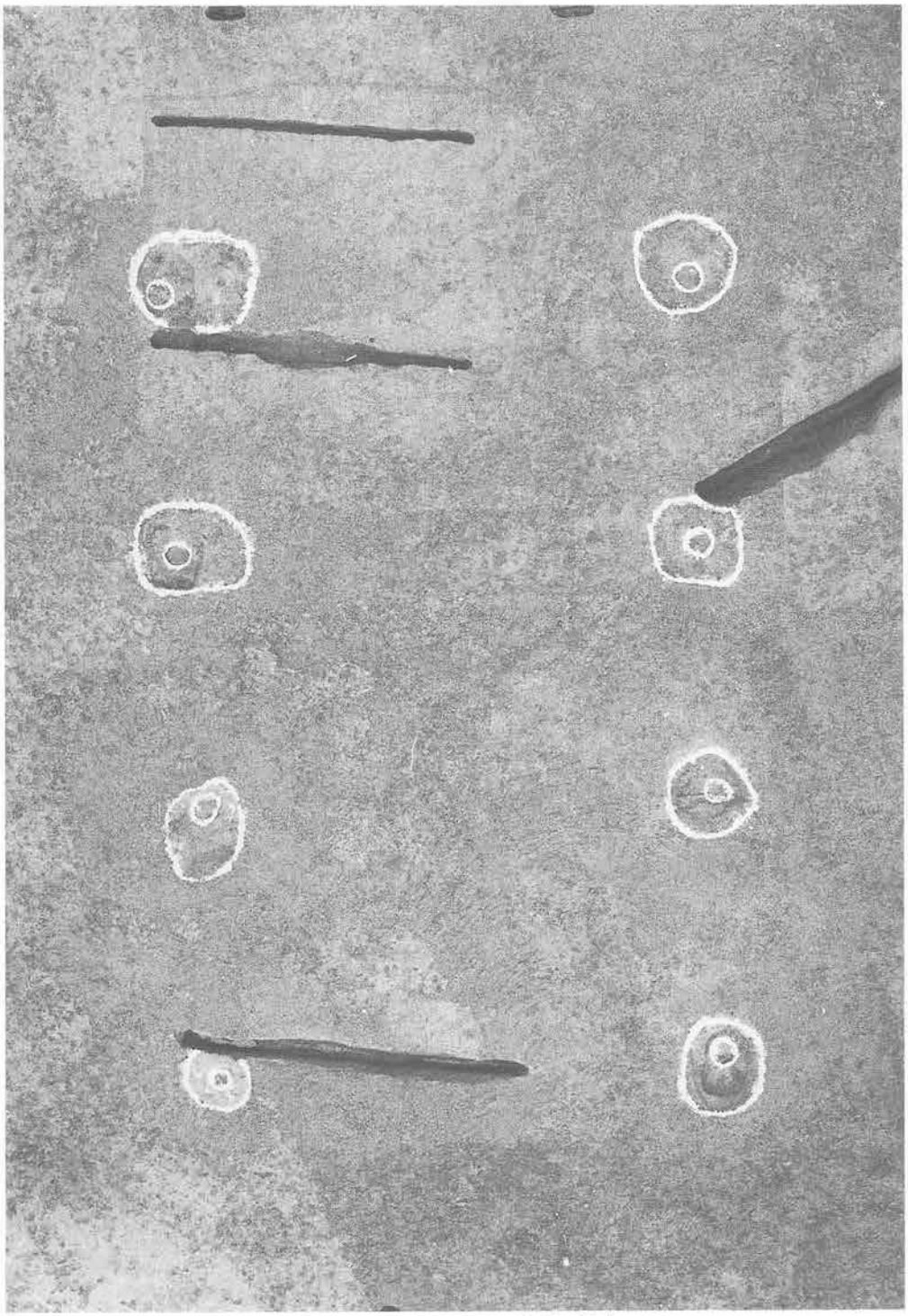
ⅢＨ－３土坑断面

ⅢＨ－３土坑平面

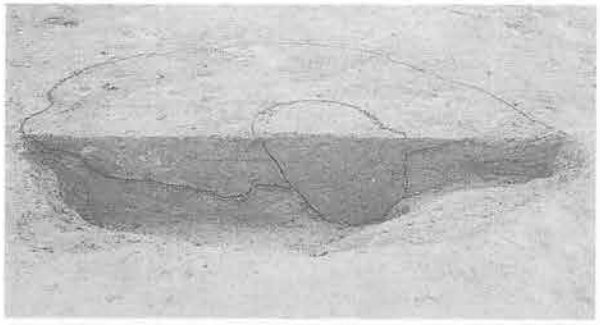
ⅡＦ－２焼土断面

ⅡＦ－１焼土平面

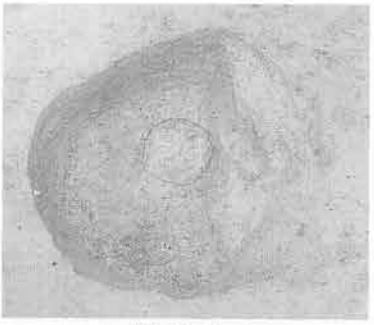
写真図版45　土坑（４），焼土遺構



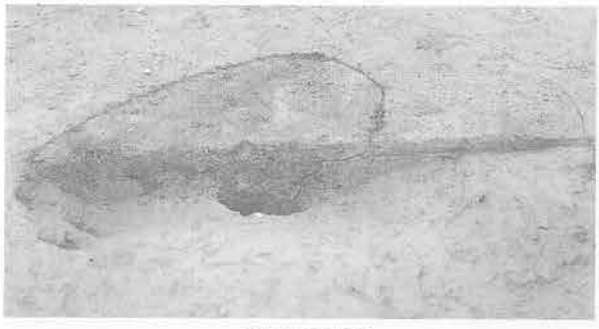
写真図版46　掘立柱建物跡（1）



柱穴 3 埋土断面



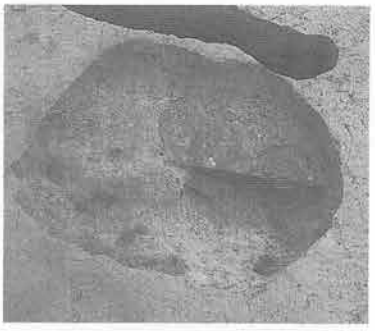
柱穴 3 平面



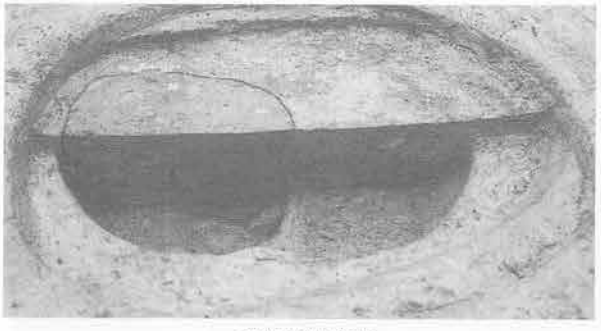
柱穴 4 埋土断面

柱穴 4 平面

柱穴 6 埋土断面



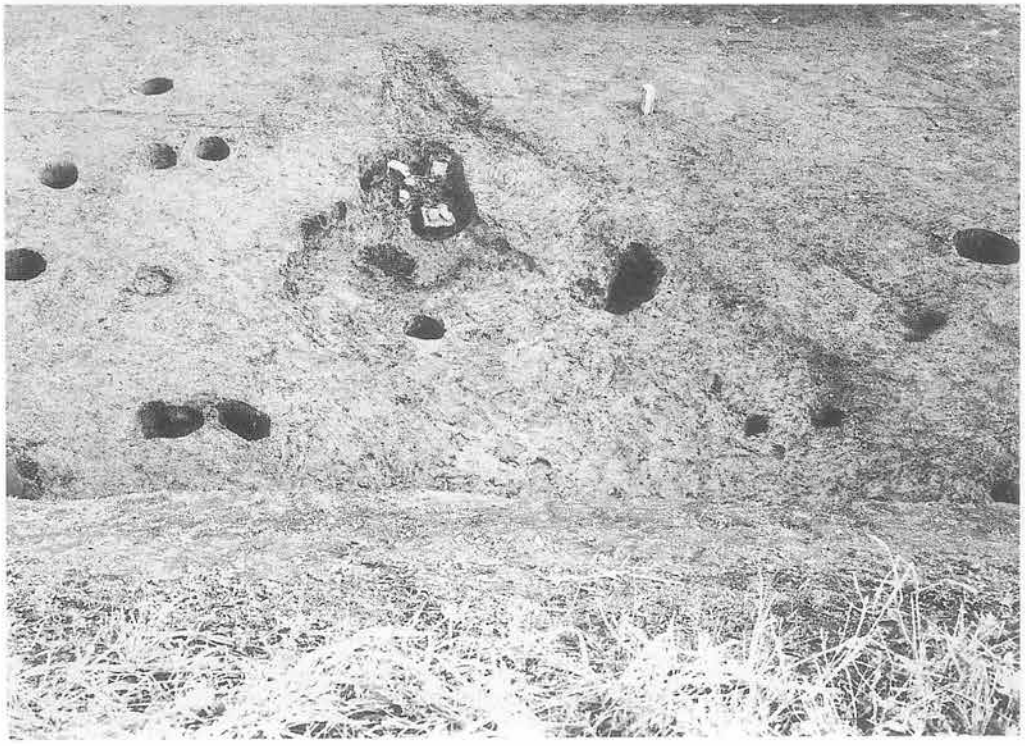
柱穴 6 平面



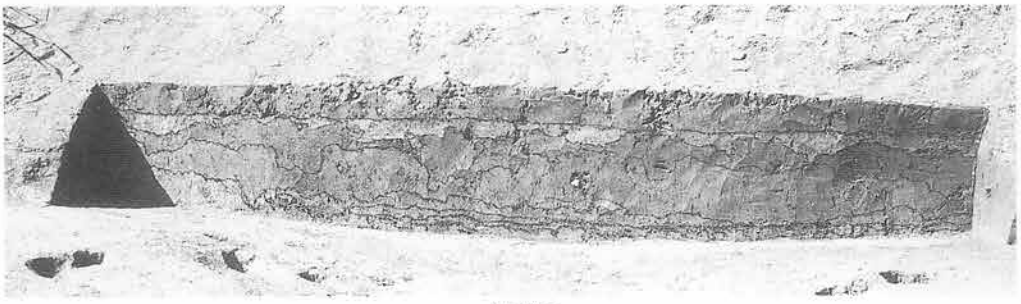
柱穴 7 埋土断面

柱穴 7 平面

写真図版47　掘立柱建物跡（2）



全景



土層断面

カマド状遺構断面

カマド状遺構遺物出土状況

写真図版48　II B－1住居跡

土層断面

カマド状遺構検出状況

カマド状遺構断面

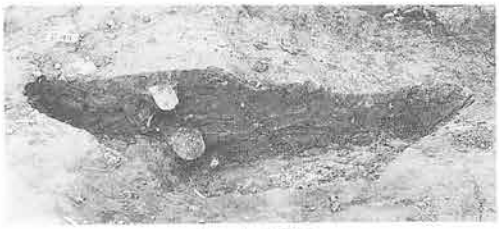
写真図版49　ⅡＣ－１住居跡

全景

土層断面

焼土断面

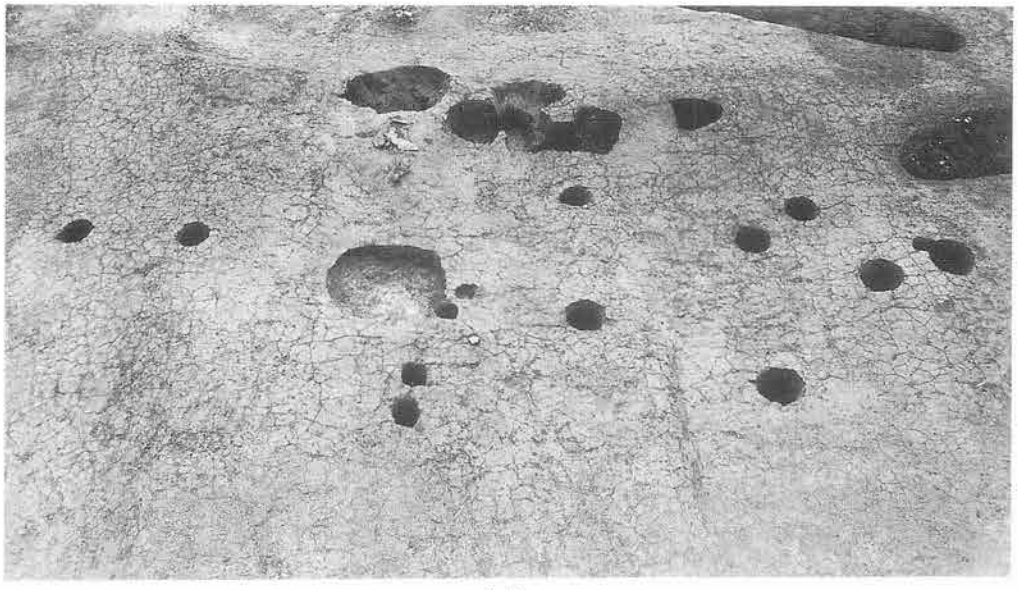
ピット1断面



ピット2断面

ピット5断面

写真図版50　ⅡD－1住居跡

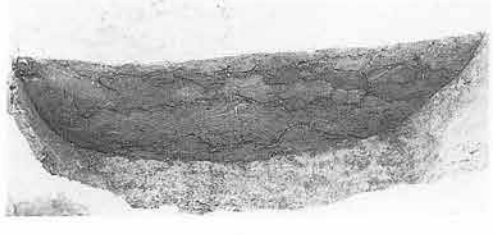


全景

土層断面

馬歯出土状況

カマド燃焼部断面



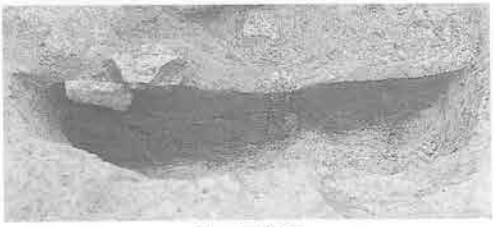
ピット1断面

ピット2断面

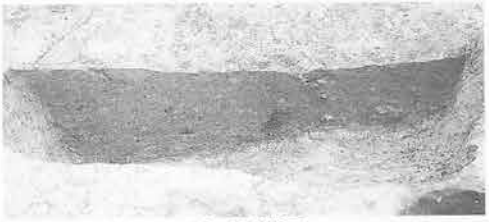
写真図版51　ⅡＥ－1住居跡

全景

土層断面

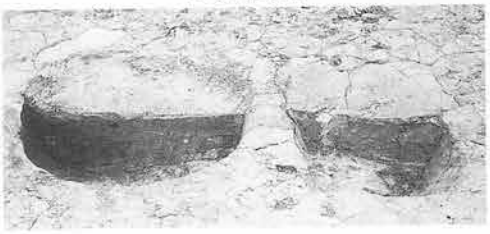


ピット１断面



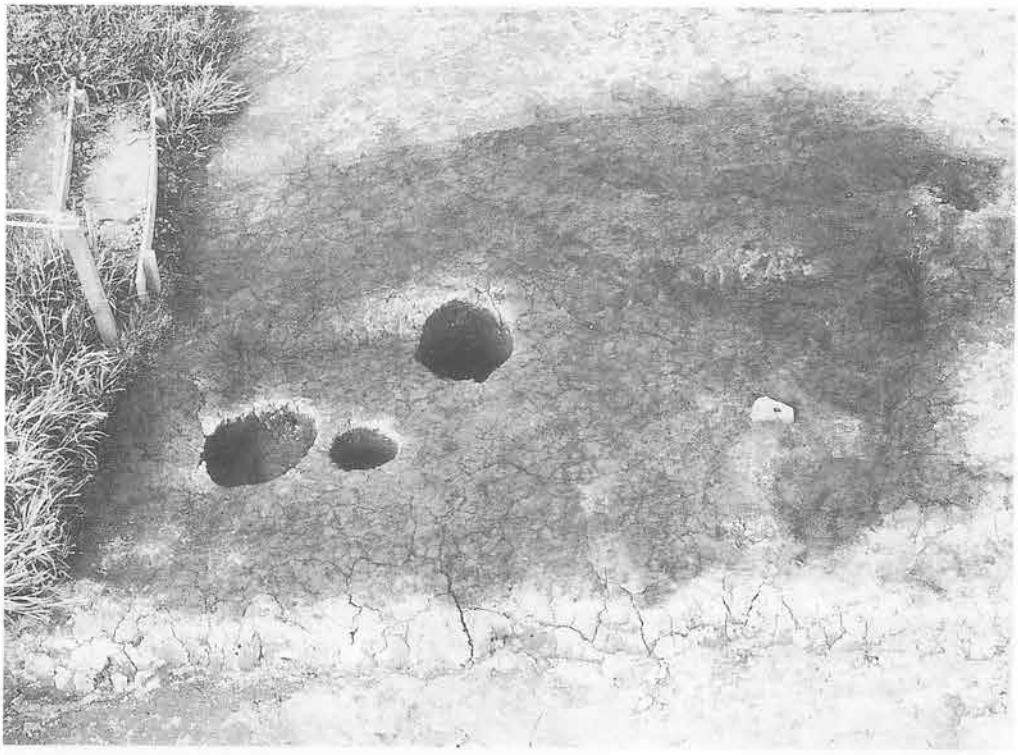
ピット２断面

カマド焼成部断面



煙出し断面

写真図版52　ⅡＥ－２住居跡



全景

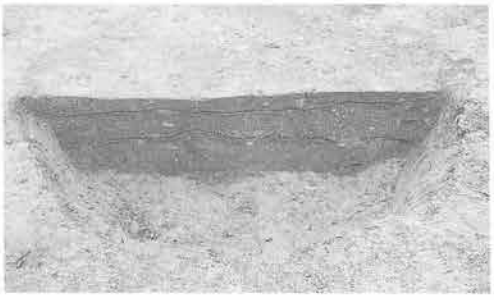
土層断面

カマド煙道部断面

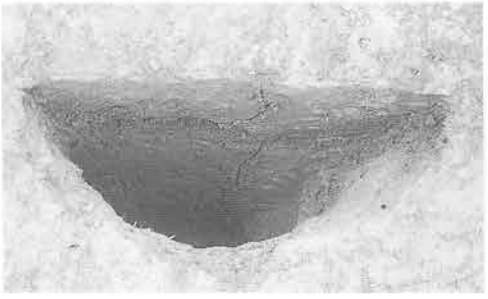
写真図版53　ⅡＦ－１住居跡

全景

土層断面



ピット１断面

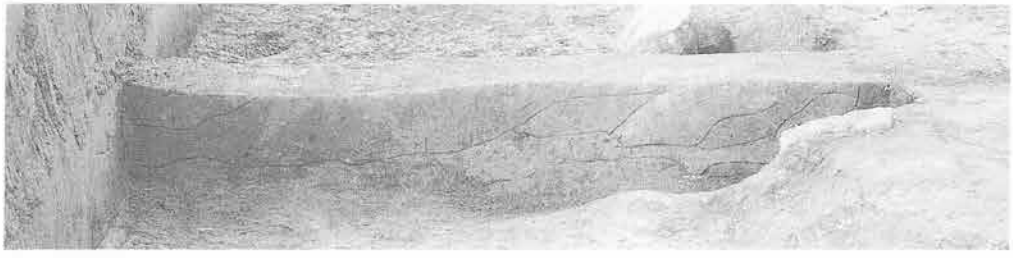


柱穴状ピット断面

写真図版54　Ⅱ Ｆ － ２住居跡

全景

土層断面（南～北）



土層断面（西～東）

カマド燃焼部断面

袖部断面

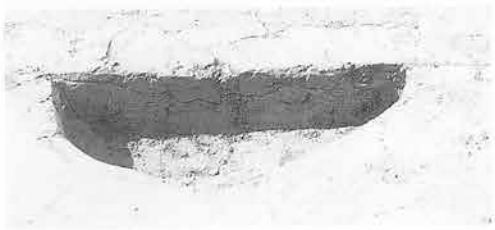
写真図版55　ⅡＦ－３住居跡

全景

土層断面

土師器出土状況

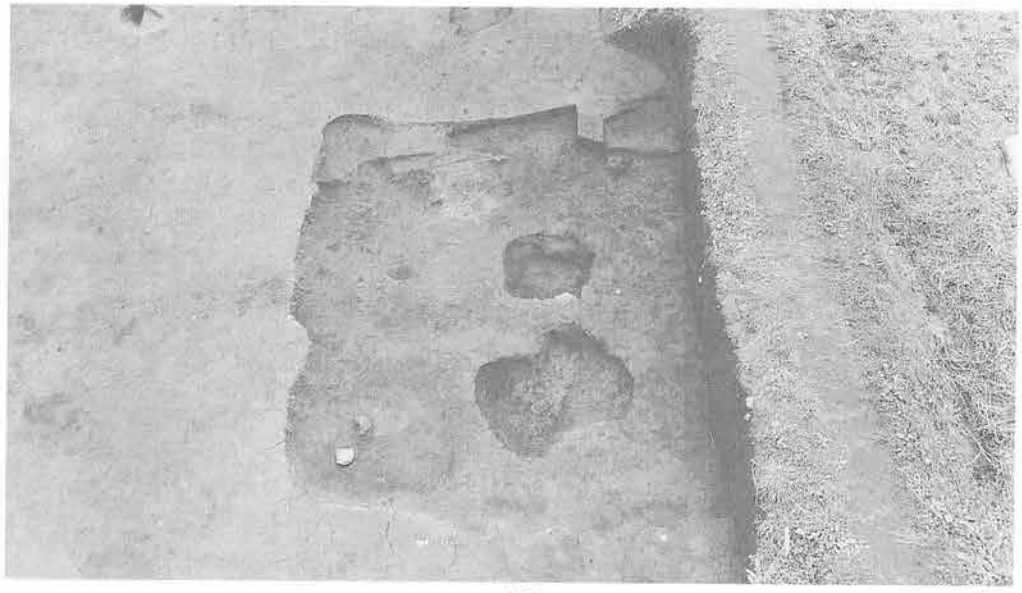
ピット１断面



焼土１断面

焼土２断面

写真図版56　ⅡＦ－４住居跡



全景

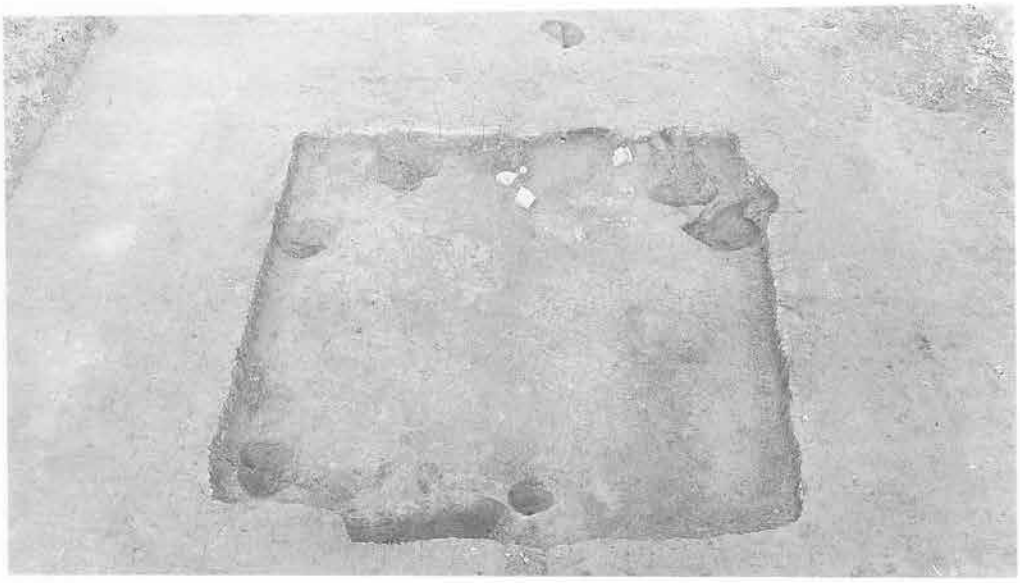
土層断面（東～西）

土層断面（南～北）

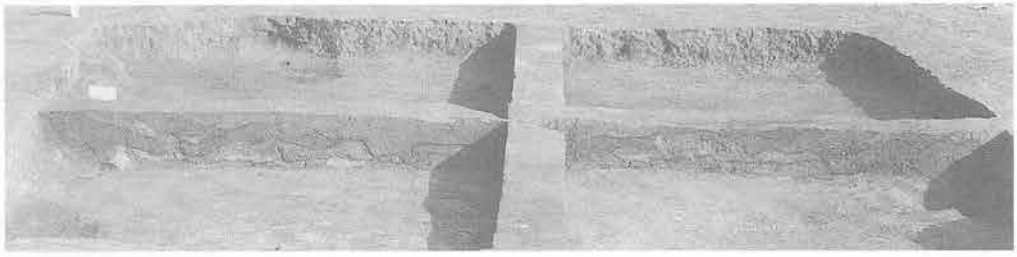
袖部断面

煙出し断面

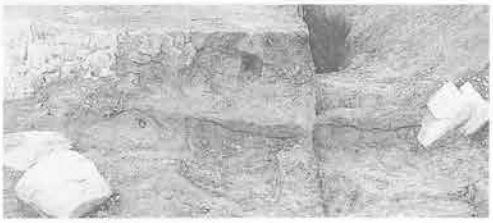
写真図版57　ⅡＧ－１住居跡



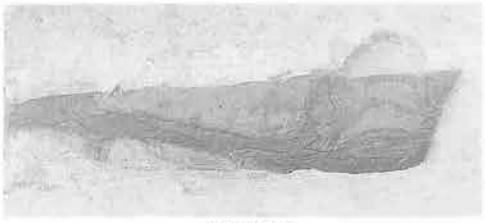
全景



土層断面

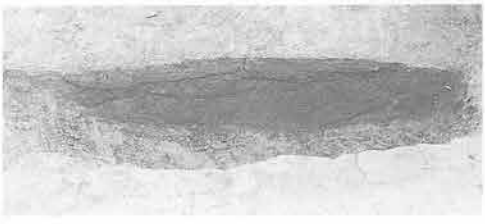


カマド燃焼部断面



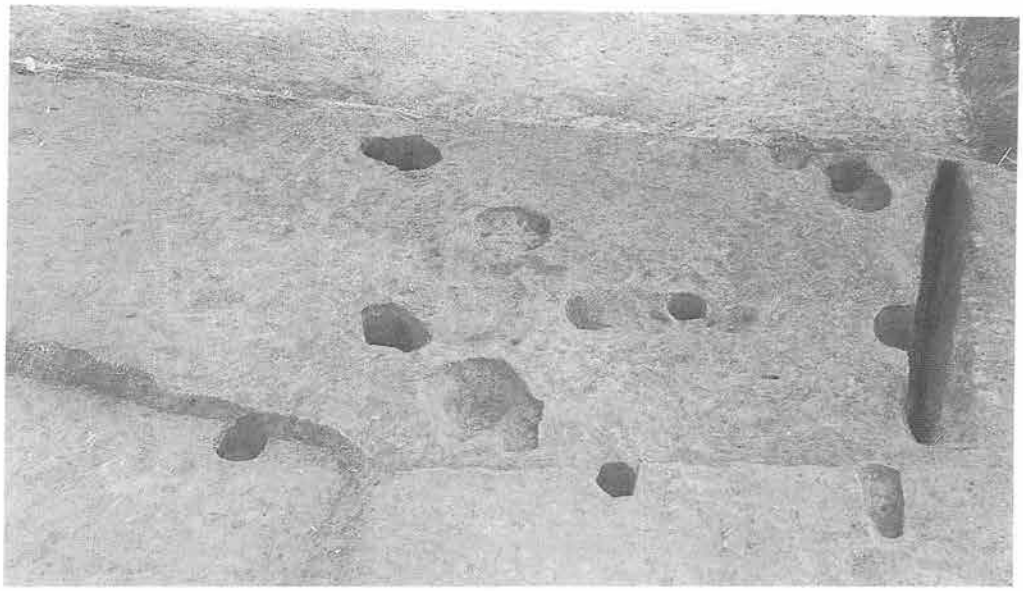
煙道部断面

ピット1・2断面



ピット8断面

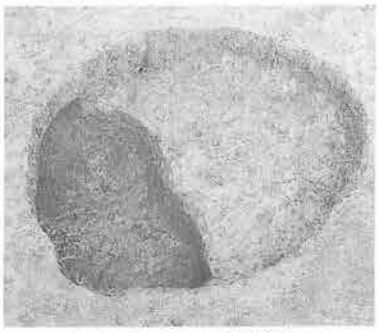
写真図版58　ⅡG－2住居跡



全景

土層断面（西～東）

土層断面（北～南）

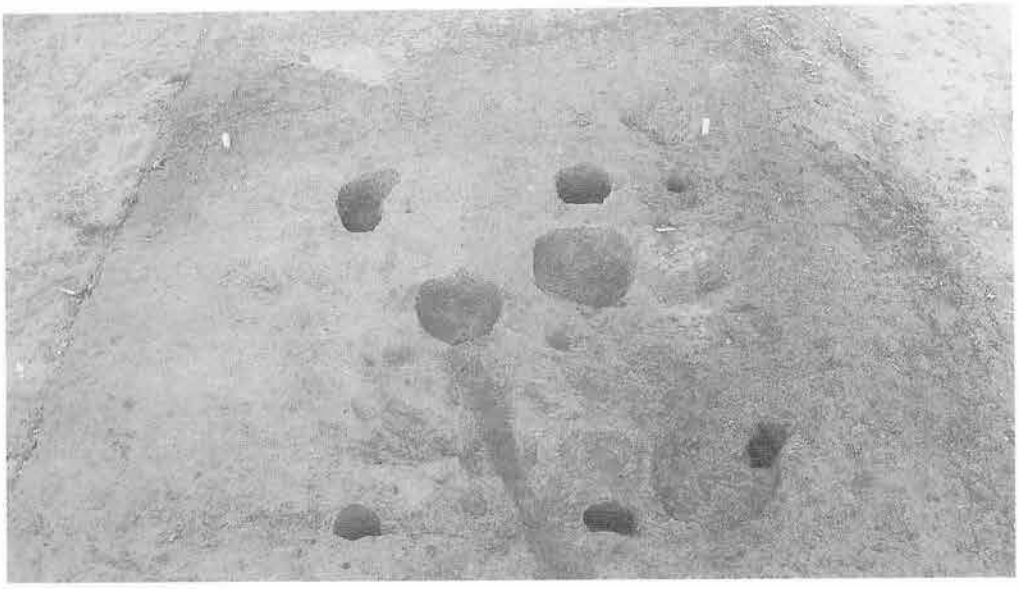


ピット１・２完掘平面

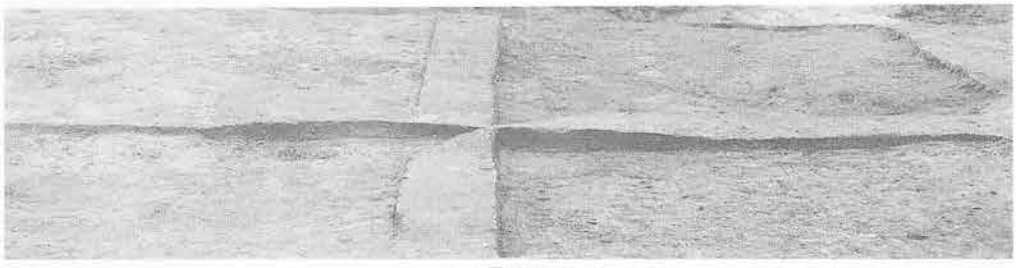
カマド燃焼部断面

ピット１・２断面

写真図版59　ⅡＧ－３住居跡



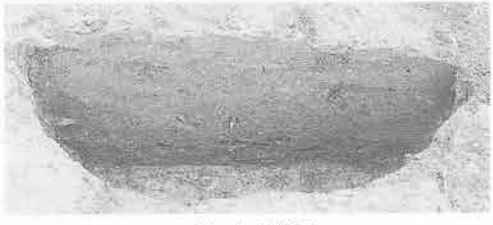
全景



土層断面

カマド燃焼部断面

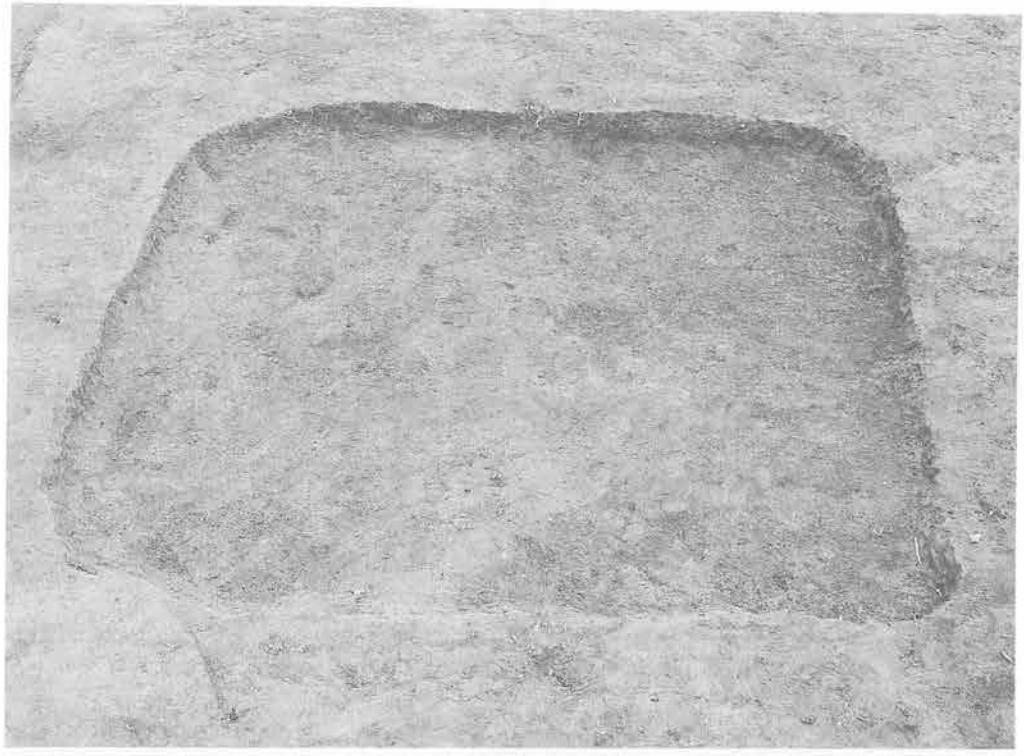
煙出し部断面



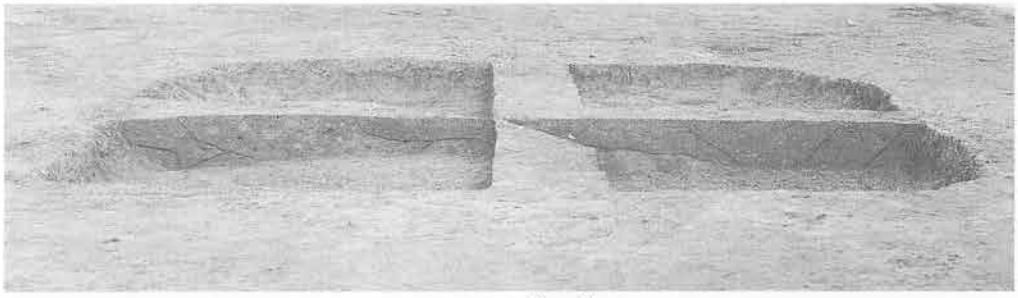
ピット1断面

ピット2断面

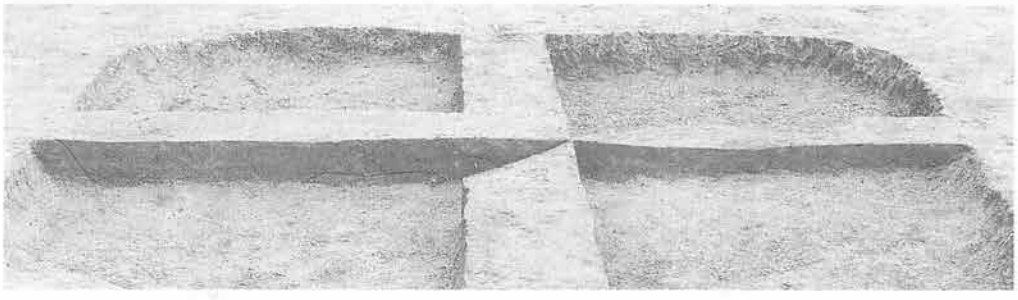
写真図版60　ⅡG－4住居跡



全景

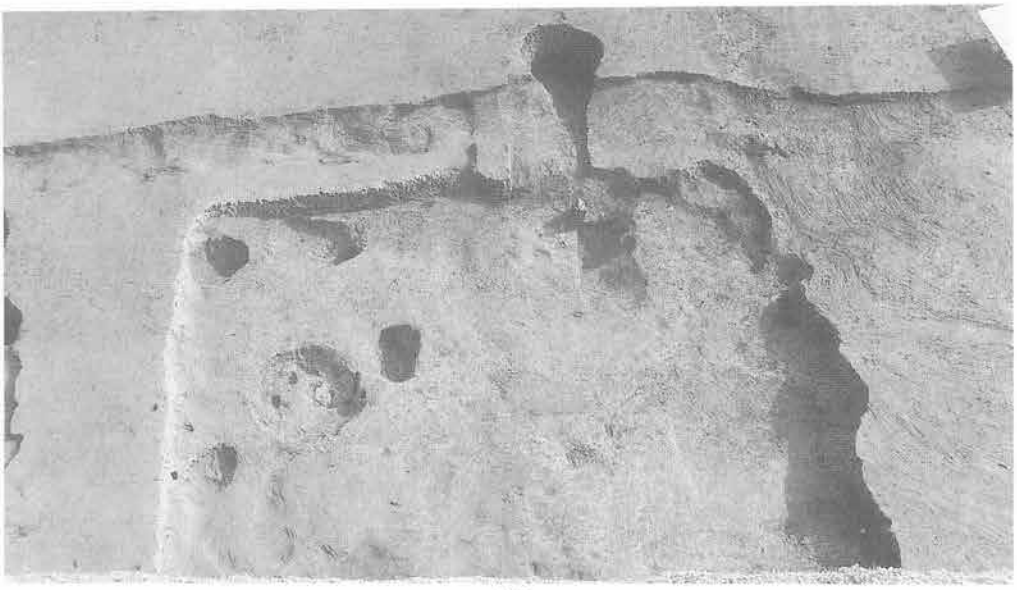


土層断面（南～北）

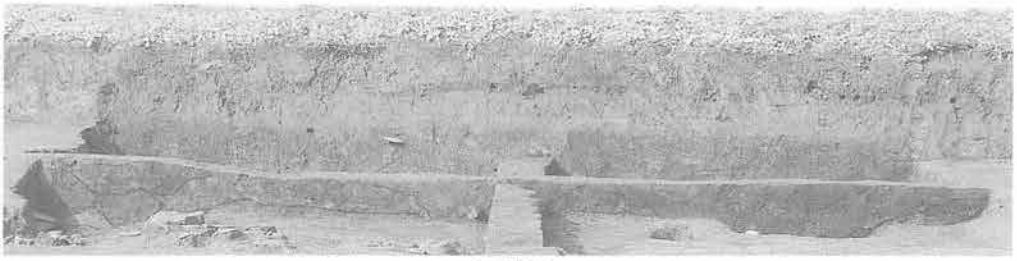


土層断面（西～東）

写真図版61　ⅡＧ－５住居跡

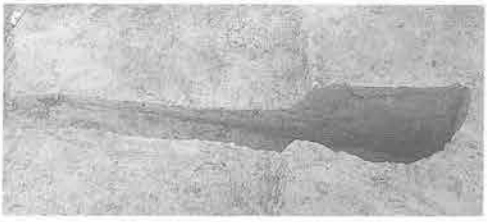


全景

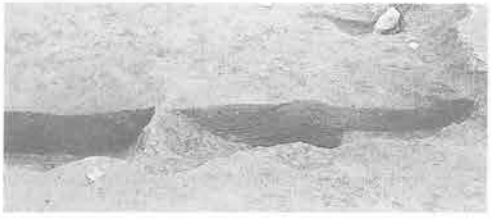


土層断面

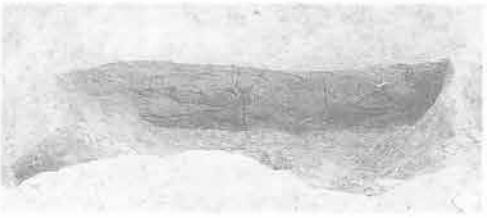
カマド燃焼部断面



煙道部断面

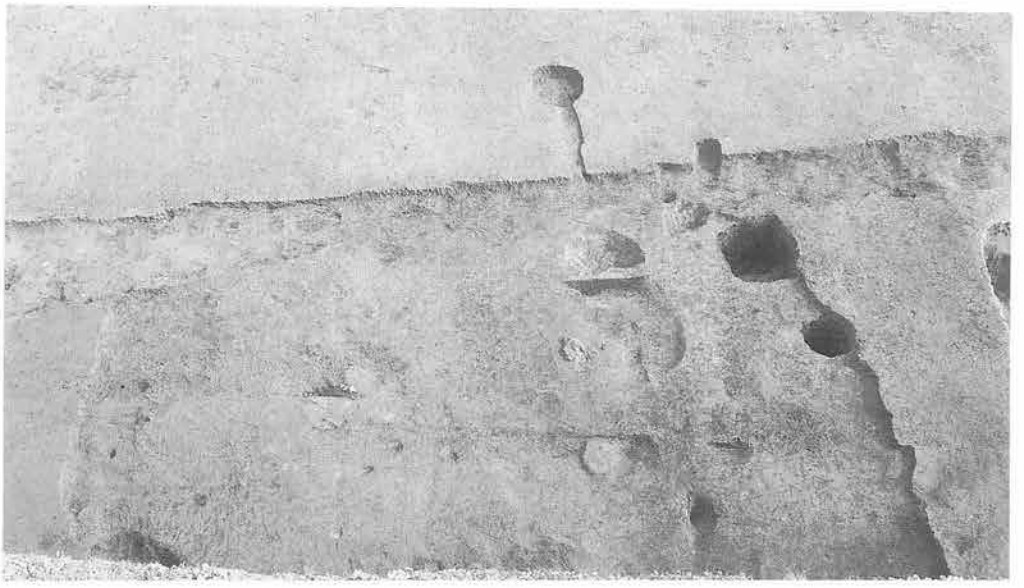


ピット４・５断面

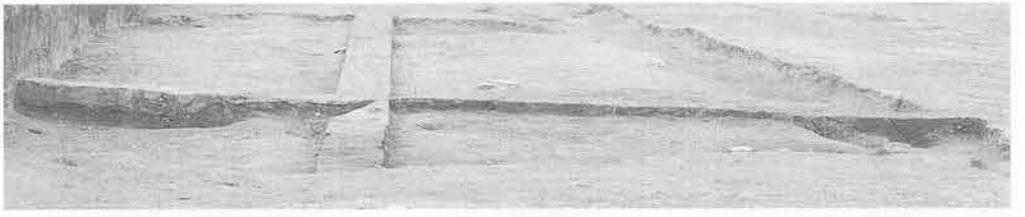


ピット７断面

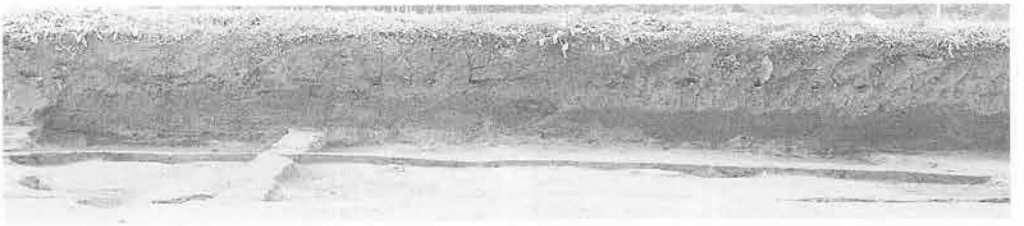
写真図版62　ⅡＨ－１住居跡



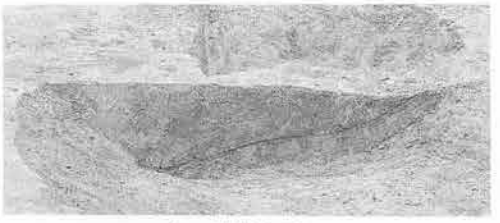
全景



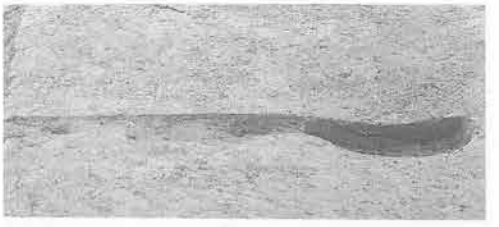
土層断面（西～東）



土層断面（南～北）



カマド燃焼部断面



煙道部断面

写真図版63　ⅡＨ－２住居跡

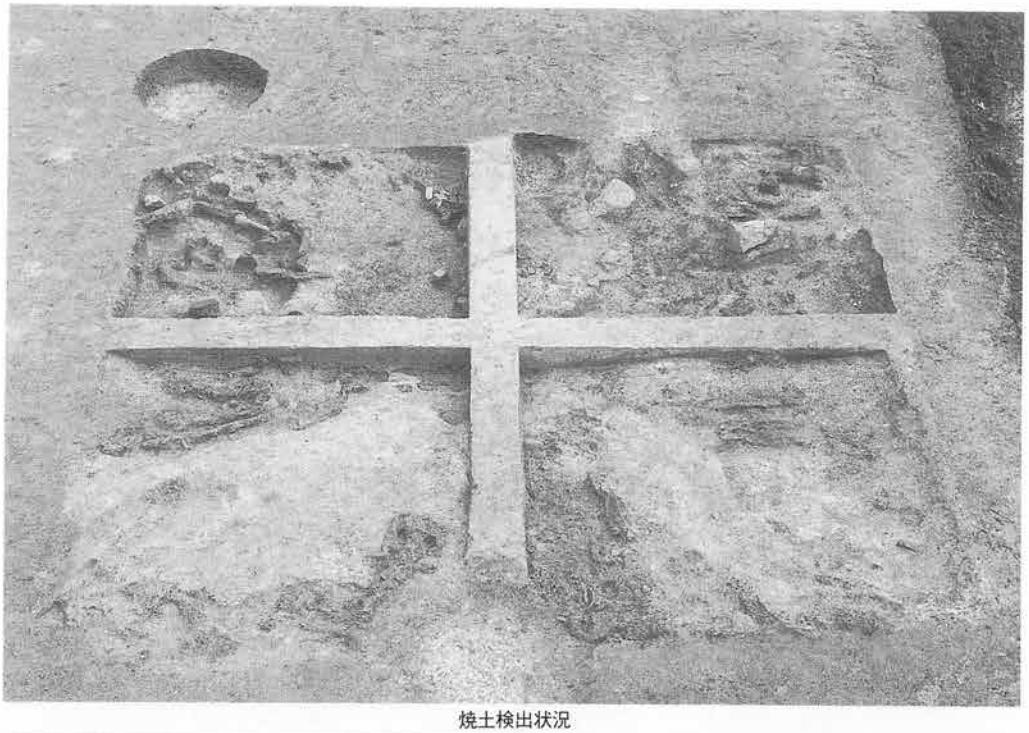
全景

土層断面

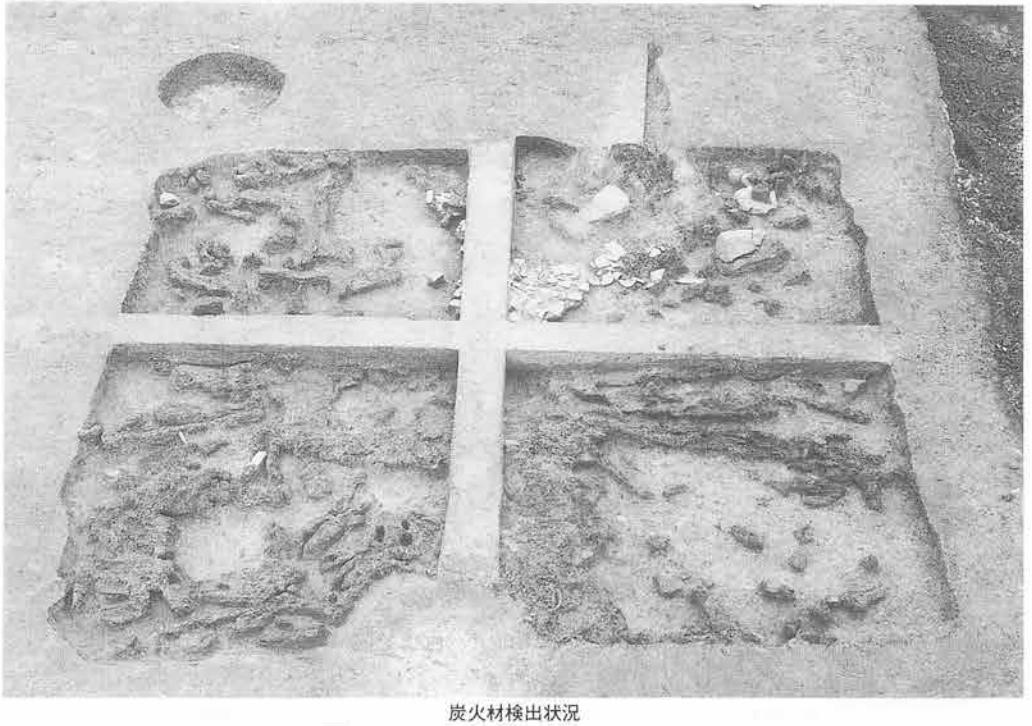
焼土断面

ピット1断面

写真図版64　ⅡＨ－３住居跡



焼土検出状況

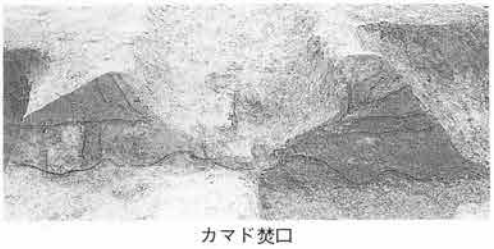


炭火材検出状況

写真図版65　Ⅲ H－1 住居跡（1）

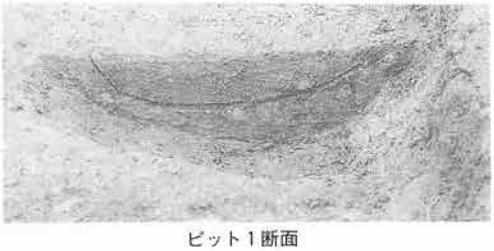
完堀全景

土層断面



カマド焚口

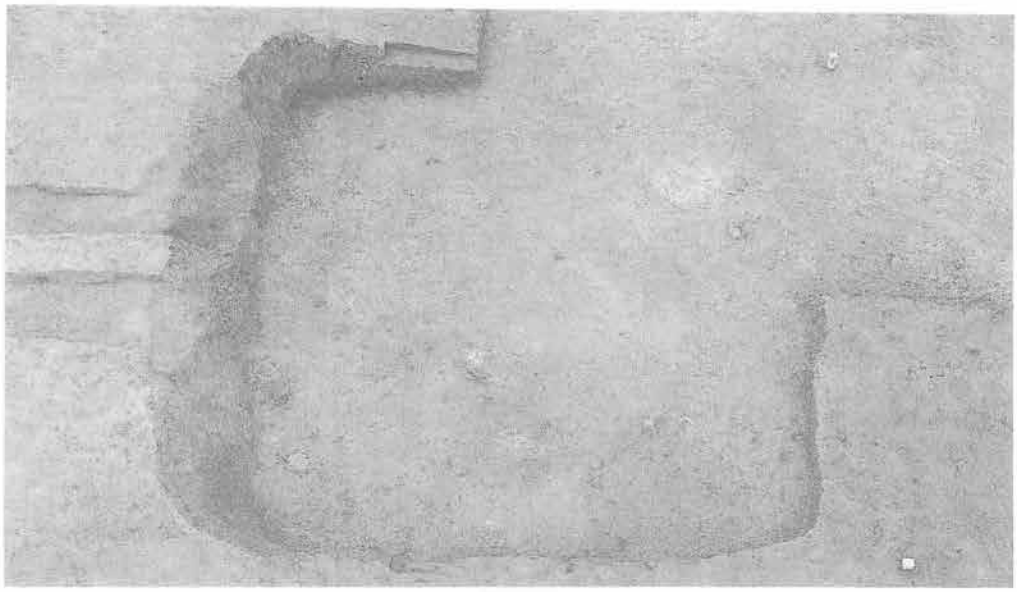
遺物出土状況



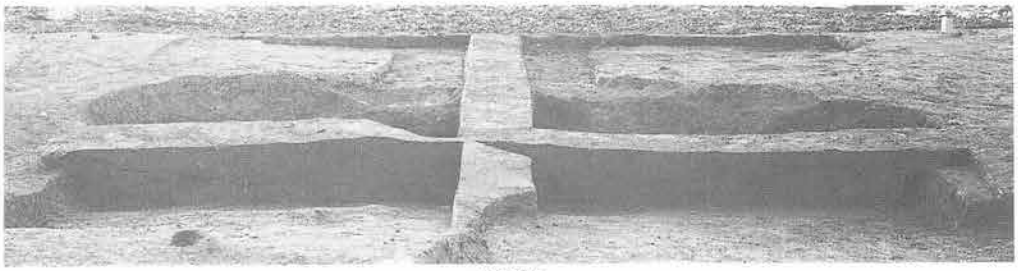
ピット1断面

ピット2断面

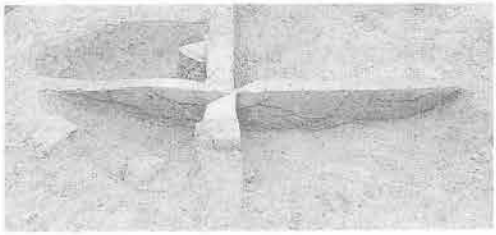
写真図版66　Ⅲ H－1 住居跡（2）



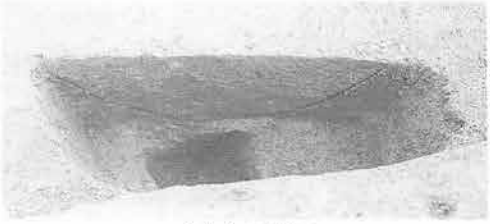
全景



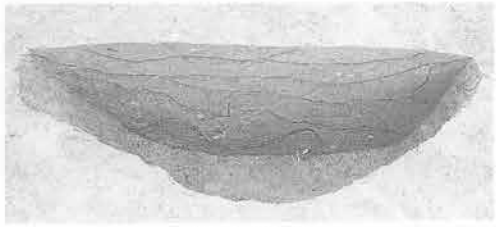
土層断面



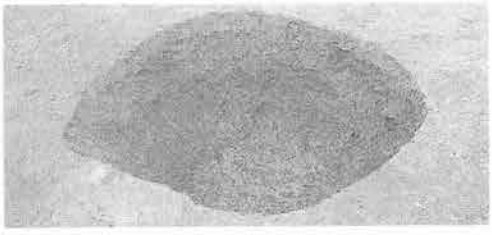
カマド断面



柱穴状土坑断面

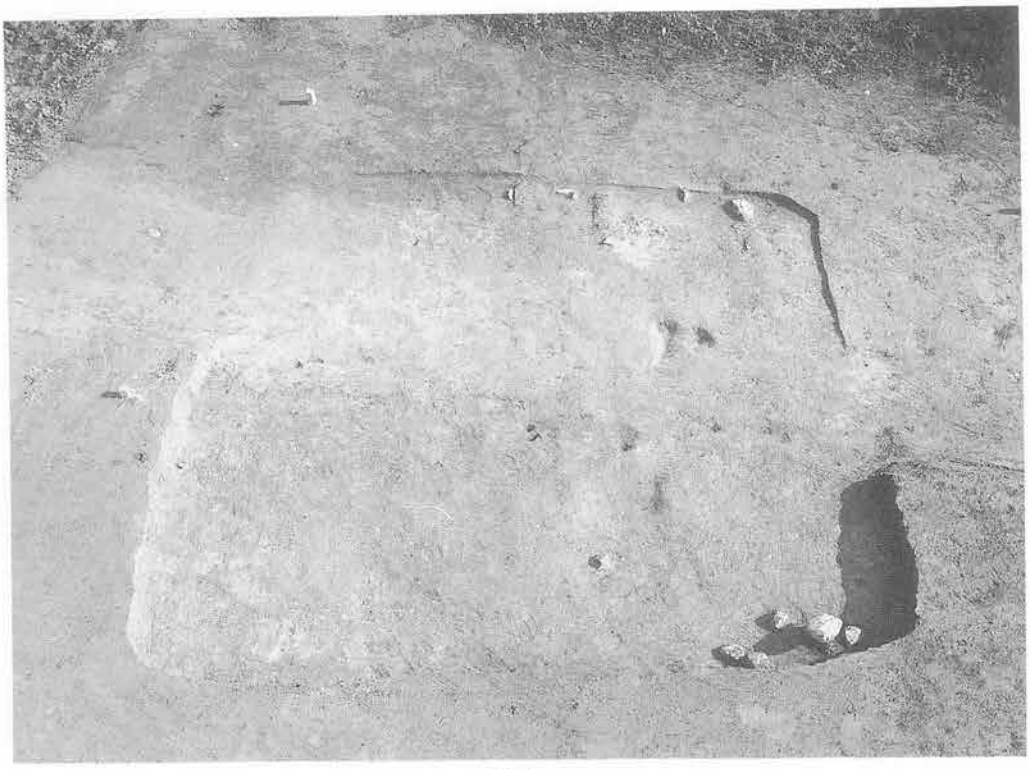


ピット1断面



ピット1完掘

写真図版67　Ⅲ H－2住居跡



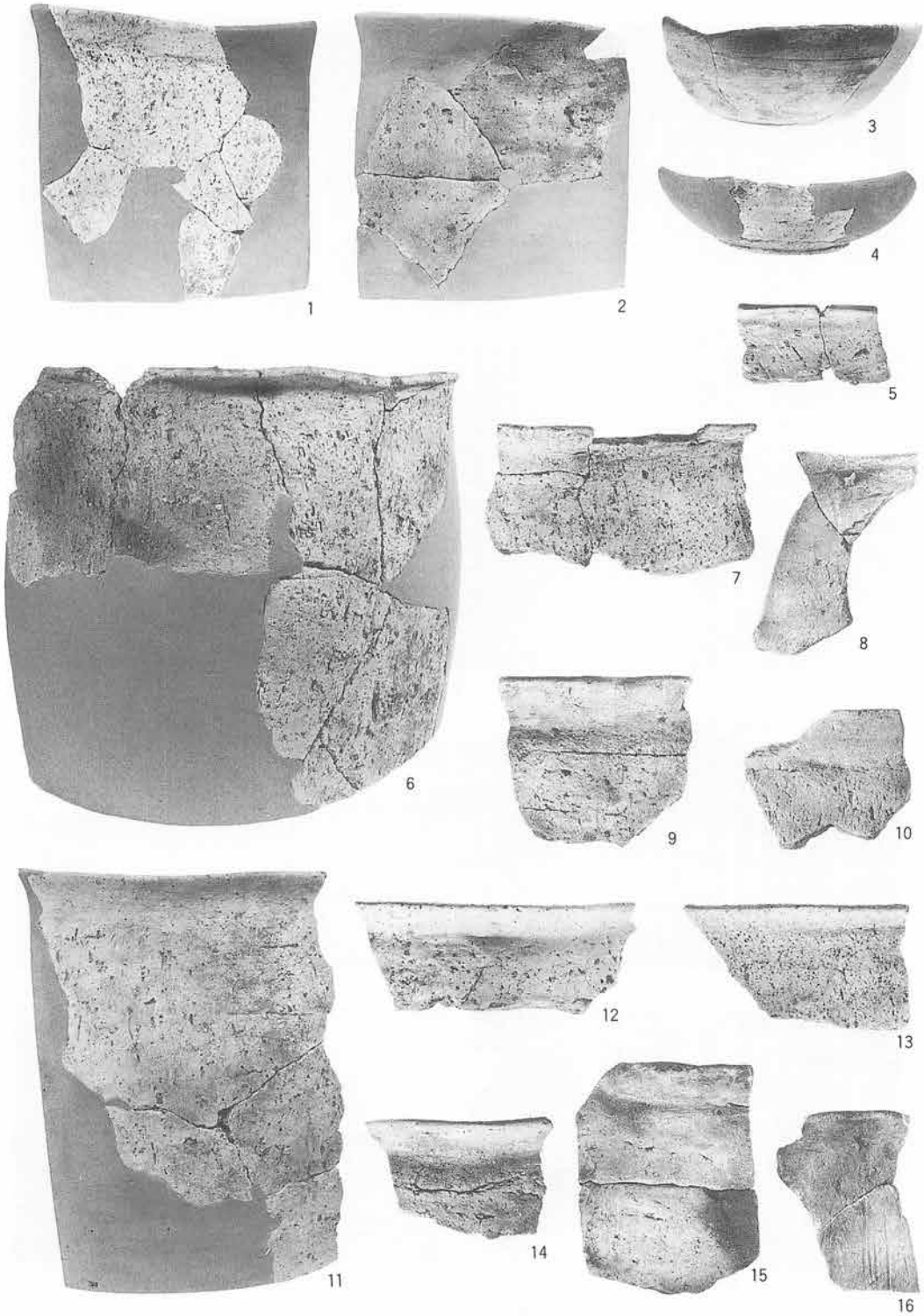
全景

土層断面

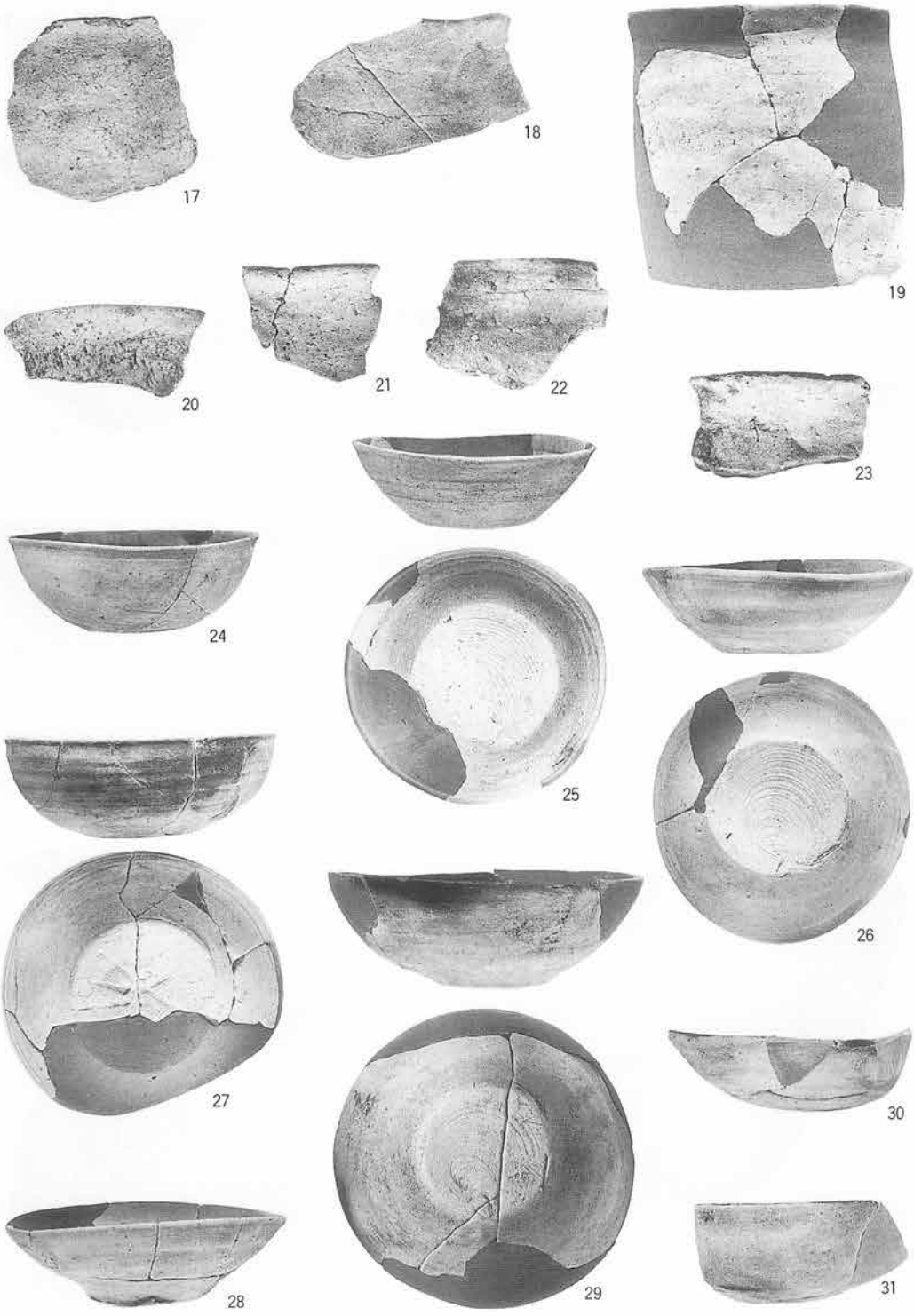
カマド袖部断面

カマド断面

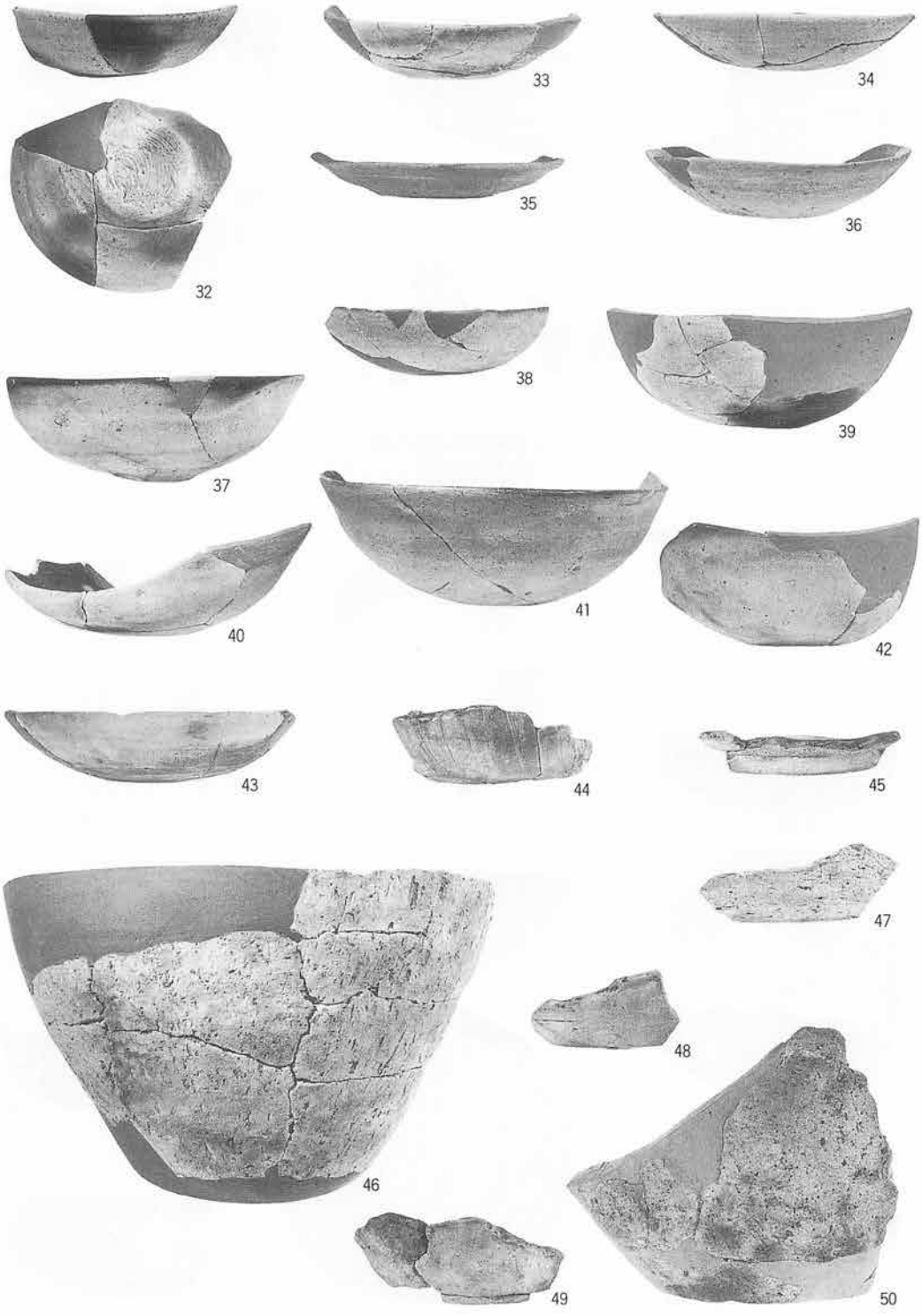
写真図版68　Ⅲ Ⅰ－1住居跡



写真図版69　ⅡB－1（1～5）・ⅡC－1（6～16）住居跡出土遺物

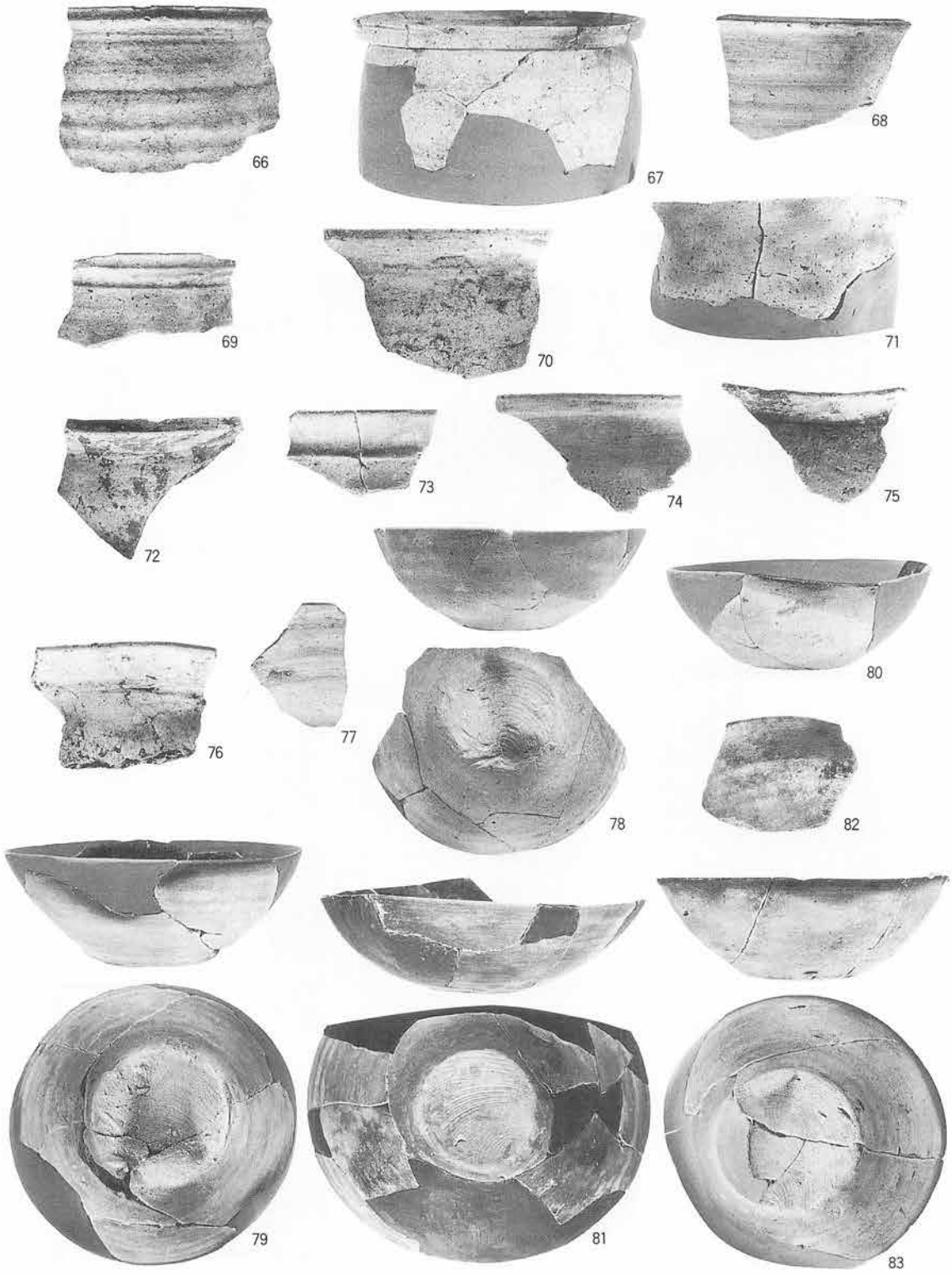


写真図版70　ⅡＣ－１住居跡出土遺物(２)

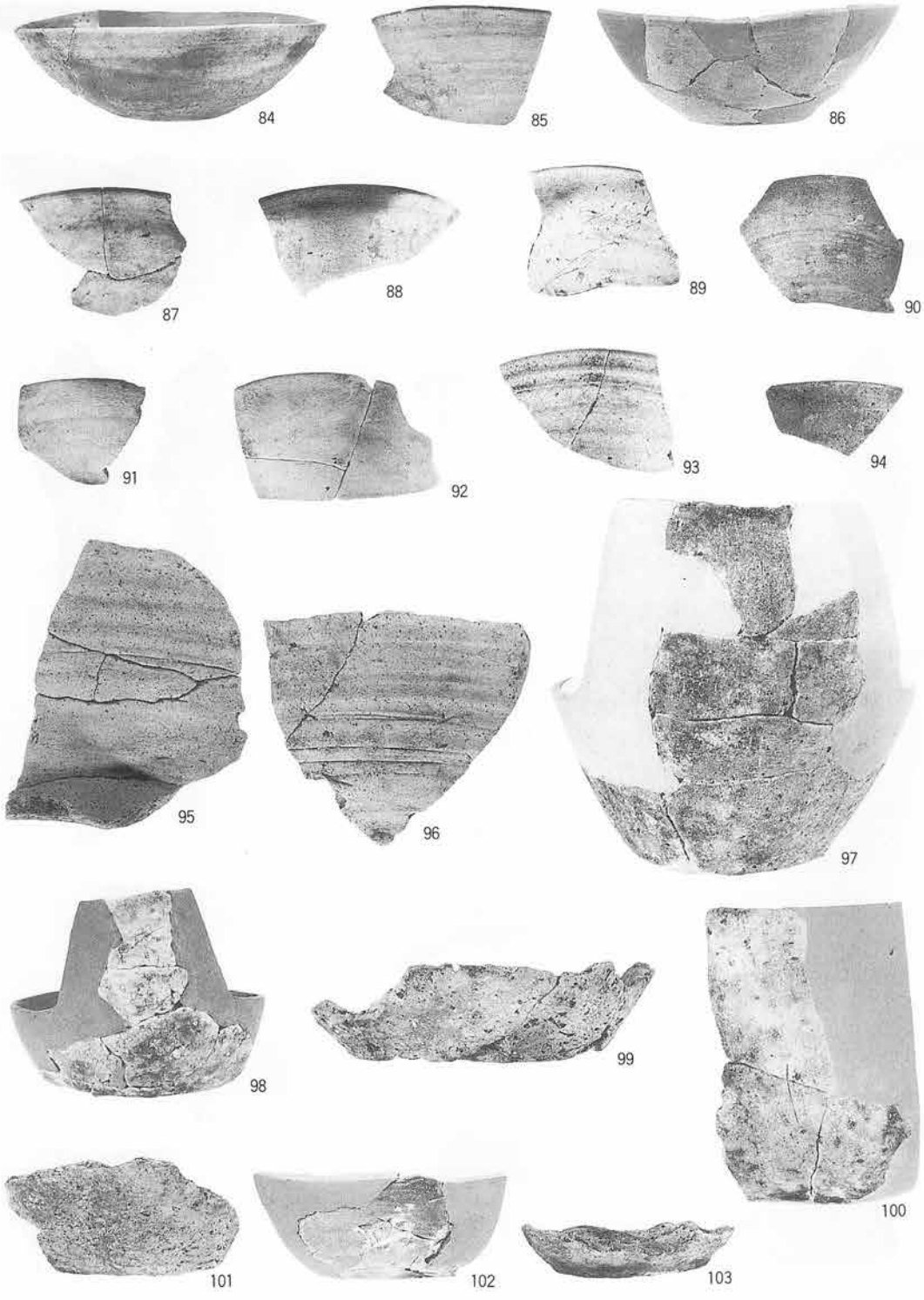


写真図版71　ⅡＣ－１住居跡出土遺物（３）

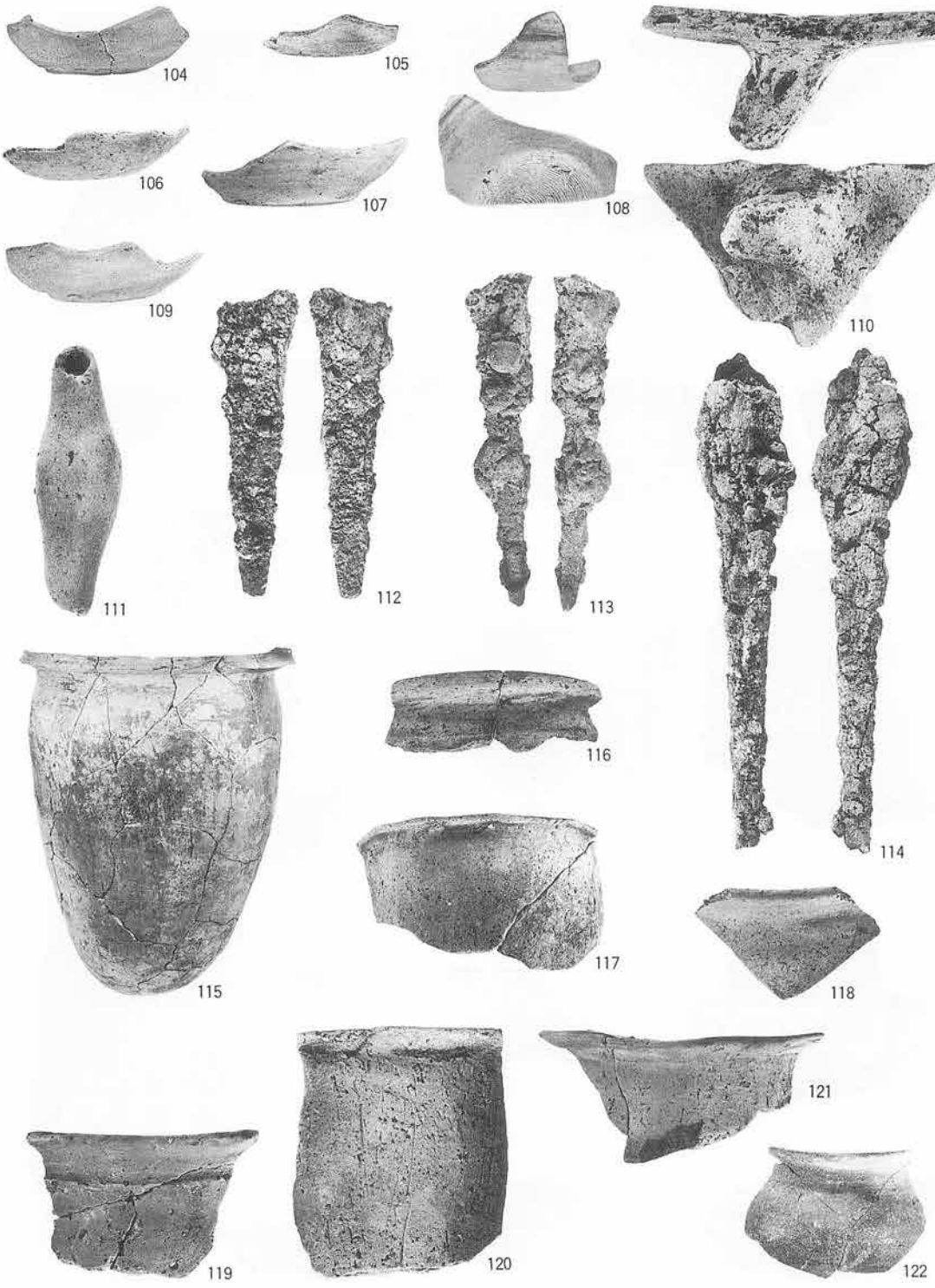
写真図版72　ⅡC－1（51～54）・ⅡD－1（55～65）住居跡出土遺物



写真図版73　ⅡＤ－１住居跡出土遺物（２）

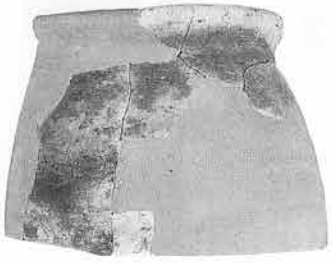


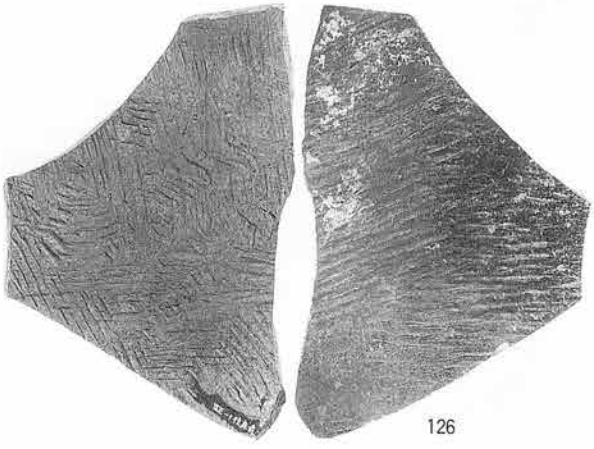
写真図版74　ⅡD－1住居跡出土遺物(3)



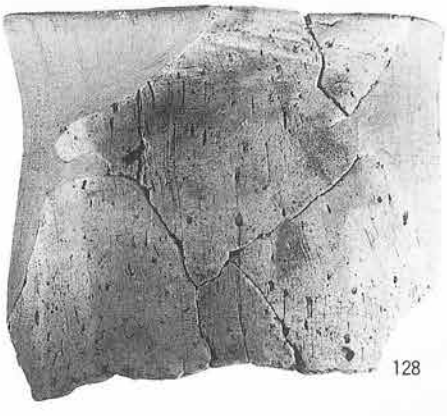
写真図版75　ⅡＤ－１（104～114）・ⅡＥ－１（115～122）住居跡出土遺物

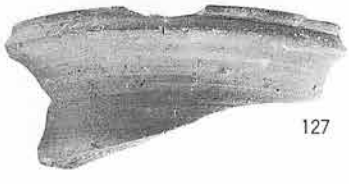
123

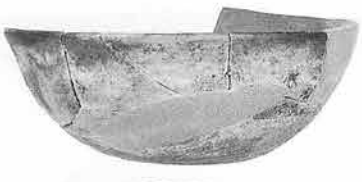

124


126

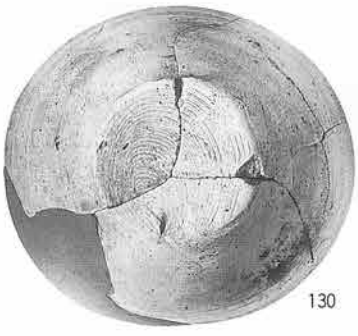
125


128


127



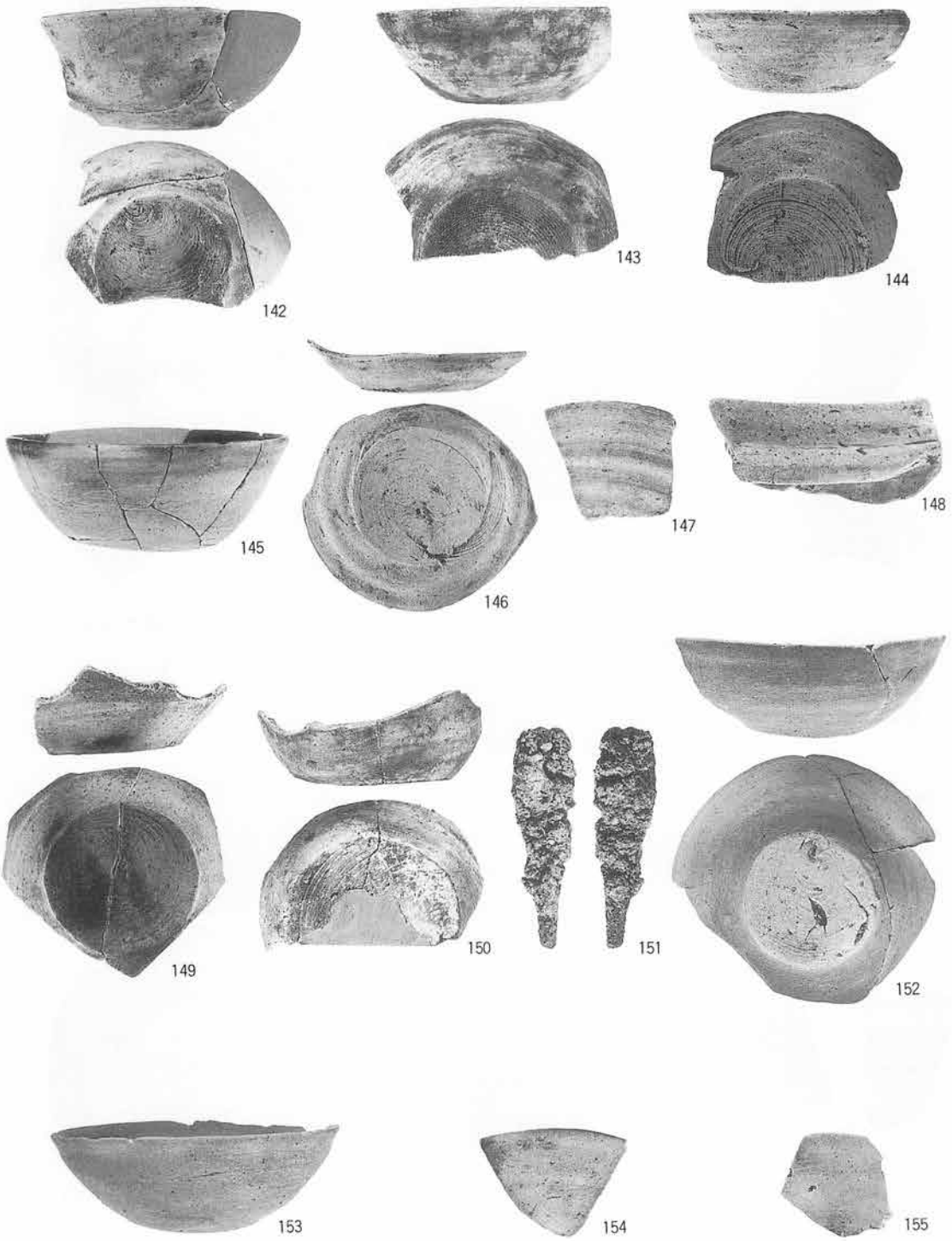
129


130

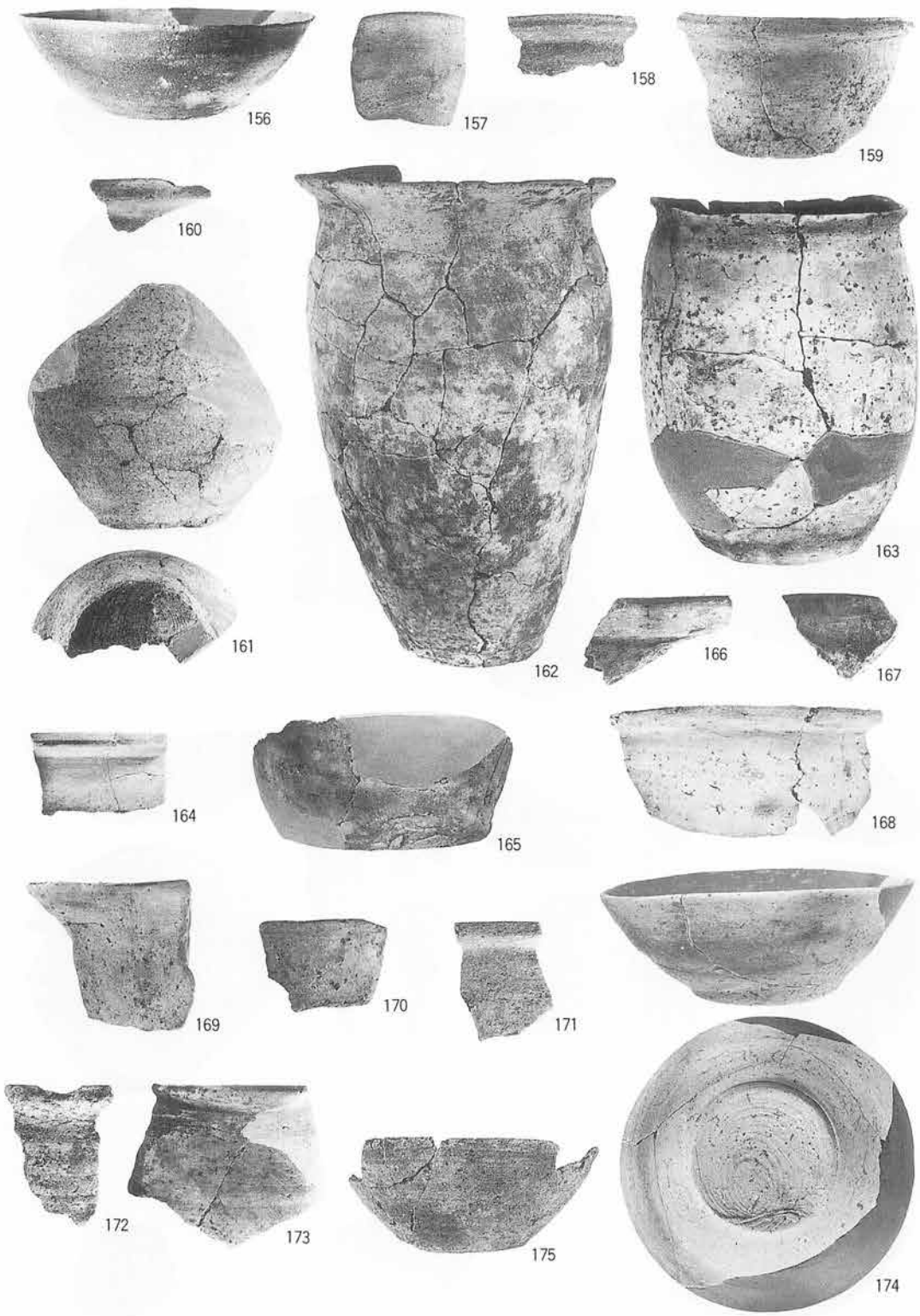
131

写真図版76　ⅡＥ－１住居跡出土遺物（２）

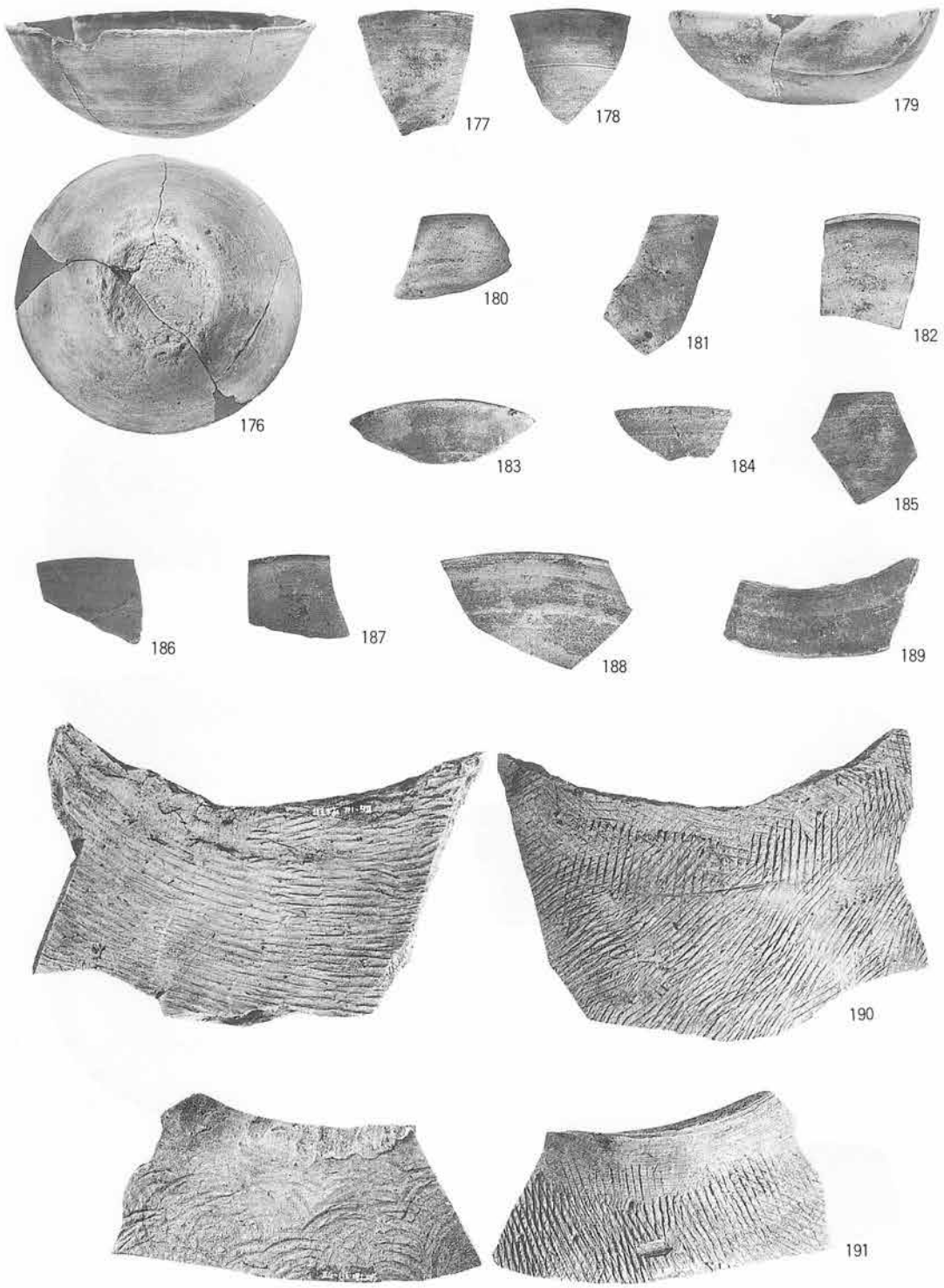
写真図版77　II E－1（132～138）・II E－2（139～141）住居跡出土遺物



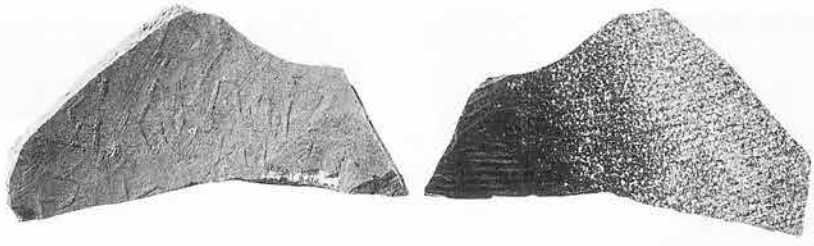
写真図版78　ⅡＥ－２（142～149）・ⅡＦ－１（150・151）・ⅡＦ－２（152～155）住居跡出土遺物

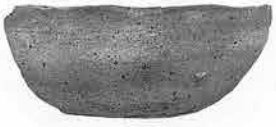


写真図版79　ⅡＦ－３（156～161）・ⅡＧ－１（162～174）住居跡出土遺物



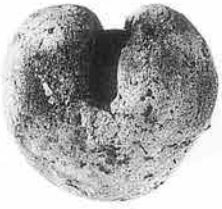
写真図版80　ⅡＧ－１住居跡出土遺物（２）

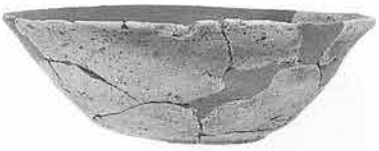

192



194

195





193

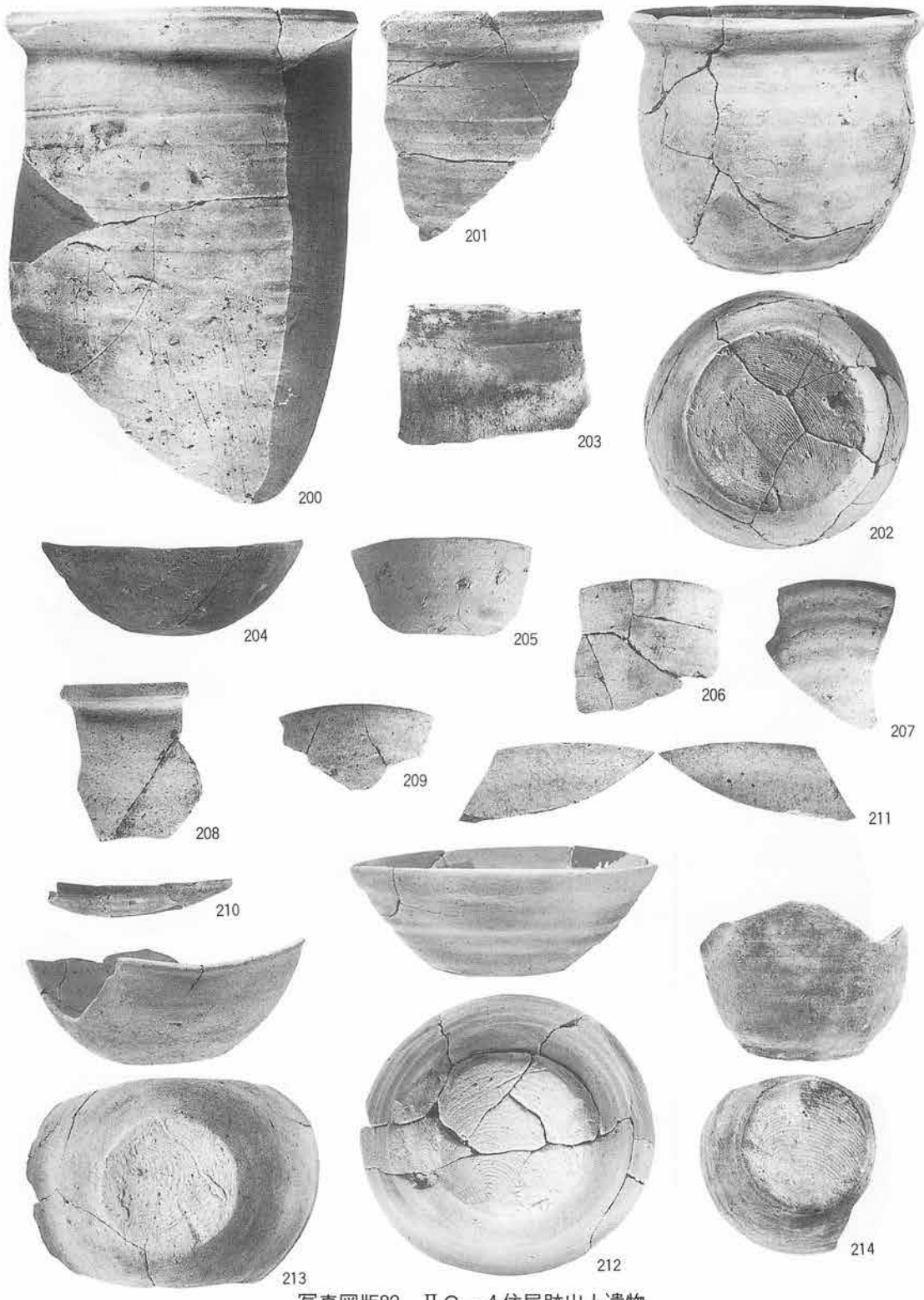
196

197

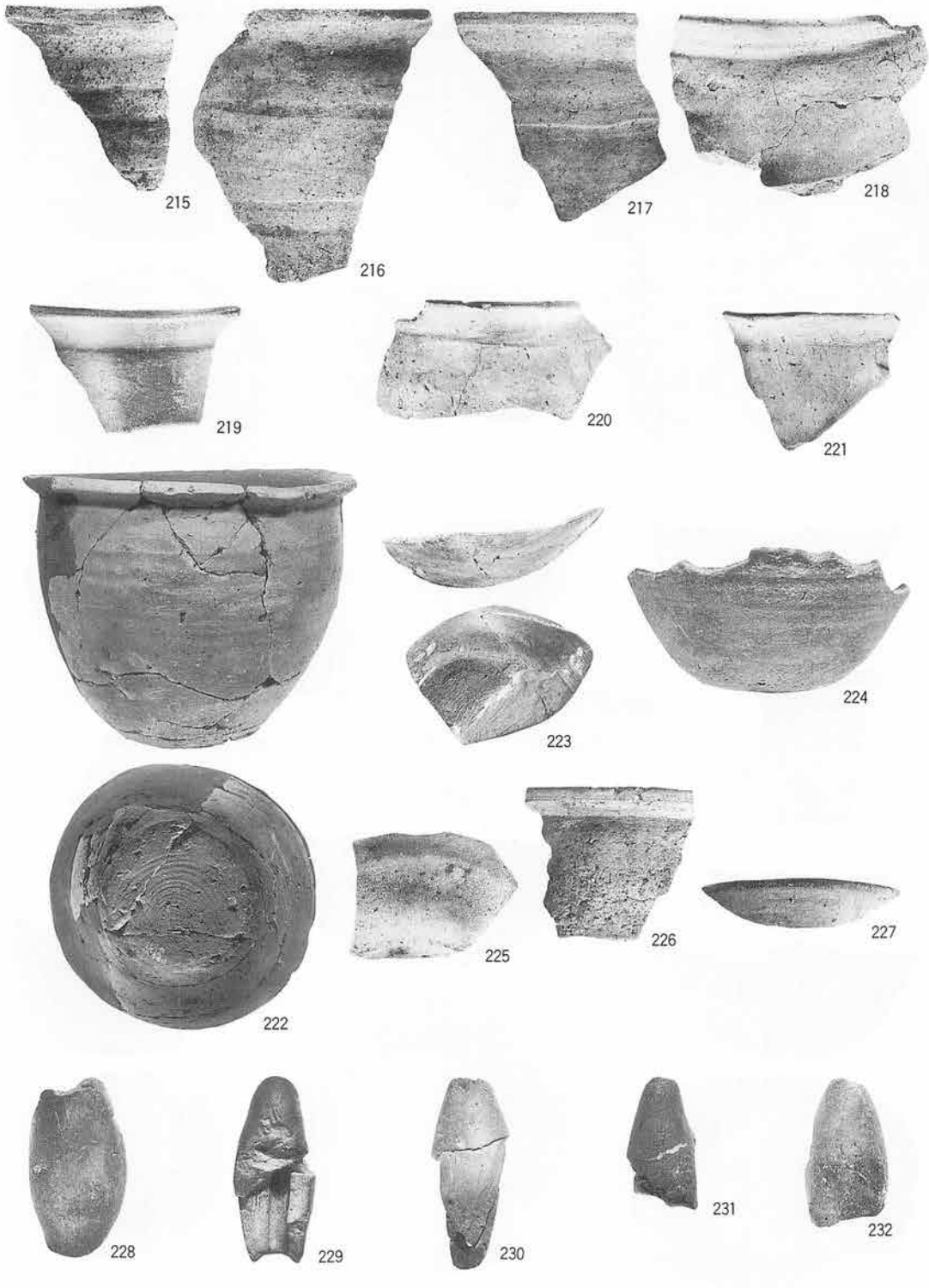
198

199

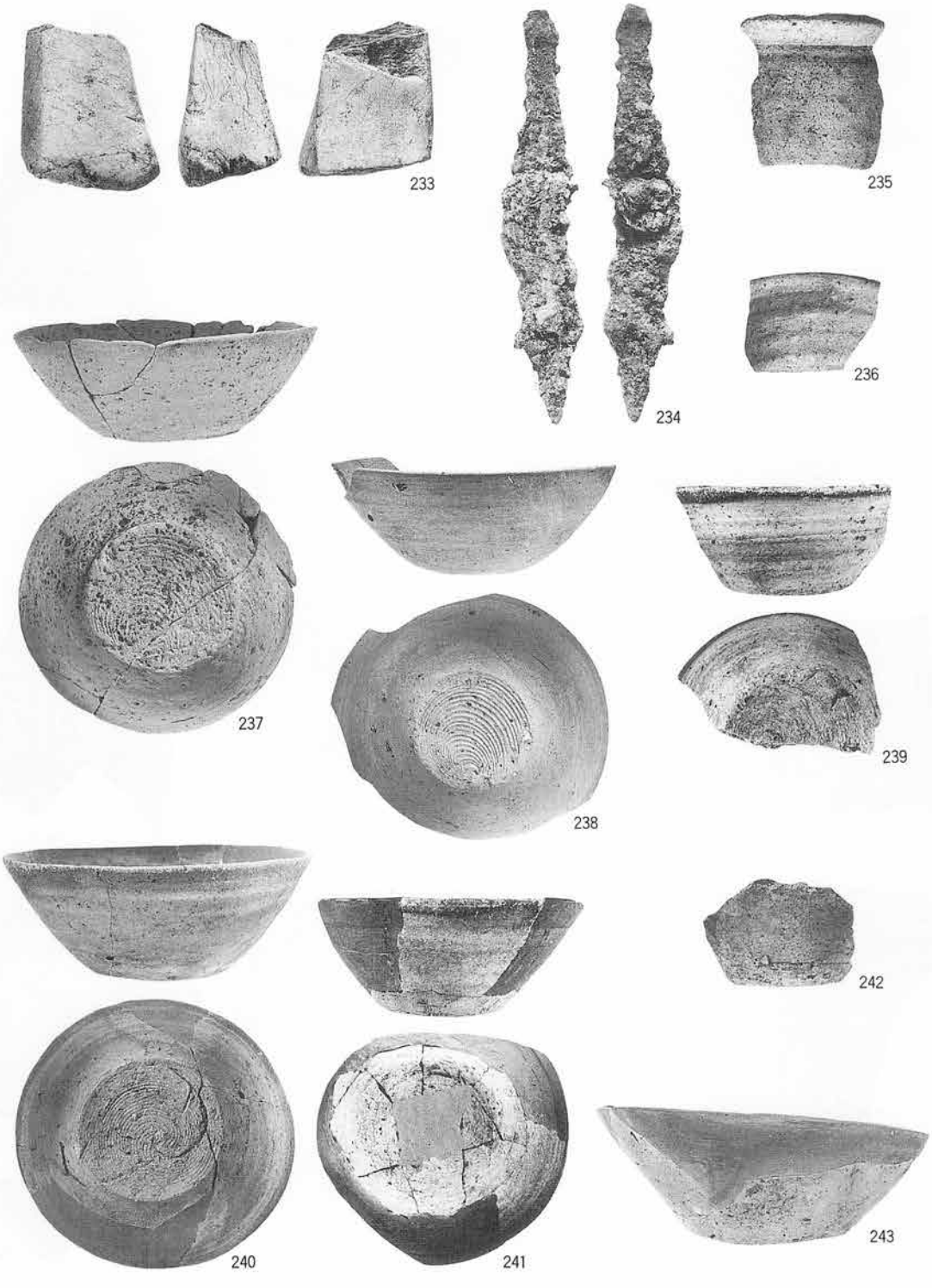
写真図版81　ⅡG－1（192～193）・ⅡG－2（194～197）・ⅡG－3（198・199）住居跡出土遺物



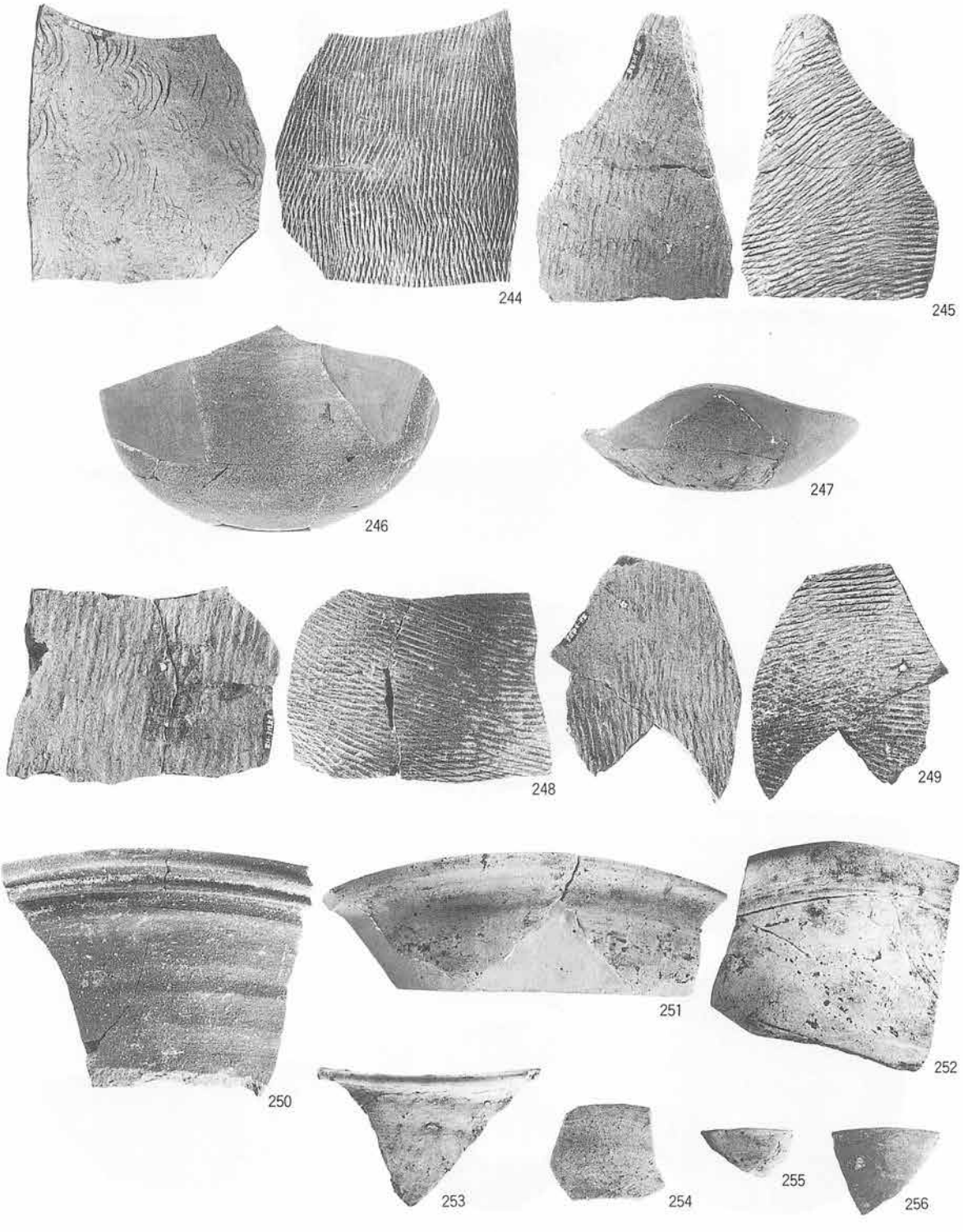
写真図版82　ⅡＧ－４住居跡出土遺物



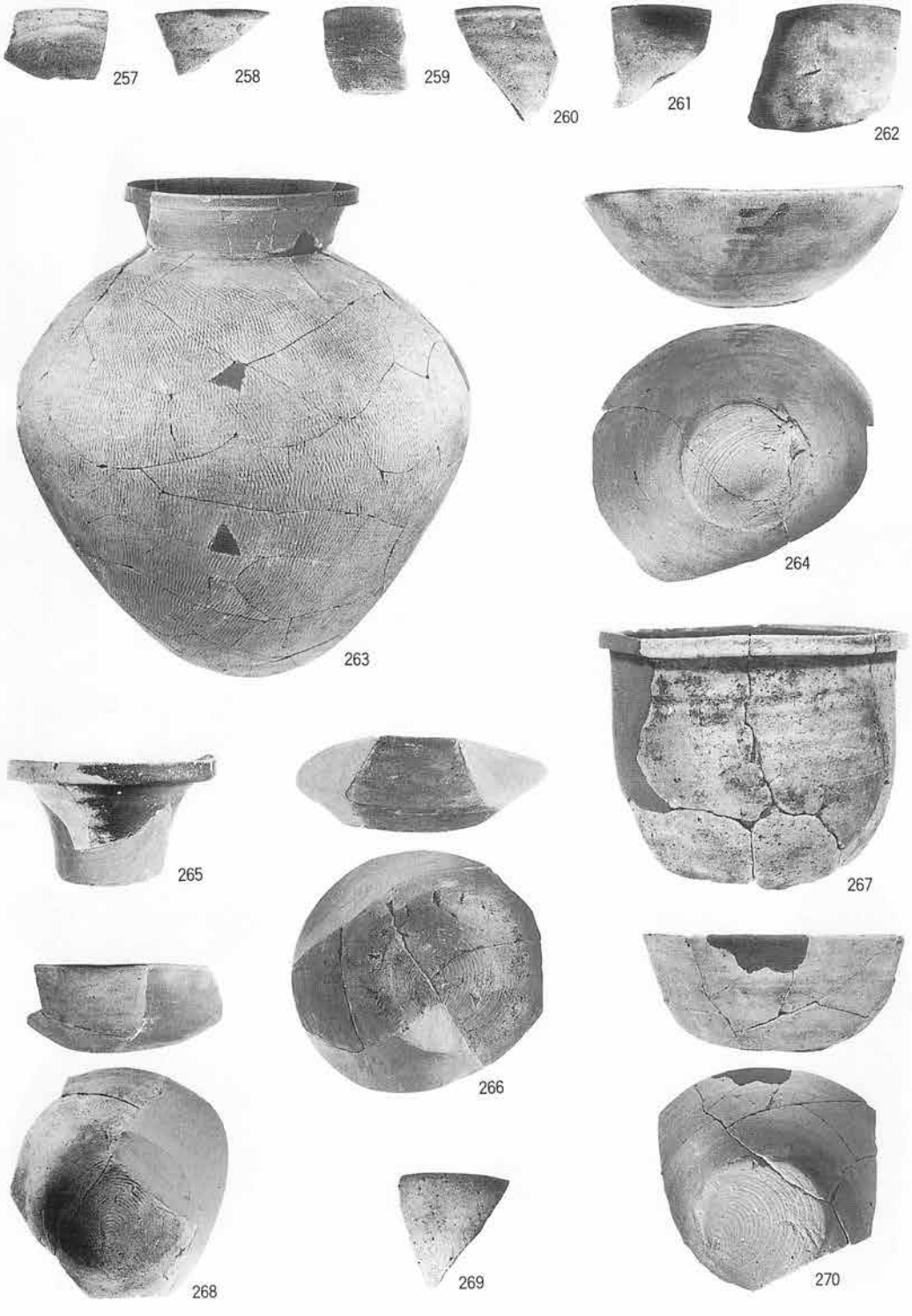
写真図版83　ⅡＨ－１住居跡出土遺物(１)



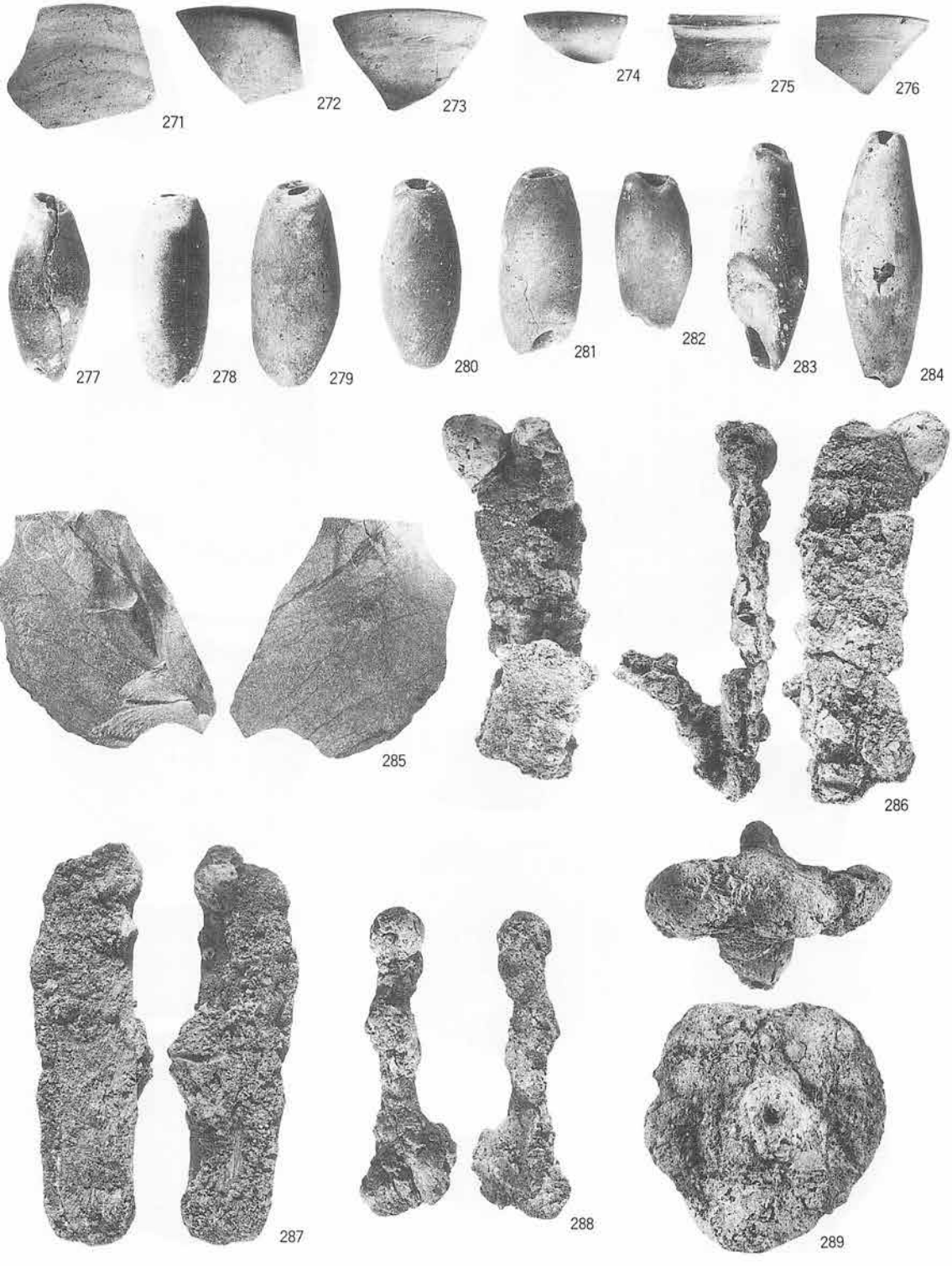
写真図版84　ⅡＨ－１（233・234）・ⅡＨ－２（235～243）住居跡出土遺物



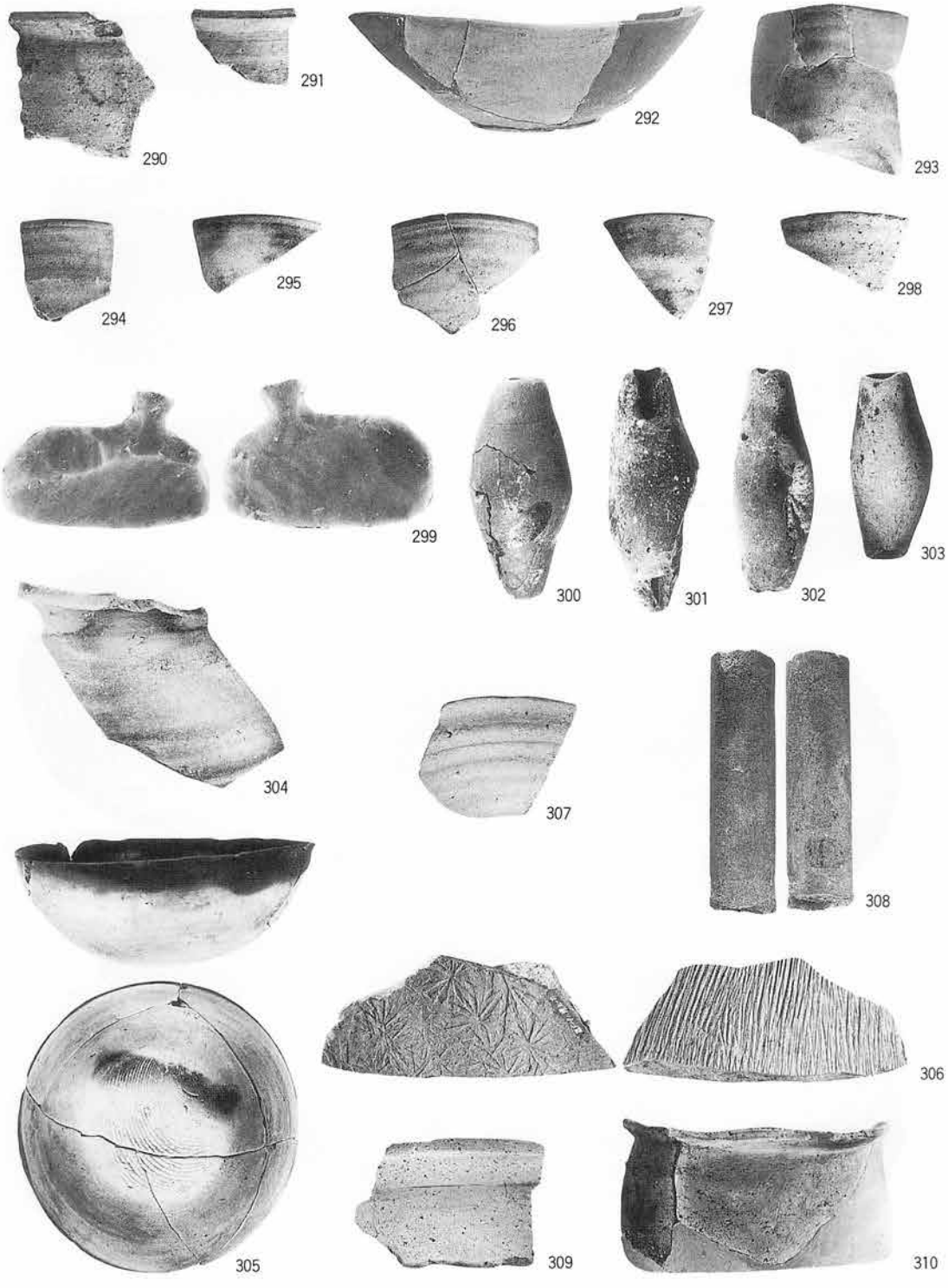
写真図版85　ⅡＨ－３住居跡出土遺物（１）



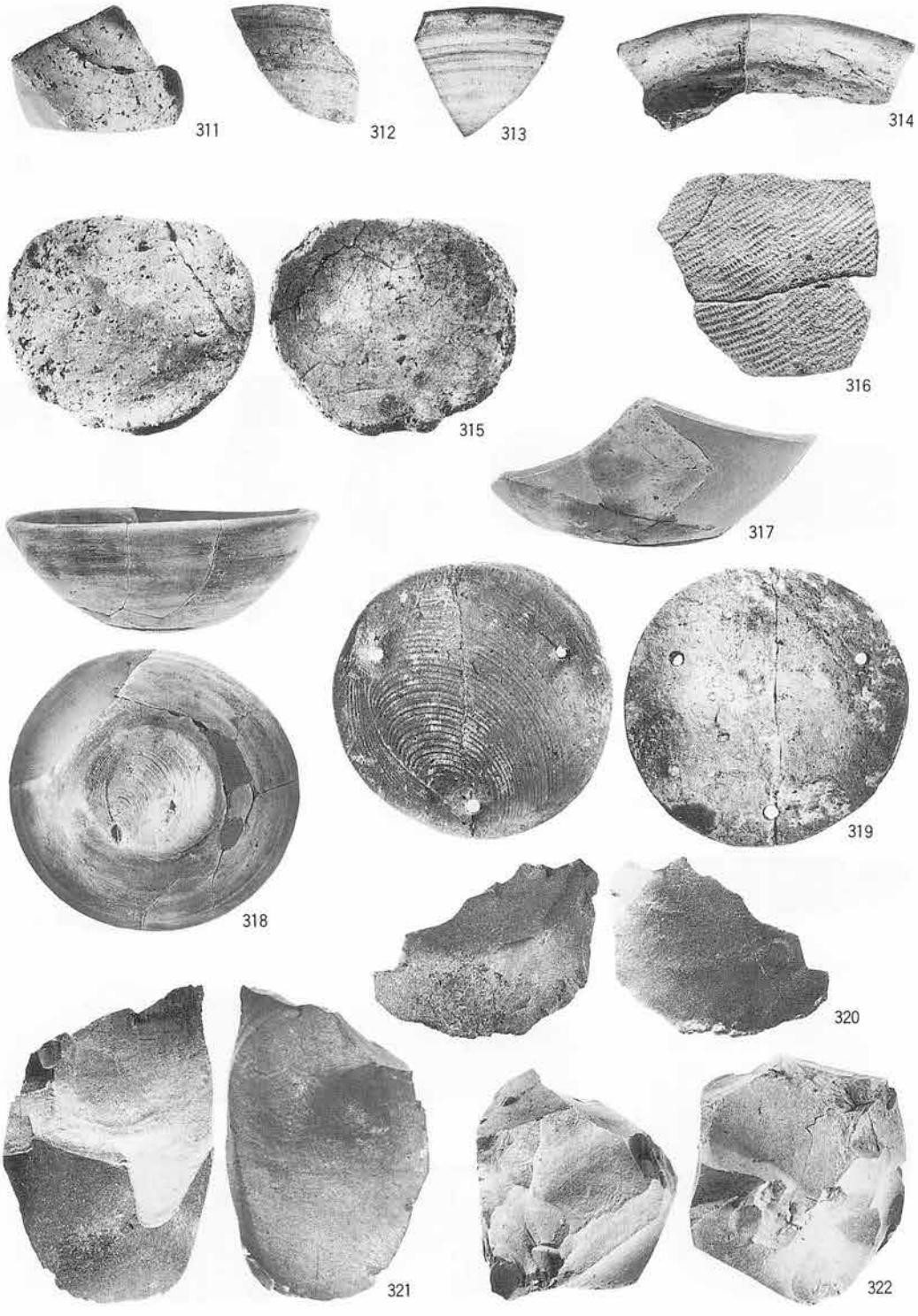
写真図版86　ⅡＨ－３（257～262）・ⅢＨ－１（263～270）住居跡出土遺物



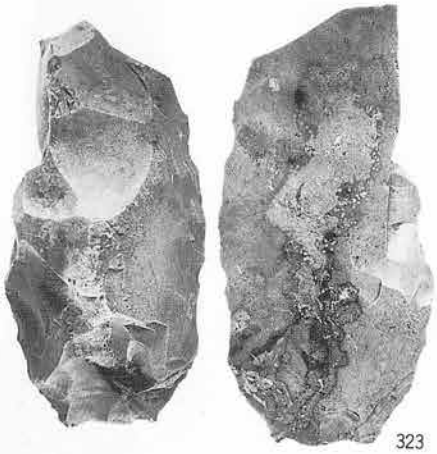
写真図版87　ⅢＨ－１住居跡出土遺物（２）

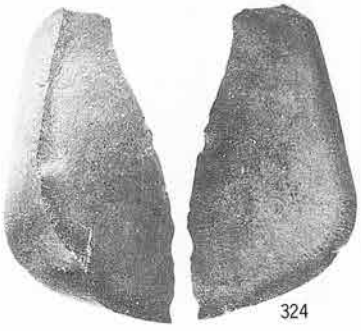


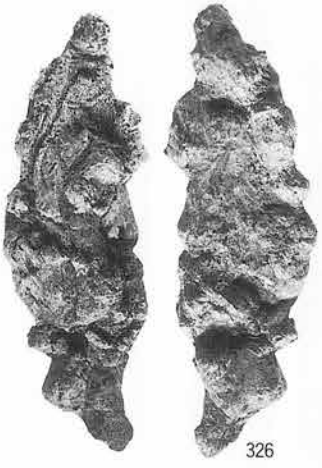
写真図版88　ⅢＨ－２（290～299）・ⅢＨ－１（300～303）住居跡・ⅡＦ－１（304～306）・ⅡＦ－２（307）・ⅡＦ－５（308）・ⅢＨ－３（309・310）土坑出土遺物

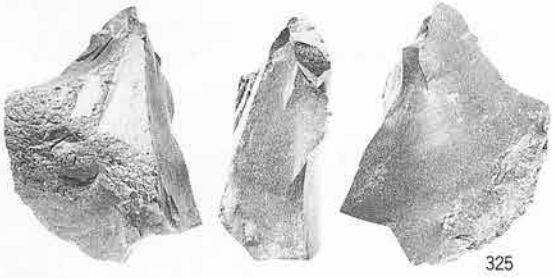


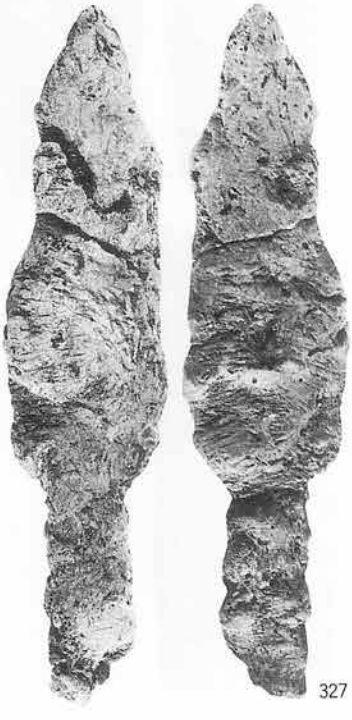
写真図版89　ⅢＨ－３土坑（311・312）・ⅡＦ－１焼土（313・314）・
ⅡＥ－32陥し穴（315）・遺構外（316～322）出土遺物


323

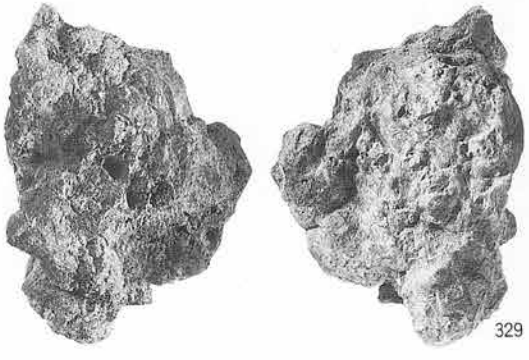

324


326

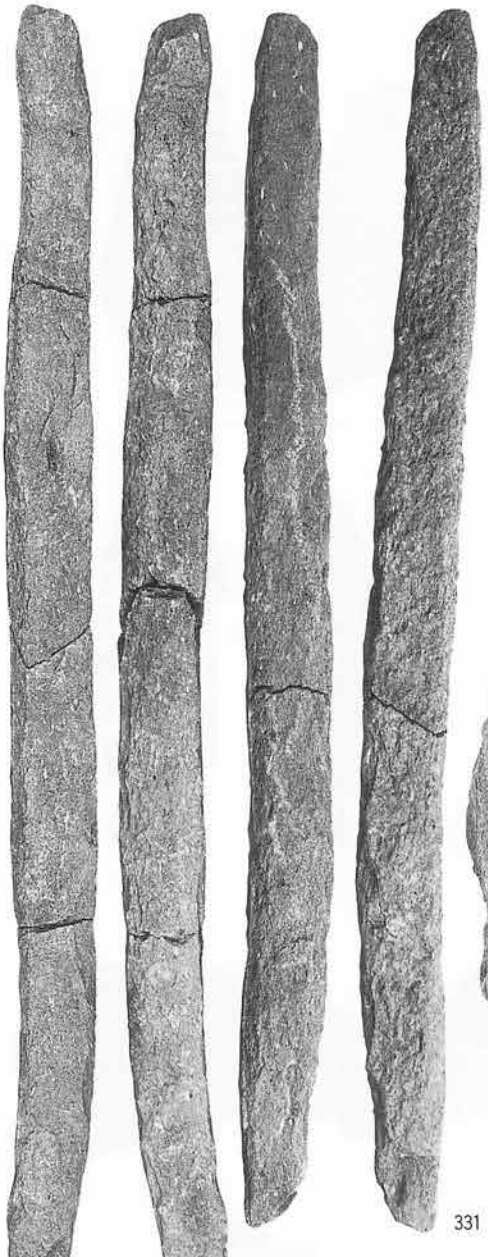

325

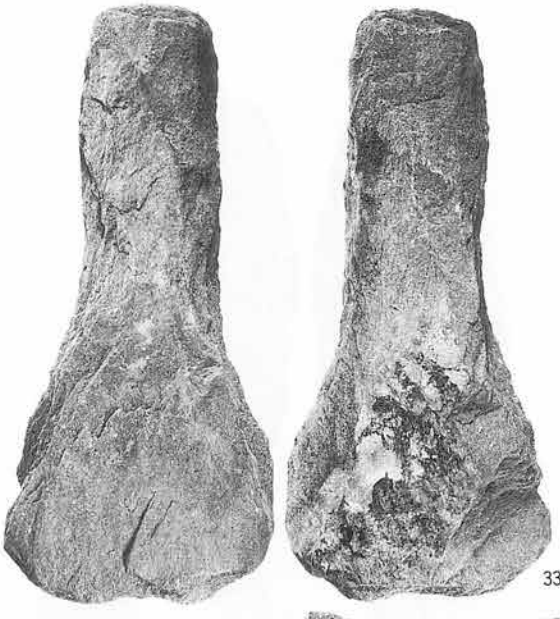

327

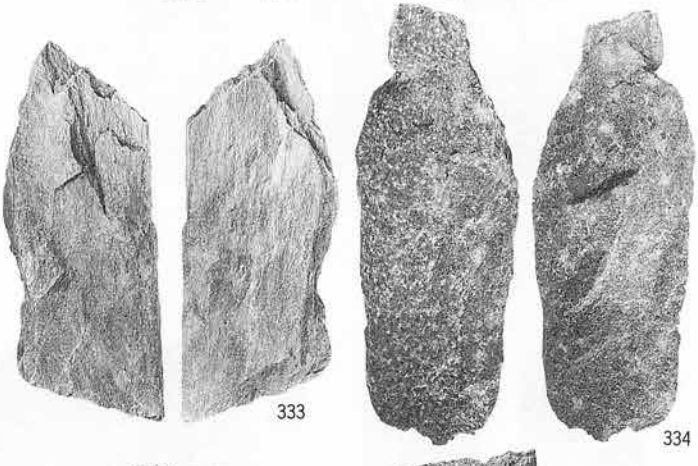
328

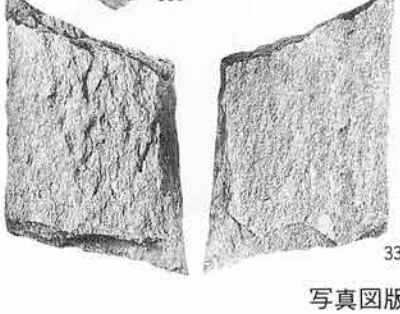

329

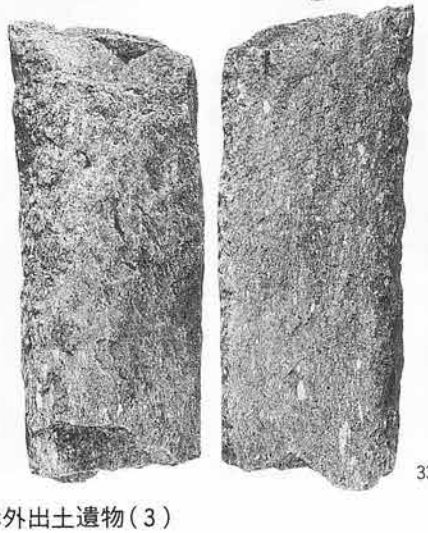
写真図版90　遺構外出土遺物(２)











写真図版91　遺構外出土遺物（３）

報告書抄録

ふりがな	にし だひがしい せきはっくつちょうさ ほうこくしょ
書名	西田東遺跡発掘調査報告書
副書名	滝名川河川改修関連遺跡発掘調査
巻次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第221集
編著者名	花坂政博・菊池強一・高橋與右衛門
編集機関	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020　岩手県盛岡市下飯岡11-185　TEL 0196-38-9001
発行年月日	西暦1995年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
西田東 （にしだひがし）	岩手県紫波郡 （いわてけんしわぐん） 紫波町犬渕 （しわちょういぬぶち） 字下越田 （あざしもこしだ）		LE87-0126	39度 30分 45秒	141度 10分 40秒	19920807～ 19921217 19930802～ 19931028	7,034 5,018	滝名川河川 改修に伴う 事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西田東	狩場跡 集落跡	縄文 平安	陥し穴状遺構　187基 竪穴住居跡　20棟 土坑　13基 鍛冶炉跡　1基 掘立柱建物跡　1棟 焼土遺構　2基 溝跡　3条 柱穴状土坑　91基	土師器、須恵器、石器、石製品、灰釉陶器、緑釉陶器、土製品、鉄器	

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

所長　高橋重實
副所長　千葉政男

〔管理課〕

管理課長　澤田寛
主事　佐藤理
〃　久保田幸恵

〔調査課〕

調査課長　鈴木恵治
課長補佐　三浦謙一
〃　高橋與右衛門
主任文化財専門調査員　菊池強一
〃　渡辺洋一
〃　工藤利幸
〃　中川重紀
〃　佐々木清文
〃　高橋義介
〃　中村英俊
〃　酒井宗孝
文化財専門調査員　千葉孝雄
〃　菊池人見
〃　伊東格
〃　吉田充
〃　斎藤邦雄
〃　高橋一浩
〃　鎌田勉
〃　小山内透
〃　松本建速
〃　笹平克子
〃　花坂政博
〃　佐々木務

〔資料課〕

資料課長　駒嶺高幸
主任文化財専門調査員　高橋正之

嘱託　吉田十次
〃　野崎他夫

文化財専門調査員　金子昭彦
〃　木戸口俊子
〃　大道篤史
〃　阿部勝則
〃　星雅之
〃　羽柴直人
〃　高木晃
〃　村上拓
〃　高橋佐知子
〃　杉沢昭太郎
〃　溜浩二郎
期限付専門職員　鎌田精造
〃　柳田磨
〃　高橋英樹
〃　佐藤修一
〃　稲垣雅宏
〃　田畑博之
〃　元吉弘明
〃　熊谷和明
〃　佐々木裕司
〃　千葉貴子
〃　沼田和宏
〃　後藤円

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第221集

西田東遺跡発掘調査報告書

滝名川河川改修関連遺跡発掘調査

印刷　平成７年３月25日
発行　平成７年３月31日

発　行　㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020 岩手県盛岡市下飯岡11－185
TEL (0196)38—9001　FAX (0196)38—8563

印　刷　㈱山口北州印刷株式会社
〒020-01 岩手県盛岡市青山四丁目10—５
TEL (0196)41—0585

© ㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1995